

玉名市文化財調査報告 第18集

# 玉名市内遺跡調査報告書 V

平成19年度の調査

2009(平成21)年3月

玉名市教育委員会





## ご 挨拶

玉名市は、県内でも遺跡や古墳の数が多く、菊池川を中心として豊富な文化財が所在する地域です。今後は、九州新幹線開業に向けて玉名バイパスの全線開通やアクセス道路となる都市計画道路の開発が増加することが予想されます。

このような中で玉名市教育委員会では、その他の民間開発事業等との調整を図りながら、発掘調査等の円滑な遂行のため、玉名市内に所在する文化財の状況把握にも常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しているところであります。また、その成果の公開・活用を通じて、広く教育・文化の発展に寄与できればと考えています。

本書は平成19年度に実施した、各種開発に伴う試掘確認調査の成果と、平成17年度に実施した高岡原遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査、報告書作成にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成21年3月31日

玉名市教育委員会  
教育長 菊川 茂男

## 例 言

1. 本書は、玉名市教育委員会が平成19年と平成17年に国・県の補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会文化課兵谷有利、田中康雄、末永 崇、中村安宏、齧父雅史、荒木隆宏、古閑敬士、大倉千寿が担当した。
3. 本書掲載遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4. 遺物の実測は古閑、福田まき、権藤功、尾崎延枝、嶋村ひとみが行い、製図は早川イツエ、徳田晴華が行った。
5. 調査時の写真撮影は、各調査担当者が行い、遺物写真撮影は末永が行った。
6. 挿図に使用している座標は玉名市役所土木課の地籍図から転記した。座標値は世界測地系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7. 同遺跡の調査を複数行っている場合には、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
9. 出土遺物の整理作業は齧父、大倉が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
10. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
11. 本書の執筆は、各担当者が行い、齧父、大倉が校正・補足した。編集は齧父、大倉が担当した。

## 本文目次

ご挨拶

例言

本文目次

挿図目次

写真目次

表目次

### I 調査の概要

1 調査の体制	1
2 調査の方法	1
3 調査総括	1

### II 平成19年度の調査

1 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡	6
2 南大門遺跡	52
3 山下前畑遺跡	56
4 河崎工場関連施設建設予定地	57
5 高岡原遺跡A地点	58
6 立願寺廃寺	60
7 横島城跡	64
8 中土楯ノ尾遺跡	69
9 簾布遺跡A地点	70
10 伊倉古宮原遺跡	71
11 簾布遺跡B地点	73
12 年の神遺跡	75
13 下立願寺遺跡	83
14 大塚・惣萩遺跡	85
15 玉名郡家跡	87
16 高岡原遺跡B地点	89
17 玉名平野条里跡	93

III 高岡原遺跡（平成17年度の調査）	98
----------------------	----

報告書抄録

## 挿 図 目 次

第 1 図	玉名市内遺跡分布図	3
第 2 図	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡調査地位置図	11
第 3 図	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡トレンチ配置図①	14
第 4 図	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡トレンチ配置図②	15
第 5 図	調査地点1 トレンチ配置図	16
第 6 図	調査地点1 トレンチ実測図①	16
第 7 図	調査地点1 トレンチ実測図②	17
第 8 図	調査地点2 トレンチ配置図	18
第 9 図	調査地点2 土層断面図①	18
第 10 図	調査地点2 土層断面図②	19
第 11 図	調査地点3 トレンチ配置図	20
第 12 図	調査地点3 トレンチ実測図	20
第 13 図	調査地点4 トレンチ配置図	21
第 14 図	調査地点4 土層断面図	21
第 15 図	調査地点5 トレンチ配置図	22
第 16 図	調査地点5 トレンチ実測図①	22
第 17 図	調査地点5 トレンチ実測図②	23
第 18 図	調査地点5 トレンチ実測図③	24
第 19 図	調査地点4 トレンチ実測図④	25
第 20 図	調査地点5 トレンチ実測図⑤	26
第 21 図	調査地点6 トレンチ配置図	28
第 22 図	調査地点6 土層断面図①	28
第 23 図	調査地点6 土層断面図②	29
第 24 図	調査地点7 トレンチ配置図	30
第 25 図	調査地点7 土層断面図	30
第 26 図	調査地点8 トレンチ配置図	31
第 27 図	調査地点8 土層断面図	31
第 28 図	調査地点9 トレンチ配置図	32
第 29 図	調査地点9 トレンチ実測図	32
第 30 図	調査地点10 トレンチ配置図	33
第 31 図	調査地点10 トレンチ実測図	33
第 32 図	調査地点11 トレンチ配置図	34
第 33 図	調査地点11 土層断面図	34
第 34 図	調査地点12 トレンチ配置図	35

第 35 図	調査地点12	トレンチ土層断面図	35
第 36 図	調査地点13	トレンチ配置図	36
第 37 図	調査地点13	トレンチ実測図	36
第 38 図	調査地点14	トレンチ配置図	37
第 39 図	調査地点15	トレンチ配置図	37
第 40 図	調査地点14・15	土層断面図	37
第 41 図	調査地点16	トレンチ配置図	40
第 42 図	調査地点16	土層断面図①	40
第 43 図	調査地点16	土層断面図②	41
第 44 図	調査地点17	トレンチ配置図	42
第 45 図	調査地点17	トレンチ実測図①	42
第 46 図	調査地点17	トレンチ実測図②	43
第 47 図	調査地点18	トレンチ配置図	44
第 48 図	調査地点18	土層断面図①	44
第 49 図	調査地点18	土層断面図②	45
第 50 図	調査地点19	トレンチ配置図	46
第 51 図	調査地点19	土層断面図	46
第 52 図	調査地点20	トレンチ配置図	47
第 53 図	調査地点20	土層断面図	47
第 54 図	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡出土遺物実測図①		48
第 55 図	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡出土遺物実測図②		49
第 56 図	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡出土遺物実測図③		50
第 57 図	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡出土遺物実測図④		51
第 58 図	南大門遺跡調査地位置図		52
第 59 図	南大門遺跡トレンチ配置図		52
第 60 図	南大門遺跡土層断面図		53
第 61 図	南大門遺跡出土遺物実測図①		54
第 62 図	南大門遺跡出土遺物実測図②		55
第 63 図	山下前畑遺跡調査地位置図		56
第 64 図	山下前畑遺跡トレンチ配置図		56
第 65 図	山下前畑遺跡土層断面図		56
第 66 図	山下前畑遺跡出土遺物実測図		56
第 67 図	河崎工場関連施設建設予定地調査地位置図		57
第 68 図	河崎工場関連施設建設予定地トレンチ配置図		57
第 69 図	河崎工場関連施設建設予定地土層断面図		57
第 70 図	高岡原遺跡A地点調査地位置図		58

第71図	高岡原遺跡A地点トレンチ配置図	58
第72図	高岡原遺跡A地点トレンチ実測図	59
第73図	立願寺廃寺調査地位置図	60
第74図	立願寺廃寺トレンチ配置図	60
第75図	立願寺廃寺トレンチ実測図	61
第76図	立願寺廃寺出土遺物実測図①	62
第77図	立願寺廃寺出土遺物実測図②	63
第78図	横島城跡調査地位置図	65
第79図	横島城跡トレンチ配置図	65
第80図	横島城跡土層断面図①	66
第81図	横島城跡土層断面図②	67
第82図	横島城跡土層断面図③	68
第83図	横島城跡出土遺物実測図	68
第84図	中土樋ノ尾遺跡調査地位置図	69
第85図	中土樋ノ尾遺跡トレンチ配置図	69
第86図	中土樋ノ尾遺跡土層断面図	69
第87図	簀布遺跡A地点調査地位置図	70
第88図	簀布遺跡A地点トレンチ配置図	70
第89図	簀布遺跡A地点土層断面図	70
第90図	伊倉古宮原遺跡調査地位置図	71
第91図	伊倉古宮原遺跡トレンチ配置図	71
第92図	伊倉古宮原遺跡土層断面図	72
第93図	簀布遺跡B地点調査地位置図	73
第94図	簀布遺跡B地点トレンチ配置図	73
第95図	簀布遺跡B地点土層断面図	74
第96図	年の神遺跡調査地位置図	76
第97図	年の神遺跡トレンチ配置図	76
第98図	年の神遺跡土層断面図①	77
第99図	年の神遺跡土層断面図②	78
第100図	年の神遺跡土層断面図③	79
第101図	年の神遺跡出土遺物実測図①	80
第102図	年の神遺跡出土遺物実測図②	81
第103図	年の神遺跡出土遺物実測図③	82
第104図	下立願寺遺跡調査地位置図	83
第105図	下立願寺遺跡トレンチ配置図	83
第106図	下立願寺遺跡土層断面図	84

第107 図	下立願寺遺跡出土遺物実測図	84
第108 図	大塚・惣萩遺跡調査地位置図	85
第109 図	大塚・惣萩遺跡トレンチ配置図	85
第110 図	大塚・惣萩遺跡トレンチ実測図	86
第111 図	大塚・惣萩遺跡出土遺物実測図	86
第112 図	玉名郡家跡調査地位置図	87
第113 図	玉名郡家跡トレンチ配置図	87
第114 図	玉名郡家跡土層断面図	88
第115 図	高岡原遺跡B地点調査地位置図	89
第116 図	高岡原遺跡B地点トレンチ配置図	89
第117 図	高岡原遺跡B地点トレンチ実測図①	90
第118 図	高岡原遺跡B地点トレンチ実測図②	91
第119 図	高岡原遺跡B地点出土遺物実測図	91
第120 図	高岡原遺跡B地点トレンチ実測図③	92
第121 図	玉名平野条里跡調査地位置図	93
第122 図	玉名平野条里跡トレンチ配置図	93
第123 図	高岡原遺跡位置図	98
第124 図	高岡原遺跡調査区位置図	98
第125 図	高岡原遺跡周辺遺跡分布図	100
第126 図	高岡原遺跡遺構配置図	102
第127 図	高岡原遺跡住居跡実測図 (S-7,8)	103
第128 図	高岡原遺跡住居跡実測図 (S-9,14)	105
第129 図	高岡原遺跡住居跡S-13 (5号住) 実測図	106
第130 図	高岡原遺跡住居跡実測図 (S-14,15)	107
第131 図	高岡原遺跡弥生時代遺構実測図	109
第132 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (1~3号住居跡)	111
第133 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (3・4号住居跡)	112
第134 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (5号住居跡①)	113
第135 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (5号住居跡②)	114
第136 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (5号住居跡③)	115
第137 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (5号住居跡④)	116
第138 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (5号住居跡⑤)	117
第139 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (5号住居跡⑥)	118
第140 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (6号住居跡、S-6他)	119
第141 図	高岡原遺跡古代以降の遺構実測図 (S-2,5,18,19)	121
第142 図	高岡原遺跡出土遺物実測図 (S-2,5,18)	121



第143図	高岡原遺跡調査区隣接地出土遺物（勾玉）	121
第144図	高岡原遺跡周辺調査区と住居跡の分布	124

### 写真目次

写真 1	調査地点1近景（西から）	17
写真 2	調査地点1 3T（781-1）遺構検出状況	17
写真 3	調査地点1 2T（781-1）遺構検出状況	17
写真 4	調査地点1 1T（784-1）遺構検出状況	17
写真 5	調査地点2 2T（779）土層堆積状況	19
写真 6	調査地点2 3T（779）土層堆積状況	19
写真 7	調査地点2 1T（762）土層堆積状況	19
写真 8	調査地点2 1T（758）土層堆積状況	19
写真 9	調査地点3 1T（767-1）土層堆積状況	21
写真 10	調査地点3 2T（767-1）土層堆積状況	21
写真 11	調査地点3 1T（769）土層堆積状況	21
写真 12	調査地点4 2T（755-1）土層堆積状況	21
写真 13	調査地点5近景（南から）	23
写真 14	調査地点5 2T（905-1）遺構検出状況	23
写真 15	調査地点5 1T（905-1）遺構検出状況	23
写真 16	調査地点5 3T（906-1）遺構検出状況	24
写真 17	調査地点5 4T（906-1）遺構検出状況	25
写真 18	調査地点5 1T（905-1）土層堆積状況	27
写真 19	調査地点5 3T（906-1）遺構検出状況	27
写真 20	調査地点5 1T（906-1）遺構検出状況	27
写真 21	調査地点5 6T（905-2）土層堆積状況	27
写真 22	調査地点5 8T（905-1）遺構検出状況	27
写真 23	調査地点6近景（東から）	29
写真 24	調査地点6近景（西から）	29
写真 25	調査地点6 5T（913-2）土層堆積状況	29
写真 26	調査地点6 5T（913-2）土層堆積状況	29
写真 27	調査地点6 2T（914-1）土層堆積状況	29
写真 28	調査地点8近景（東から）	38
写真 29	調査地点9 1T（746-1）土層堆積状況	38
写真 30	調査地点9 2T（746-1）遺構検出状況	38
写真 31	調査地点9 3T（748-1）土層堆積状況	38
写真 32	調査地点9 4T（748-1）土層堆積状況	38



写真 33	調査地点10 1T (736) 土層堆積状況	38
写真 34	調査地点10 1T (735-3) 全景 (東から)	38
写真 35	調査地点10 2T (735-1) 全景 (東から)	38
写真 36	調査地点10 2T (735-1) S-1検出状況	39
写真 37	調査地点11近景 (西から)	39
写真 38	調査地点11 1T (727) 土層堆積状況	39
写真 39	調査地点12 3T (726-1) 全景 (南から)	39
写真 40	調査地点12 3T (726-1) 土層堆積状況①	39
写真 41	調査地点12 3T (726-1) 土層堆積状況②	39
写真 42	調査地点13 2T (717) 遺構検出状況	39
写真 43	調査地点14 1T (714-1) 土層堆積状況	39
写真 44	調査地点18近景 (東から)	45
写真 45	調査地点18 2T (693-1) 土層堆積状況	45
写真 46	調査地点18 1T (693-1) 土層堆積状況	45
写真 47	調査地点18 3T (694) 土層堆積状況	45
写真 48	調査地点18 2T (692-1) 土層堆積状況	45
写真 49	南大門遺跡調査地近景 (南東から)	53
写真 50	南大門遺跡1T土層堆積状況	53
写真 51	南大門遺跡4T土層堆積状況	53
写真 52	南大門遺跡出土鬼瓦	55
写真 53	高岡原遺跡A地点2T遺構検出状況	58
写真 54	立願寺廃寺1T遺構検出状況	60
写真 55	横島城跡調査地近景 (北西から)	68
写真 56	横島城跡1T全景 (西から)	68
写真 57	横島城跡4T全景 (南西から)	68
写真 58	中土栖ノ尾遺跡調査地 (南から)	69
写真 59	伊倉古宮原遺跡調査前工事状況	71
写真 60	伊倉古宮原遺跡1T全景 (南から)	72
写真 61	伊倉古宮原遺跡作業状況	72
写真 62	伊倉古宮原遺跡進入路切土部分	72
写真 63	伊倉古宮原遺跡浄化槽予定地土層堆積状況	72
写真 64	年の神遺跡調査地近景 (東から)	75
写真 65	年の神遺跡2T土層堆積状況 (東壁)	75
写真 66	年の神遺跡13T土層堆積状況	75
写真 67	年の神遺跡16T遺構検出状況	75
写真 68	年の神遺跡17T遺構検出状況 (東から)	79

写真 69	年の神遺跡22T遺構検出状況（北から）……………	79
写真 70	下立願寺遺跡進入路部分遺構検出状況（西から）……………	83
写真 71	大塚・惣萩遺跡調査状況（南西から）……………	85
写真 72	玉名郡家跡調査地近景（西から）……………	87
写真 73	玉名郡家跡1T全景（西から）……………	88
写真 74	玉名郡家跡3T全景（北から）……………	88
写真 75	高岡原遺跡B地点調査地近景（北から）……………	89
写真 76	高岡原遺跡 調査区全景（調査前）……………	98
写真 77	高岡原遺跡 遠景（西側より）……………	100
写真 78	高岡原遺跡 1号住居跡完掘状況……………	129
写真 79	高岡原遺跡 2号住居跡完掘状況……………	129
写真 80	高岡原遺跡 3号住居跡遺物、焼土検出状況……………	129
写真 81	高岡原遺跡 4号住居跡完掘状況……………	129
写真 82	高岡原遺跡 5号住居跡遺物出土状況……………	129
写真 83	高岡原遺跡 5号住居跡遺物出土状況近景……………	129
写真 84	高岡原遺跡 5号住居跡遺物出土状況近景……………	130
写真 85	高岡原遺跡 5号住居跡遺物出土状況近景……………	130
写真 86	高岡原遺跡 6号住居跡完掘状況……………	130
写真 87	高岡原遺跡 7号住居跡完掘状況……………	130
写真 88	高岡原遺跡 S-6土層堆積状況……………	130
写真 89	高岡原遺跡 S-6遺物出土状況（上層）……………	130
写真 90	高岡原遺跡 S-2遺物出土状況……………	131
写真 91	高岡原遺跡 S-5遺物出土状況……………	131
写真 92	高岡原遺跡 6号住居跡ピット内 遺物出土状況……………	131
写真 93	高岡原遺跡 S-1完掘状況……………	131
写真 94	高岡原遺跡 調査区完掘状況（南西より）……………	131
写真 95	高岡原遺跡 調査区完掘状況（東より）……………	131

## 表 目 次

第 1 表	平成19年度市内遺跡試掘・確認調査一覧……………	4
第 2 表	上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡調査地点一覧……………	14
第 3 表	平成19年度市内遺跡出土遺物観察表……………	94
第 4 表	平成17年度高岡原遺跡出土遺物観察表……………	132

## I 調査の概要

### 1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

平成19年度

調査主体 玉名市教育委員会  
調査責任 教育長 菊川茂男  
調査総括 教育次長 杉本末敏  
文化課長 西田道彦  
課長補佐 内田秀昭  
庶務担当 文化財係長 安田信孝  
主事 清田静香  
調査担当 主任 兵谷有利  
主任 田中康雄  
主任 末永 崇  
主任 中村安宏  
主任 齋父雅史  
主任 荒木隆宏  
調査員 古閑敬士  
調査員 大倉千寿

平成20年度（報告書作成）

調査主体 玉名市教育委員会  
調査責任 教育長 菊川茂男  
調査総括 教育次長 前田敏朗  
文化課長 中山富雄  
課長補佐 中川英夫  
庶務担当 文化財係長 安田信孝  
主事 永野摩美子  
報告書担当 主任 齋父雅史  
調査員 大倉千寿

### 2 調査の方法

試掘確認調査については、重機掘削により幅0.7～1m程度のトレンチを設定しており、重機が使用不可能な場合や、包含層の一部、遺構については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積等については特に基準等を定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容、地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20スケールを基本として、平面・断面図を作成している。トレンチの配置図等については、基本的に開発を伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。地形測量図等が必要な場合には、平板及び光波測距儀を使用して、1/100スケールもしくは1/200スケールで作成している。

写真は、通常は35mmカラーネガを用いており、重要な遺構などが確認された場合は35mmモノクロ及びリバーサルフィルムによる撮影を行っている。また、一部デジタルカメラによる撮影も行っている。

### 3 調査総括

玉名市では、平成11年度より、国・県の補助を受け、各種開発に伴う埋蔵文化財試掘確認調査等を行っている。

平成19年度は、事前審査293件中、文化財保護法第93・94条による届出・通知数が119件で、うち試掘確認調査17件を行った。地域的には、最も住宅が集中している玉名町校区が多く、次いで旧岱明町が多い。調査原因は、専用住宅、共同住宅建設に伴う小規模なものが大部分であるが、大型公共事業に伴う確認調査も行った。小田校区では、事業用地造成計画に伴い、21,600m<sup>2</sup>を対象とした確認調査を平成18・19年度の2カ年にわたって実施した。その他、工場関連施設、市道建設、

## I 調査の概要

中規模店舗建設等の事業に伴い確認調査を実施した。平成19年度の概要を調査が多かった地区を中心にまとめると、次のとおりである。

玉名町校区では、立願寺廃寺、下立願寺遺跡、玉名郡家跡、大塚・惣萩遺跡の確認調査を行っている。

立願寺廃寺の調査では、古代の瓦を含む溝状遺構やピットが確認され、南門があったと推定されているように、一部において硬化面が検出された。

下立願寺遺跡の調査では、時期は不明であるが、炉を伴う遺構の一部が確認され、住居跡であった可能性も考えられる。また、耕作土中より、押型文土器片が出土しており、周辺に縄文時代早期の遺跡が存在していたことも考えられる。

大塚・惣萩遺跡の調査では、遺構等は確認されなかったが、古代の須恵器が出土しており、周辺に玉名郡衙に関連した遺構があったことによるものと考えられる。

築山校区では高岡原遺跡で2ヶ所、南大門遺跡で確認調査を実施している。高岡原遺跡のA地点では堅穴住居1基、土坑4基などが確認され、遺構密度が高い。B地点では、削平を受けているものの、土坑やピットが検出され、遺跡範囲の東端にも遺構の分布が認められることがわかった。

南大門遺跡では、中世の寺院である浄光寺の南大門跡推定地の調査を行い、鬼瓦片が出土した。全体の形状は不明であるが、当時の寺院の様相を考えるうえで大変貴重な発見となった。

また、玉名市教育委員会では平成17年度に高岡原遺跡の発掘調査を行っており、今回併せて報告している。

### 4 活用

玉名市では、市内遺跡の試掘・確認調査とその結果を年度ごとに報告しているが、その成果は、二年に一回の割合で展示公開を行っている。これまでに、玉名市立歴史博物館において「たまな発掘速報展」と題して過去3回展示している。

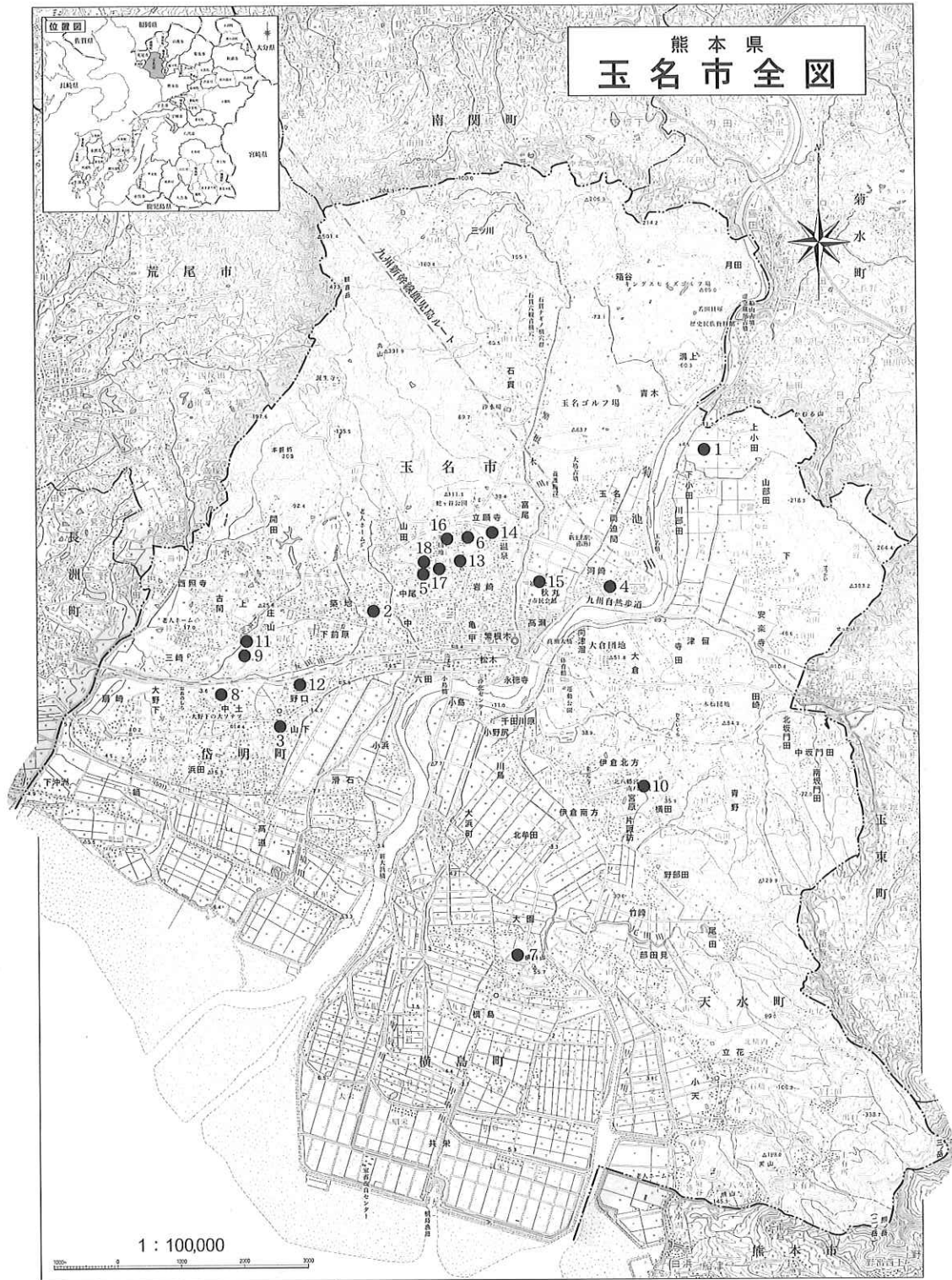
内容は、玉名の歴史を発掘調査の結果によって探ろうというもので、時代区分を、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世に分けて、各時代ごとに調査によって出土した遺物を中心に展示するものである。また、特設コーナーとして、新たに発見された遺跡の紹介や、新幹線関係の調査速報、文化課で取り組んでいる事業の紹介なども行った。

小学生でも理解しやすいように解説文を簡潔にし、写真パネルなどを多く使用し、埋蔵文化財を身近に感じられるような展示にした。毎年、展示期間は、約1ヵ月半であるが、市民のほかに小中学校からの社会科見学、県外からの団体客を含めて約600人の見学者があった。

また、資料として「埋蔵文化財を守るために」、「埋蔵文化財Q&A」といった独自に作成したプリントを配布するなど啓発を行っている。

他に、発掘調査時にはなるべく現地説明会を行うようにしており、現場近くに小学校などがあれば、呼びかけを行い社会科授業の一環として、見学会を行うなど学校教育と連携した活動なども行っている。

# I 調査の概要



- |                   |            |                 |
|-------------------|------------|-----------------|
| 1 上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡 | 7 横島城跡     | 13 下立願寺遺跡       |
| 2 南大門遺跡           | 8 中土櫓ノ尾遺跡  | 14 大塚・惣萩遺跡      |
| 3 山下前畑遺跡          | 9 簀布遺跡A地点  | 15 玉名平野条里跡      |
| 4 河崎工場関連施設建設予定地   | 10 伊倉古宮原遺跡 | 16 玉名郡家跡        |
| 5 高岡原遺跡A地点        | 11 簀布遺跡B地点 | 17 高岡原遺跡B地点     |
| 6 立願寺廃寺           | 12 年の神遺跡   | 18 高岡原遺跡 (17年度) |

第1図 玉名市内遺跡分布図 (平成20年12月現在) S=1/100,000



I 調査の概要

第1表 平成19年度埋蔵文化財試掘・確認調査等一覧

No.	遺跡名	遺跡名	調査地	面積 (㎡)	種別	調査原因	調査期日	担当者	措置
1	上小田宮の前・上小田古屋敷遺跡	KOM・KFY	上小田708-1ほか	216.345	確認調査	工業団地	平成19年4月23日～8月1日	荒木隆宏・壺父雅史	—
2	南大門遺跡	NDM	築地2147-1	3,499	確認調査	門建設	平成19年4月27日	末永崇	発掘調査
3	山下前畑遺跡	YSM	岱明町山下前畑203-1	942	確認調査	共同住宅	平成19年5月7日	田中康雄	慎重工事
4	河崎工場隣通施設建設予定地	—	河崎字東原587-1	569.46	試掘調査	緑地・駐車場造成	平成19年5月18日	田中康雄	慎重工事
5	高岡原遺跡A地点	TOB	山田2004-2、2010-4、2010-5	907	確認調査	調査依頼	平成19年6月6日～6月7日	荒木隆宏	—
6	立願寺跡寺	RGJ	立願寺1210-1	289.53	確認調査	調査依頼	平成19年6月12日～6月13日	大倉千寿	—
7	横島城跡	YSJ	横島町横島2528-1から大園494	16,100	確認調査	道路改良	平成19年6月27日～7月19日	中村安宏	慎重工事
8	中土槽/尾遺跡	NNO	岱明町中土槽/尾205	756	確認調査	調査依頼	平成19年7月5日	荒木隆宏	—
9	旗布遺跡A地点	HTB	岱明町庄山字松浦223-1	464	確認調査	調査依頼	平成19年10月1日	大倉千寿	—
10	伊倉古宮原遺跡	IFM	宮原字宮川476-8	463.69	確認調査	専用住宅	平成19年10月25日	古閑敬士	慎重工事
11	旗布遺跡B地点	HTB	岱明町庄山字松浦188-2から字帆物前556-1	1,239.5	確認調査	道路建設	平成19年11月5日～11月7日	末永崇	慎重工事
12	年の神遺跡	TNK	岱明町野口字早馬2755-1から2824-3	3,934.8	確認調査	道路拡張	平成19年11月16日～12月17日	田中康雄	工事立会
13	下立願寺遺跡	SRG	立願寺字六地藏829-4	660.73	確認調査	共同住宅	平成19年11月27日	古閑敬士	慎重工事
14	大塚・惣萩遺跡	OTH	立願寺字大塚1084-1	278	確認調査	調査依頼	平成19年12月4日	末永崇	—
15	玉名郡家跡	TNG	立願寺字石丸1304-1	423	確認調査	調査依頼	平成20年2月12日～2月13日	大倉千寿	—
16	高岡原遺跡B地点	TOB	山田字高岡原2006-2、2010-3、2013-1、2013-2	2,048	確認調査	調査依頼	平成20年2月27日～2月29日	大倉千寿	—
17	玉名平野条里跡	THJ	岩崎字福町267ほか44筆	20,199	確認調査	新市庁舎	平成20年3月4日～3月31日	兵谷有利・大倉千寿	—

## II 平成19年度の調査

## II 平成19年度の調査

### 1 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡

所在地：上小田708-1外79筆

調査原因：調査依頼

対象面積：216,345m<sup>2</sup>

調査期間：平成19年2月8日～3月30日

平成19年4月23日～8月1日

担当者：荒木隆宏・大倉千寿（平成18年度）

齋父雅史・大倉千寿（平成19年度）

調査地は、玉名市北東部、菊池川左岸の玉名平野北東端部に位置する、標高7～8mの水田約22haである。調査範囲の北半は上小田宮の前遺跡に、南半の大部分は上小田古屋敷遺跡の範囲内に含まれる。一帯は大正時代から耕地整理による地形の改変、字界の変更が行われ、昭和37・38年には第1次構造改善事業に伴う耕地整理が実施されたことにより大きく地形の改変を受けている。現状では調査地西側から東側へ、また北側から南側へ緩やかに傾斜している。現在では大部分が水田として利用されているが、一部タバコ、豆類の栽培が行われている。

調査地内では過去平成14年3月には調査地中央を南北に走る市道の拡幅工事に伴う試掘確認調査を実施したが、明確な遺構・遺物包含層は確認されなかった<sup>(1)</sup>。調査地北端及び東端に接する県道路線は、熊本県教育庁文化課により平成11年に試掘確認調査が、平成12～16年度にかけて発掘調査が行われた。その結果、自然遺物を含む縄文時代～中世の遺物や遺構が多数発見されており、縄文時代の土偶や弓、弥生時代住居跡や内向花文鏡、古墳時代の祭祀遺物、古代の道路跡など、重要な発見が相次いだ<sup>(2)</sup>。

今回は、調査依頼のあった約22haのうち、耕作物等の支障がなく、地権者の調査同意を得られた79筆（調査時は地権者毎に調査地点を設定）について、周辺の調査成果を勘案

しつつトレンチを設定し、埋蔵文化財の広がりやその状況について調査を行った。

なお、今回の調査は対象面積が約22haと広大であること、また耕作物の収穫時期等の関係から、平成18年度及び平成19年度の2カ年度にかけて行った。平成18年度調査成果は前書<sup>(3)</sup>において概要のみの掲載に留めたため、今回本書において平成18年度に調査した調査地点1、2(779)、5、6、7(675-1、676-1、677)、17、18、19(695、696)、20と、平成19年度に調査した調査地点2、3、4、7～16を併せ、その調査成果を報告する。

#### 〔上小田宮の前遺跡：調査地点1～9〕

##### 調査地点1（第5～7図）

調査地北端の標高8m程の地点である。県道部分の調査成果から遺構の検出が予想され、また隣接地が調査不可能だったため、調査地点の外周に6本のトレンチを設定した。遺構は3T(781-1)においてピットを2基検出したが、上部が削平を受けており所属時期は不明である。1T(781-1)、2T(781-1)では溝状の落ち込み、7T(784-1)では土坑を検出した。

遺物は縄文時代～近世の各時代のものが耕作土中から比較的多量に出土している(第54図1～11)が、4層から縄文土器が1点出土した他はすべて耕作土及び整地層からの出土であり、本来の遺物包含層はすでに削平されているとみられる。1は縄文時代後期の磨消縄文土器の鉢である。10・11は古墳時代の祭祀具である石製模造品である。10は有孔円板の未製品とみられ、中央の2孔は貫通しておらず直径1mm、深さ0.5mm程の窪みでしかない。また全体も粗割りして円形に整形しているものの研磨は施されていない。11は形状から剣形と考えられる。茎部分は左右対称ではなく穿孔もみとめられないが、表裏面、側



面とも研磨が施される。刃部や鑄の表現はない。石材は両者とも暗緑色を呈する滑石である。

### 調査地点2 (第8～10図)

調査地西端の標高8m程の地点である。計8本のトレンチを掘削した。758番地の1Tにおいて中世と思われるピットを検出したほか、遺構等は確認していない。779番地では3層から中世、4層から古代の遺物が数点出土している。

遺物は縄文時代から近世にかけてのものが出土しているが、比較的古代、中世のものが多く(第54図12～24)。12～15は古代の所産と考えられる須恵器で、17は甑の把手、18は滑石製の鍋で、口縁部に把手状の張り出しが数カ所にあったものと考えられる。19は近代の陶器である。

本調査地点ではトレンチ毎に土層が一致せず、共通するとみられる土壌のレベルも一定しないことから、旧地形は複雑な起伏があったと考えられる。

### 調査地点3 (第11・12図)

調査地北西の標高8m程の地点である。計4本のトレンチを掘削した。ピット、土坑を検出し、1T(769)のピットから土師器小片が出土していることから、遺構の帰属時期は中世と考えられる。

遺物は縄文～近世までの各時代のものが出土しているが、耕作土・造成土中からの出土である(第54図25)。25は土師器の皿で糸切痕が認められ、後述する調査地点10の出土遺物と類似している。

### 調査地点4 (第13・14図)

調査地北西側の標高8m程の地点である。計4本のトレンチを掘削した。遺構は確認されていない。遺物は弥生～近世の各時代のものが耕作土・造成土中から出土している。

### 調査地点5 (第15～20図)

調査地北東の標高8m程の地点である。計16本のトレンチを掘削した。遺構は調査地点東側の1～5T(906-1)においてピット、溝、土坑を、調査地点北側の1～3T(905-1・905-2)においてピット及び道路状遺構を検出した。道路状遺構はトレンチ調査であることから方向や実際の幅は確定しがたいが、しまりのある硬化した黒褐色土が盛り上がり形成されている。いずれも検出に留めているためその帰属時期は不明である。本調査地点では北東側に遺構が検出され、南西側には遺構が検出されなかったこと、また遺物出土量も北東側から南西側のトレンチへかけて漸減する状況を示すこと、それに周辺の調査成果をあわせると本調査地点内に遺構の広がりや南限が存在すると考えられる。

遺物は縄文時代～近世に至る遺物が耕作土・造成土中から出土している(第55図26～34)。

古代の遺物が多く、遺構の帰属年代も古代である可能性が高い。なお8T(905-1)では自然流路的な落ち込みと、凝灰岩の礫群を検出した。この礫群は近世以降の水路に伴う堰に関係するものと考えられる。

### 調査地点6 (第21～23図)

調査地東側の標高7.5m程の地点である。計12本のトレンチを掘削した。遺物は少なく、調査地中央北側の1T(915-1)で15点出土した以外は数点が出土したトレンチが5本あるのみで、それ以外からは出土しなかった。

遺物は弥生時代から近世にかけてのものが出土したが、すべて耕作土および整地層からの出土で、遺構は検出できなかった。

### 調査地点7 (第24・25図)

調査地南東側の標高7.5m程の地点である。計9本のトレンチを掘削した。2T(677)において、耕地整理前の水路跡が確認されたが、

## II 平成19年度の調査

遺構は確認されていない。5T(676-1)では湧水が著しく、下部の自然流路とみられる砂層からも土師器の甕(第55図37)が出土している。

その他、遺物は縄文時代～近世の遺物が耕作土および整地層から出土しているが、弥生時代及び古代の遺物が目立ち、特に東側のトレンチでは弥生時代の遺物が多い傾向にある(第55図35～37)。

### 調査地点8 (第26・27図)

調査地点西端の標高8m程の地点である。計8本のトレンチを掘削した。1T(744)において、耕地整理前の水路が確認されたが、遺構は確認されていない。

遺物は縄文～近世の各時代のものが耕作土・造成土中から出土している(第55図38～44)。38は瓦質土器の火舎で口縁部に菊花文のスタンプがある。39は瓦器の碗の底部である。40は青磁碗の口縁部で蓮弁文が施されている。42・43は近世の磁器碗である。

### 調査地点9 (第28・29図)

調査地点南西側の標高8m程の地点である。計7本のトレンチを掘削した。1・2T(746-1)でそれぞれ土坑を確認し、うち2TのS-1からは中世の土師器(第55図45)が出土している。3・4T(748-1)でピットや土坑等を確認した。

そのほかの遺物は縄文～中世のものが耕作土・造成土中から出土している(第55図45・46)。46は縄文時代晩期の深鉢で、口縁部に3～4条の沈線文が施されている。

### 〔上小田古屋敷遺跡：調査地点10～16〕

#### 調査地点10 (第30・31図)

調査地西端の標高8m程の地点である。計5本のトレンチを掘削した。2T(735-1)にて中世に帰属すると考えられるS-1を確認

したほか、736番地でピットを1基確認している。

S-1は、当遺跡において遺物がまとまって出土し、時期が分かる遺構であるが、トレンチ内で確認できたのは西端の一部であり、全体の形状は不明である。遺構の覆土は炭化物を含み、中世の土師器の皿が完形に近い状態で部分的に集中した状態で多く出土している(第56図47～59・第57図70)。なお、ほとんどの底部に糸切痕が認められる。

この遺構は、皿を一括して廃棄した祭祀的、宗教的な遺構の可能性も考えられる。玉名市内で類似した遺構は、伊倉城跡(中ん城跡)や永安寺跡等で確認されている。いずれにしても、この周辺は、圃場整備による造成の影響をあまり受けずに遺構が残存している可能性が高く、「古屋敷」や「今寺」といった字名からも中世に何らかの遺構群があったことが想定される。この調査地点からは、その他に縄文～近世の各時代のものが耕作土中・造成土中から出土している。70は有溝石錘で、市内では他に伊倉の與内迫遺跡で古墳時代の住居跡から出土例がある。

#### 調査地点11 (第32・33図)

調査地西側の標高8m程の地点である。計6本のトレンチを掘削した。1T(727)においてピットが2基確認されたが、所属時期は不明である。

遺物は弥生～近世の各時代のものが耕作土・造成土中から出土している(第56図63・65)。

#### 調査地点12 (第34・35図)

調査地西側の標高7.5m程の地点である。計6本のトレンチを掘削した。3T(726-1)においてピットが2基確認されたが、所属時期は不明である。

遺物は弥生～近世の各時代のものが耕作土・造成土中から出土している。(第56図62・64)

**調査地点13 (第36・37図)**

調査地西側の標高7.5m程の地点である。計6本のトレンチを掘削した。2T(717)でピットを1基確認しているが、所属時期は不明である。

遺物は弥生～現代の各時代のものが耕作土・造成土中から出土している。(第56図66～69)

**調査地点14 (第38・40図)**

調査地南端の標高7.5m程の地点である。計4本のトレンチを掘削した。弥生・古代・近世の遺物が耕作土・造成土中から出土しているが、遺構は確認されていない。

**調査地点15 (第39・40図)**

調査地中央付近の標高7.5m程の地点である。耕作物の合間に1本のトレンチを掘削した。

遺物は耕作土及び造成土中から磨滅した縄文、弥生、古代、近世のものが少量出土したが、遺構は検出されなかった。

**調査地点16 (第41～43図)**

調査地南東の標高7.5m程の地点である。計7本のトレンチを掘削した。2・3Tで自然流路と思われる砂層を確認しており、縄文時代の土器(第57図72)が出土している。

この72は、縄文時代晩期の深鉢で、調査地点9から出土している遺物と類似し、ほぼ同時期の所産であると考えられる。71は縄文時代の磨石と考えられ、使用痕が認められる。

そのほかには遺構等は確認できなかった。遺物は縄文～現代の各時代のものが、耕作土中から出土している(第57図71～73)。

**調査地点17 (第44～46図)**

調査地南西側の標高7.5m程の地点である。調査地西半は上小田古屋敷遺跡の範囲内だが、東半は範囲外で隣接地である。計9本のトレンチを掘削した。

縄文時代から近世にかけての遺物が出土し

たが、いずれも耕作土および造成土からの出土である(第57図74～76)。640-1では1T、989では1T・3Tに遺物が集中し、調査地点東側と西側に多い傾向にある。

遺物はすべて磨滅が著しく圃場整備に伴う造成時に押し集められた感がある。

**調査地点18 (第47～49図)**

調査地南西側の標高7m程の地点である。計10本のトレンチを掘削した。調査地点西側が上小田古屋敷遺跡に含まれる。2T(692-1)では圃場整備前の道路と水路の跡を検出した。遺物は縄文時代から中世にかけてのものが出土したが、いずれも耕作土および造成土からの出土である。

**調査地点19 (第50・51図)**

調査地南東の標高7m程の地点である。調査地点内の西端の一部が上小田古屋敷の範囲内に含まれるが、大半は周知の埋蔵文化財包蔵地外である。遺構は確認されていない。

遺物も各トレンチ数点のみの出土である(第57図77)。

**調査地点20 (第52・53図)**

調査地南東端の標高7m程の地点である。調査地点西端が上小田古屋敷遺跡の東端にかかるだけで大部分が範囲外である。計9本のトレンチを掘削した。

縄文時代から近世にかけての遺物が出土したが、いずれも耕作土および造成土からの出土である(第57図78・79)。調査地点東端の2T(702-1)で32点、中央部の5T(704)で17点出土した以外のトレンチでは数点の出土にとどまり、明確な包含層は確認できなかった。

まとめ

掘削したほとんどのトレンチで縄文時代から近世にかけての遺物が出土したが、それらはほぼ全てが耕作土及び昭和37・38年度に実施された圃場整備に伴う整地層からの出土である。圃場整備実施前の昭和37年頃撮影された航空写真や字図からは、不整形な地割りと入り組んだ字界を知ることができる。調査地東半は概ね水田で一部に桑畑がある程度だが、西半では西側が全体的に高くなっており、周辺より高い土地が桑畑として、低い土地が水田として利用され、「鍋津留（なべつる）塘」と呼ばれる近世に築かれた堤防に近い部分では一部宅地として利用されるという入り組んだ土地利用の状況が読み取れる。現状では調査地西端と東端での比高差は0.5m未満であり、特に西側は大きく削平され、東側の低地はその土によって造成されている状況が看取される。

今回の試掘確認調査では、まず調査地北東側から北側にかけてやや範囲を変えながら縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代～中世当時の人々の生活範囲、あるいは活動領域が広がっていたものと推測できる。その境界は調査地点6付近にあるとみられ、それより南側は「水町」や「萱原」といった字名からも読み取れるように湿地帯で生活には不向きであったとみられる。実際、調査中も南の調査地点ほど地下からの湧水が多く調査に苦心した。遺構が確認できた調査地点であっても遺物は縄文時代から近世にかけての各時代の遺物がローリングを受けた状態で同一層中から出土しており、本来の遺物包含層、遺構検出面は過去の耕作や耕地整理、圃場整備等により大きく掘削を受けていることが確認された。

また、調査地西側にも遺物や遺構が集中する地点があることが把握できた。調査地西端

を区切る南北に走る県道は、鍋津留塘上を利用したものであり、その東側一帯の字名は遺跡名にもなっている「古屋敷」である。この「古屋敷」一帯は、圃場整備前は大部分が桑畑に、南側の一部が宅地として利用されていたらしく、地元にはもともと現在の上小田の集落の人々は、この辺りに暮らしていたが、度重なる洪水の害を避けるために現在地に移ったという伝承が伝わっている。また調査地11～12付近は字「今寺」であり、「古屋敷」と同様に桑畑として利用される微高地が存在していた。今回の調査での遺構検出状況や遺物出土量からは、これらの微高地上に中世以降、耕作地として以外の土地利用が行われていたことが分かる。

今回の調査はその範囲が約22haと広大であったことから調査面積に対して掘削したトレンチの面積はやや少なく、遺構の存在する範囲や遺跡自体の性格を明らかにすることはできなかった。しかし、現在は一面の水田地帯であり昔から川沿いの洪水の害に瀕しやすい土地でありながら、古くは縄文時代後期から弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世とそれぞれの遺物や遺構が存在し、自然地形の状況にあわせて連綿と人々の暮らしが営まれていたことを明らかにすることができた。

註(1) 齋父雅史「21 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡」『玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ』玉名市文化財調査報告第13集 玉名市教育委員会 2004

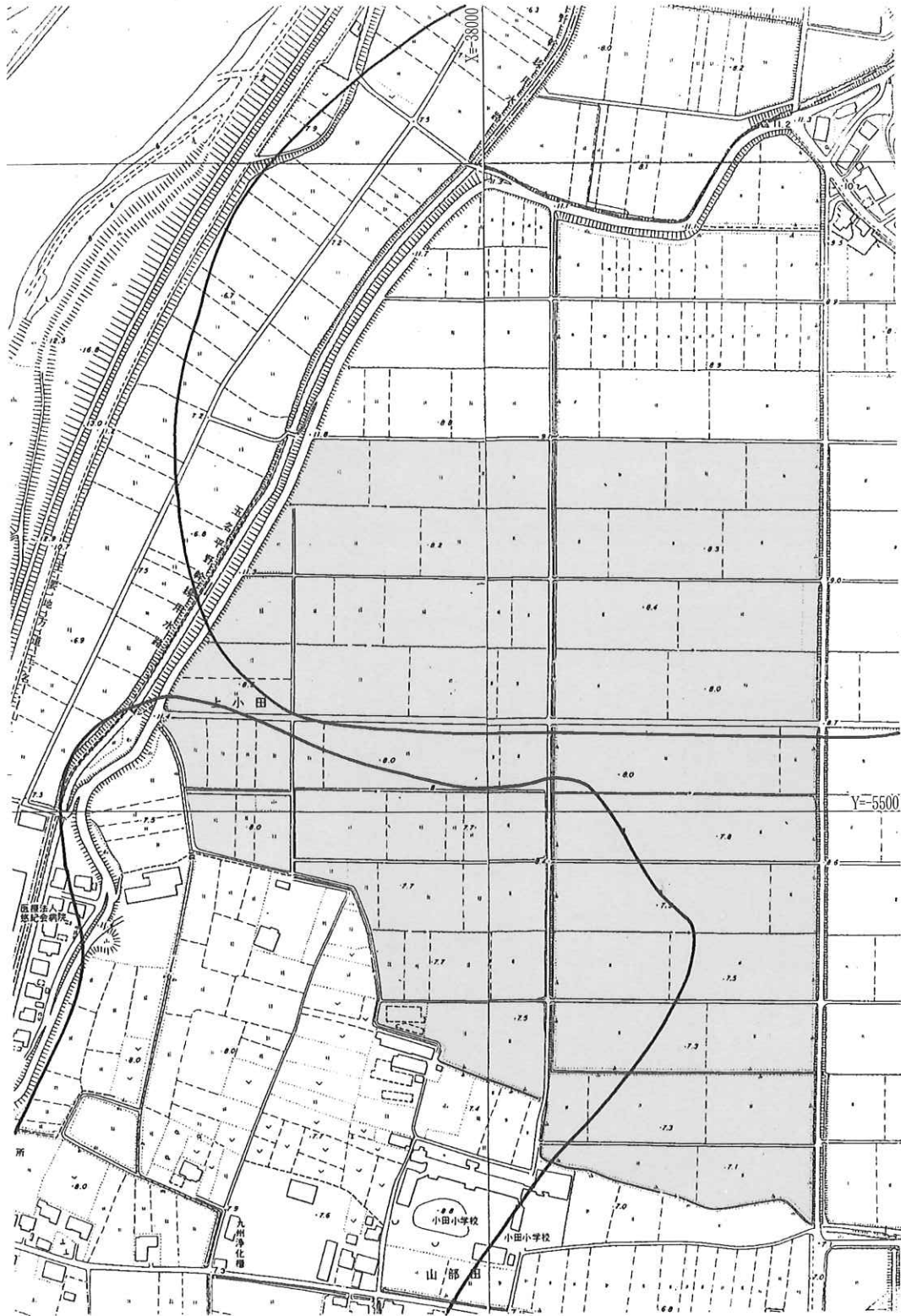
(2) 「上小田宮の前遺跡」『たまな発掘速報展』パンフレット 玉名市立歴史博物館ころころピア 2003

廣田静学「上小田宮の前遺跡」『くまもと文化財通信』第22号 熊本県教育委員会 2005

(3) 荒木隆宏「23 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡」『玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ』玉名市文化財調査報告第17集 玉名市教育委員会 2008



II 平成19年度の調査



第2図 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡調査地位置図 S=1/5,000

II 平成19年度の調査



第3図 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡トレンチ配置図① S=1/2,000

II 平成19年度の調査



第4図 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡トレンチ配置図② S=1/2,000

Ⅱ 平成19年度の調査

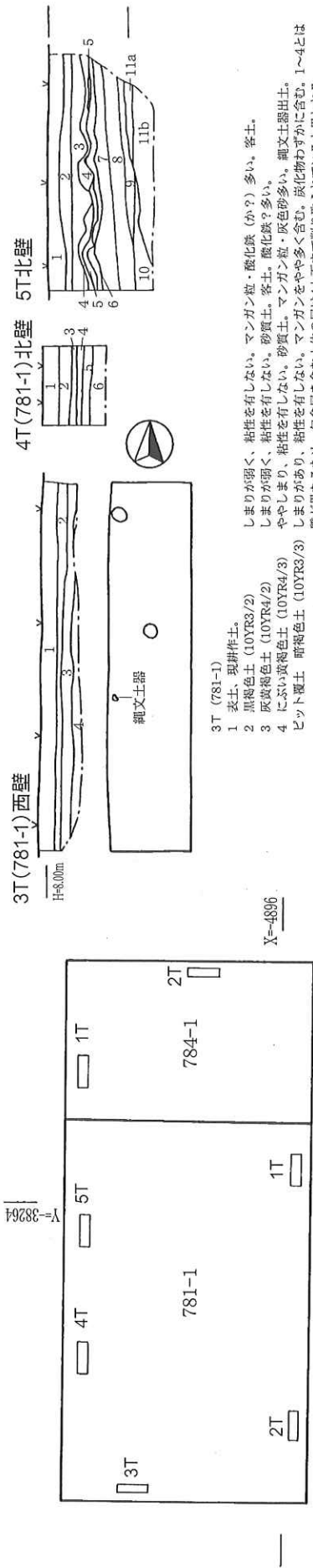
第2表 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡調査地点一覧

調査地点	所在地	地番	遺構(時期)	遺物
1	上小田字上ノ前	781-1	ピット	縄文・弥生・古代・中世・近世
		784-1	土坑?・溝状遺構?・ピット	縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世
2	上小田字上ノ前	756	—	弥生・古代・中世・近世
		758	ピット	弥生・古代・中世・近世
		762	—	古代・中世・近世
		764	—	弥生・古代・中世・近世
		779	—	縄文・弥生・古代・中世・近世
3	上小田字上ノ前	767-1	ピット・土坑(中世)	弥生・古代・中世・近世
		769 770-3・4	ピット・土坑(中世)	弥生・古代・近世
4	上小田字上ノ前	752 753 755-1	—	弥生・古代・中世・近世
5	上小田字小町	905-1・2	ピット・土坑・流路?・道路状遺構(古代か?)	縄文・弥生・古代・中世・近世
		906-1	ピット・溝状遺構・土坑(古代か?)	弥生・古代・中世・近世・現代
6	上小田字小町	912 913-1・2・3	—	弥生・古代・中世・近世
		914-1・5	—	弥生・古代・中世・近世
7	上小田字水町	675-1	—	弥生
		676-1 677	—	縄文・弥生・古代・中世・近世
		678 679-1・3・4	—	弥生・古代・近世
8	上小田字上ノ前	740	—	弥生・中世・近世
		741	—	弥生・近世
		742	—	弥生・古代・中世・近世
		743	—	弥生・古代
		744	—	縄文・古代・中世・近世
		745	—	古代・中世
9	上小田字今寺	746-1	土坑(中世)	弥生・古代・中世
		747 748-1・3	ピット・土坑?	縄文・弥生・古代・中世
10	上小田字今寺	735-1・3	土坑?(中世)	弥生・古代・中世・近世
		736	ピット	縄文・弥生・古代・中世・近世
		737	—	弥生・中世
		738	—	弥生・古代・近世

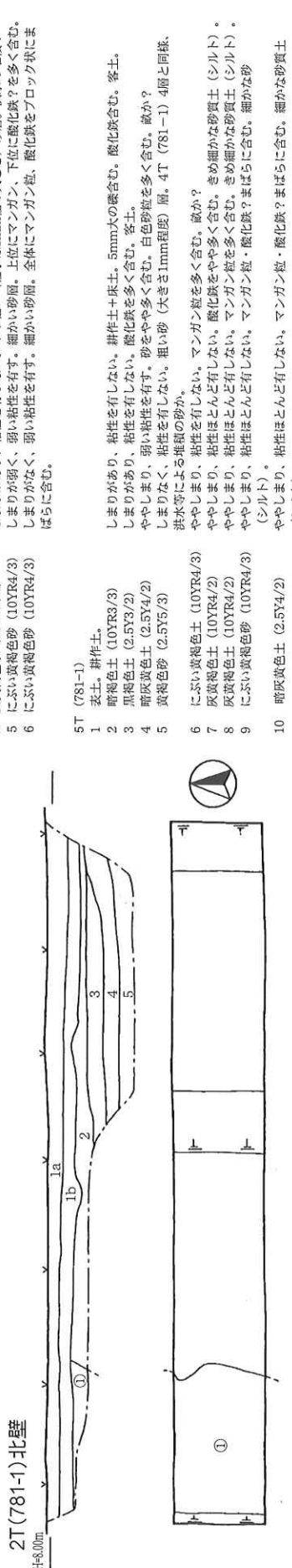


II 平成19年度の調査

調査地点	所在地	地番	遺構(時期)	遺物
11	上小田字今寺	727	ピット	弥生・中世
		728-2	—	古代・中世・近世
		732-1 733-2	—	弥生・古代・中世・近世
12	上小田字今寺	722	—	弥生・中世・近世
		723	—	—
		726-1	ピット	弥生・古代・中世・近世
13	上小田字今寺	717 718	ピット	弥生・古代・中世・近世・現代
		719	—	弥生・古代
		720	—	弥生・古代
14	上小田字今寺	714-1	—	弥生・古代・近世
		716-1	—	弥生・古代・近世
15	上小田字水町	683	—	縄文・弥生・古代・近世
16	上小田字水町	688-1	流路か?	縄文・弥生・古代・中世・近世・現代
17	上小田字水町	689	—	縄文・弥生・古代・近世
		690-1	—	縄文・弥生・古代・近世
18	上小田字水町	691-1 692-1 692-2	—	縄文・弥生・古代・中世
		693-1 694	—	縄文・古代・中世
19	上小田字水町	695	—	弥生・古代・中世・近世
		696	—	古代
		697-1 698	—	弥生・古代・中世
		701-2・4	—	弥生・古代・中世
20	上小田字水町	702-1・2	—	縄文・古代・中世・近世
		703-1・2	—	—
		704	—	縄文・弥生・古代・中世・近世・現代



第5図 調査地点1 トレンチ配置図 S=1/1,000



1T (781-1) 北壁  
 1 表土、現耕作土。  
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 2' 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)、灰色土 (10Y4/1)  
 3 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3) 2より弱いややしまり、粘性を有す。耕地整理以前の溝か? 2との境は判然としな  
 4 灰黄褐色砂 (10YR6/2) 他部分では層の厚さは約20cm。  
 5 灰黄褐色砂 (10YR4/2) しまりが弱く、ごく弱い粘性を有す。粒子は大きめ。灰黄褐色砂に白色砂が混  
 6 灰黄褐色砂 (10YR4/2) じる。粘性を有する土をブロック状にまばらに含む。部分的にマンガン  
 7 灰黄褐色砂 (10YR4/2) がある (特に2との境に集まっている)。  
 8 灰黄褐色砂 (10YR4/2) ややしまり、粘性を有す。ごく細かい砂 (シルト質) 層。黄褐色の砂粒 (酸化  
 9 灰黄褐色砂 (10YR4/2) 鉄) をやや多く含む。  
 10 灰黄褐色砂 (10YR4/2) しまりが弱く、粘性を有す。ごく細かい、マンガン粒・黄褐色砂粒をやや多  
 含む (5よりは少ない)。

2T (781-1) 北壁  
 1 表土、現耕作土。  
 2 暗褐色土 (10YR3/2)  
 3 暗褐色土 (10YR3/2)  
 4 暗褐色土 (10YR4/2)  
 5 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)  
 6 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)  
 7 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 8 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 9 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)  
 10 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)  
 11a 黄灰色土 (2.5Y4/1)  
 11b 黄灰色土 (2.5Y4/1)  
 2T (781-1) 北壁  
 1a 表土。  
 1b 褐色土 (10YR5/1)  
 2 灰黄褐色土 (10YR5/2) 粘性を有しない砂質土。全体に黄褐色土が混じる。無遺物層。  
 3 灰黄褐色土 (10YR6/2) やや粘性を有す。全体に黄褐色土が混じる。砂質土。  
 4 灰黄褐色土 (10YR6/2) 上層の砂質土層に近似するが、粘性を帯びる。無遺物層  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) しまりがあり、粘性を有しない。全体に細かい焼土粒、炭化物ほか、土器片を含む。中世の  
 遺物層土。

第6図 調査地点1 トレンチ実測図①

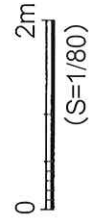
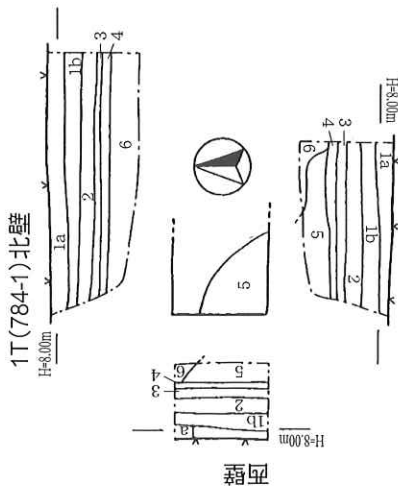




写真1 調査地点1近景 (西から)

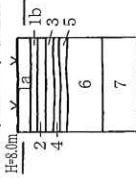


1T (784-1)

- 1a 表土。
- 1b 黒褐色土 (2.5Y3/2)
- 2 暗灰黄色砂 (2.5Y4/2)
- 3 オリーブ褐色砂 (2.5Y4/3)
- 4 暗灰黄色砂 (2.5Y4/2)
- 5 灰黄褐色砂 (10YR4/2)
- 6 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)

しまりがあり、粘性を有しない。耕作土+水田床土。マンガン粒が多い。  
 ややしまり、粘性を有しない。白色・黄色砂粒、マンガン粒を多く含む。  
 ややしまり、弱い粘性を有す。マンガン粒多い。遺物を含む。  
 しまり、粘性共に弱い。黄褐色粒 (鉄分多)、遺物を含む。  
 しまり弱く、弱い粘性を有す。灰色の砂質・粘質土をブロック状に多く含む。  
 遺物覆土が、遺物少。  
 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3) しまり弱く、粘性を有す。黄褐色砂粒・マンガン粒を多く含む。遺物は確認できず。

2T (784-1)北壁



2T (784-1)

- 1a 表土。耕作土。
- 1b 水田床土。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
- 4 灰黄褐色砂 (10YR4/2)
- 5 灰黄褐色土 (10YR5/2)
- 6 にぶい黄褐色砂 (10YR5/3)
- 7 暗灰黄色砂 (2.5Y5/2)

しまりがあり、粘性ほとんど有しない。酸化鉄の粒子を全体に多量に含む。  
 ややしまり、粘性ほとんど有しない。酸化鉄・マンガンの粒子を全体に含む。  
 微量の炭化物も含む。砂質土。  
 しまりなく、粘性有しない。マンガンの粒子をわずかに含むほか、小  
 礫も含む。やや粒子の粗い砂層。  
 ややしまり、わずかに粘性を有す。酸化鉄・マンガンの粒子を全体に含む。  
 しまりなく、粘性有しない。きめ細かな砂層。  
 しまりなく、粘性有しない。マンガンの粒を全体にやや多く含む。



第7図 調査地点1 トレンチ実測図②



写真2 調査地点1 3T(781-1)遺構検出状況

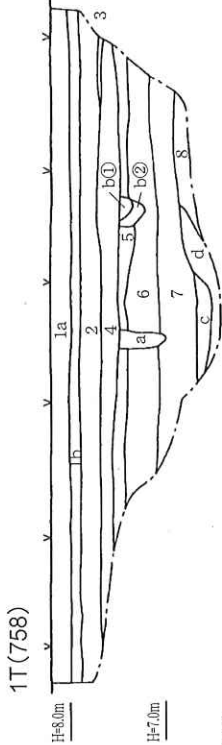
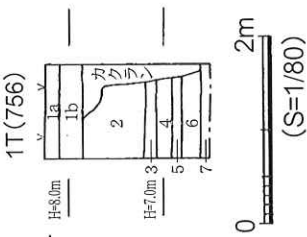


写真3 調査地点1 2T(781-1)遺構検出状況



写真4 調査地点1 1T(781-1)遺構検出状況





- 1T (758)
- 1a 表土。
- 1b 水田床土。
- 2 オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) しまりがあり、粘性を有しない。炭化物をわずかに含む。0.5~1cm次の粗い砂粒をこくわずかに含む。
- 3 オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) 2よりしまり弱く、粘性を有しない。微量の炭化物を含む。2より若干色調が暗い。
- 4 オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) ややしまり、粘性を有す。砂粒を多く含む。微量の炭化物を含む。
- 5 オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) しまりがあり、粘性を有す。焼土・炭化物をわずかに含む。きめ細かい。2・4よりも灰色味が強い。
- 6 オリーブ黒色土 (5Y3/2) しまりがあり、粘性を有す。微量の炭化物を含む。大きめの須臾礫片がまばらに混入する。
- 7 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) しまり、強い粘性を有す。きめ細かい。混入物なし。
- 8 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) ややしまり、粘性を有す。灰黄色土を筋状に含む。
- a オリーブ黒色土 (5Y3/1) ややしまり、粘性を有しない。微量の焼土・炭化物を含む。下位は粘性あり。中のビットが。
- b① オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) しまりがあり、粘性を有す。炭化物を微量含む。
- ② オリーブ黒色土 (5Y3/1) ややしまり、粘性を有す。混入物なし。
- c 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) しまりがあり(7よりしまり弱い)、強い粘性を有す。きめ細かい。混入物なし。運物等の混入はなく、運積の可能性は低い。
- d 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) ややしまり、粘性を有しない。混入物はない。

- 1T (756)
- 1a 表土。
- 1b 水田床土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、ほとんど粘性を有しない。マンガンの粒子・筋状の酸化鉄を全体に含む。色調若干明るめ。微量の焼土・炭化物・土器・青磁の小片をわずかに含む。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) ややしまり、粘性を有す。筋状の酸化鉄をやや多く含む。きめ細かな砂粒を帯状に含む。微量の炭化物を含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。筋状の酸化鉄をまばらに含む。細かなマンガン粒子を全体に含む。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまり、やや粘性を有す。酸化鉄をわずかに含む。砂質土。
- 6 にぶい灰褐色砂 (10YR4/3) しまりがなく、粘性を有しない。灰黄褐色土を小ブロック状にまばらに含む。
- 7 にぶい灰褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。やや粒の大きなマンガンを全体に含む。

第10図 調査地点2 土層断面図②

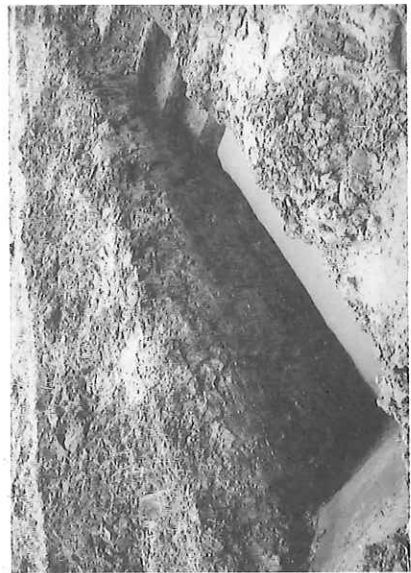


写真7 調査地点2 1T(762)土層堆積状況



写真5 調査地点2 2T(779)土層堆積状況

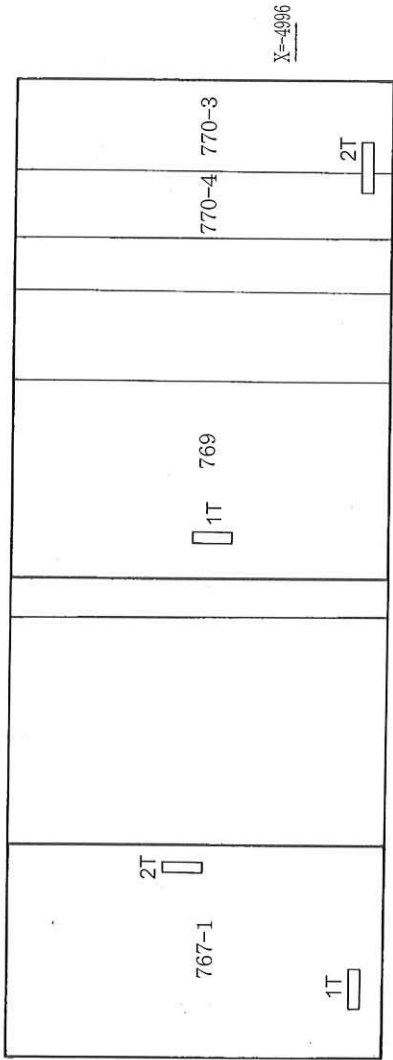


写真6 調査地点2 3T(779)土層堆積状況

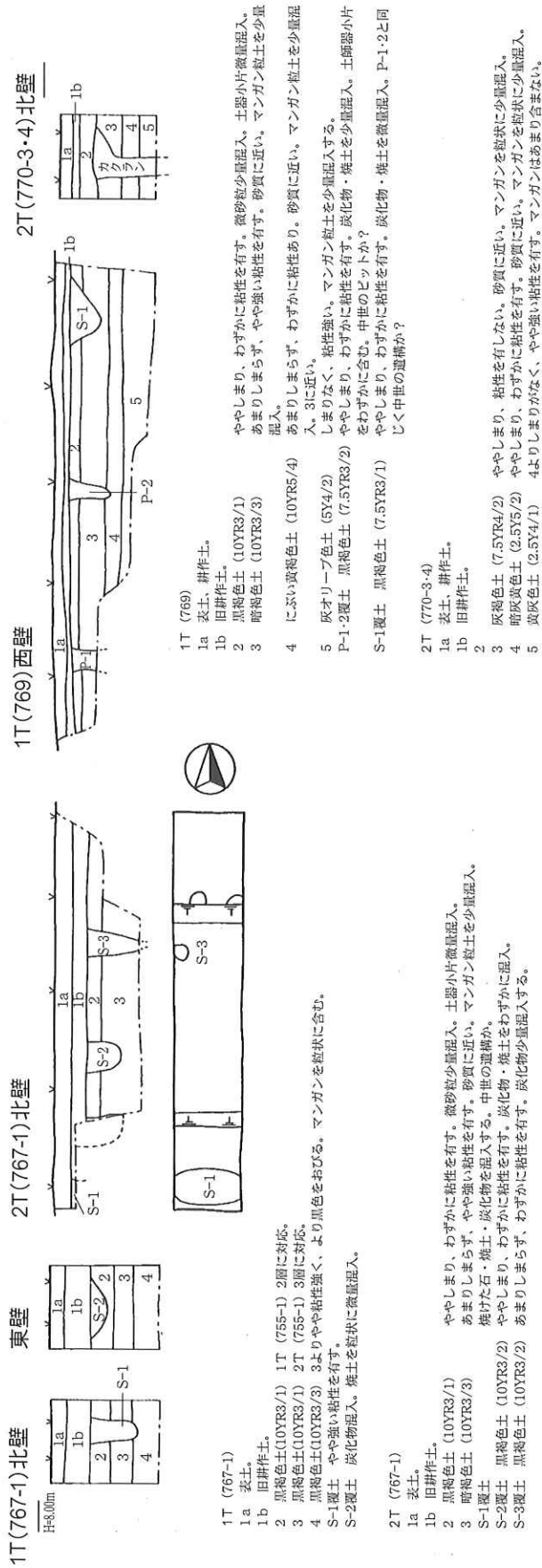


写真8 調査地点2 1T(758)土層堆積状況

Y=38264



第11図 調査地点3 トレンチ配置図 S=1/1,000

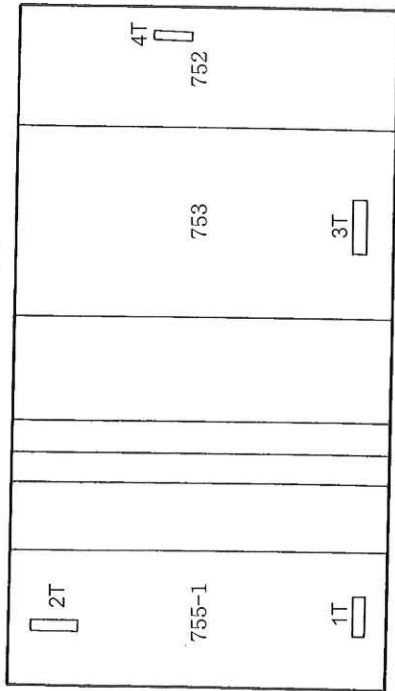


第12図 調査地点3 トレンチ実測図

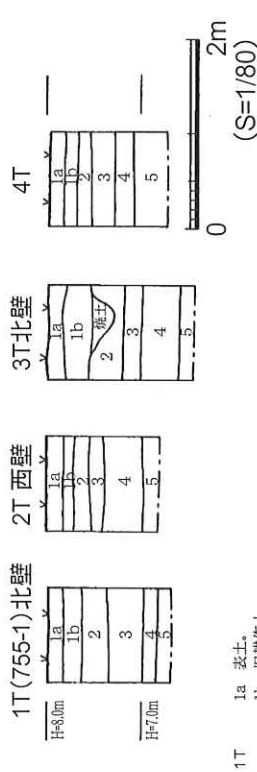


Y=38314

X=5046



第13図 調査地点4 トレンチ配置図 S=1/1,000



- 1T
    - 1a 表土。
    - 1b 旧耕作土。
    - 2 黒褐色土 (10YR3/1)
    - 3 黒褐色土 (10YR3/2)
    - 4 暗褐色土 (10YR3/3)
    - 5 明灰褐色土 (10YR6/6)
  - 2T・3T
    - 1a 表土、耕作土。
    - 1b 旧耕作土。
    - 2 暗褐色土 (10YR3/3)
    - 3 暗褐色土 (10YR3/4)
    - 4 暗緑灰色土 (10GY4/1)
    - 5 暗灰色土 (N3)
  - 4T
    - 1a 表土、耕作土。
    - 1b 旧耕作土。
    - 2 暗灰褐色土 (2.5Y6/2)
    - 3 灰色土 (5Y4/1)
    - 4 灰色土 (7.5Y4/1)
    - 5 オリーブ灰色土 (6GY5/1)
- ややしまり、わずかに粘性を有す。微砂粒少量混入。土器小片微量混入。  
 2に近似。2よりやや強い粘性を有す。土器小片などは含まない。  
 あまりしまらず、やや強い粘性を有す。砂質に近い。  
 ローム土か？しまり、強い粘性を有す。暗褐色土粒をやや多く含む。
- ややしまり、わずかに粘性を有す。微砂粒を少量混入する。  
 2よりしまり強く、わずかに粘性を有す。  
 しまりがあり、強い粘性を有す。小石を少量混入。マンガンを粒状に含む。  
 しまりなく、粘性強い。
- しまり強く、粘性を有しない。やや砂質。マンガンをシミ状に含む。土器小片を粒状にわずかに含む。  
 ややしまり、わずかに粘性を有す。微砂粒をやや多く含む。マンガンをシミ状に含む。  
 3よりしまり弱く、強い粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。  
 しまりなく、砂質。マンガンを斑点状に含む。

第14図 調査地点4 土層断面図



写真9 調査地点3 1T(767-1)土層堆積状況



写真10 調査地点3 2T(767-1)土層堆積状況

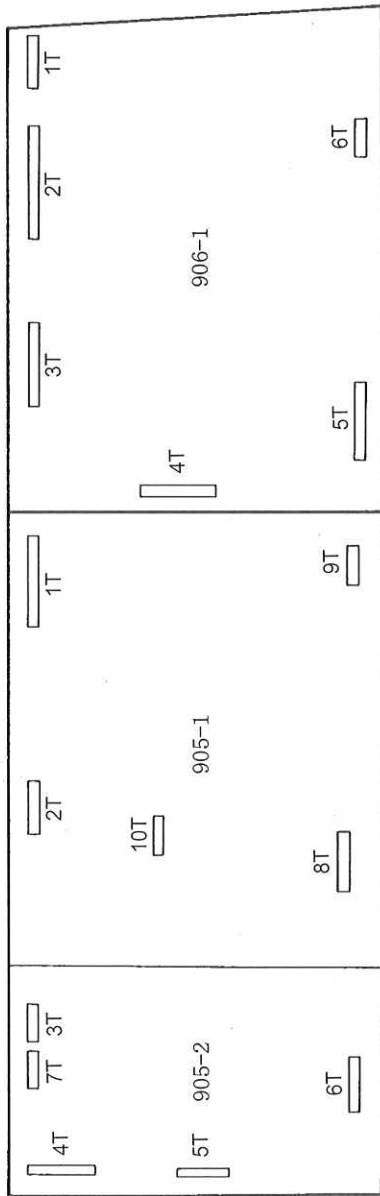


写真12 調査地点4 2T(755-1)土層堆積状況

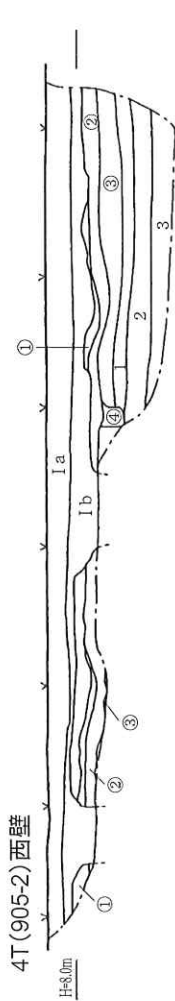


写真11 調査地点3 1T(769)土層堆積状況

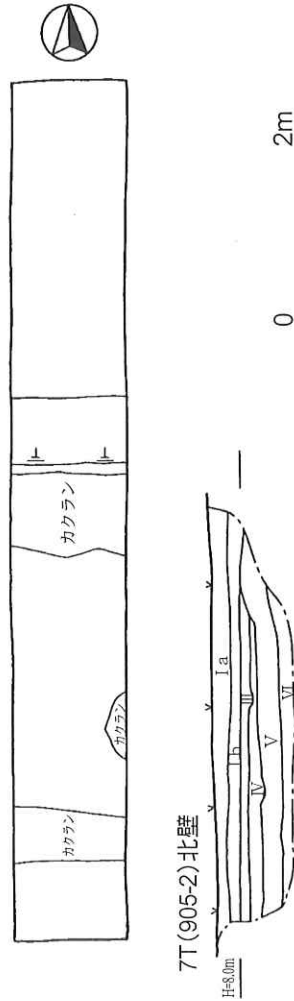
01083-1-A



第15図 調査地点5 トレンチ配置図 S=1/1,000



4T (905-2) 西壁



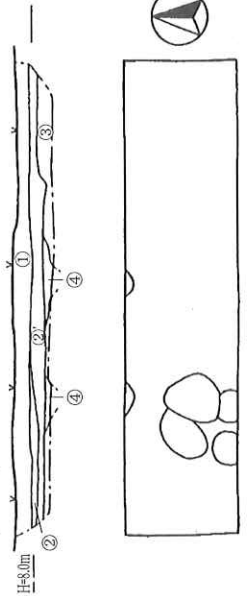
7T (905-2) 北壁

- 4T (905-2)
- ① 暗灰黄色砂 (2.5Y5/2)
  - ② 灰黄褐色土 (10YR4/2)
  - ③ 黄褐色土 (淡い)
  - ④ 黒褐色土 (7.5YR3/1)
- 1 灰藍色土 (2.5Y6/2)
  - 2 灰黄色土 (2.5Y6/2)
  - 3 青灰色土
- 7T (905-2)
- I a 黒褐色土 (10YR3/2)
  - I b 灰黄褐色土 (10YR4/2)
  - II にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
  - III にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
  - IV にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
  - V にぶい黄褐色土～褐色土 (10YR4/3～34/4)
  - VI 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 表土、耕作土。  
 ややしまり、粘性を有しない。酸化鉄を全体に含む。水田床土。  
 ややしまり、粘性を有しない。砂粒を多量に含む。微量のマンガン・酸化鉄を全体に含む。  
 IIより若干しまりが弱く、粘性を有しない。砂質土。微量のマンガン・酸化鉄を全体に含む。細かな砂粒を全体に含む。  
 IIIよりしまりが弱く、非常に弱い粘性を有す。きめ細かい酸化鉄・マンガンを含み、II・IIIよりも灰色味が強い色調。細かな砂粒を全体に含む。  
 ややしまり、粘性を有しない。多量のマンガン・酸化鉄を全体に含む。地山。  
 ややしまり、粘性を有しない。多量のマンガンを含み。

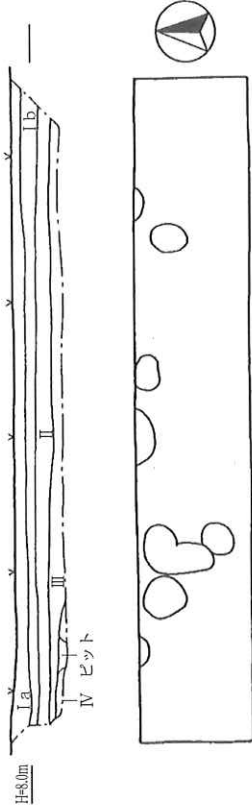
第16図 調査地点5 トレンチ実測図① (S=1/80)



3T(905-2)北壁



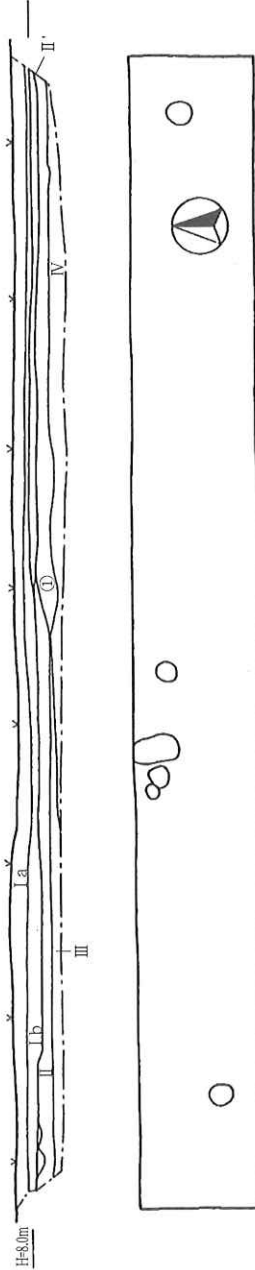
2T(905-1)北壁



3T(905-2)

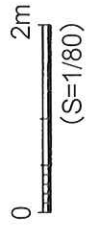
- ① 黒褐色土 (10YR3/2) 耕作土。しまりがなく、粘性を有しない。
- ② 褐灰土 (10YR4/1) しまりがなく、全体に鉄分を含む。細かな砂質土。
- ③ 褐灰土 (10YR4/1) ②より砂質が弱い。
- ④ 黄褐色土 (10YR5/8) 粘性を有しない。全体に褐色色の土を含む。遺物なし。砂質土。
- ⑤ 黒褐色土 (10YR3/1) しまりがあり、全体にマンガン粒、黄褐色土、炭化物、土器片を含む。遺構埋土。

1T(905-1)北壁



1・2T(905-1)

- Ia 黒褐色土 (10YR3/2) 赤土、現代の耕作土。
- Ib 灰黄褐色土 (10YR4/2) 水田床土。強くしまり、粘性を有しない。
- II 濃い黄褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、粘性を有しない。砂質土。全体にマンガンを含む。
- II' 濃い黄褐色土 (10YR4/3) しまりがなく、粘性を有しない。堅い。
- III 灰黄褐色土 (10YR4/2) 強くしまり、粘性を有す。きめ細かい。全体にマンガンを含む。黄褐色土をまだらに含む。
- IV 濃い黄褐色土 (10YR4/3) 強くしまり、やや粘性を有す。きめ細かい。黒褐色粘質土、マンガンを含み、土器片あり。道路状遺構。
- ① 黒褐色土 (10YR3/2) 強くしまり、やや粘性を有す。きめ細かい。粘土粒・炭化物をわずかに含む。
- ② 黒褐色土 (10YR3/2) 土器片あり。道路状遺構。



第17図 調査地点5 トレンチ実測図②

写真14 調査地点5 2T(905-1)遺構検出状況

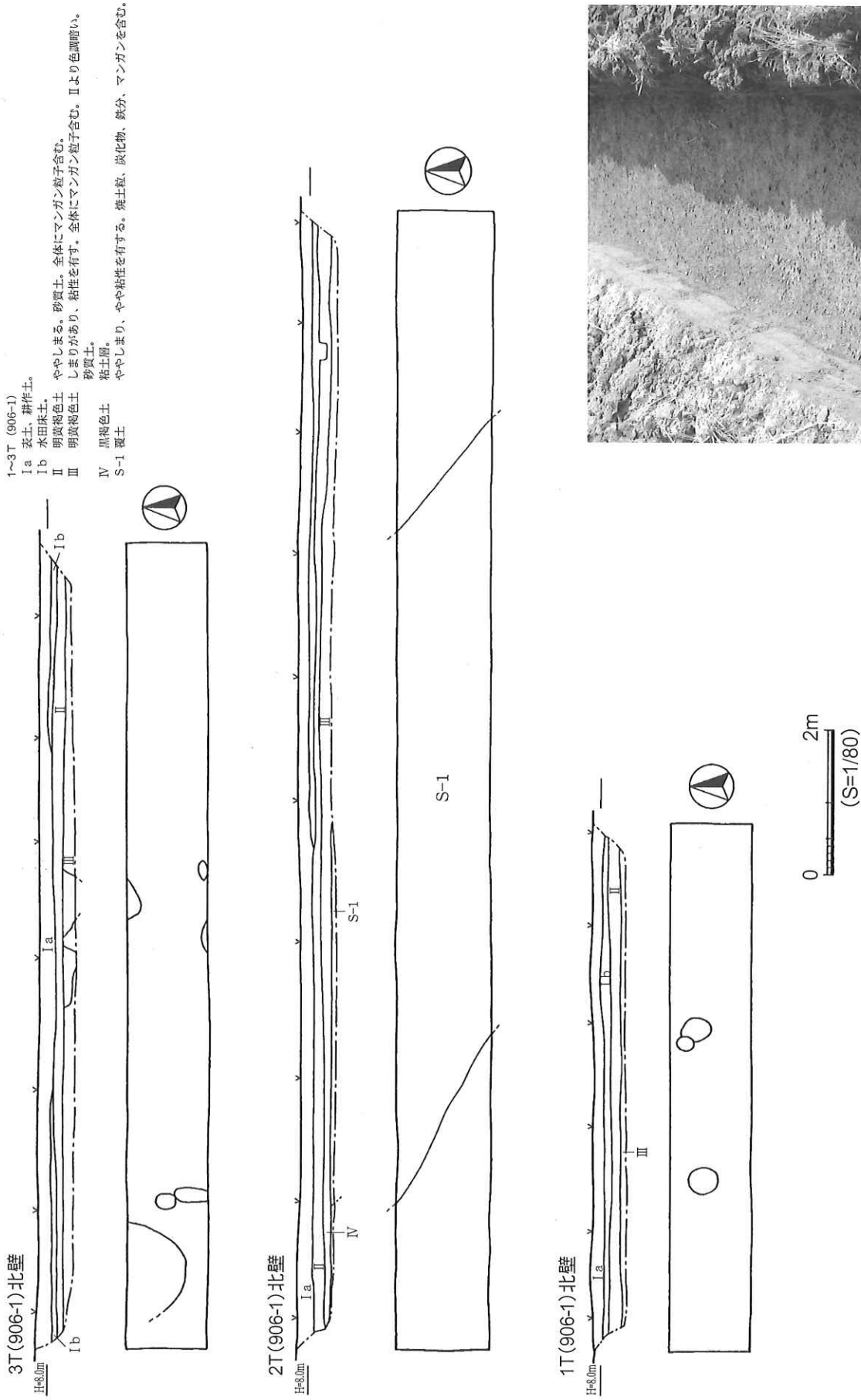


写真13 調査地点5近景 (南から)



写真15 調査地点5 1T(905-1)遺構検出状況



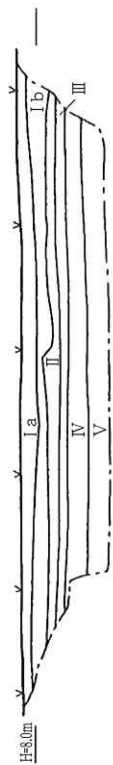


第18図 調査地点5 トレンチ実測図③



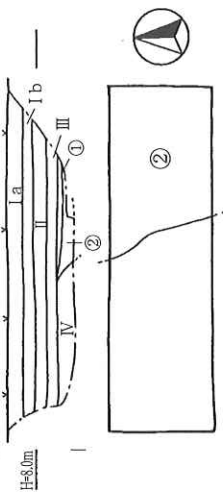
写真16 調査地点5 3T (906-1)遺構検出状況

5T (905-2) 西壁



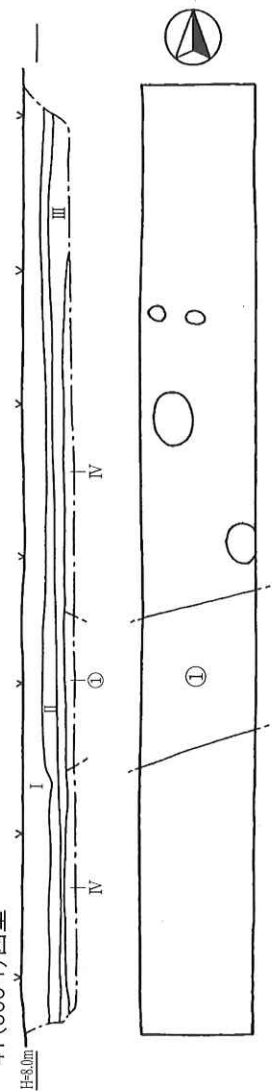
- 5T (905-2)  
 Ia 黒褐色土 (10YR3/2) 表土、耕作土。  
 Ib 灰黄褐色土 (10YR4/2) ややしまり、粘性を有しない、酸化鉄を全体に含む。水田床土。  
 II にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりが弱く、粘性を有しない、砂粒を多量に含む。微量のマンガン・酸化鉄を全体に含む。  
 III にぶい黄褐色土 (10YR4/3) IIより弱く、粘性を有する。きめ細かい、酸化鉄、マンガンを全体に含む。細かな砂粒を全体に含む。  
 IV にぶい黄褐色土～褐色土 (10YR4/3～3/4) IIよりしまりが弱く、非常に弱い粘性を有する。きめ細かい、酸化鉄、マンガンを全体に含む。II、IIIよりも灰色味が強い色調。細かな砂粒を全体に含む。  
 V 灰黄褐色土 (10YR4/2) ややしまり、粘性を有しない、多量のマンガン・酸化鉄を全体に含む、地山。  
 ややしまり、粘性を有しない、多量のマンガンを全体に含む。

10T (905-1) 北壁



- 10T (905-1)  
 Ia 黒褐色土 (10YR3/2) 表土、耕作土。  
 Ib 灰黄褐色土 (10YR4/2) ややしまり、粘性を有しない、酸化鉄を全体に含む。水田床土。  
 II にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、粘性を有しない、砂粒を多量に含む。微量のマンガン・酸化鉄を全体に含む。  
 III にぶい黄褐色土 (10YR4/3) IIより弱く、粘性を有しない。砂質土。微量のマンガン・酸化鉄・炭化物を全体に含む。細かな砂粒を全体に含む。  
 IV にぶい黄褐色土 (10YR4/3) IIIよりしまりが弱く、非常に弱い粘性を有する。きめ細かい、酸化鉄、マンガンを全体に含む。II、IIIよりも灰色味が強い色調。細かな砂粒を全体に含む。強い粘性を有する。全体にマンガン粒子・鉄分を含む。マンガン粒が比較的大きい (3mm以下)。  
 ① 相灰色土 (10YR4/1) 粘土層。IVに色調以外は非常に類似する。全体にマンガン粒・鉄分を含む。  
 ② 相灰色土 (10YR5/1) 非常に磨滅し、小さな土器片を含む。水分多い。

4T (906-1) 西壁

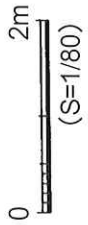


- 4T (906-1)  
 Ia 表土、耕作土。  
 Ib 水田床土。  
 II 明黄褐色土 ややしまり、砂質。全体にマンガン粒子を含む。  
 III 明黄褐色土 しまりがあり、粘性を有する。全体にマンガン粒子を含む。砂質土。IIより色調暗い。  
 IV 黒褐色土 粘土層。  
 ① ややしまりがあり、やや粘性を有する。粘土、炭化物、鉄分、マンガンを含む。



写真17 調査地点5 4T (906-1)遺構検出状況

第19図 調査地点5 トレンチ実測図④

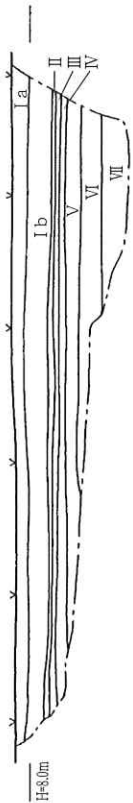


- 6・8T (905-1・2)
- Ia 黒褐色土 (10YR3/2) 表土、耕作土
  - Ib 灰黄褐色土 (10YR4/2) ややしまり、粘性を有しない。酸化鉄を全体に含む。水田床土。
  - II にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、粘性を有しない。砂粒を多量に含む。微量のマンガン・酸化鉄を全体に含む。
  - III にぶい黄褐色土 (10YR4/3) IIより若干しまりが弱く、粘性を有しない。砂質土。微量のマンガン・酸化鉄を全体に含む。
  - IV にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細かな砂粒を全体に含む。
  - V にぶい黄褐色土 (10YR4/3) IIIよりしまりが弱く、非常に弱い粘性を有す。きめ細かい酸化鉄・マンガンを全体に含む。
  - VI 灰黄褐色土 (10YR4/2) IIよりしまり、粘性を有しない。多量のマンガン・酸化鉄を全体に含む。抛山。
  - VII にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、粘性を有しない。多量のマンガンを全体に含む。
  - ① 黒褐色土 (10YR3/4) ややしまり、粘性を有す。マンガンを全体に含む。流路か？

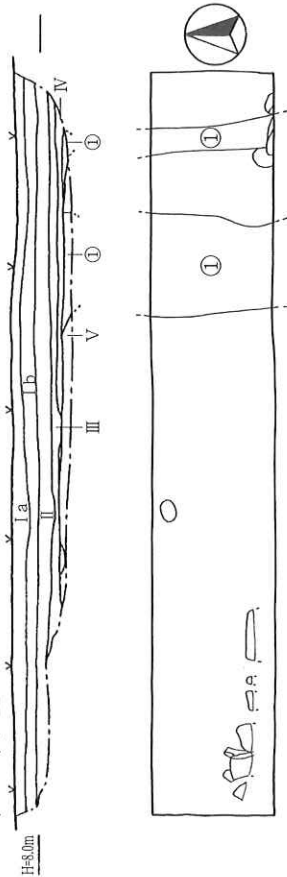
- 9T (905-1)
- Ia 表土、耕作土。
  - Ib 水田床土。
  - II 砂質土。ローリングを受けた細片の土器含む。
  - III 粘質土。
  - IV 黄褐色土
  - ① 暗灰黄色土 (2.5Y5/2) しまりなく、粘性を有しない。砂質土。全体に鉄分を含み、マンガンをおわずかに含む。石灰岩の小石を含む。IIより粘性なく、きめ細かい。
  - ② 灰黄色砂(2.5Y7/2) 全体的な色調は灰黄色(2.5Y7/2)。径1・以下の白、黒、橙、明黄色の砂粒を含む。遺物なし。
  - ③ 青灰色土 わずかに鉄分有り。粘質土。木炭片あり。

- 5・6T (906-1)
- Ia 表土、耕作土。
  - Ib 水田床土。
  - II 明黄褐色土 ややしまり。砂質土。全体にマンガン粒子含む。
  - III 明黄褐色土 しまりがあり、粘性を有す。砂質土。全体にマンガン粒子含む。IIより色調暗い。
  - IV 黄褐色土 粘土。
  - V 黄褐色土 粘質土。

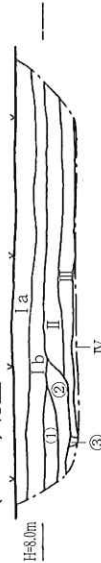
6T (905-2) 北壁



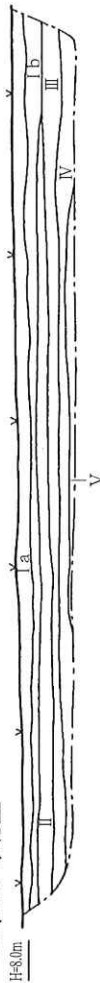
8T (905-1) 北壁



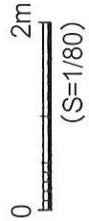
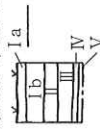
9T (905-1) 北壁



5T (906-1) 北壁



6T (906-1) 北壁



第20図 調査地点5 トレンチ実測図⑤

II 平成19年度の調査



写真18 調査地点5 1T(905-1)土層堆積状況

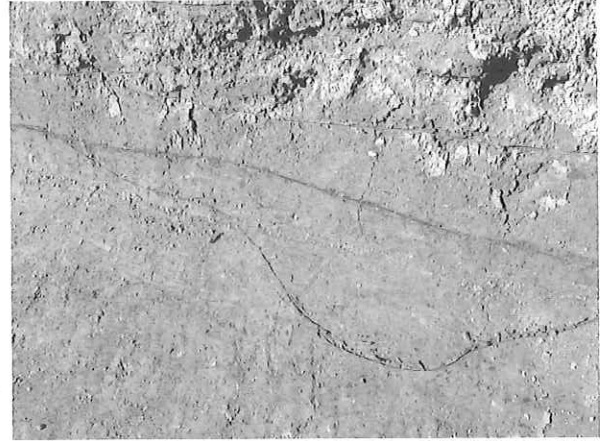


写真19 調査地点5 3T(906-1)遺構検出状況



写真20 調査地点5 1T(906-1)遺構検出状況



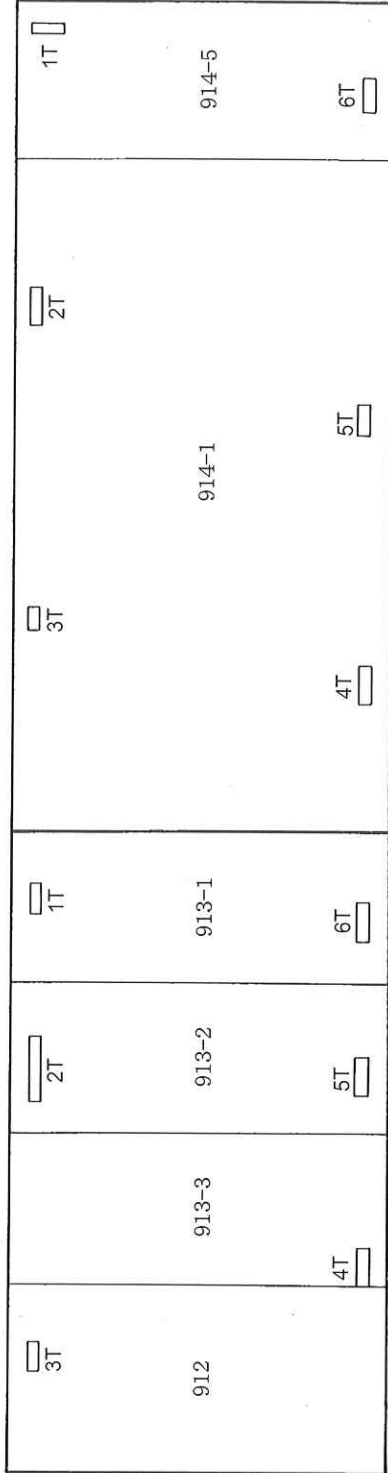
写真21 調査地点5 6T(905-2)土層堆積状況



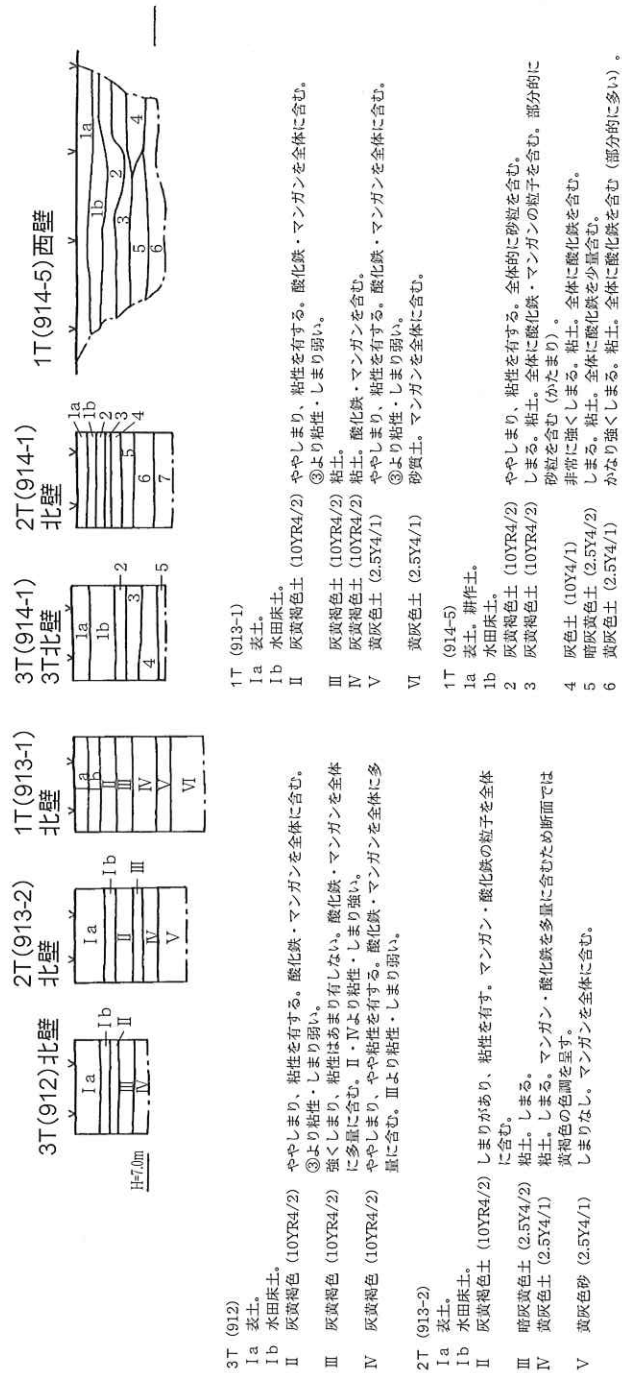
写真22 調査地点5 8T(905-1)遺構検出状況

Y=38014

X=5046

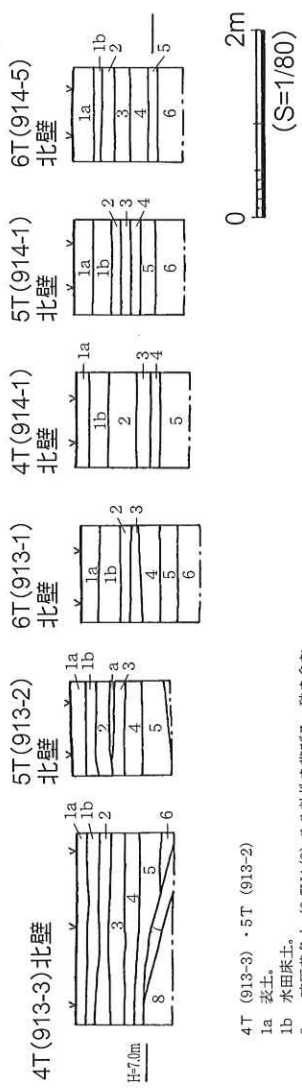


第21図 調査地点6 トレンチ配置図 S=1/1,000



第22図 調査地点6 土層断面図①





- 4T (913-3)・5T (913-2)
- 1a 表土。
  - 1b 水田床土。
  - 2 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) やや粘性を帯びる。砂を含む。
  - 3 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 粘質土。
  - 4 暗灰黄色土 (2.5Y5/2) 粘土層。
  - 5 黄灰色土 (2.5Y5/1) 粘土層。鉄分・マンガンを含む。
  - 6 灰色砂 (5Y5/1) きめ細かい砂。水分を多量に含み、やわらかい。
  - 7 黒色土 粘質土。
  - 8 黄灰色土(2.5Y6/1) 鉄分を全体に含む。
  - a 砂層。

- 6T (913-1)
- 1a 表土。
  - 1b 水田床土。
  - 2 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 5Tに同じ。
  - 3 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 5Tに同じ。
  - 4 灰色土 (5Y) 粘土層。全体に鉄分を含む。
  - 5 暗灰黄色土。2.5Y5/2) 粘土層。
  - 6 灰色土 (5Y5/1) 粘土層。
  - 7 灰色土 (5Y6.1) 非常にきめ細かい砂質土。やわらかい。

- 4T (914-1)
- 1a 耕作土。表土。
  - 1b 水田床土。
  - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質。ややしまる。砂含む。
  - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘土。マンガン・酸化鉄含む。
  - 4 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 粘土。
  - 5 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)

- 5T (914-1)・6T (914-5)
- 1a 耕作土。表土。
  - 1b 水田床土。
  - 2 灰黄褐色 (10YR4/2) ややしまり、あまり粘性を有しない。
  - 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土。しまる。
  - 4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土。しまる。マンガン・酸化鉄含む。
  - 5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土。しまる。マンガン含む。
  - 6 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土。



写真23 調査地点6近景 (東から)



写真24 調査地点6近景 (西から)

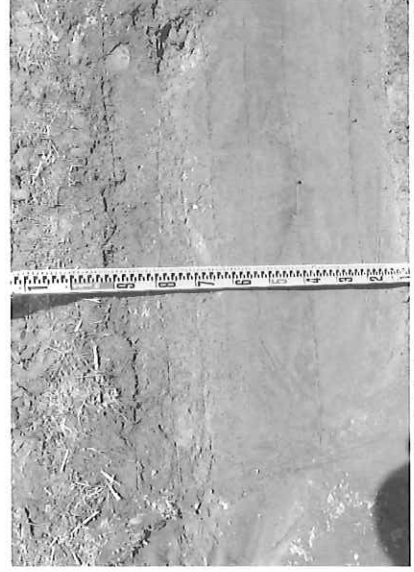


写真25 調査地点6 5T (913-2)土層堆積状況

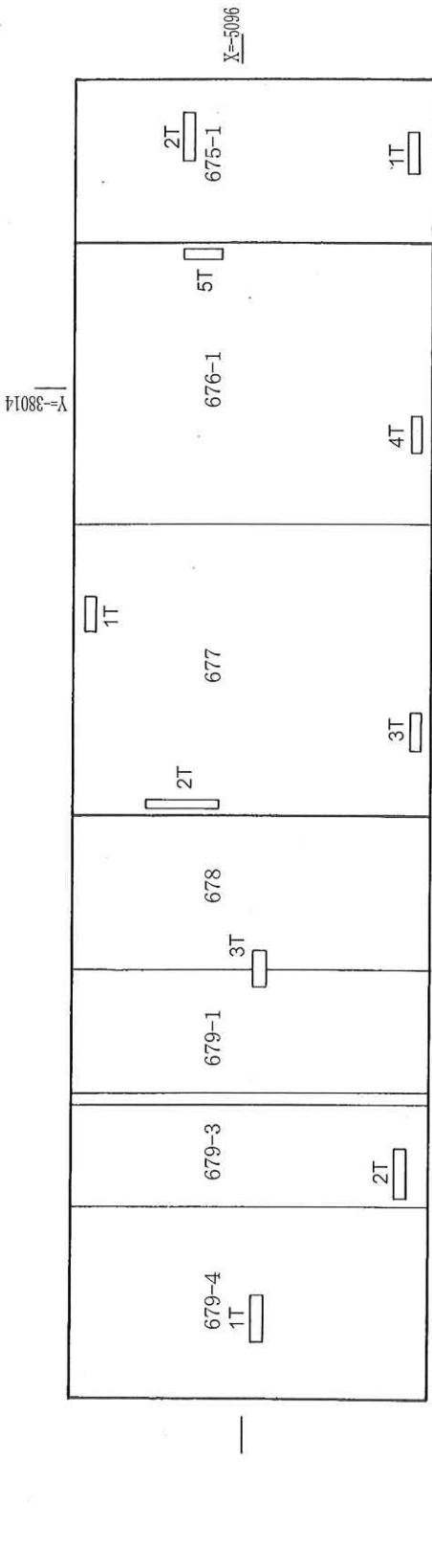


写真26 調査地点6 5T (913-2)土層堆積状況

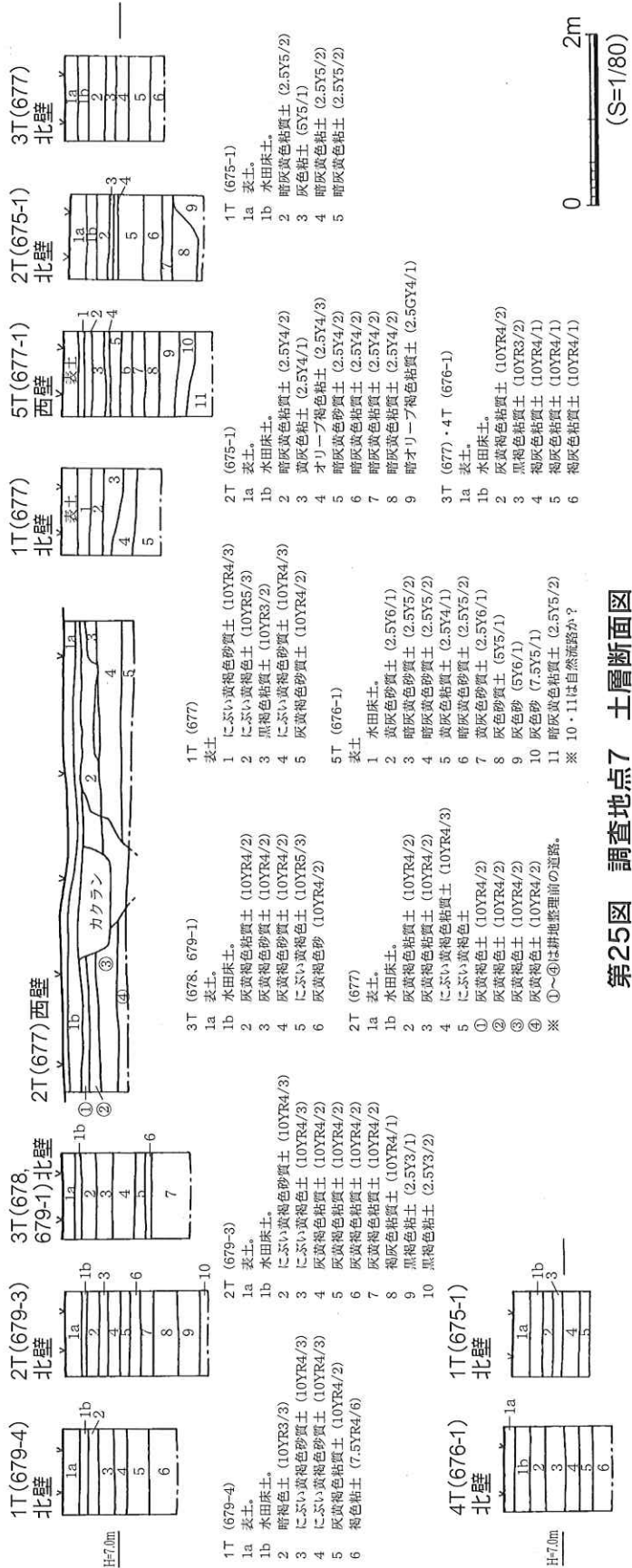


写真27 調査地点6 2T (914-1)土層堆積状況

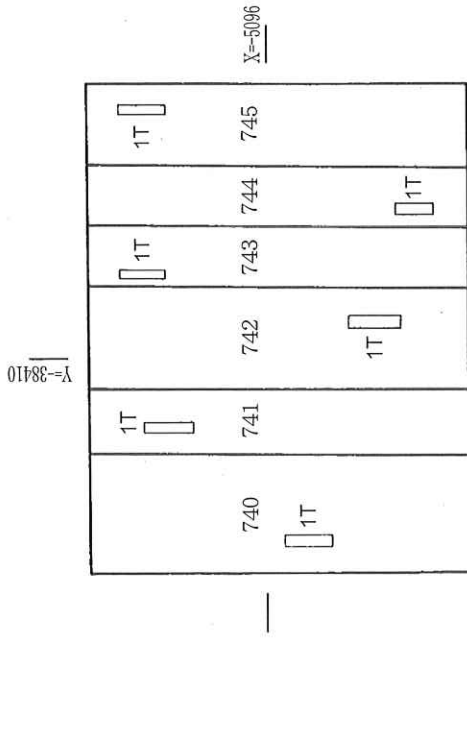
第23図 調査地点6 土層断面図②



第24図 調査地点7 トレンチ配置図 S=1/1,000

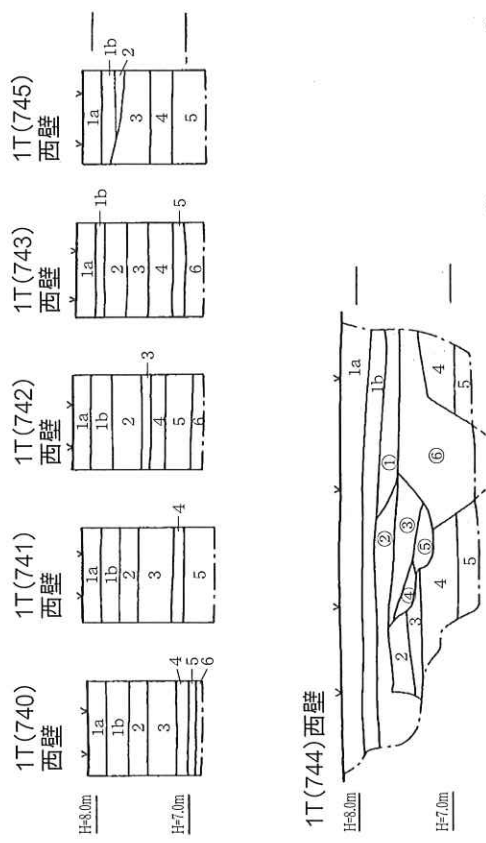


第25図 調査地点7 土層断面図 (S=1/80)



第26図 調査地点8 トレンチ配置図 S=1/1,000

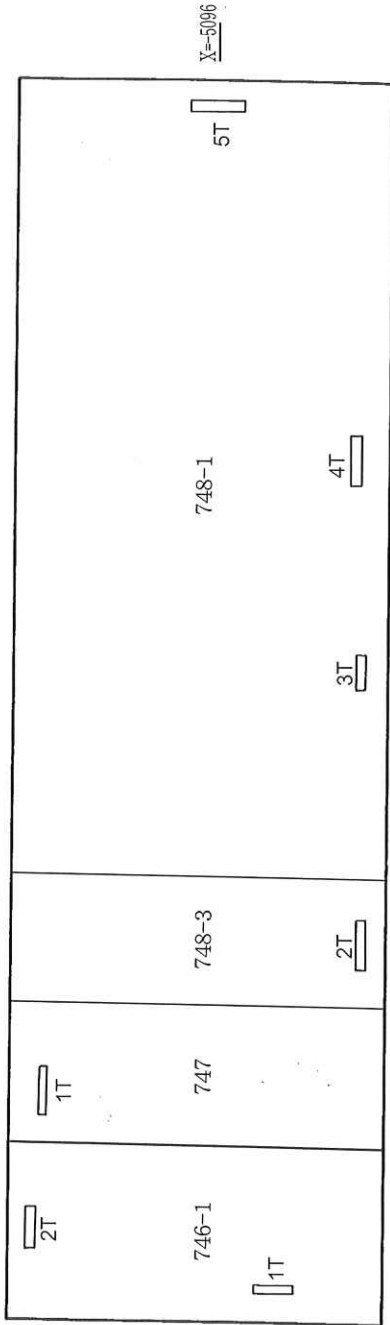
- 1T (740) 1a 表土。  
1T (741) 1b 旧耕作土。  
2 オリープ黒色土 (7.5Y3/1) しまりがあり、粘性を有しない。砂質土。1cm程度の小礫を含む。  
3 オリープ黒色土 (7.5Y3/1) 2と近似。2よりややしまり弱い。  
4 オリープ黒色土 (10Y3/1) ややしまり、粘性を有す。細かな砂粒をわずかに含む。  
5 オリープ黒色土 (10Y3/1) ややしまり、粘性を有す。細かな砂粒をやや多く含む。4より若干色調明るい。  
6 オリープ黒色土 (10Y3/1) しまりがあり、粘性を有す。混入物ほとんどなし。やや黄色味が強い。
- 1T (742) 1a 表土。  
1b 旧耕作土。  
2 にぶい灰褐色土 (10YR4/3) しまり弱く、わずかに粘性を有す。粒状のマンガンを含む。  
3 にぶい灰褐色砂 (10YR4/3) しまりなく、粘性を有しない。  
4 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまり、粘性を有す。粒状のマンガンを含む。2T (735-1) 2層に相当か？土器小片をわずかに含む。  
5 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。微量の粘土・炭化物を含む。若干4よりも色調暗め。  
6 暗褐色土 (10YR3/3) しまり弱く、粘性あまり有しない。砂質土。
- 1T (743) 1a 表土。  
1b 床土。  
2 灰黄褐色土 (10YR4/2) ややしまり、粘性を有しない。砂質土。酸化鉄・マンガン粒子を全体に含む。  
3 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。細かな砂粒をわずかに含む。マンガン粒子を全体に含む。微量の粘土・炭化物を含む。  
4 暗褐色土 (10YR3/3) 3よりもしまり強く、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。少量の土器小片を含む。微量の粘土を含む。  
5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、粘性を有す。マンガン粒子を全体にわずかに含む。  
6 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。細かな砂粒をわずかに含む。
- 1T (745) 1a 表土。  
1b 水田床土。  
2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く、粘性有しない。マンガン粒子を全体に含む。  
3 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまり、粘性あまり有しない。マンガン粒子を全体に多く含む。微量の粘土・炭化物を含む。  
4 暗褐色土 (10YR3/3) 3に近似。しまりは3より強い。土器小片を含む。  
5 暗褐色土 (10YR3/3) 4に近似。若干色調暗い。炭化物等の混入はない。
- 1T (744) 1a 表土。  
1b 水田床土。  
2 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまり、やや粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。微量の粘土を含む。  
3 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、やや粘性を有す。2に近似。  
4 黒褐色土 (10YR3/2) しまりがあり、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。  
5 黒褐色土 (10YR3/2) 4に近似。やや多く砂粒を含む。  
耕地整理前の水路  
① オリープ黒色土 (7.5Y3/1) しまりがあり、粘性を有しない。部分的に酸化鉄をブロック状に含む。色調若干明るめ。  
② にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、やや粘性を有しない。マンガン粒子を全体に含む。北側は砂質～砂層。  
③ 灰黄褐色砂 (10YR4/2) ややしまり、やや粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。  
④ 暗褐色砂 (10YR4/2) しまりがあり、粘性を有しない。  
⑤ 暗褐色土 (10YR4/2) ややしまり (③よりしまり強い)、やや粘性を有す。微量の粘土を含む。



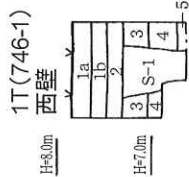
第27図 調査地点8 土層断面図

II 平成19年度の調査

Y=38913

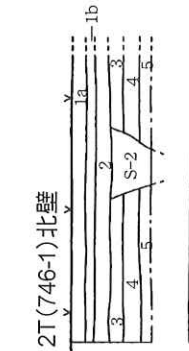


第28図 調査地点9 トレンチ配置図 S=1/1,000



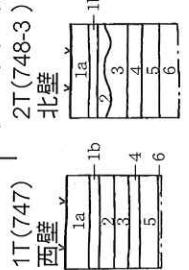
- 1-2T (746-1) 表土。
- 1a 水田床土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3)
- 3 暗褐色土 (10YR3/3)
- 4 暗褐色土 (10YR3/3)
- 5 暗褐色土 (10YR3/4)
- S-1 覆土 黒褐色土 (10YR3/2)
- S-2 覆土 暗褐色土 (10YR3/3)

しまりがあり、粘性あまり有しない、マンガン粒子を全体に含む。  
 ややしまり、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。  
 微量の焼土・炭化物を含む。土器小片を含む。  
 ややしまり (3より強い)、粘性を有す。  
 ややしまり、強い粘性を有す。土器片をやや多く含む。  
 微量の炭化物を含む。中に大きな礫を含む。  
 しまり弱く、わずかに粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。土師皿含む。



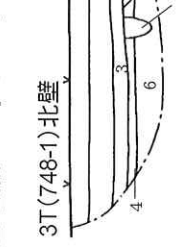
- 1T (747) 西壁
- 1a 表土、水田床土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3)
- 3 暗褐色土 (10YR3/3)
- 4 暗褐色土 (10YR3/4)
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 6 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)

しまり弱く、粘性ほとんど有しない。マンガン粒子を全体に含む。微量の炭化物を含む。  
 強くしまり、わずかに粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。微量の焼土・炭化物。土器小片をわずかに含む。  
 しまり弱く、粘性を有しない。マンガン粒子を全体に含む。  
 しまり弱く、粘性を有しない。砂質土 (下位はほとんど砂質に近い)。  
 ややしまり、強い粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。



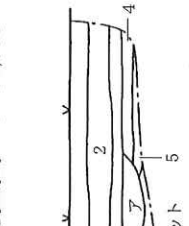
- 2T (748-3) 北壁
- 1 表土、水田床土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3)
- 3 暗褐色土 (10YR3/3)
- 4 暗褐色土 (10YR3/4)
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 6 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)

しまりがあり、粘性ほとんど有しない。マンガン粒子を全体に多く含む。微量の焼土を含む。  
 しまり (2より弱い) があり、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。  
 ややしまり、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。細かい砂粒を多く含む。  
 わずかにしまり、わずかに粘性を有す。マンガン粒子を全体にわずかに含む。砂質土。  
 しまりなく、粘性を有しない。きめ細かい。マンガン粒子を全体に含む。  
 ややしまり、粘性を有す。マンガン粒子を含む。  
 ややしまり、粘性あまり有しない。マンガン粒子を全体に含む。焼土・炭化物。遺物の混入は少なく、遺物とくぼ地の両方の可能性あり。



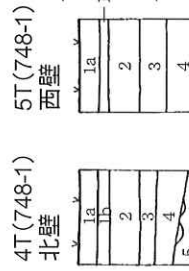
- 3T (748-1) 北壁
- 1 表土、水田床土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3)
- 3 暗褐色土 (10YR3/3)
- 4 暗褐色土 (10YR3/4)
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 6 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)

しまりがあり、粘性ほとんど有しない。マンガン粒子を全体に多く含む。微量の焼土を含む。  
 しまり (2より弱い) があり、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。  
 ややしまり、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。細かい砂粒を多く含む。  
 わずかにしまり、わずかに粘性を有す。マンガン粒子を全体にわずかに含む。砂質土。  
 しまりなく、粘性を有しない。きめ細かい。マンガン粒子を全体に含む。  
 ややしまり、粘性を有す。マンガン粒子を含む。  
 ややしまり、粘性あまり有しない。マンガン粒子を全体に含む。焼土・炭化物。遺物の混入は少なく、遺物とくぼ地の両方の可能性あり。



- 4T (748-1) 北壁
- 1a~2 3T (748-1) に対応。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
- 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
- 6 にぶい黄褐色土 (10YR5/3~5/4)

しまり強く、粘性ほとんど有しない。きめ細かな砂質土。灰黄褐色土を2cm大の小ブロック状にまばらに含む。マンガン粒子をシミ状に含む。  
 強くしまり、粘性ほとんど有しない。きめ細かな砂質土。しまり具合以外3に近似。  
 しまりがあり、強い粘性を有す。マンガン粒子を全体に多く含む。  
 しまりがあり、強い粘性を有す (5より強い)。マンガン粒子を全体にやや多く含む。  
 ややしまり、強い粘性を有す。焼土、炭化物を含む。  
 ①に近似。焼土をやや多く含む。



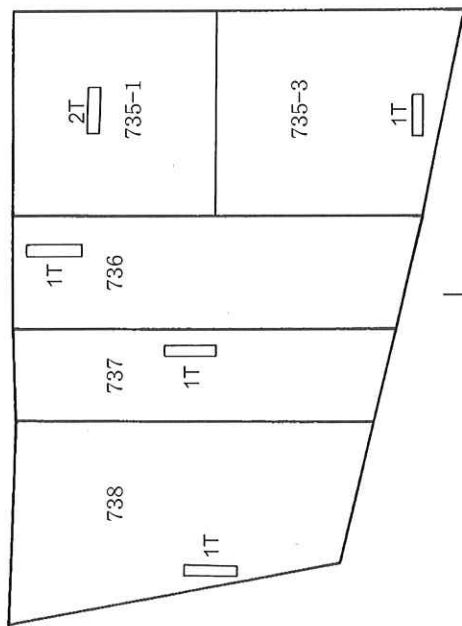
- 4T (748-1) 西壁
- 1a 表土、水田床土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3)
- 3 暗褐色土 (10YR3/3)
- 4 暗褐色土 (10YR3/4)
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 6 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)

しまり弱く、粘性ほとんど有しない。マンガン粒子を全体に多く含む。微量の炭化物を含む。  
 しまり (2より弱い) があり、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。  
 ややしまり、粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。細かい砂粒を多く含む。  
 わずかにしまり、わずかに粘性を有す。マンガン粒子を全体にわずかに含む。砂質土。  
 しまりなく、粘性を有しない。きめ細かい。マンガン粒子を全体に含む。  
 ややしまり、粘性を有す。マンガン粒子を含む。  
 ややしまり、粘性あまり有しない。マンガン粒子を全体に含む。焼土・炭化物。遺物の混入は少なく、遺物とくぼ地の両方の可能性あり。

第29図 調査地点9 トレンチ実測図

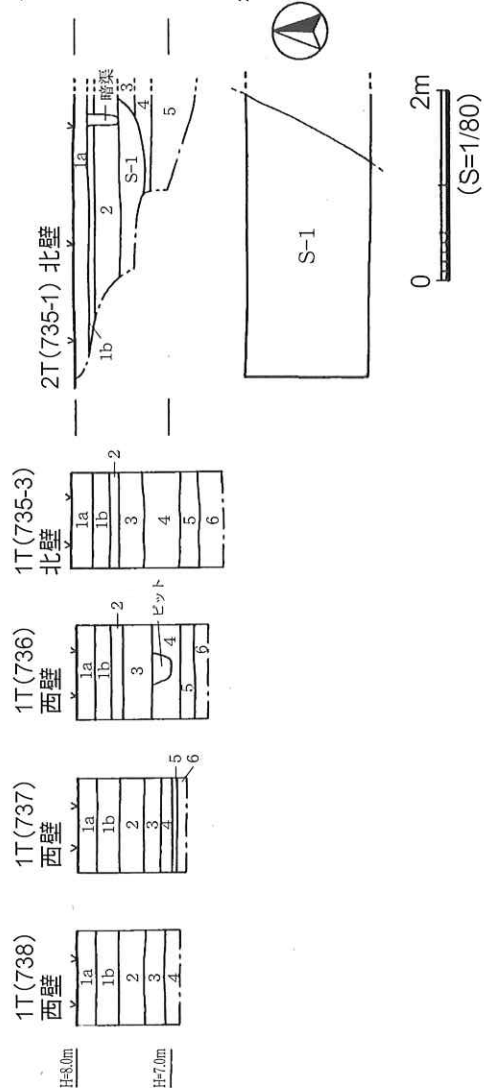


Y=38414



第30図 調査地点10 トレンチ配置図 S=1/1,000

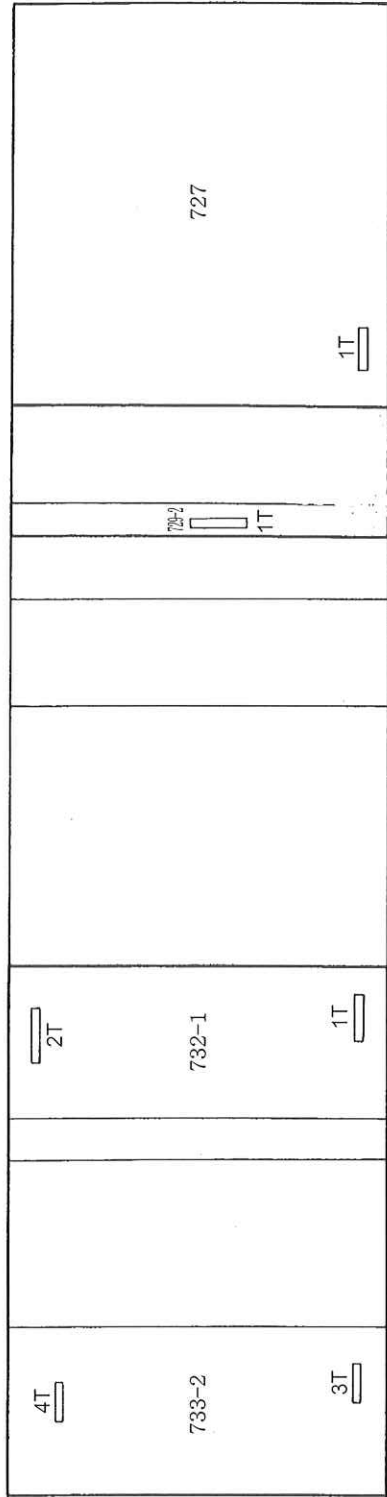
- |          |                   |   |
|----------|-------------------|---|
| 1T (738) | 1a 表土。            | ややしまり、粘性ほとんど有しない、砂質土。全体にマンガン粒子をわずかに含む。微量の焼土・炭化物及び石器・陶磁器小片を含む。 |
|          | 1b 水田床土。          |   |
| 2        | にぶい灰褐色土 (10YR4/3) | ややしまり、粘性を有す。筒状の酸化鉄を多量に含む。ほかに微量の炭化物を含む。砂質土。                    |
| 3        | 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)   | しまり弱く、わずかに粘性を有す。  |
| 4        | 灰黄褐色砂 (10YR4/2)   | しまり弱く、粘性を有しない。1~5mm大程度の小礫を多量に含む。                              |
| 1T (737) | 1a 表土。            |   |
|          | 1b 水田床土。          |   |
| 2        | オリーブ黒色砂 (7.5Y3/1) | ややしまり、粘性を有しない。1~3mm大の小礫の混じる暗灰黄色砂・酸化鉄を帯状に含む。                   |
| 3        | オリーブ黒色土 (5GY2/1)  | ややしまり、やや粘性を有す。1cm大の小礫をごくわずかに含む。砂質土。                           |
| 4        | オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) | ややしまり、やや粘性を有す。しまりのない砂を帯状に含む。                                  |
| 5        | オリーブ黒色土 (5Y3/1)   | しまり、強い粘性を有す。混入物ほとんどなし。  |
| 6        | 黒褐色土 (2.5Y3/1)    | しまり (5よりしまり強い)、強い粘性を有す。混入物はほとんどなし。                            |
| 1T (736) | 1a 表土。            |   |
|          | 1b 水田床土。          |   |
| 2        | 灰黄褐色土 (10YR4/2)   | しまりなく、粘性を有しない。旧耕作土。   |
| 3        | 暗褐色土 (10YR3/3)    | 2T (735-1) 2層相当。  |
| 4        | 暗褐色土 (10YR3/4)    | 2T (735-1) 3層相当。  |
| 5        | 黒褐色土 (10YR3/2)    | 若干色調は異なるが、2T (735-1) 5層相当。                                    |
| 6        | 暗褐色土 (10YR3/3)    | しまりがあり、強い粘性を有す。混入物なし。   |
|          | ピット置土             |   |
|          | 暗褐色土 (10YR3/3)    | ややしまり、粘性を有す。焼土・炭化物を多量に含む。                                     |



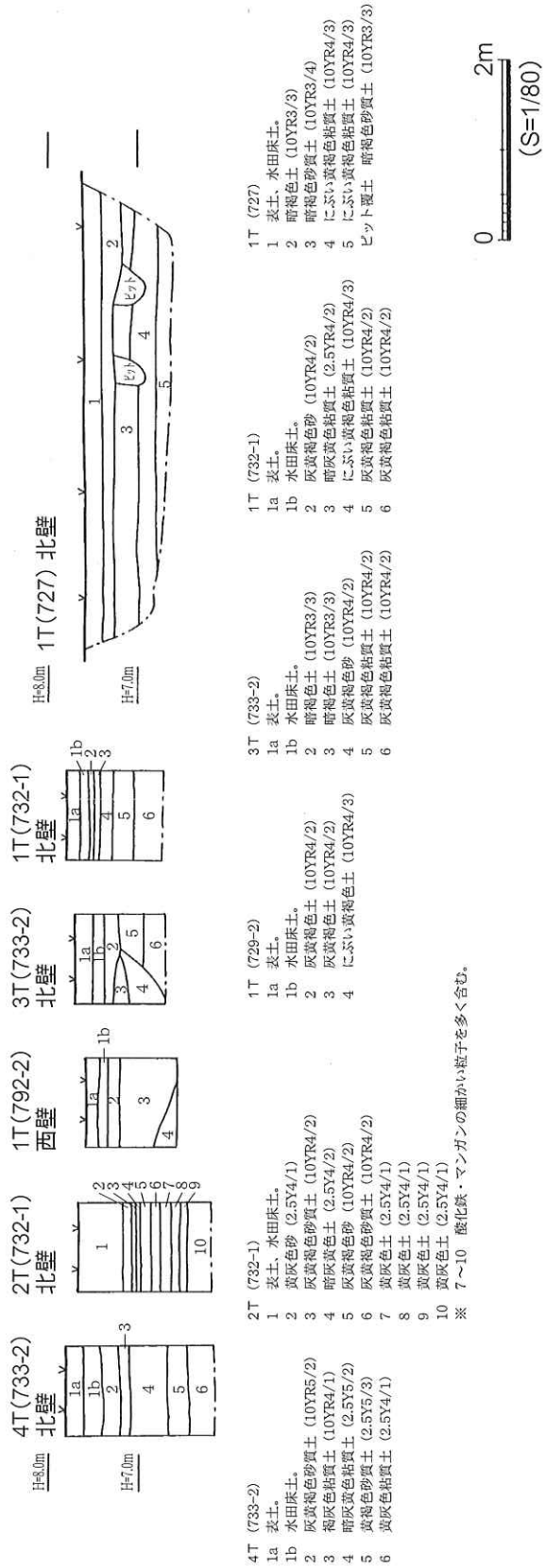
第31図 調査地点10 トレンチ実測図

Y=38414

X=5146

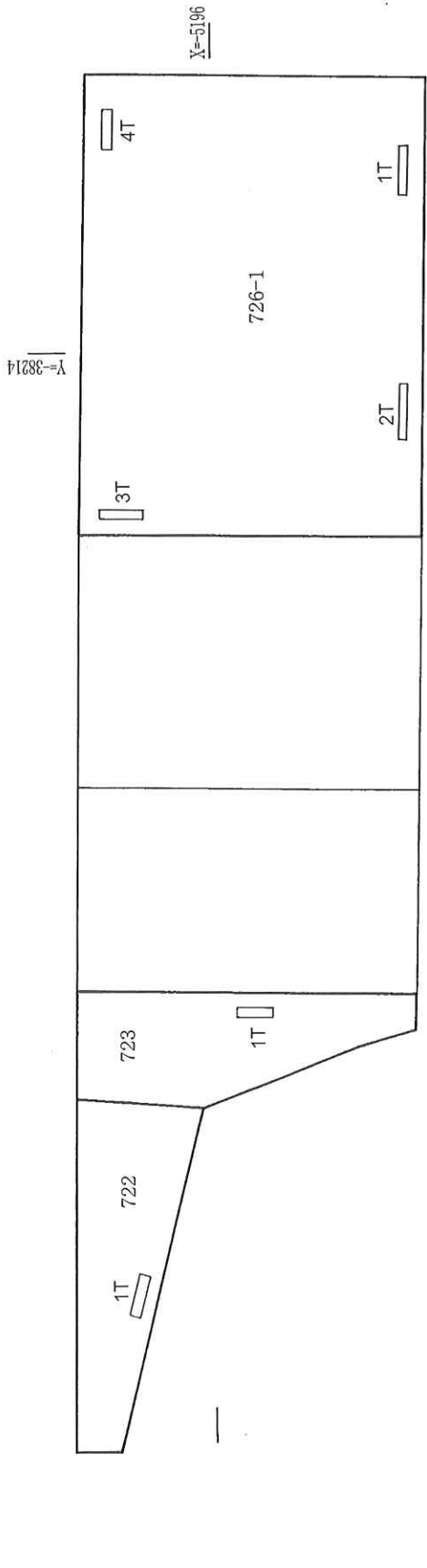


第32図 調査地点11 トレンチ配置図 S=1/1,000

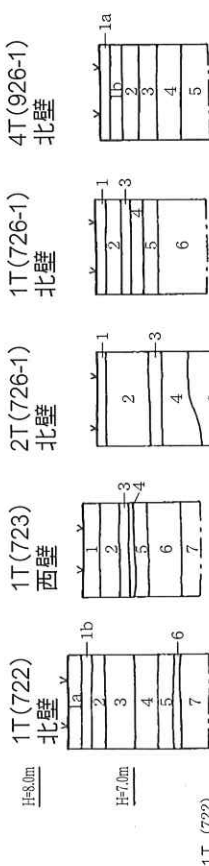


第33図 調査地点11 土層断面図





第34図 調査地点12 トレンチ配置図 S=1/1,000



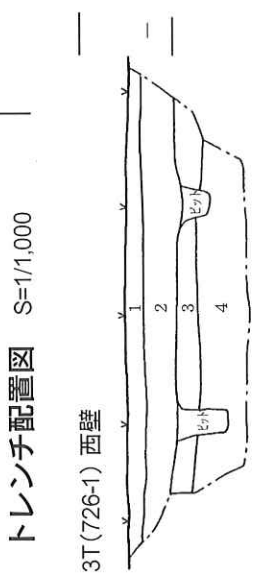
1T (722) 北壁  
 1 表土  
 1a 水田床土  
 1b 灰黄褐色砂 (10YR4/2)  
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 5 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 6 オリーブ黒色土 (5Y3/1)  
 7 オリーブ黒色土 (5Y3/1)

1T (723) 西壁  
 1 しまりなく、粘性を有しない。マンガンをシミ状に含む。1T (723) 2層相当か。  
 2 ややしまり、粘性ほとんど有しない。マンガンをシミ状に含む。微量の腐土・酸化鉄を含む。  
 3 ややしまり、やや粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。  
 4 ややしまり、強い粘性を有す。酸化鉄を筋状もしくは粒子で含む。  
 5 ややしまり、強い粘性を有す。水分を多く含む。細かな砂粒を含む。  
 6 ややしまり、強い粘性を有す。水分を多く含む (6よりしまり強い)。混入物はほとんどない。6より若干色調暗め。

2T (726-1) 北壁  
 1 しまりなく、わずかに粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。  
 2 ややしまり、やや粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。  
 3 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 4 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)

1T (726-1) 北壁  
 1 表土、水田床土。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4)  
 3 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 4 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)

4T (926-1) 北壁  
 1a 表土  
 1b 水田床土  
 2 暗褐色土 (10YR3/3)  
 3 暗褐色土 (10YR3/4)  
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)



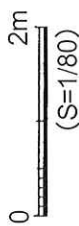
3T (726-1) 西壁  
 1 ややしまり、わずかに粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。  
 2 ややしまり、やや粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。  
 3 しまりなく、わずかに粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。  
 4 しまりなく、わずかに粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。

3T (726-1) 東壁  
 1 表土、水田床土。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4)  
 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)

1T (723) 北壁  
 1 しまりなく、粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。  
 2 ややしまり、粘性を有す。白色砂粒を多く含む。酸化鉄を筋状もしくは粒子状に多く含む。  
 3 ややしまり、粘性を有す。筋状に酸化鉄を含む。  
 4 強くしまり、粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。  
 5 しまり (しまりは6より強い) があり、強い粘性を有す。マンガンの粒子を含む。  
 6 しまり (5と同じくらい若干強い) があり、強い粘性を有す。混入物ほとんどなし。

7 黒褐色土 (10YR3/2)

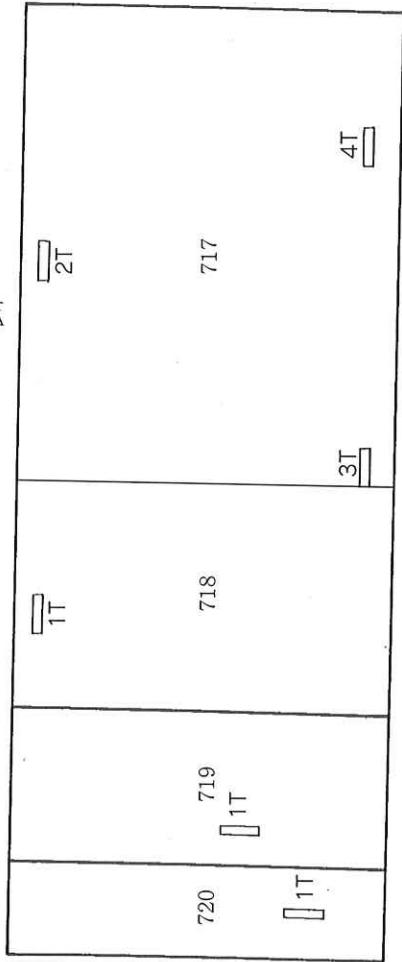
3T (726-1) 東壁  
 1 しまりなく、わずかに粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。微量の腐土を含む。  
 2 しまりなく、わずかに粘性を有す。マンガンをシミ状に含む。灰黄褐色土を筋状もしくは小ブロック状に含む。  
 3 強くしまり、粘性を有す。マンガンをシミ状に多く含む。灰黄褐色土・酸化鉄を筋状もしくは小ブロック状に含む。  
 4 強くしまり、粘性を有す。マンガンをシミ状に多く含む。灰黄褐色土・酸化鉄を筋状もしくは小ブロック状に含む。  
 5 強くしまり、粘性を有す。マンガンをシミ状に多く含む。灰黄褐色土・酸化鉄を筋状もしくは小ブロック状に含む。  
 6 強くしまり、粘性を有す。マンガンをシミ状に多く含む。灰黄褐色土・酸化鉄を筋状もしくは小ブロック状に含む。  
 7 ビット覆土 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまり、粘性を有す。きめ細かい、細かな砂粒を含む。



第35図 調査地点12 トレンチ土層断面図

II 平成19年度の調査

Y=38214



第36図 調査地点13 トレンチ配置図 S=1/1,000

- 1T (720) 1 表土。  
 2 灰黄褐色土(10YR4/2)  
 3 暗褐色土(10YR3/3)  
 4 黒褐色土(10YR3/2)
- 1T (719) 1 表土、水田床土。  
 2 黒褐色土 (2.5Y3/2)
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 4 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 5 暗褐色土 (10YR3/3)  
 6 暗褐色土 (10YR3/3)  
 7 黒褐色土 (10YR3/2)

X=5246

しまりがあり、わずかに粘性を有す。粒子状の酸化鉄を含む。白色砂粒を含む。客土。  
 しまりがあり、粘性あまり有しない。砂質土。微量の炭化物を含む。酸化鉄を多く含む。客土。  
 強くしまり、わずかに粘性を有す。マンガン粒子を多量に含む。微量の焼土粒を含む。  
 強くしまり、粘性を有す。マンガン粒子を含むが、4ほどではない。微量の焼土・炭化物の粒を含む。  
 しまりがあり、粘性を有す。微量のマンガン粒子を含む。微量の焼土・炭化物の粒子を含む。  
 しまりがあり、粘性を有す。マンガン等の混入物はほとんど確認できない。

\*4~7 下層になるほど強い粘性を有す。

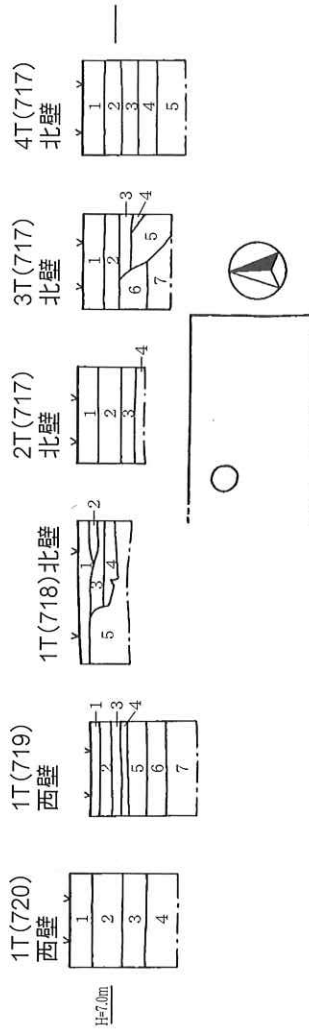
- 1T (718) 1 表土、水田床土。  
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 5 暗褐色土 (10YR3/3)
- 2T (717) 1 表土、水田床土。  
 2 暗褐色土 (10YR3/3)  
 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 4 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 ヒット覆土 黒褐色土 (10YR3/2)
- 3T (717) 1 表土、水田床土。  
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 5 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 6 暗褐色土 (10YR3/3)  
 7 暗褐色土 (10YR3/3)
- 4T (717) 1 表土、水田床土。  
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)

ややしまり、わずかに粘性を有す。酸化鉄を多量に含む。砂質土。  
 しまり弱く、粘性を有しない。マンガン粒子を含む。きめ細かい。  
 3よりしまりが弱く、粘性を有しない。マンガン・酸化鉄の粒子を含む。きめ細かい。  
 強くしまり、粘性を有す。多量のマンガン粒子を含む。微量の焼土・炭化物を含む。

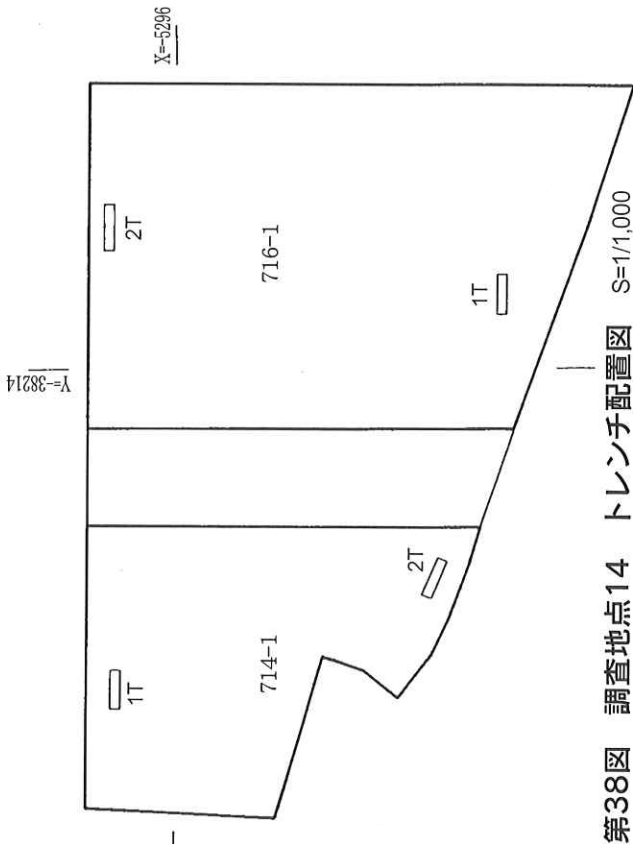
強くしまり、粘性を有す。微量の焼土を含む。マンガン粒子を含む。  
 しまりがあり、わずかに粘性を有す。マンガン粒子を多量に含む。微量の焼土を含む。1T (718) 5層に対応か？  
 わずかにしまり、わずかに粘性を有すが、3よりも弱い。マンガン粒子を多量に含む。這神様出面。  
 ややしまり、わずかに粘性を有す。焼土粒・炭化物を含む。

1T (718)2層に対応。  
 ややしまり、わずかに粘性を有す。マンガン粒子を多量に含む。きめ細かな砂質土。しまり具合以外は1T (718)3層に近似。  
 しまり弱く、粘性を有しない。1T (718) 4層に近似。  
 しまり弱く、粘性を有しない。酸化鉄・マンガン粒子をわずかに含む。  
 しまり強く、粘性を有しない。マンガン粒子を多量に含む。  
 しまり強く、6よりも強い粘性を有す。マンガン粒子を多量に含む。

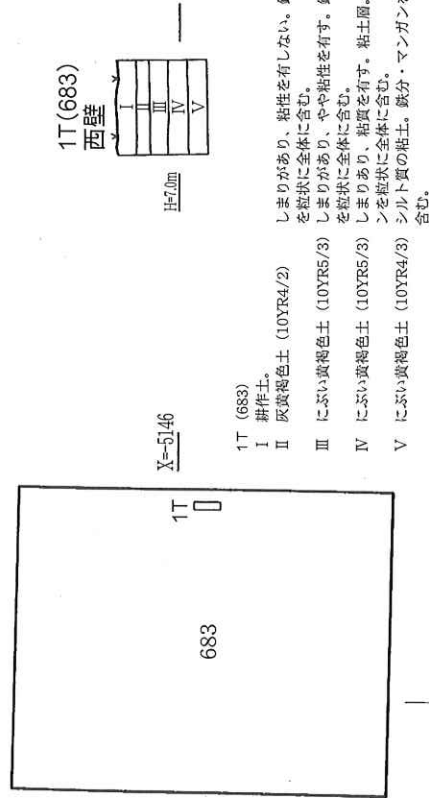
ややしまり、粘性を有す。マンガン粒子をわずかに含む。  
 しまり、わずかに粘性を有す。微量の焼土粒を含む。  
 ややしまり、わずかに粘性を有す。砂質土。  
 しまりなく、粘性を有しない。



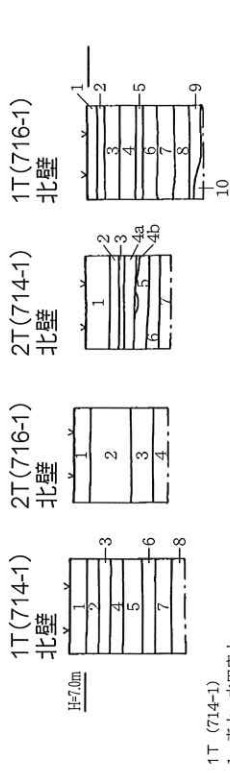
第37図 調査地点13 トレンチ実測図



第38図 調査地点14 トレンチ配置図 S=1/1,000



第39図 調査地点15 トレンチ配置図 S=1/1,000



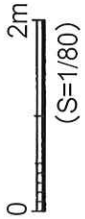
- 1T (714-1)  
 1 表土、水田床土。  
 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 4 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)  
 5 灰黄褐色砂 (10YR4/2)  
 6 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) ~ にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 8 黒褐色土 (10YR3/2)  
 \*5~8 下層になるほどしまり、粘性共に強くなる。
- 2T (714-1)  
 1 表土、水田床土  
 2 暗褐色土 (10YR3/3)  
 3 暗褐色土 (10YR3/3)  
 4 暗褐色砂 (10YR3/3)
- 2T (716-1)  
 1 表土、水田床土。  
 2 1T (714-1) 2層に対応。  
 3 1T (714-1) 3層に対応。  
 4a 1T (714-1) 4層に対応。  
 4b 暗灰黄色砂 (2.5Y4/2)  
 5 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 6 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 7 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 1T (716-1)  
 1 表土、水田床土。  
 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3~4/4) 砂質土。  
 3 灰黄褐色砂 (10YR4/2)  
 4 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
 6 にぶい黄褐色土 (10YR4/2)  
 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) (714-1) 6層に対応。  
 8 1T (714-1) 7層に対応。  
 9 1T (714-1) 8層に対応。  
 10 1T (714-1) 9層に対応。  
 \*5~10 下位になるほどしまり、粘性共に強くなる。

しまり弱く、わずかに粘性を有す。酸化鉄の粒子を多く含む。砂質土。  
 しまり弱く、わずかに粘性を有す。砂質土。  
 しまり弱く、粘性を有しない。マンガン・酸化鉄の粒子を含む。微量の炭化物を含む。きめ細かい。  
 しまり弱く、粘性を有しない。マンガン・酸化鉄の粒子を多く含む。きめ細かい。部分的にやや粗の粗い砂が帯状に入る。  
 やや粘性あり。ややしまる。砂質土。酸化鉄・マンガン粒を帯状に含む。しまりがあり、粘性を有す。酸化鉄をやや多く含む。色調は若干黄色味が強い。マンガン粒子を含む。  
 しまりがあり、粘性を有す。マンガン粒子を含む。

ややしまり、粘性あまり有しない。炭化物・焼土の粒子をわずかに含む。  
 ややしまり、やや粘性を有す。マンガン・酸化鉄粒子をやや多く含む。  
 微量の焼土・炭化物及び、土器小片をわずかに含む。  
 しまりなく、粘性を有しない。マンガン粒子をやや多く含む。

しまりなく、粘性有しない。やや粗子の粗い砂層。  
 わずかに粘性あり。ややしまる。マンガン粒・酸化鉄の粒子をまばらに含む。  
 しまりなく、粘性有しない。酸化鉄・マンガン粒をまばらに含む。  
 ややしまり、強い粘性を有す。酸化鉄をやや多く含む。

第40図 調査地点14・15 土層断面図



Ⅱ 平成19年度の調査

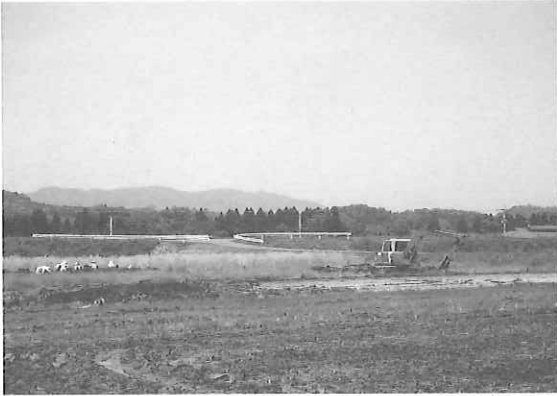


写真28 調査地点8近景 (東から)



写真29 調査地点9 1T(746-1)土層堆積状況



写真30 調査地点9 2T(746-1)遺構検出状況

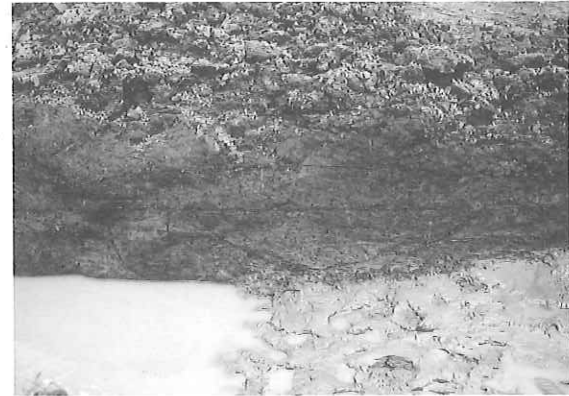


写真31 調査地点9 3T(748-1)土層堆積状況

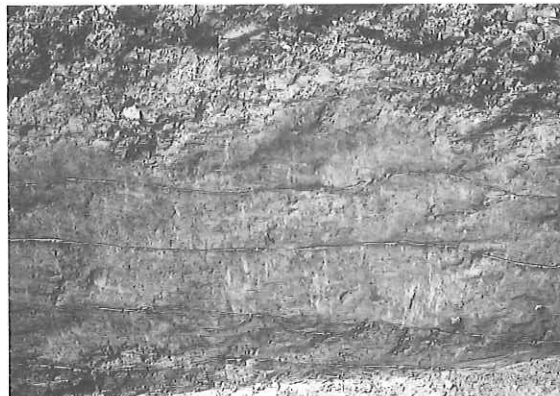


写真32 調査地点9 4T(748-1)土層堆積状況

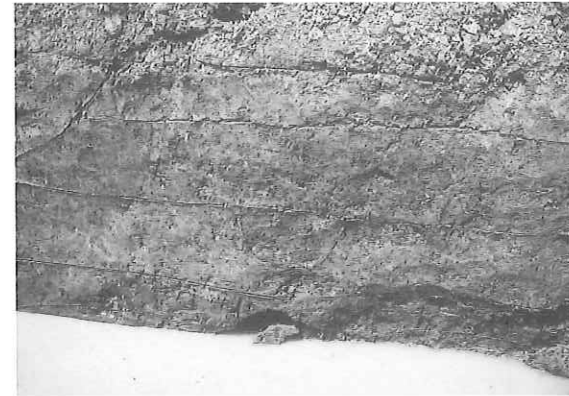


写真33 調査地点10 1T(736)土層堆積状況



写真34 調査地点10 1T(735-3)全景 (東から)



写真35 調査地点10 2T(735-1)全景 (東から)

II 平成19年度の調査

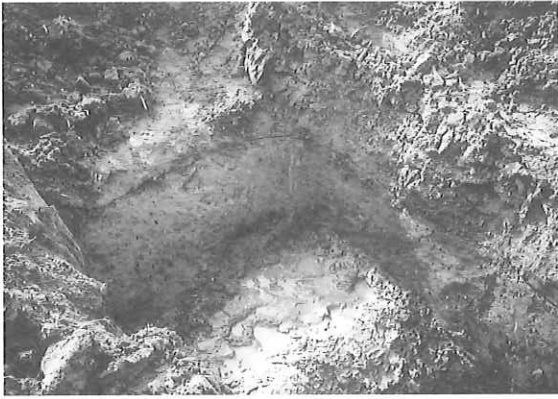


写真36 調査地点10 2T(735-1) S-1検出状況

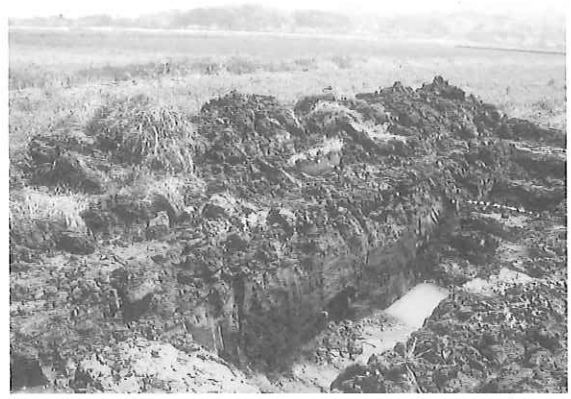


写真37 調査地点11近景 (西から)

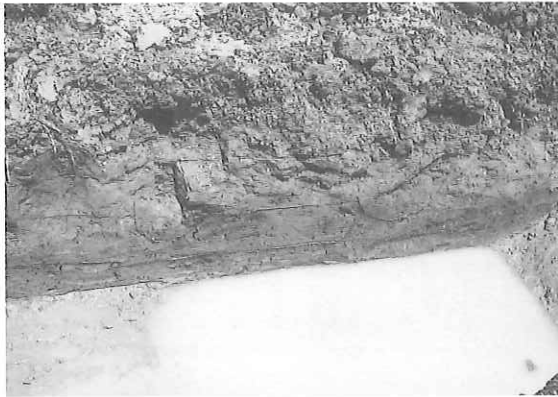


写真38 調査地点11 1T(727)土層堆積状況



写真39 調査地点12 3T(726-1)全景 (南から)

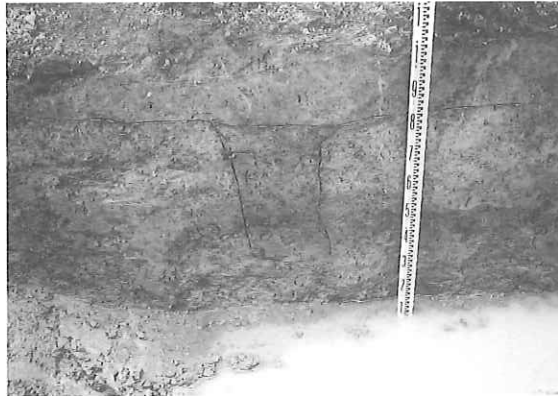


写真40 調査地点12 3T(726-1)土層堆積状況①



写真41 調査地点12 3T(726-1)土層堆積状況②

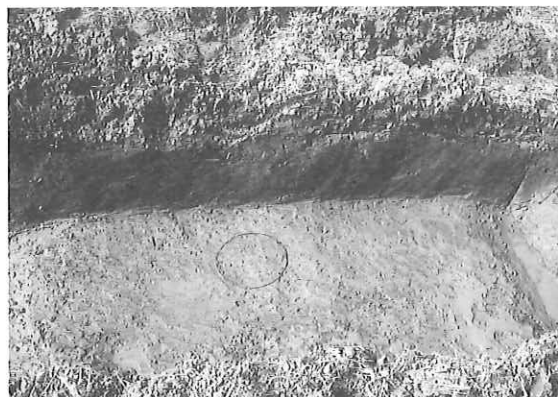


写真42 調査地点13 2T(717)遺構検出状況

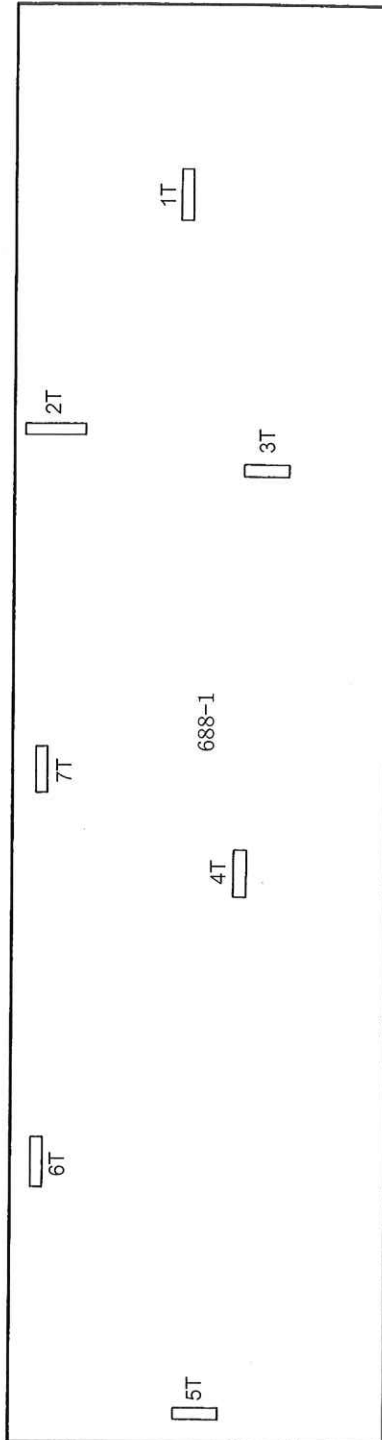


写真43 調査地点14 1T(714-1)土層堆積状況

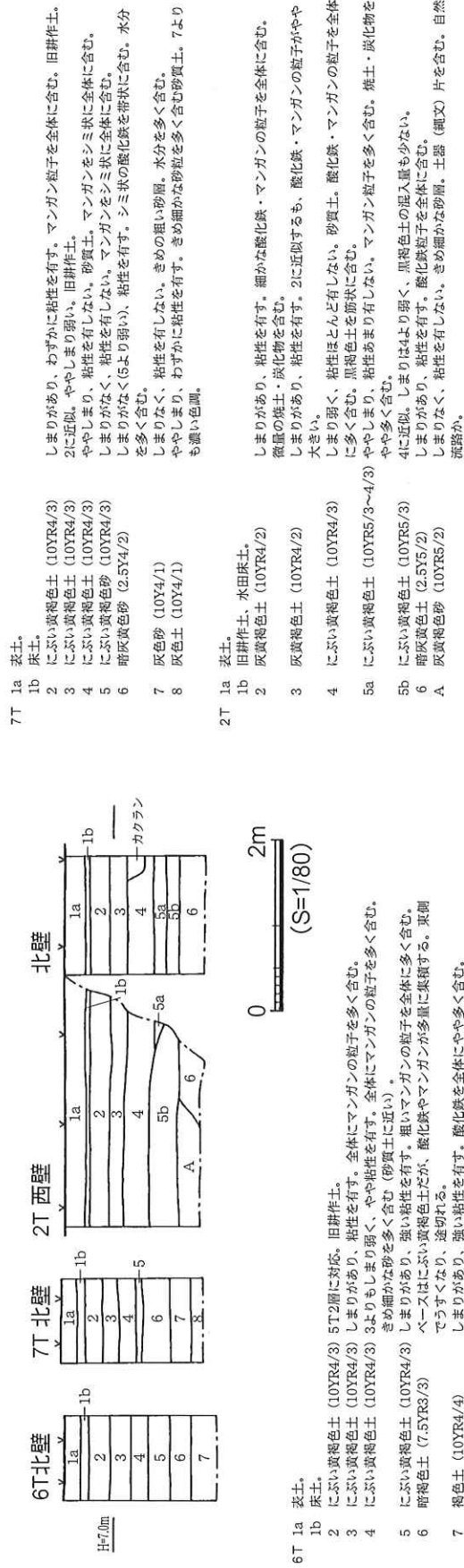


Y=38140

X=5196

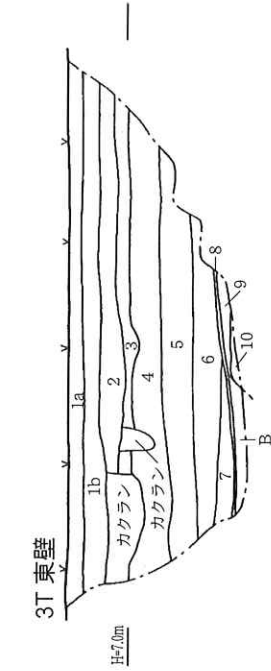


第41図 調査地点16 トレンチ配置図 S=1/1,000

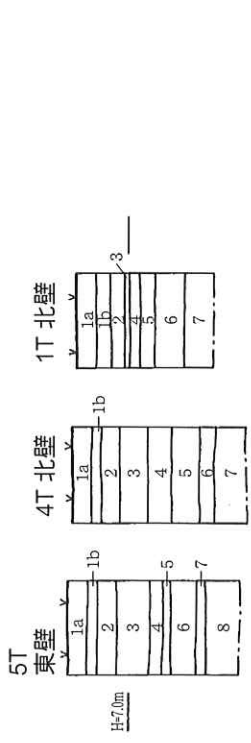
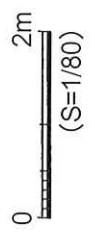


第42図 調査地点16 土層断面図①





- 3T 1a 表土。 しまりがあり、粘性あまり有しない、マンガンを酸化鉄粒子を全体に含む。旧耕作土。  
 1b 水田床土。 2に近似。ややしまり弱い。旧耕作土。  
 2 暗褐色土 (10YR3/3) 2T4層に相当。  
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 2T4層に相当。  
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 2T5層に近い砂質土。  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、粘性を有す。マンガンの粗い粒子を全体に多く含む。  
 6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり弱く、粘性ほとんど有しない、多量のマンガンを酸化鉄のかたまりを全体に含む。  
 7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり弱く、粘性を有しない。酸化鉄の集積層。  
 8 褐色土 (7.5YR4/6) しまり弱く、粘性を有す。砂質土。  
 9 褐色土 (10YR4/4) わずかにしまり、わずかに粘性を有す。砂質土。  
 10 灰色砂 (5Y4/1) しまりなく、粘性を有しない。上位は漸次的に酸化鉄を含む。きめ細かな砂層。  
 B にぶい黄褐色土 (10YR5/3) しまりなく (10よりややしまる)、粘性を有しない。きめ細かな砂層。自然流路か？



- 5T 1a 表土。  
 1b 水田床土。  
 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、粘性ほとんど有しない。マンガンをシミ状に全体を含む暗褐色土の小ブロックをまばらに含む。旧耕作土。  
 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 2よりしまり弱く、粘性ほとんど有しない。マンガンをシミ状に全体を含む。2より色調明るめ。微量の焼土を含む。旧耕作土。  
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、粘性を有す。マンガンを全体に多く含む。  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 4に近似。4よりしまり強い。部分的に焼土・炭化物が集中する。  
 6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、強い粘性を有す。全体にマンガンを多く含む。  
 7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、強い粘性を有す。マンガンの粗い粒子の混入は少ない。微量の炭化物を含む。  
 8 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 6に近似。マンガンの粗い粒子が6より細かい。

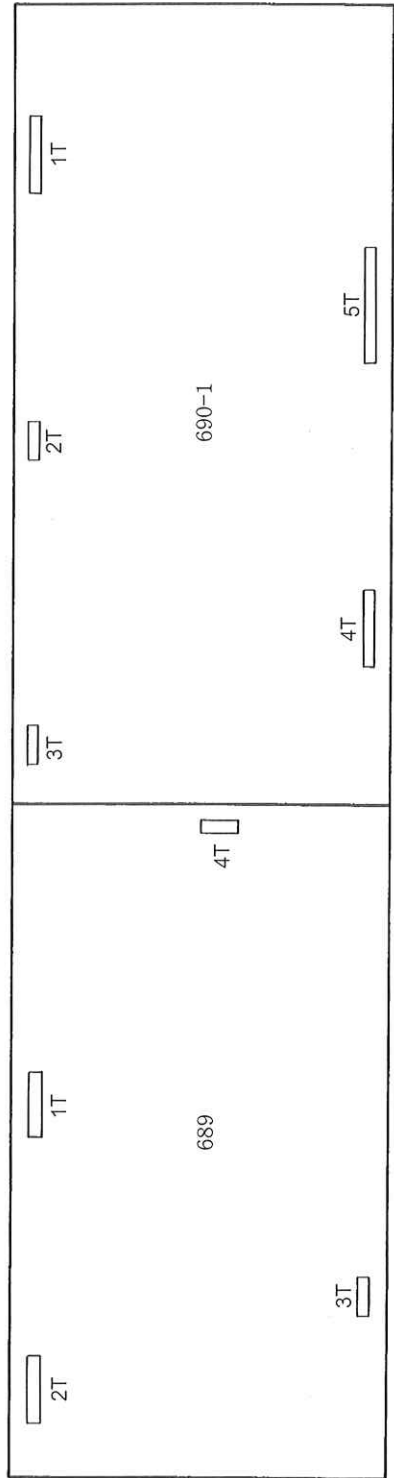
- 4T 1a 表土。  
 1b 水田床土。  
 2 暗褐色土 (10YR3/3) 3T2層に相当。  
 3 暗褐色土 3T3層に相当。  
 4 灰黄褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、上位は粘性を有す。砂質土。下位はしまり弱く、粘性を有しない。全体にマンガンを酸化鉄の粗い粒子を含む。旧耕作土。  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、粘性を有す。マンガンの粗い粒子を全体に多く含む。  
 6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 5に近似。しまりが強く、より粘性を有す。  
 7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 5に近似。粘性強い。しまりは5~7の中で最も弱い。

- 1T 1a 表土。  
 1b 旧耕作土、床土。  
 2 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) しまりがあり、粘性ほとんど有しない。酸化鉄を全体に筋状に含む。旧耕作土。  
 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり、粘性を有しない。細かな酸化鉄の粒子を全体に含む。微量のマンガンを粒子・白色砂粒を含む。旧耕作土。  
 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、やや粘性を有す。全体に細かな酸化鉄・マンガンの粗い粒子をわずかに含む。若干色調明るめ。  
 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、やや粘性を有す (4より弱い)。全体に細かな酸化鉄・マンガンの粗い粒子をわずかに含む。微量の焼土・炭化物を含む。  
 6 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) しまりがあり、強い粘性を有す。3~4cm次の灰黄褐色土のブロックを全体に含む。マンガンの粗い粒子を全体に多く含む。  
 7 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 6に近似。6よりしまり強い。若干色調暗め。

第43図 調査地点16 土層断面図②

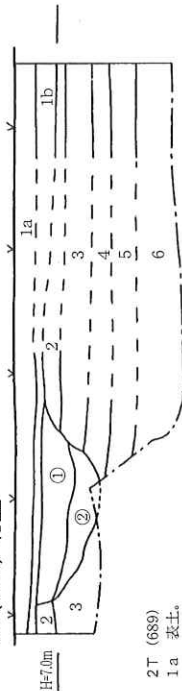
Y=38014

X=5246



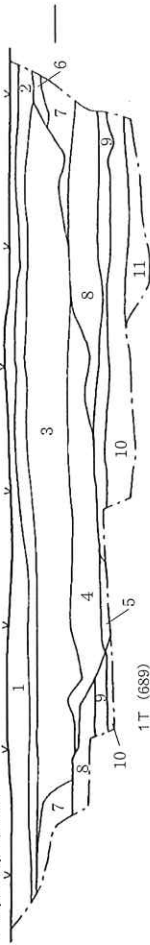
第44図 調査地点17 トレンチ配置図 S=1/1,000

2T(689) 北壁



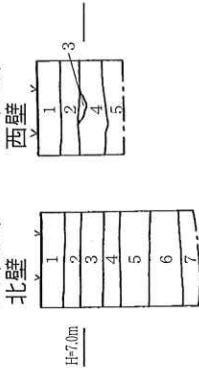
- 2T (689)
- 1a 表土。
- 1b 床土。
- 2 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性を有しない。砂質土。
- 3 褐色砂 (7.5YR4/3) しまりなく、粘性を有しない。きめ細かな砂層。
- 4 褐色土 (7.5YR4/3) しまりなく、粘性を有しない。きめ細かな砂層。3よりしまり弱。
- 5 褐色土 (7.5YR4/3) しまりなく、粘性を有しない。きめ細かな砂層。4よりしまる。
- 6 褐色砂 (7.5YR4/3) しまりなく、粘性を有しない。1~3よりも粒子が大きい。水分を多く含む。3・4よりしまり弱。
- ① 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有しない。全体にマンガンの粒子を含む。微量の焼土・炭化物を含む。砂質土。
- ② 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性を有しない。炭化物を含む。砂質土。

1T(689) 北壁



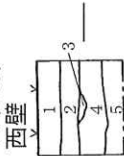
- 1T (689)
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 現表土、耕作土。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 現表土+水田床土。しまりがあり、粘性を有しない。マンガンを多く含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 旧耕作土が、強くしまり、粘性を有しない。マンガンをやや多く含む。白色砂粒を含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがあり、粘性を有しない。マンガンを多く含む。白色砂粒を多く含む。
- 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、若干粘性を有す。マンガンをやや多く含む。砂質土。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有しない。マンガンをやや多く含む。
- 7 褐色土 (10YR4/4) しまりがあり、粘性を有しない。マンガンを多く含む。白色砂粒を含む。3T (689) 3層にはほぼ対応。
- 8 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、粘性を有しない。白色砂粒を含む。3T (689) 4層にはほぼ対応。
- 9 褐色土 (10YR4/4) しまり弱く、粘性を有しない。マンガンを少量含む。3T (689) 5層にはほぼ対応。
- 10 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ややしまり、粘性を有す。砂・粘質土。マンガンを含む。3T6 (689) 層にはほぼ対応。
- 11 褐色土 (10YR4/4) ややしまり、やや強い粘性を有す。粘質土。マンガンをブロック状に含む。3T (689) 7層にはほぼ対応。

3T(689) 北壁



- 3T (689)
- 1 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) ややしまり、若干粘性を有す。耕作土+水田床土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまり、弱い粘性を有す。旧耕作土が。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) ややしまり、粘性を有しない。1~5mmの白色砂粒を含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) しまり弱く、粘性を有しない。3の土をブロック状に、まばらに含む。
- 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり弱く、弱い粘性を有す。下部はマンガンをわずかに含む。全体的に白色砂粒を含む。
- 6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、やや強い粘性を有す。全体にマンガンを多く含む。わずかに白色砂粒を含む。
- 7 褐色土 (10YR4/4) ややしまり、やや強い粘性を有す。全体にマンガンを多く含む。6より多い。わずかに白色砂粒を含む。

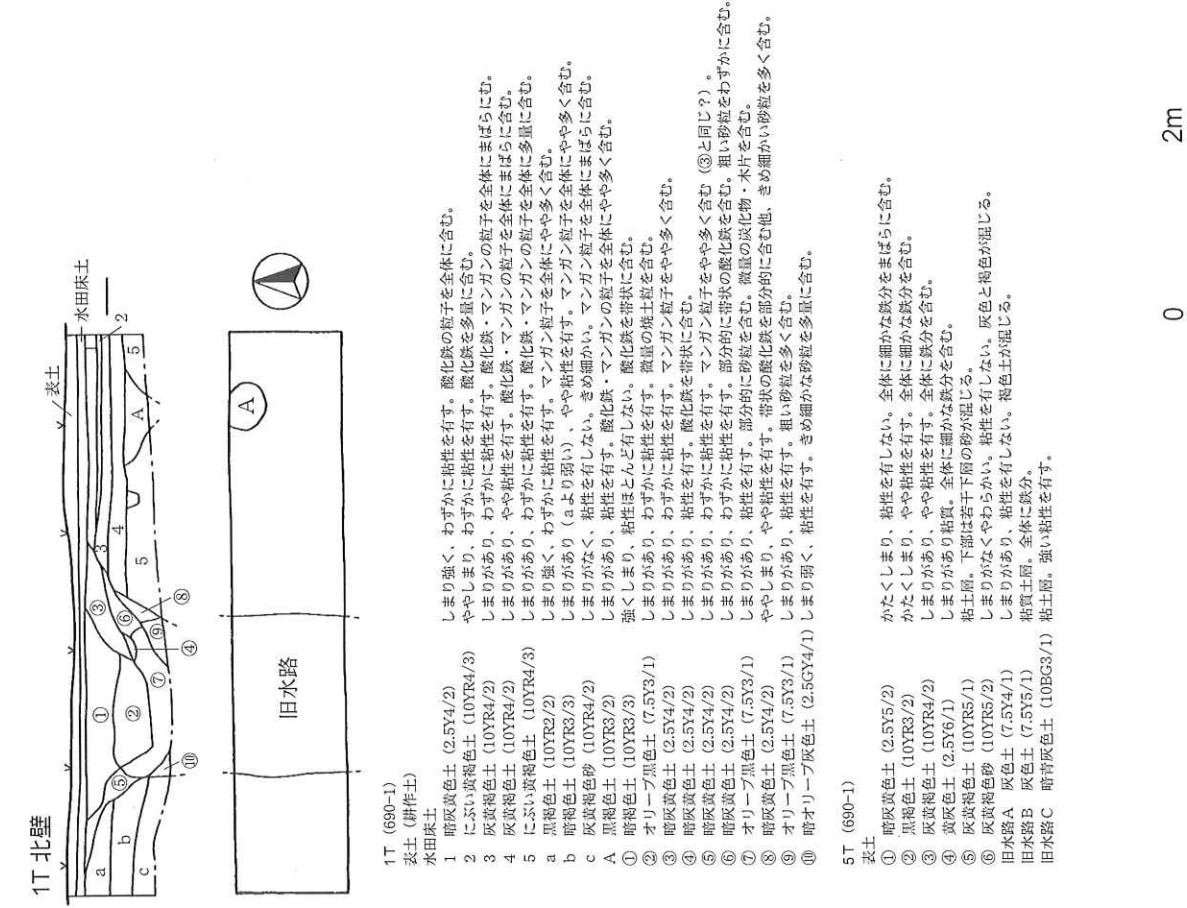
4T(689) 西壁



- 4T (689)
- 1 表土、耕作土、及び水田床土。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、粘性あまり有しない。酸化鉄の粒子を全体に多く含む。旧耕作土。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、粘性あまり有しない。酸化鉄・マンガンの粒子を全体に多く含む。旧耕作土。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) しまりがあり、粘性あまり有しない。マンガンを多く含む。土器片を含む。
- 5 暗褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性を有しない。マンガンの粒子を多く含む。きめ細かな砂層。

2m  
(S=1/80)

第45図 調査地点17 トレンチ実測図①



(S=1/80)

3T (690-1) 北壁  
 表土  
 1 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまり、弱い粘性を有す。水田床土。マンガング粒を多く、炭化物をわずかに含む。細かい砂層。  
 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、強い粘性を有す。マンガング粒をやや多く含む。1より砂質。  
 3 黒褐色土 (10YR3/2) ややしまり、やや強い粘性を有す。マンガング粒を多く含む。マンガング粒がやや大きい (1・2と比較)。  
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり弱く、粘性を有す。5にやや粗質の砂がブロック状に入る漸移的な層。  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) しまり弱く、粘性を有す。2~3のやや粘質土をブロック状にわずかに含む。マンガング粒を斑点状に含む。  
 6 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) しまり弱く、かなり強い粘性を有す。マンガング粒を多く含む。2・3と同色の粘質土をブロック状にこくわずかに含む。

\*1~3 客土

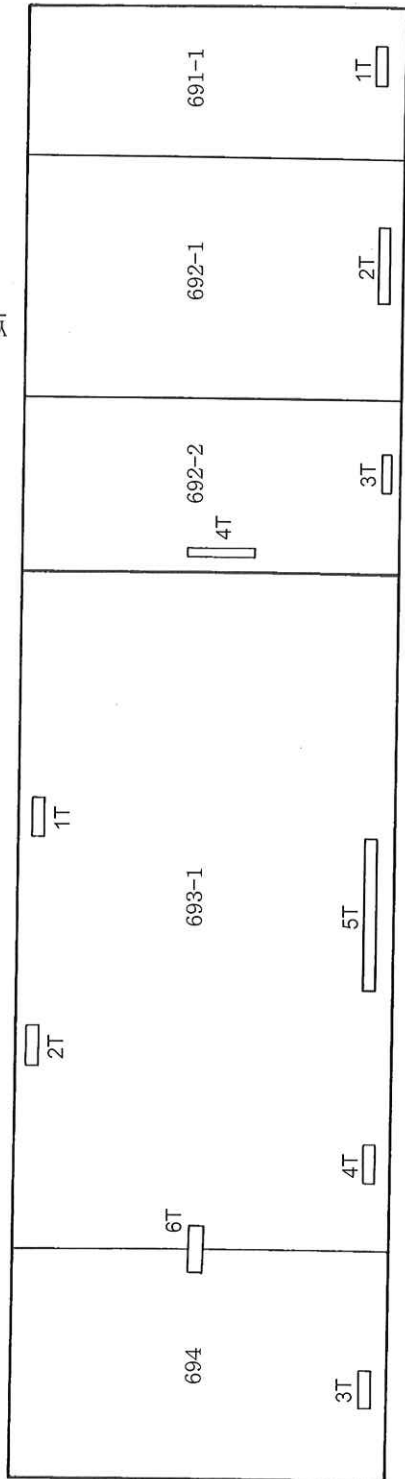
2T (690-1) 北壁  
 表土  
 ① 灰黄褐色土 (10YR4/2) 水田床土。しまりがあり、粘性を有しない。  
 ② にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり弱く、粘性を有しない。マンガング粒、炭化鉄を少量含む。  
 ③ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり弱く、粘性を有しない。マンガング粒を少量含む。  
 ④ 灰黄褐色土 (10YR4/2) ややしまり、粘性を有しない。マンガング粒を多く含む。  
 ⑤ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 3T (690-1) 4層に対処。  
 ⑥ にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 3T (690-1) 5層に対処。  
 ⑦ にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 3T (690-1) 6層に対処。  
 ア 暗褐色土 (10YR3/3) しまり弱く、弱い粘性を有す。桑の木の根が。

\*②~④ 客土

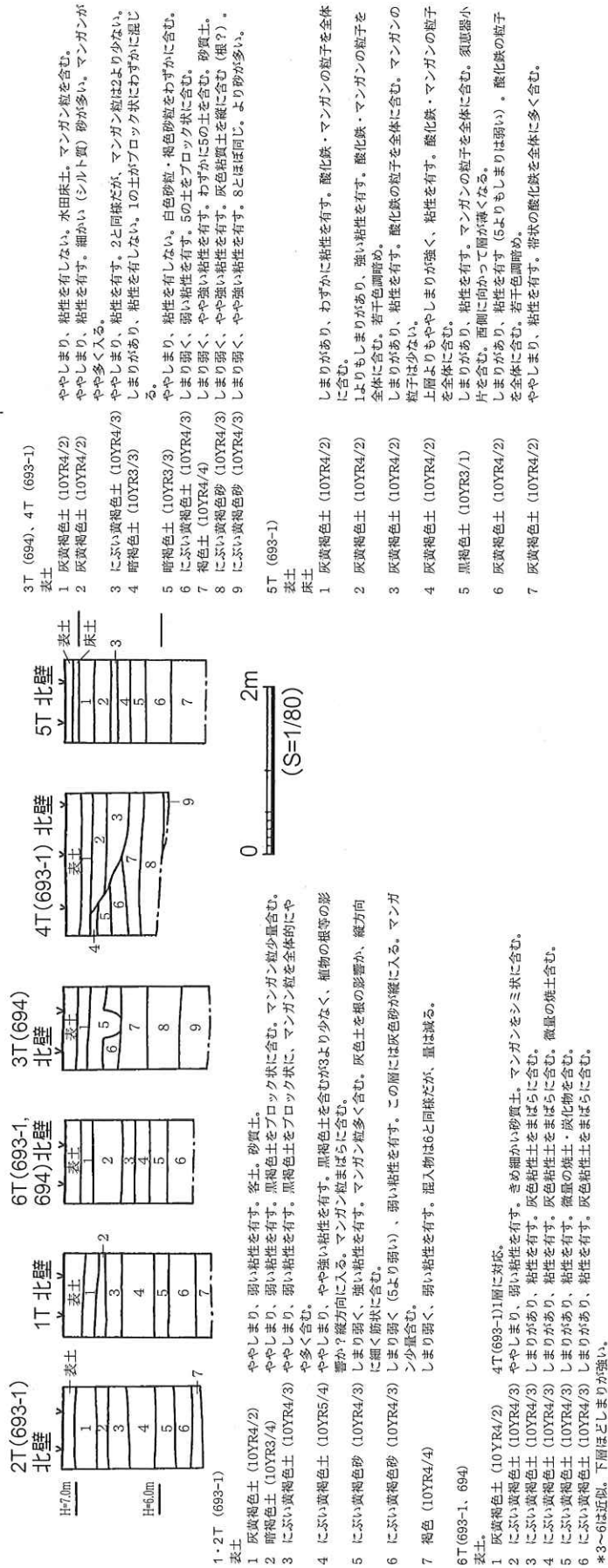
1T (690-1) 北壁  
 水田床土  
 1 暗黄褐色土 (2.5Y4/2) しまり強く、わずかに粘性を有す。炭化鉄の粒子を全体に含む。  
 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ややしまり、わずかに粘性を有す。炭化鉄を多量に含む。  
 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、わずかに粘性を有す。炭化鉄・マンガングの粒子を全体にまばららに含む。  
 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、やや粘性を有す。炭化鉄・マンガングの粒子を全体に多量に含む。  
 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり強く、わずかに粘性を有す。炭化鉄・マンガングの粒子を全体に多量に含む。  
 a 黒褐色土 (10YR3/3) しまり強く、わずかに粘性を有す。マンガング粒を全体にやや多く含む。  
 b 暗褐色土 (10YR3/3) しまり強く、わずかに粘性を有す。マンガング粒を全体にやや多く含む。  
 c 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、粘性を有しない。きめ細かい。マンガング粒を全体にやや多く含む。  
 A 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。炭化鉄・マンガングの粒子を全体にまばららに含む。  
 B 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。炭化鉄を多量に含む。  
 C オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) しまりがあり、わずかに粘性を有す。マンガング粒をやや多く含む。  
 ① 暗黄褐色土 (2.5Y4/2) しまりがあり、わずかに粘性を有す。炭化鉄を帯状に含む。  
 ② 暗黄褐色土 (2.5Y4/2) しまりがあり、粘性を有す。マンガング粒をやや多く含む。  
 ③ 暗黄褐色土 (2.5Y4/2) しまりがあり、わずかに粘性を有す。マンガング粒をやや多く含む。  
 ④ 暗黄褐色土 (2.5Y4/2) しまりがあり、わずかに粘性を有す。部分的に砂粒を含む。粗い砂粒をわずかに含む。  
 ⑤ オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) ややしまり、やや粘性を有す。粗い砂粒を多く含む。  
 ⑥ 暗黄褐色土 (2.5Y4/2) しまりがあり、粘性を有す。きめ細かい砂粒を多く含む。  
 ⑦ オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) しまり弱く、粘性を有す。きめ細かい砂粒を多く含む。  
 ⑧ 暗黄褐色土 (2.5Y4/2) しまり弱く、粘性を有す。きめ細かい砂粒を多く含む。  
 ⑨ オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) しまり弱く、粘性を有す。きめ細かい砂粒を多く含む。  
 ⑩ 暗黄褐色土 (2.5Y4/2) しまり弱く、粘性を有す。きめ細かい砂粒を多く含む。

5T (690-1) 北壁  
 表土  
 ① 暗黄褐色土 (2.5Y5/2) かくたくしまり、粘性を有しない。全体に細かな鉄分をまばららに含む。  
 ② 黒褐色土 (10YR3/2) かくたくしまり、やや粘性を有す。全体に細かな鉄分を含む。  
 ③ 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがあり、やや粘性を有す。全体に鉄分を含む。  
 ④ 黄褐色土 (2.5Y6/1) しまりがあり、粘質。全体に細かな鉄分を含む。  
 ⑤ 灰黄褐色土 (10YR5/1) 粘土層。下部は若干下層の砂が混じる。  
 ⑥ 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまりがあり、粘性を有しない。灰色と褐色が混じる。  
 旧水路A 灰色土 (7.5Y4/1) しまりがあり、粘性を有しない。褐色土が混じる。  
 旧水路B 灰色土 (7.5Y5/1) 粘質土層。全体に鉄分。  
 旧水路C 暗黄褐色土 (10BG3/1) 粘土層。強い粘性を有す。

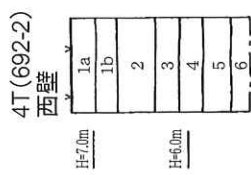
第46図 調査地点17 トレンチ実測図②



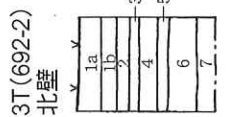
第47図 調査地点18 トレンチ配置図 S=1/1,000



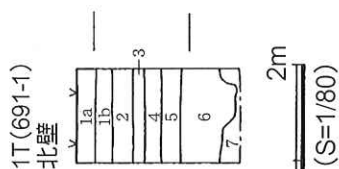
第48図 調査地点18 土層断面図①



- 4T (692-2) 1a 表土。  
1b 水田粘土。  
2 灰黄褐色土 (10YR4/2)



- 3 しまりがあり、やや粘性を有す。マンガン粒子を全体にわずかに含む。  
4 しまりがやや粘性が強く、4よりやや粘性が強く、マンガン粒子を全体に多く含む。  
5 しまりがなく、粘性を有しない。やや粒子の粗い砂層。  
6 ややしまりがあり、強い粘性を有す。マンガン粒子を全体に含む。



- 1T (691-1) 1a 表土。  
1b 田耕作土。  
2 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)  
3 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)  
4 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)  
5 黒褐色土 (10YR3/1)  
6 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
7 黄褐色土 (2.5Y5/3)

- しまりがあり、粘性を有す。酸化鉄・マンガン粒子を全体に含む。量はあまり多くない。上面は耕地整理前の耕作面。  
2よりややしまりが弱く、粘性を有す。色調も若干暗め。酸化鉄・マンガン粒子を全体に含む。  
かなり強くしまり、強い粘性を有す。酸化鉄・マンガンの粒子を全体にわずかに含む。  
かなり強くしまり、強い粘性を有す。土器片含む。酸化鉄の粒子を全体に含む。  
かなり強くしまり、強い粘性を有す。マンガンの粒子を全体に含む。かなり強くしまり、強い粘性を有す。酸化鉄を多量に含む。

- 2T (692-1) 1a 表土。  
1b 水田粘土。  
2 灰色土 (5Y5/1)  
2' 暗灰黄色 (2.5Y5/2)  
① 暗灰黄色土 (2.5Y5/2)  
② 暗灰黄色土 (2.5Y5/2)  
③ 黒褐色土 (10YR3/1)  
④ 灰黄色土 (2.5Y7/2)  
⑤ 灰黄色土 (2.5Y6/2)

- かたくしまり、わずかに粘性を有す。きめ細かい。  
かたく、全体にマンガン粒を含む。粘性なし。  
①よりやや明るい色調。全体にマンガン粒を少量含む。  
かたくしまり、粘性を有す。黄褐色土を全体にブロック状に含む。全体的に層状に崩れた層。2次堆積土。遺物含む。  
しまりがあり、粘性を有す。一部に上部の黒褐色土を含む。鉄分が硬状に入る。遺物含む。  
粘性を有し、砂が混じる。西側にいくほど色調に黄が強くなる。

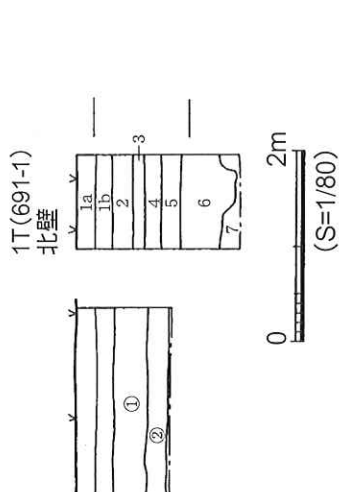


写真45 調査地点18 2T (692-1)土層堆積状況



写真44 調査地点18近景 (東から)



写真46 調査地点18 1T (693-1)土層堆積状況

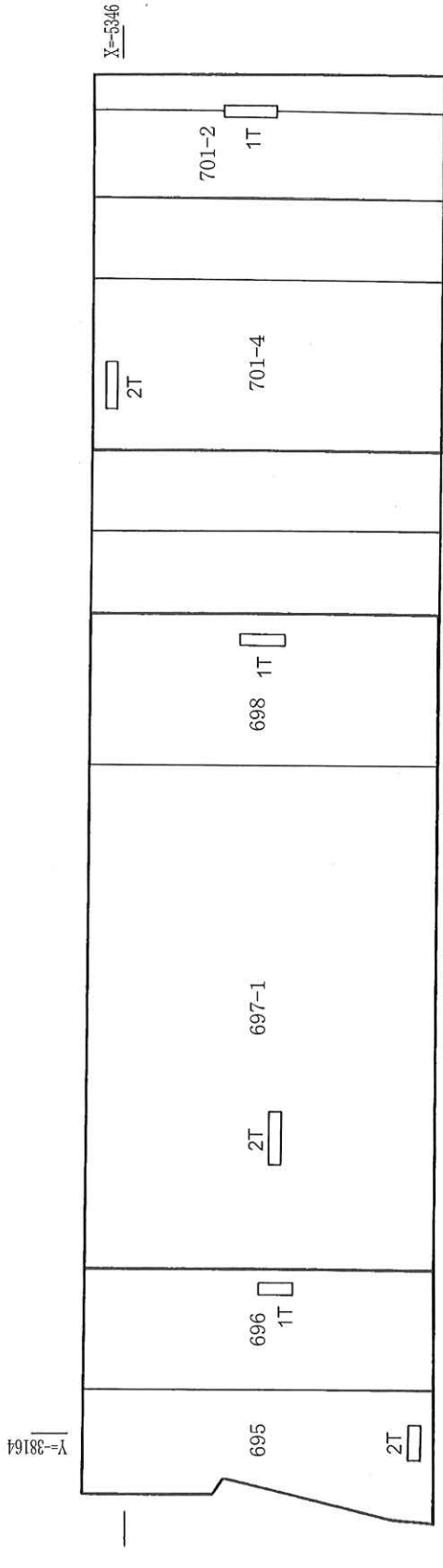


写真47 調査地点18 3T (694)土層堆積状況



写真48 調査地点18 2T (692-1)土層堆積状況

第49図 調査地点18 土層断面図②



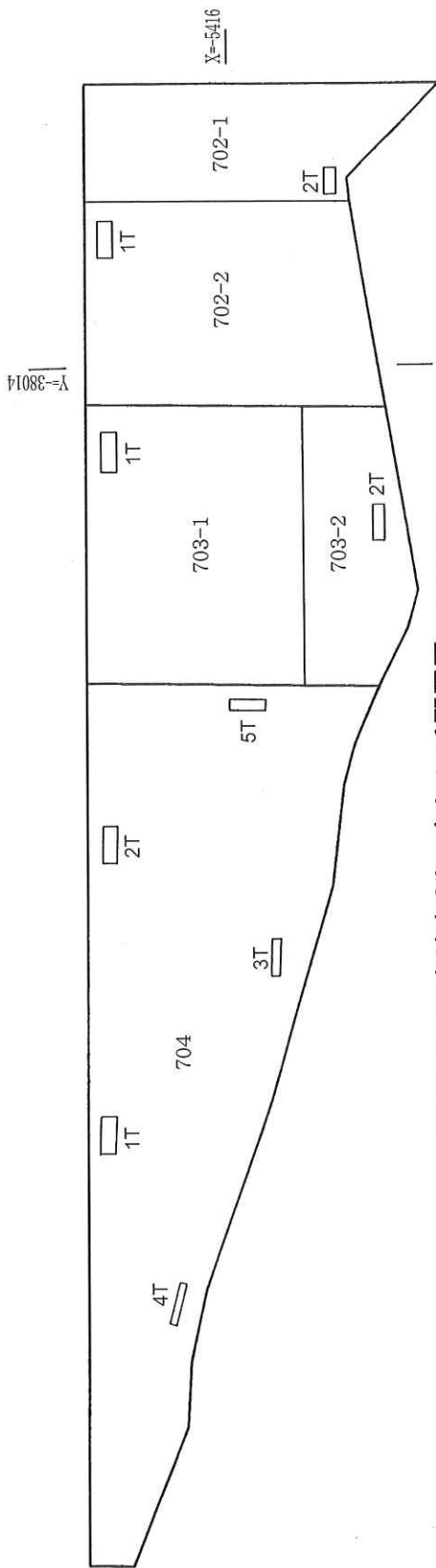
第50図 調査地点19 トレンチ配置図 S=1/1,000

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p>2T (695) 北壁<br/>H=7.0m<br/>1a<br/>2<br/>3<br/>4<br/>5<br/>6<br/>7<br/>8</p> <p>1T (696) 西壁<br/>H=6.0m<br/>1a<br/>2<br/>3<br/>4<br/>5<br/>6<br/>7<br/>8</p> <p>2T (697-1) 北壁<br/>1<br/>2<br/>3<br/>4<br/>5<br/>6<br/>7</p> <p>1T (698) 西壁<br/>1<br/>2<br/>3<br/>4<br/>5<br/>6<br/>7<br/>9</p> <p>2T (701-4) 北壁<br/>1a<br/>1b<br/>2<br/>3<br/>4<br/>5<br/>6<br/>7</p> <p>1T (701-2) 西壁<br/>1a<br/>1b<br/>2<br/>3<br/>4<br/>5<br/>6<br/>7</p> | <p>2T (697-1) 1 表土及び水田床土。<br/>2 灰黄褐色土 (10YR4/2)</p> <p>3 暗褐色土 (10YR3/3)</p> <p>4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)</p> <p>5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)</p> <p>1T (698) 1a 表土。<br/>1b 水田床土。<br/>2 灰黄褐色土 (10YR4/2)</p> <p>3 灰黄褐色土 (10YR4/2)</p> <p>4 灰黄褐色土 (10YR4/2)</p> <p>5 灰黄褐色土 (10YR4/2)</p> <p>6 灰黄褐色土 (10YR4/2)</p> <p>7 灰黄褐色土 (10YR4/2)</p> <p>8 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3)</p> <p>9 褐色土 (10YR4/4)</p> <p>1T (701-2) 1a 表土。<br/>2T (701-4) 1b 旧耕作土。<br/>2 灰オリーブ土 (5Y5/2)</p> <p>3 灰オリーブ土 (5Y4/2)</p> <p>4 灰色土 (5Y4/1)</p> <p>5 暗オリーブ土 (5Y4/3)</p> <p>6 オリーブ黒色土 (5Y3/2)</p> <p>7 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)</p> | <p>しまりがあり、粘性ほとんど有しない。マンガン・酸化鉄の粒子を全体に含む。微量の煤土・炭化物を含む。旧耕作土。<br/>しまりがあり、やや粘性を有す。マンガン粒子を全体に多く含む。土器片を少量含む。<br/>しまりがあり、やや粘性を有す。マンガン粒子を全体に多く含む。<br/>しまりがあり、粘性ほとんど有しない。酸化鉄をシミ状に全体に含む。部分的にマンガン粒子をわずかに含む。酸化鉄を含むため、やや黄色みを帯びる。<br/>しまりがあり、粘性を有す。マンガンの粒子を全体にまばらに含む。微量の煤土を含む。<br/>しまりがあり、粘性を有す。マンガンの粒子を全体にまばらに含む (3よりやや多い)。<br/>しまりがあり、粘性を有す。マンガン・酸化鉄の粒子を全体に含む。若干色調暗い。<br/>しまりがあり、粘性を有す。酸化鉄を全体に含むが、マンガン粒子はほとんど確認できない。<br/>しまりがあり、粘性を有す。マンガン・酸化鉄の粒子を全体にまばらに含む。<br/>しまりがあり、粘性を有す。酸化鉄、マンガンの粒子を全体にまばらに含む。<br/>しまりがあり、粘性を有す。酸化鉄 (シミ状)、マンガン (粗い粒状) を多量に含む。ペースは暗オリーブ褐色。<br/>あまりしまらず、わずかに粘性を有す。砂粒少量混入。マンガン粒を粒状に少量含む。<br/>ややしまり強く、粘性を有す。マンガン粒を粒状にやや多く含む。<br/>3よりしまり強く、強い粘性を有す。マンガン粒を少量含む。<br/>あまりしまらず、強い粘性を有す。マンガン粒はシミ状にやや含む。<br/>ややしまり、強い粘性を有す。マンガン粒をシミ状に含む。<br/>6よりしまり強く、粘性を有す。マンガン粒をシミ状に6より多く含む。</p> |
|---|--|--|

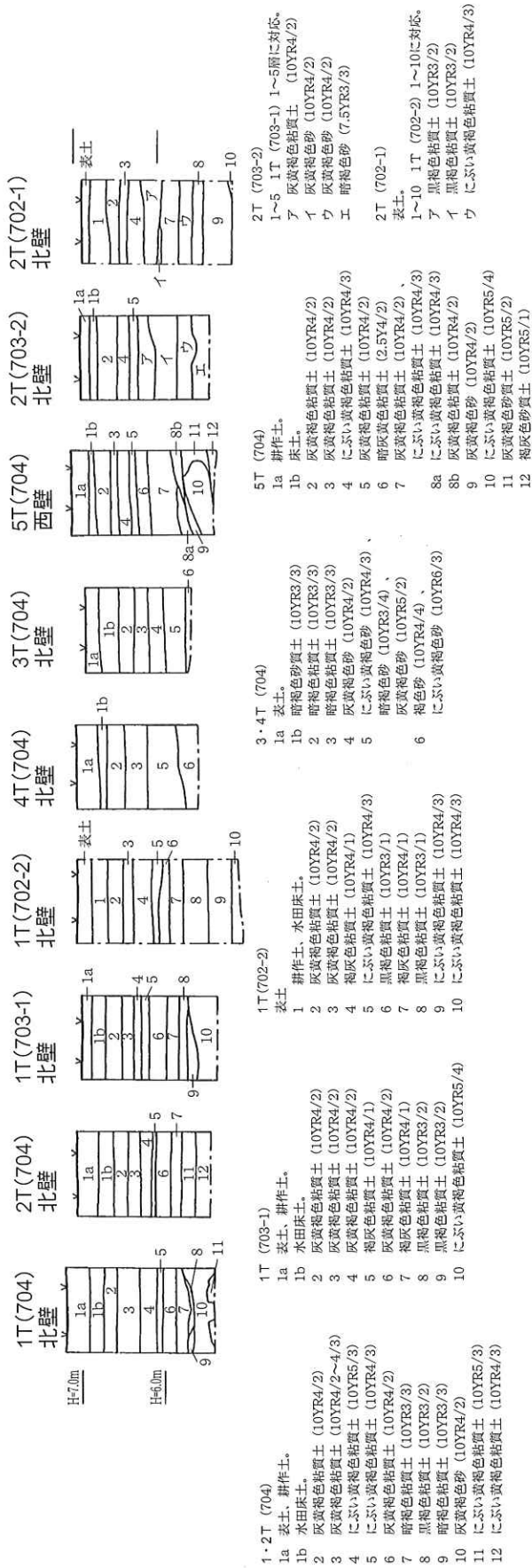


第51図 調査地点19 土層断面図



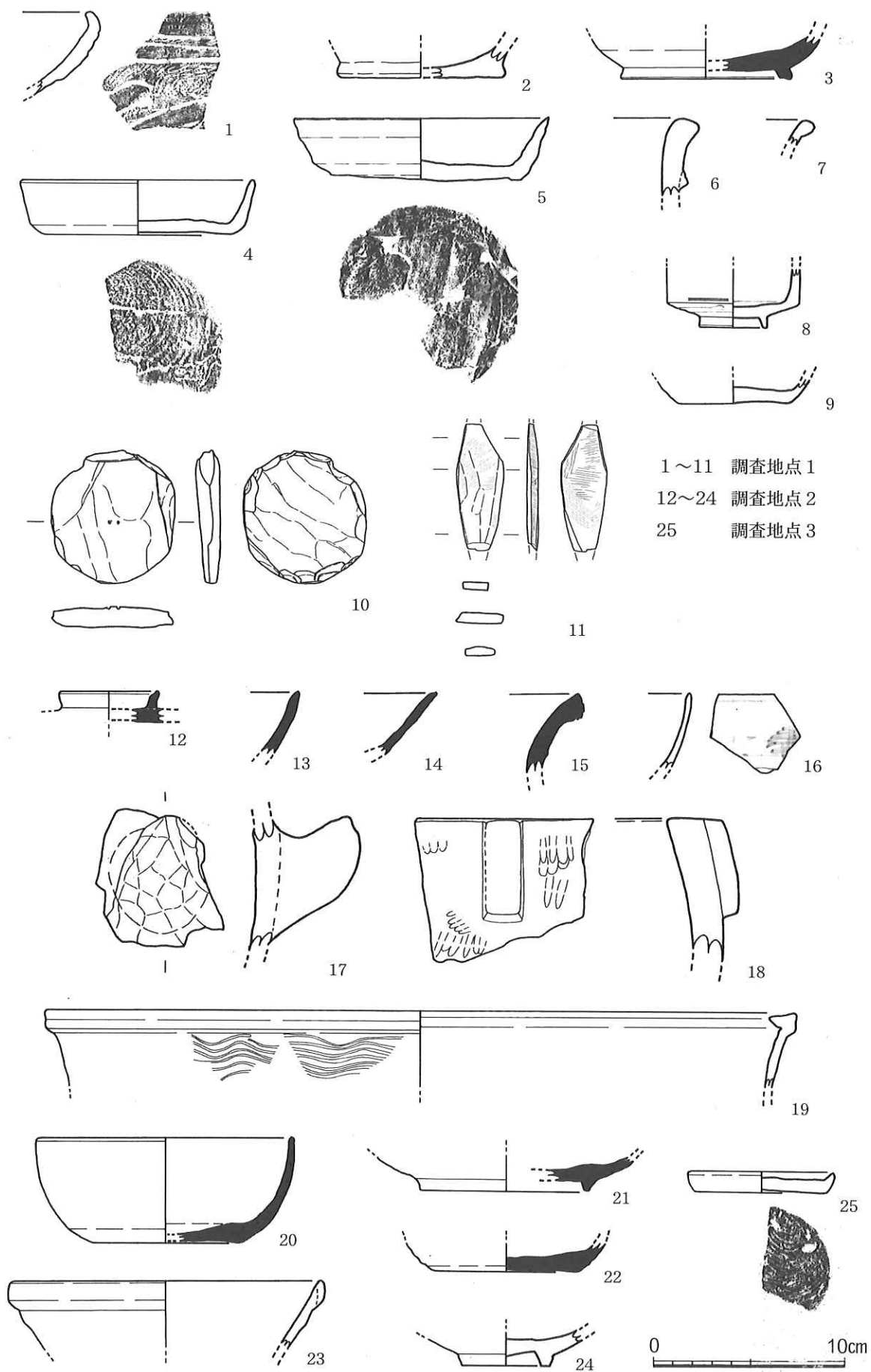


第52図 調査地点20 トレンチ配置図 S=1/1,000



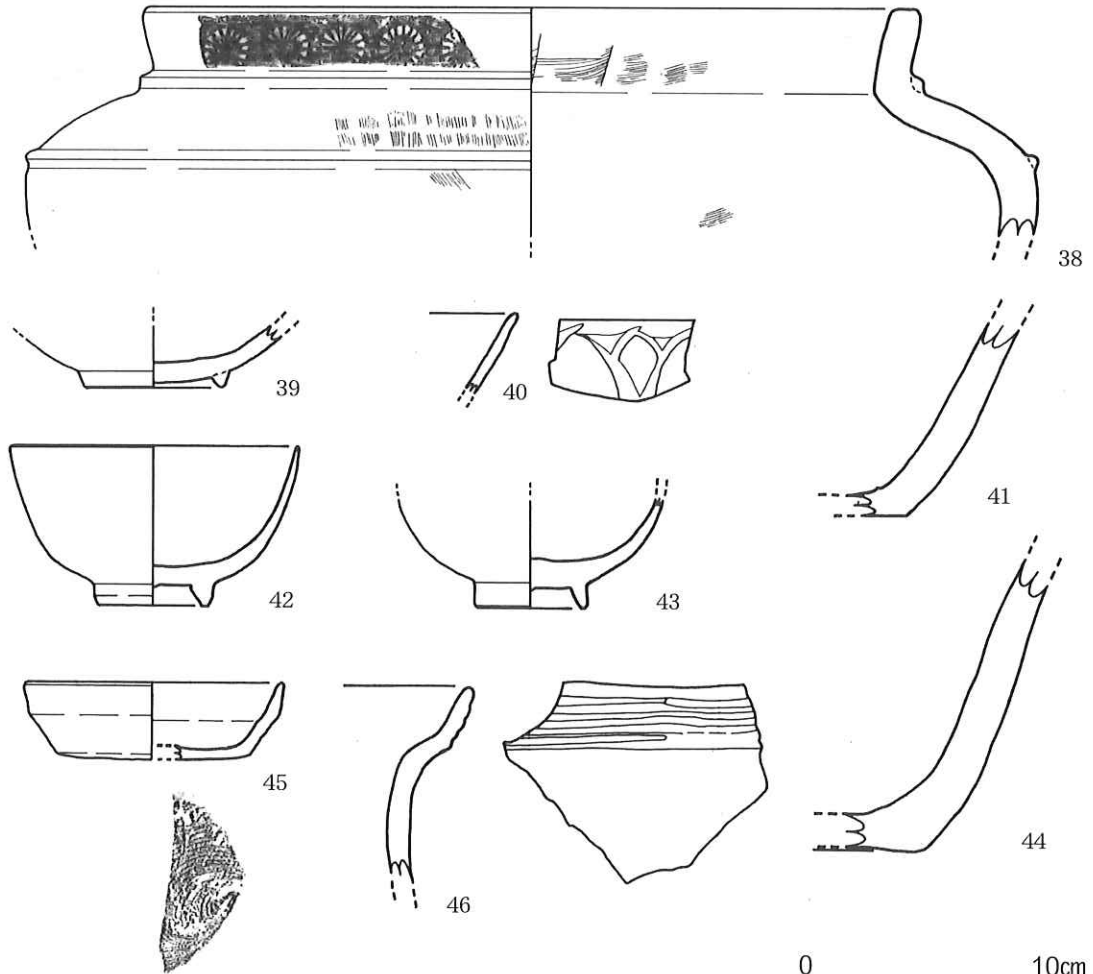
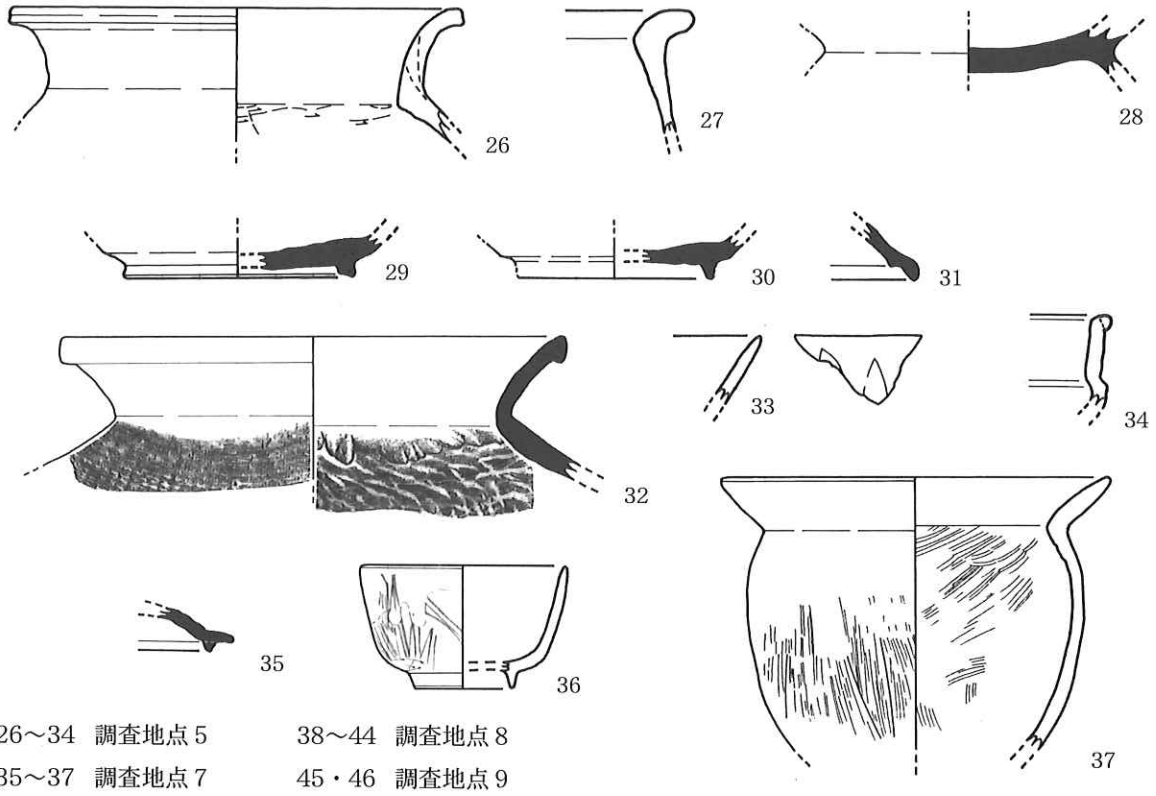
第53図 調査地点20 土層断面図

II 平成19年度の調査



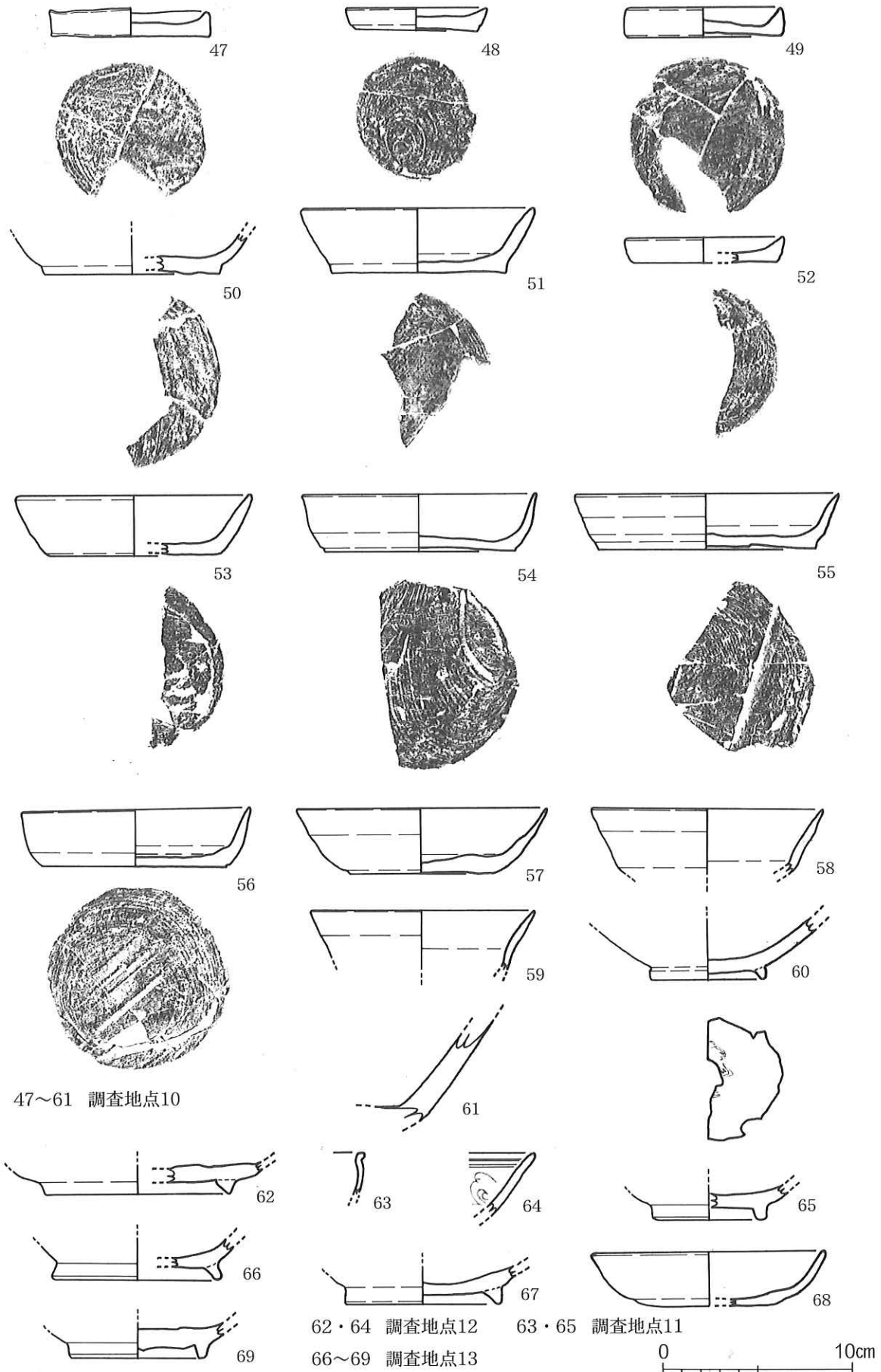
第54図 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡出土遺物実測図①

II 平成19年度の調査



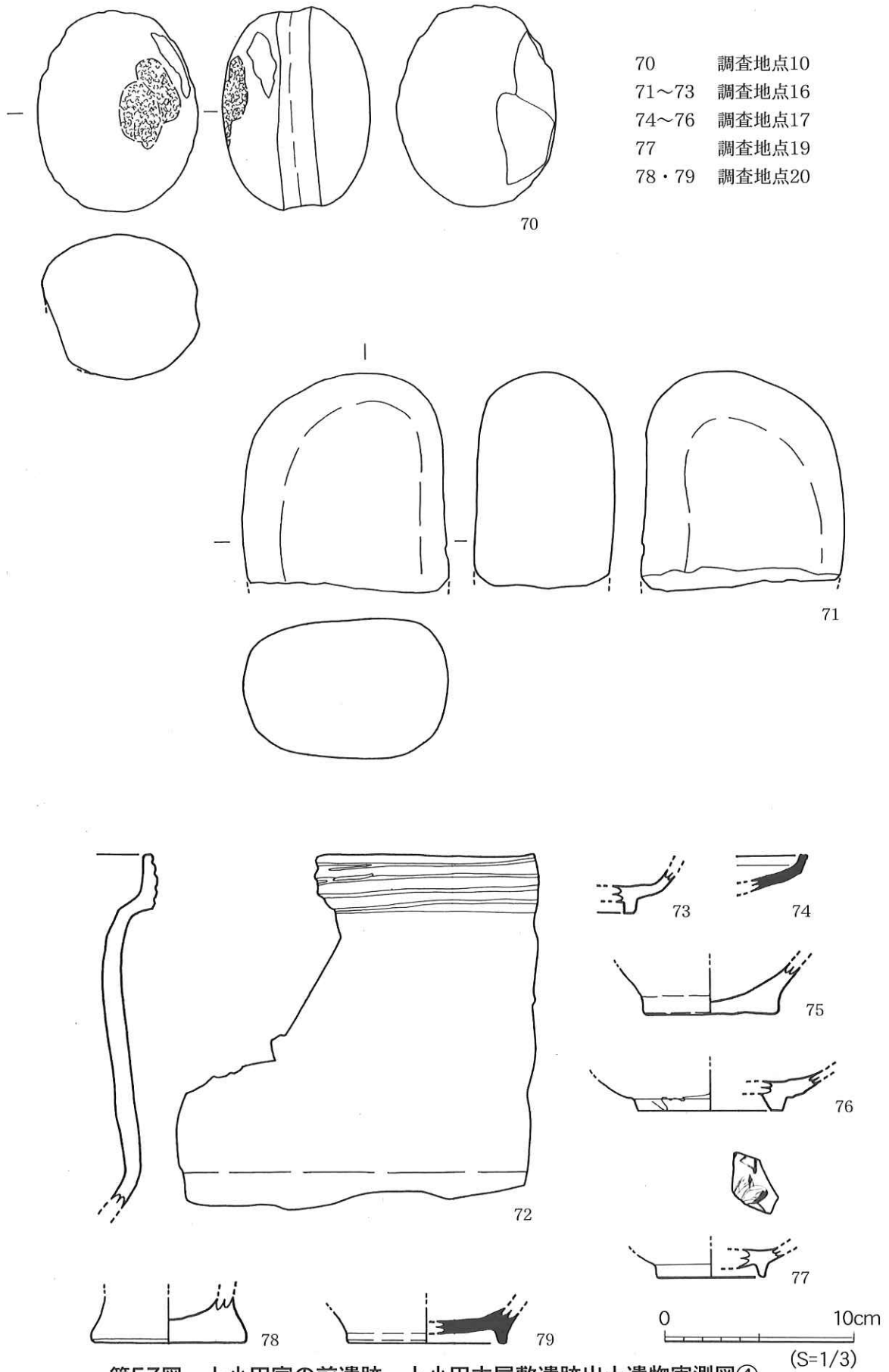
第55図 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡出土遺物実測図② (S=1/3)

II 平成19年度の調査



第56図 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡出土遺物実測図③ (S=1/3)

II 平成19年度の調査



第57図 上小田宮の前遺跡・上小田古屋敷遺跡出土遺物実測図④

## 2 南大門遺跡

所在地：築地2147-1

調査原因：門建設

対象面積：3,499m<sup>2</sup>

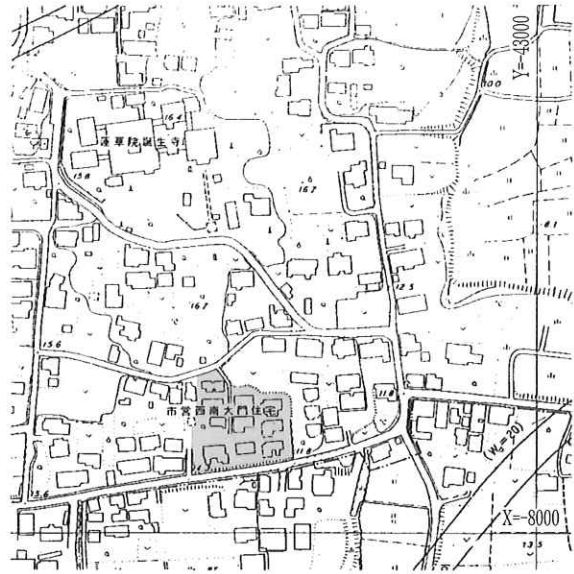
調査期間：平成19年4月27日

担当者：末永 崇

当該地は、小代山から南に延びる低丘陵上に位置する、標高約17mの地点である。調査地及び周辺は、中世の寺院である浄光寺の範囲であり、調査地点は浄光寺の南大門跡に推定されている。敷地内は昭和30年代に市営住宅建設に伴い箱式石棺などが調査されている。

調査では、建物建設予定範囲に1～4トレンチを設定し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。敷地内の表土は、コンクリートブロックなどの建築廃材を多く含み、西南大門住宅の解体後の整地層とみられる。1トレンチの1～13層は、黒褐色土に褐色土をブロック状に混入する層で、堆積状況から、西側から東側へ埋没していったと考えられる。遺物の出土状況は、トレンチの西側（1～5、13層）で瓦片が多く含まれる傾向がある。糸切り底の土師坏と鬼瓦片が出土した。2トレンチでは、表土の直下から、弥生土器を多く含む黒褐色粘性土を検出した。3トレンチでは、表土と1～4層を確認した。表土直下の1層に弥生土器を多く含み、2、3層も土器細片を含んでいる。4層は黄褐色を呈するローム層である。4トレンチでは、表土と1～5層を確認した。1層に土器細片を含んでおり、2層以下は褐色を呈するローム層である。1層上面と2層上面で遺構とみられる小穴を検出した。

また、同じ敷地の南西側の道路との境界部分には、築地塀の建設計画があったため、11月1日に立会調査を行った。掘削される幅



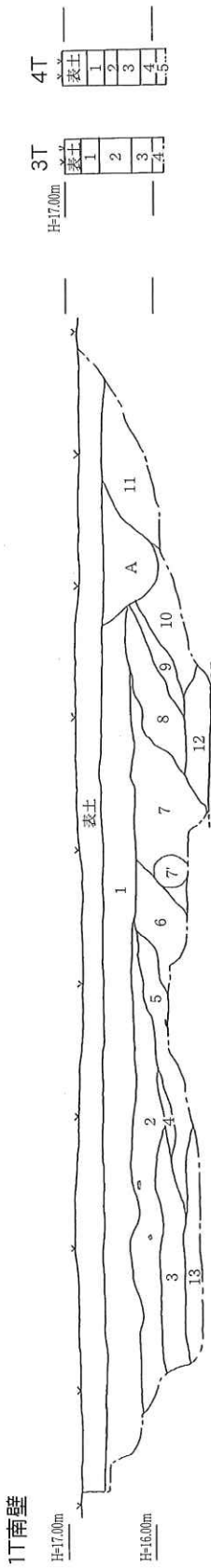
第58図 南大門遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第59図 南大門遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

約1.5m、長さ約30m、深さ5cmほどの範囲を確認した。全体の中央から北側は明褐色を呈するローム層であり、土坑を2基検出した。中央から南側は暗褐色を呈する粘性土であり、住居跡と考えられる。覆土中から弥生時代後期の土器片を検出した。





- 1T
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) しまりがあり、やや粘性を有す。暗褐色土をブロック状に少量含む。
  - 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまりがあり、やや粘性を有す。暗褐色土をブロック状に含む。1よりしまらない。
  - 3 黒褐色土 (10YR3/2) ややしまり、やや粘性を有す。褐色砂を含む。
  - 4 黄褐色土 (10YR5/8) ややしまり、弱い粘性を有す。褐色砂を含む。
  - 5 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまり、弱い粘性を有す。土器、瓦、炭化物を多く含む。
  - 6 黒褐色土 (10YR3/2) ややしまり、粘性を有しない、やや砂質。褐色土(10YR4/4)との混土。
  - 7 黒褐色土 (10YR3/2) ややしまり、粘性を有しない。
  - 7' は黒褐色土(粘性なし、サラサラ)をブロック状に含む。
  - 8 明黄褐色土 (10YR6/8) ややしまり、粘性を有しない。黒褐色土が繊維状に入る。褐色粒を含む。
  - 9 黒褐色土 (10YR2/2) ややしまり、粘性を有しない。褐色粒少量含む。
  - 10 黒褐色土 (10YR2/2) ややしまり、弱い粘性を有す。褐色土(10YR6/8)との混土。
  - 11 黒褐色土 (10YR2/2) ややしまり、粘性を有しない。褐色土を粒状に含む。
  - 12 黒褐色土 (10YR2/2) しまりが強く、弱い粘性を有す。褐色土(10YR4/6)との混土。
  - 13 暗褐色土 (10YR3/3) しまりが強く、粘性を有しない。混入物なく、サクサクとした土質。
  - A 暗褐色土 (10YR3/3)
- 3T
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 強くしまり、粘性を有す。土器片多く含む。炭化物少量含む。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。土器片、炭化物を含む。
  - 3 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。土器片とみられる褐色粒、ごく少量含む。炭化物を含む。
  - 4 にぶい褐色土 (10YR5/4) しまりがあり、粘性を有す。ローム質の無遺物層。
- 4T
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 強くしまり、粘性を有す。土器片多く含む。炭化物少量含む。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、弱い粘性を有す。無遺物層。
  - 3 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがあり、弱い粘性を有す。2層よりやや明るい。無遺物層。
  - 4 黒褐色土 (10YR3/2) しまりがあり、粘性を有しない。上層よりやや暗る。無遺物層。
  - 5 にぶい褐色土 (10YR5/4) しまりがあり、粘性を有す。ローム質の無遺物層。



第60図 南大門遺跡土層断面図



写真49 南大門遺跡調査地近景 (南東から)



写真50 南大門遺跡1T土層堆積状況

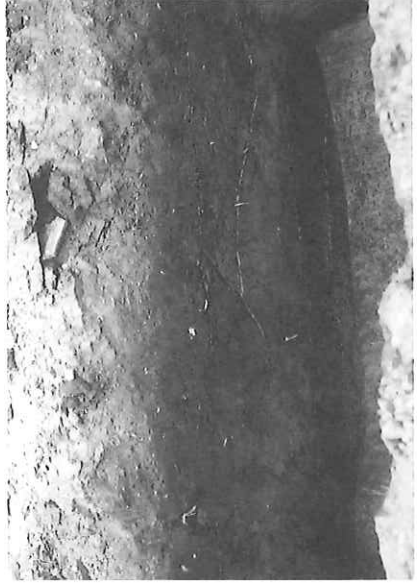
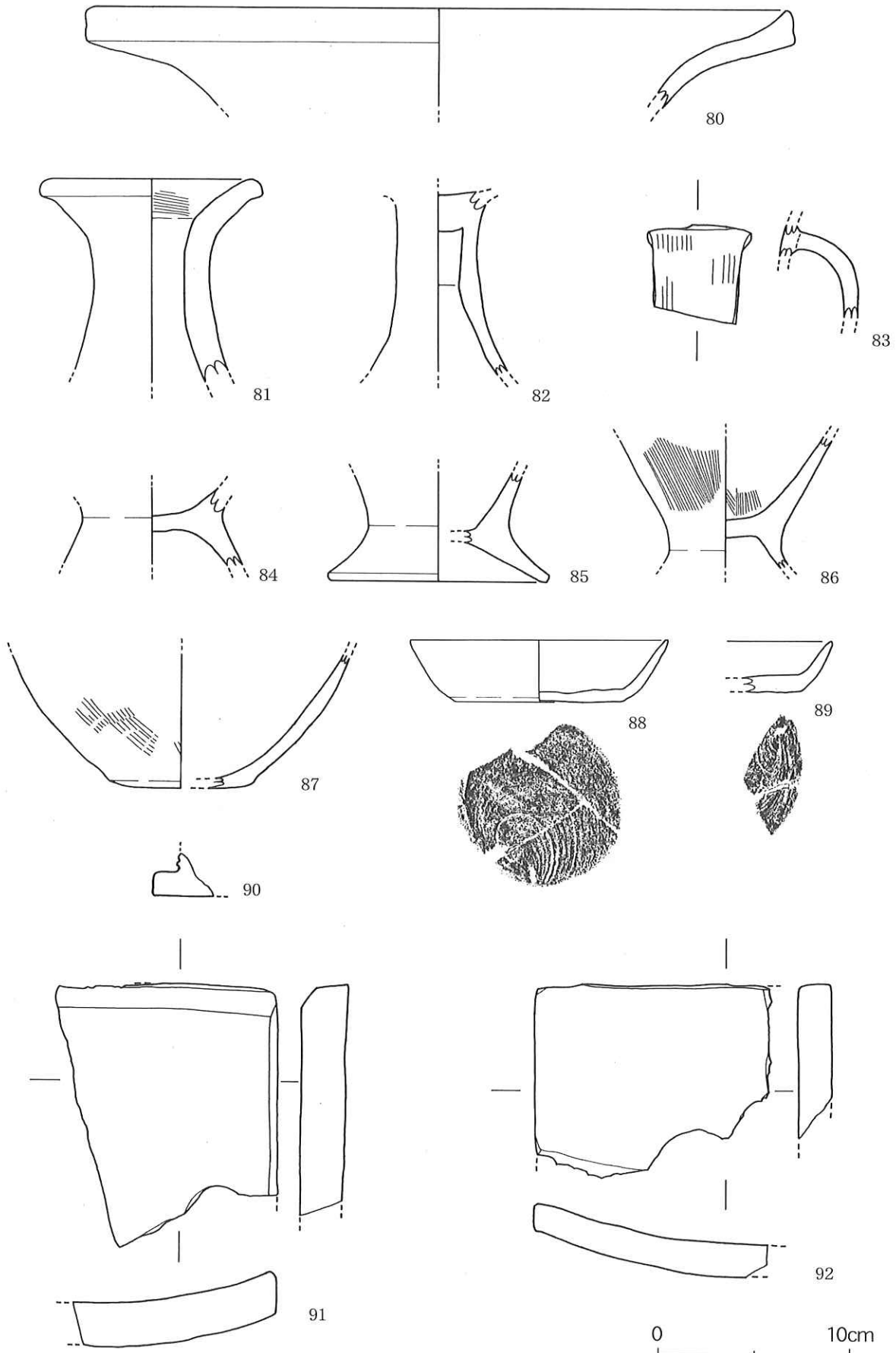
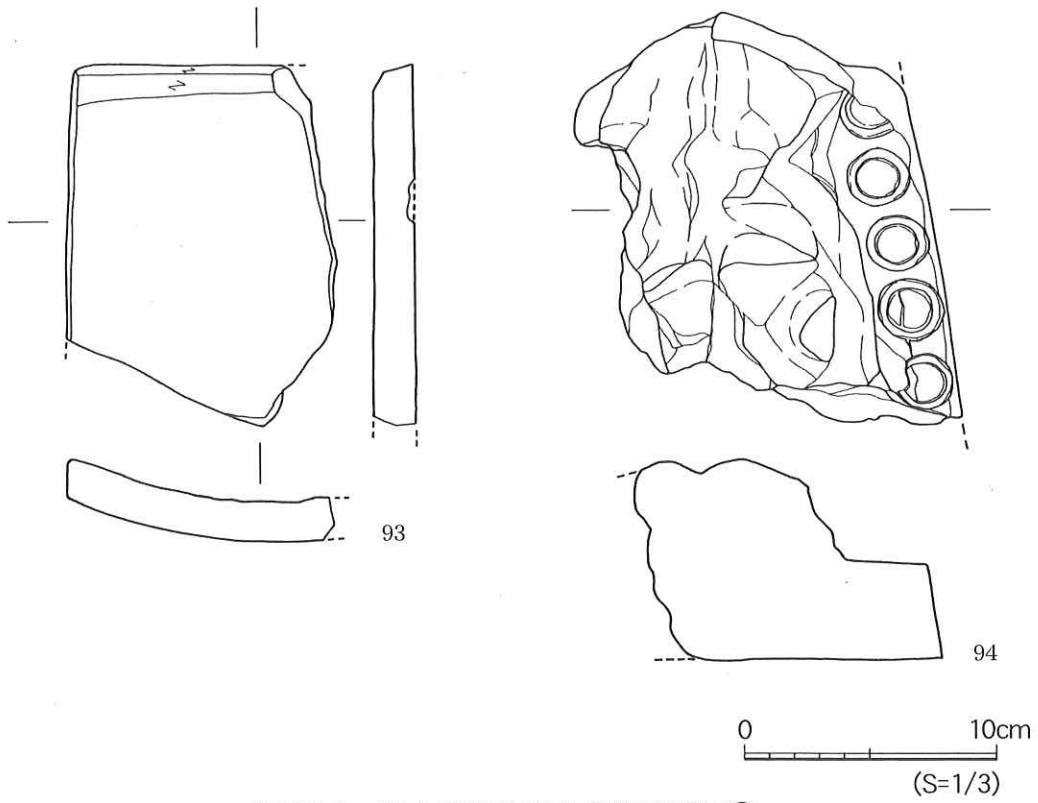


写真51 南大門遺跡4T土層堆積状況

II 平成19年度の調査



第61図 南大門遺跡出土遺物実測図①



第62図 南大門遺跡出土遺物実測図②

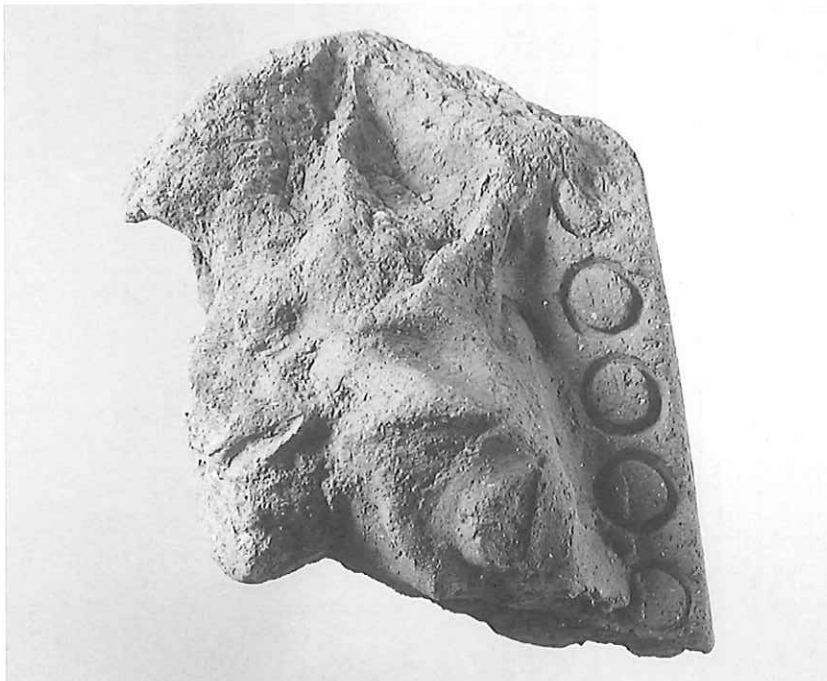


写真52 南大門遺跡出土鬼瓦

### 3 山下前畑遺跡

所在地：岱明町山下字前畑203-1

調査原因：共同住宅建設

対象面積：942m<sup>2</sup>

調査期間：平成19年5月7日

担当者：田中康雄

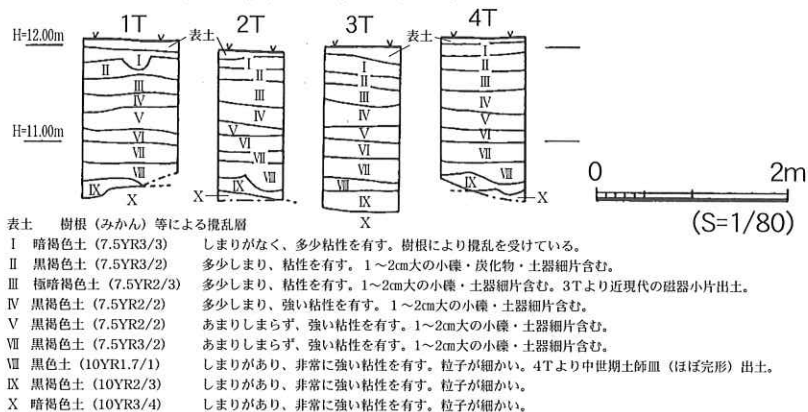
調査地は、玉名市南西部の、三方を河川（北に友田川、東に境川、西に行末川）に囲まれた台地上の標高約12mの地点に位置する畑地である。

今回の調査は、共同住宅建設に伴うものであるが、建物部分について、現地表面から1.3mの深度まで地盤改良を行うため、この部分についてトレンチを5箇所設定して調査を行った。

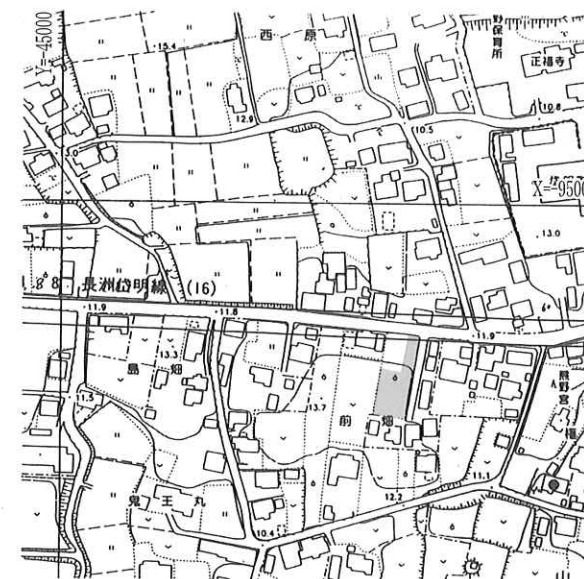
1～4トレンチでは、土層・遺構・遺物の確認を行い、5トレンチでは、遺構・遺物の確認を行った。各トレンチとも、1～2cm大の土器細片が多少確認され、また、4トレンチⅧ層よりほぼ完形の土師器（皿）1点が出土したが、各トレンチとも遺構は確認されなかった。

調査の結果、当地においては、わずかに埋蔵文化財が確認されたが、大部分が土器細片であり、器種の確認が可能な遺物は4トレンチⅧ層出土の土師器（皿）のみであった。また、遺構も確認されなかった。

調査後の措置は慎重工事である。



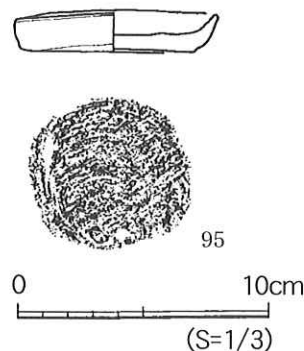
第65図 山下前畑遺跡土層断面図



第63図 山下前畑遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第64図 山下前畑遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



第66図 山下前畑遺跡出土遺物実測図

#### 4 河崎工場関連施設建設予定地

所在地：河崎字東原587-1

調査原因：緑地・駐車場造成

対象面積：569.46㎡

調査期間：平成19年5月18日

担当者：田中康雄

調査地は、玉名市中央部に位置する、玉名平野中央やや南よりの、菊池川右岸自然堤防上の標高約6mの地点である。

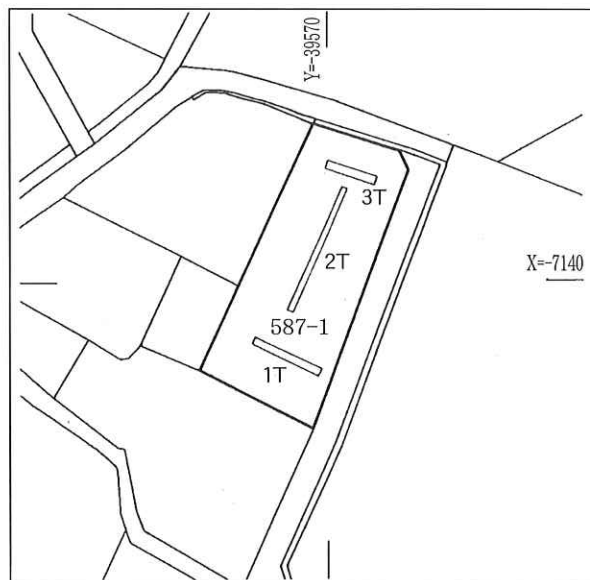
今回の調査では、調査対象地に3箇所のトレンチを設定し、施工において影響がおよぶと考えられる範囲について埋蔵文化財の有無を確認した。

調査の結果、畑地造成に伴う客土（I層）下に、それぞれ砂層に覆われた畑の畝を2面確認した。3トレンチでI層下に現代の井戸の痕跡が確認されたことから、上面の畝は現代のものと判断した。下層の畝については、遺物が確認されていないため時期不明であるが、おそらく現代かそれに近い時期のものと想定される。両者とも、菊池川に隣接する立地から、洪水等の影響を受け、全体的に砂層に覆われたものと考えられる。

このような結果から、施工において影響がおよぶ範囲については、埋蔵文化財は所在していないと判断した。



第67図 河崎工場関連施設建設予定地調査地位置図 S=1/5,000



第68図 河崎工場関連施設建設予定地トレンチ配置図 S=1/1,000



- |                      |  |
|----------------------|--|
| I 暗褐色砂質土 (10YR3/3)   | わずかにしまり、わずかに粘性を有す。粒子が細かい。客土、畑地を造成した際の盛土。 |
| II 褐色砂 (10YR4/4)     | しまりなく、粘性を有しない。雲母を含む。粒子がやや粗い。             |
| III 暗褐色粘性土 (10YR3/3) | ややしまり、強い粘性を有す。細かい雲母片を多く含む。               |
| ① 暗褐色粘性土 (10YR3/3)   | しまりのないIII層土。III層土を畝として盛ったものと考えられる。       |
| ② にぶい黄褐色砂 (10YR4/3)  | しまりなく、粘性を有しない。                           |



第69図 河崎工場関連施設建設予定地土層断面図 (S=1/80)

### 5 高岡原遺跡A地点

所在地：山田2004-2,2010-4,2010-5

調査原因：調査依頼

対象面積：907m<sup>2</sup>

調査期間：平成19年6月6日～6月7日

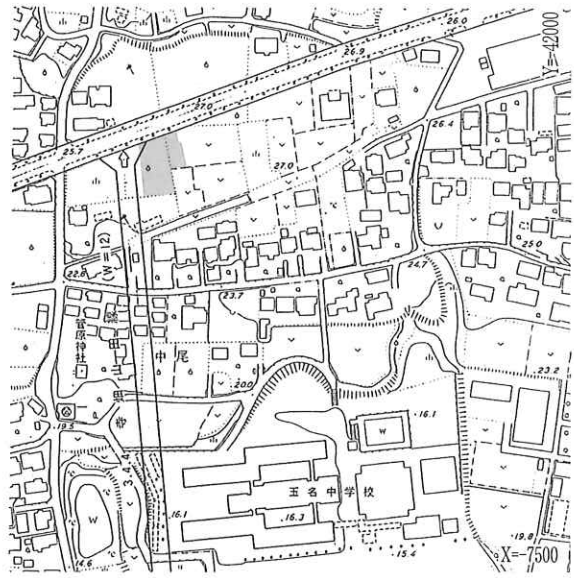
担当者：荒木隆宏

当該地は、小代山麓丘陵南に広がる玉名台地上に位置する、標高27m程の地点である。周辺一帯は果樹園や畑として利用されていたが、近年都市計画道路（築地立願寺線）の開通後、急速に開発が進んでいる。当該地は過去桑畑として利用されており、現在は若干の盛土を行い宅地として造成されている。なお、東側隣接地は平成11年度に発掘調査が行われ、弥生時代の竪穴住居址1基、土坑3基、ピット13基が検出されている<sup>(1)</sup>。また道路を挟んだ北側隣接地でも同年11月に発掘調査が行われ、古代～中世の遺物が出土し溝状遺構、土坑、ピットが検出されている<sup>(2)</sup>。

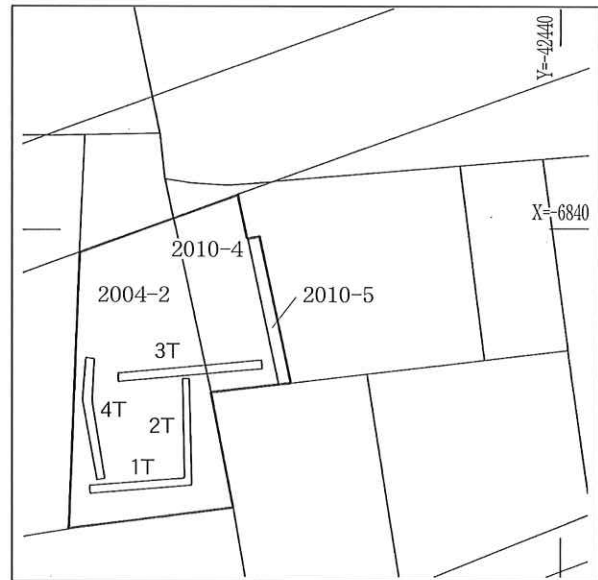
今回、調査依頼に基づき、建物建築の計画位置に4本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。土層堆積はⅠ～Ⅵ層を確認し、Ⅰ層は盛土の山砂、Ⅱ層・Ⅲ層は耕作土層、Ⅳ～Ⅵ層は粘質を帯びた褐色土層で無遺物層であると判断した。出土遺物は主にⅡ層から出土し、弥生～古代に若干の中・近世の遺物が混じる状況であったが、いずれも小破片でローリングを受け摩滅している。遺構は竪穴住居址1基、土坑4基、ピット6基を検出した。今回は遺構検出にとどめ掘り下げていないが、一部の遺構覆土中から弥生土器片が出土しており弥生時代に属するものと考えられる。

註(1) 田中康雄「6 高岡原遺跡(D地点)」『玉名市内遺跡調査報告書Ⅰ』玉名市文化財調査報告第11集 玉名市教育委員会 2002

(2) 末永 崇「5 高岡原遺跡(C地点)」『玉名市内遺跡調査報告書Ⅰ』玉名市文化財調査報告第11集 玉名市教育委員会 2002



第70図 高岡原遺跡A地点調査地位置図 S=1/5,000



第71図 高岡原遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000

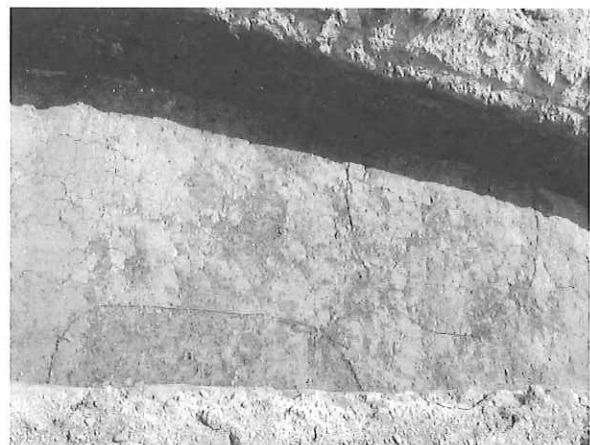
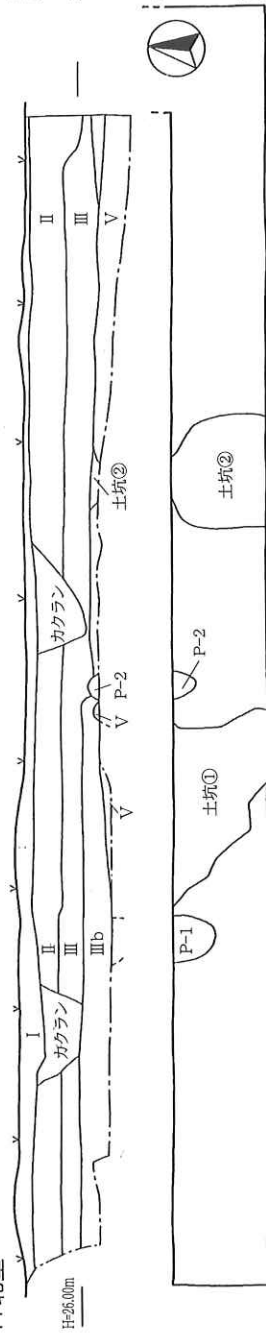


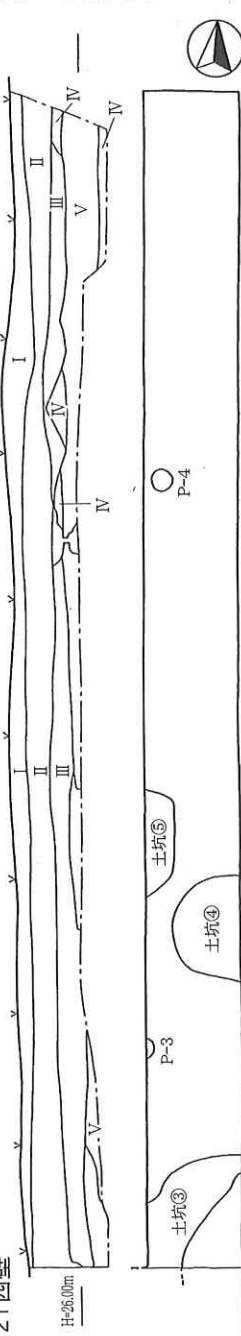
写真53 高岡原遺跡A地点2T遺構検出状況



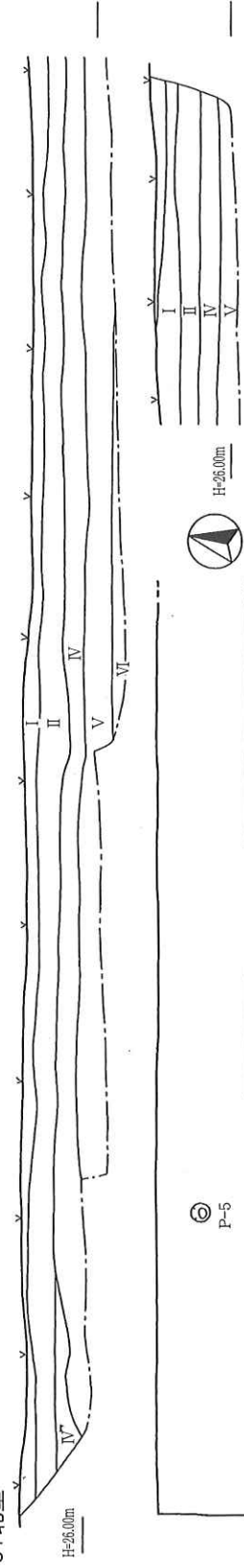
1T北壁



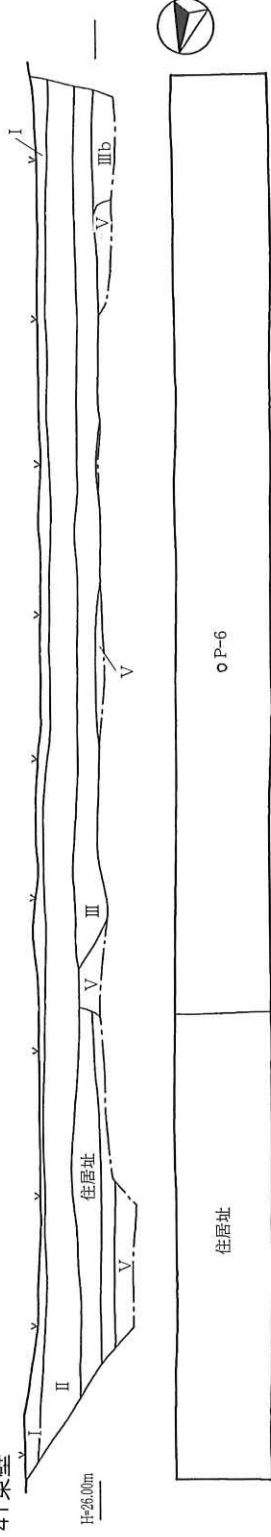
2T西壁



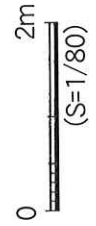
3T北壁



4T東壁



- I 砂 盛土層、  
にぶい褐色土 (7.5Y5/4)
  - II 黒褐色土 (7.5YR3/2)
  - III 灰褐色土 (7.5YR4/3)
  - IIIb 灰褐色土 (7.5YR4/3)
  - IV 褐色土 (7.5YR4/3)
  - IV 暗褐色土 (7.5YR3/3)
  - V 褐色土 (7.5YR4/4)
  - VI 褐色土 (7.5YR4/6)
  - P-1・3・土坑③ 暗褐色土 (7.5YR3/3)
  - 土坑①、②、③、P-2 暗褐色土 (7.5YR3/3)
  - 土坑⑤ 暗褐色土 (7.5YR3/3)
  - P-4・6 暗褐色土 (7.5YR3/3)
  - P-5 暗褐色土 (7.5YR3/3)
  - 住居址 暗褐色土 (7.5YR3/3)
- 拵作土層、粘性なく乾硬し、かたくしめる。  
砂状地夾層物が多い、弥生~近世の遺物を含む。  
田耕作土、かたくしめる。微細な炭化物粒の他、  
細かく破砕された土器片をわずかに含む。全体  
に径1mm以下の褐色土がブロック状に混じる。  
石灰岩等の砂粒が混じりII層と共通する夾層物あり。  
田耕作土層、III層に近似する、III層より砂粒は  
少ないが構成は同じ、全体に径2mm以下の褐色  
土がブロック状に混じる。微細な炭化物に他、  
細かく破砕された土器片をわずかに含む。  
ローム層、無遺物層、やや粘質。  
固くしまり、やや粘性を有する。石灰岩、  
石灰等の砂粒が混じる。  
ローム層、無遺物層、やや粘質。  
ローム層、無遺物層、粘質。  
の炭化物、粘土片を含む。また細かな土器片を含む。  
しまりがあり、粘性を有しない。全体に2mm以下  
の炭化物、粘土片を含む。また細かな土器片を含む。  
全体に炭化物、粘土を多量に含む。微量の炭化物を含む。  
全体に炭化物、粘土を多量に含む。弥生土器片出土。  
かたくしめる。1mm以下の粘土、炭化物粒を全体に含む。  
1~2mmの炭化物をわずかに含む。弥生土器片出土。  
しまりがあり、やや粘性を有する。土層には砂粒が混じる。  
下部部分に粘土、炭化物が多量に集中して堆積する。



第72図 高岡原遺跡A地点トレンチ実測図

## 6 立願寺廃寺

所在地：立願寺1210-1

調査原因：調査依頼

対象面積：289.53m<sup>2</sup>

調査期間：平成19年6月12日～6月13日

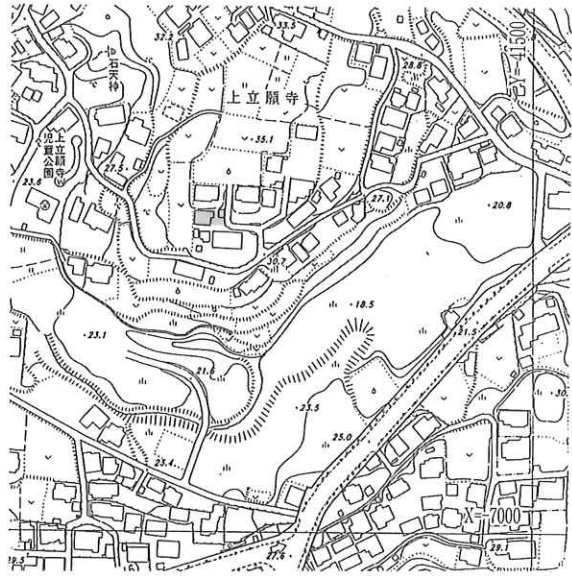
担当者：大倉千寿

調査地は、小代山から南に延びる低丘陵上の、標高35m程の地点である。古代寺院の推定地であり、周辺は過去数回の発掘調査及び確認調査が行われている。また、調査地は平成5年の市史編纂に伴う発掘調査において、南門があったと推定されている<sup>(1)</sup>。

調査依頼に基づき、敷地内に4本のトレンチを設定して埋蔵文化財の状況を確認したところ、I～V層を確認した。I～III層は以前の造成の際の整地層と見られる。IV層は暗褐色を呈する層で、土器小片を少量含む。V層は褐色のローム層である。遺構は1・4トレンチにおいて、古代の瓦を含む東西方向に延びる溝状遺構及びピットを確認した。2トレンチでは、現地表面から約5cm下で両側に溝状遺構を伴う南北方向に延びる硬化面を確認した。3トレンチは、以前の造成に伴い、V層まで削平を受けているが、ここでも2トレンチの続きと考えられる南北方向に延びる硬化面を確認した。

後日、専用住宅の建設に伴い文化財保護法の届出があったが、施工に際しては埋蔵文化財に影響を与えないように設計変更が行われたため、調査後の措置は慎重工事となった。

註(1) 坂田邦洋『玉名郡衙』玉名市歴史資料集成第十二集 1994



第73図 立願寺廃寺調査地位置図 S=1/5,000



第74図 立願寺廃寺トレンチ配置図 S=1/1,000

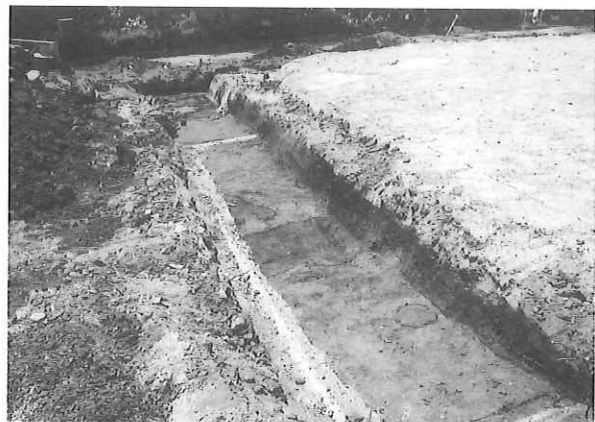
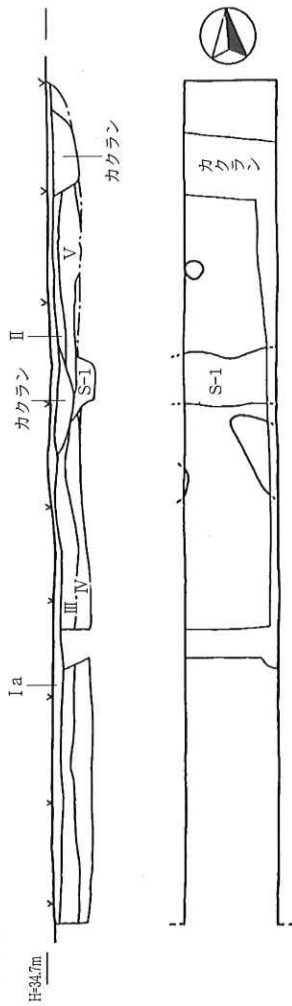
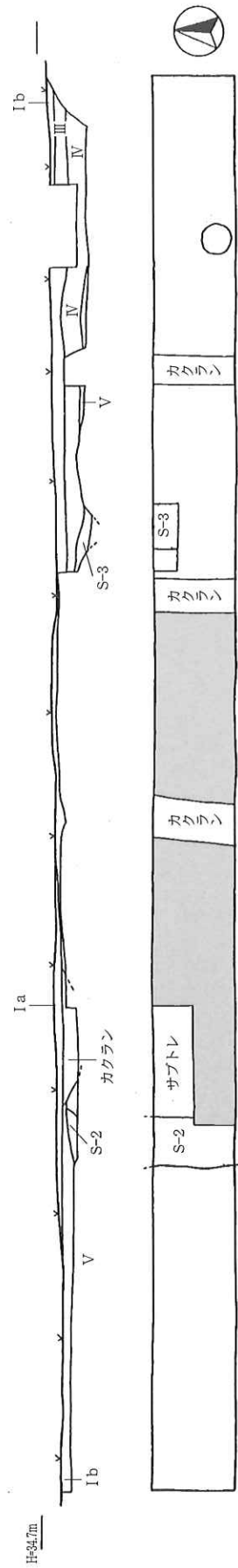


写真54 立願寺廃寺1T遺構検出状況

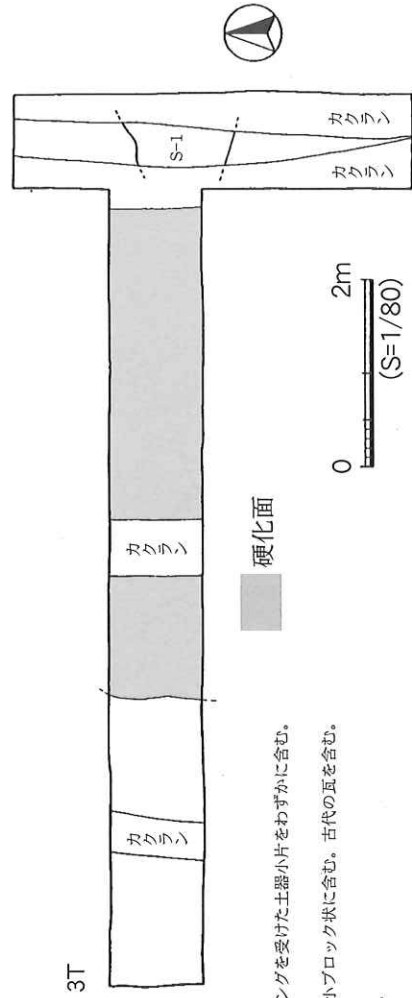
1T西壁



2T北壁

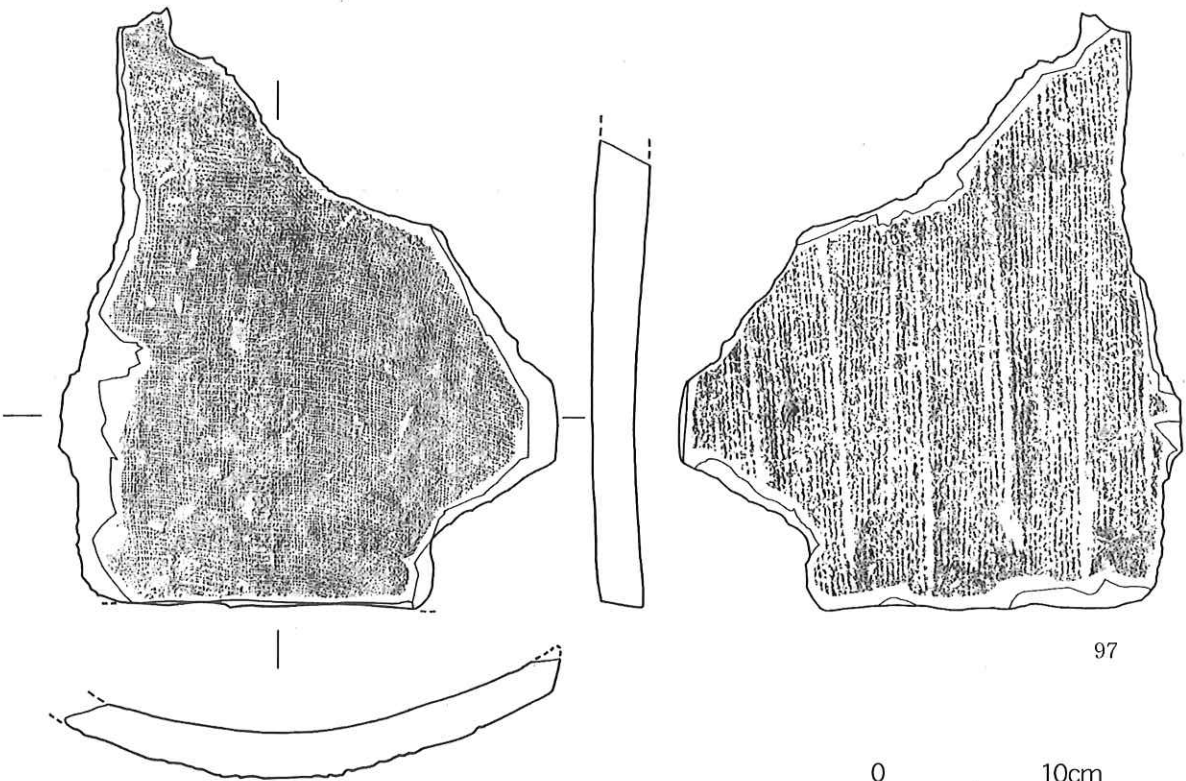
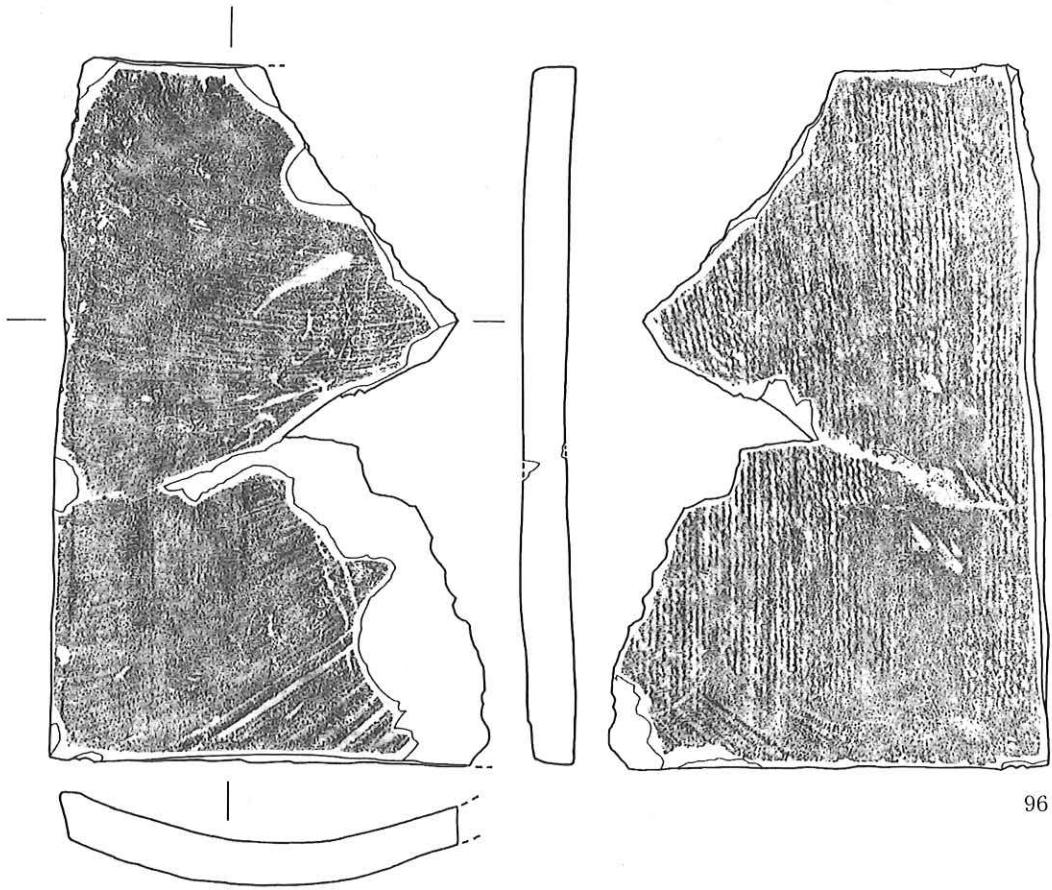


4T



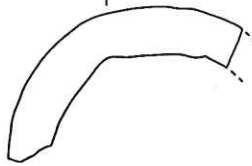
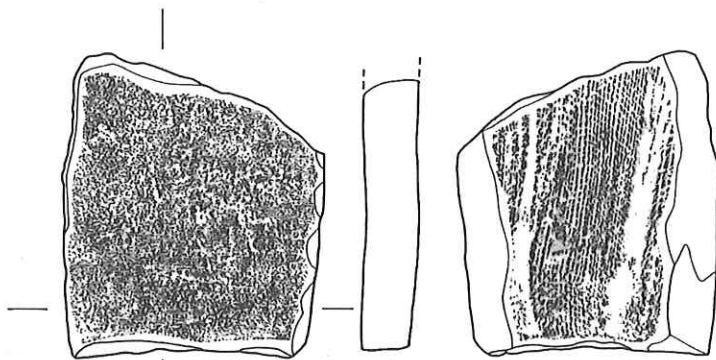
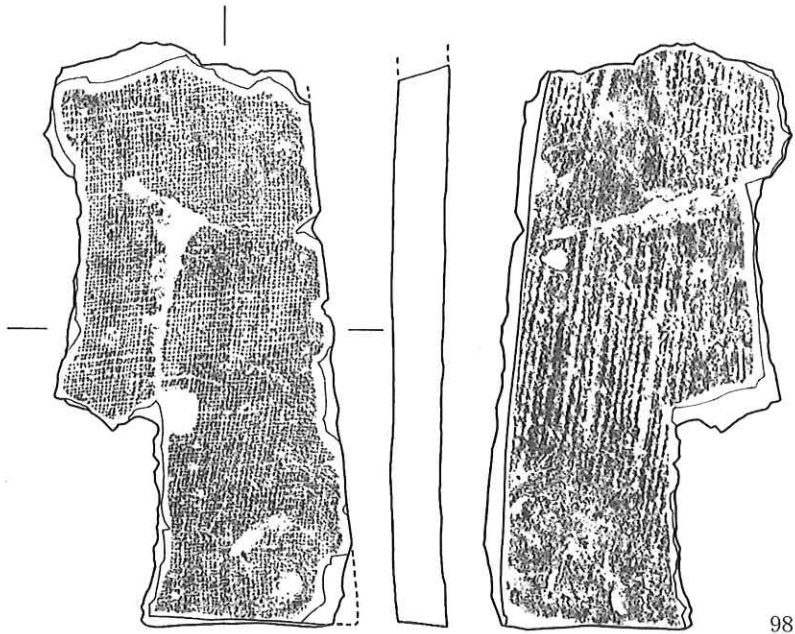
- I a 表土。山砂による盛土。建物建設予定地のみ。
- I b 粘性なし。小礫、バラスを多量に含む。現況の表土。
- II 暗褐色土 (10YR3/4) 非常にしまり、粘性を有しない。
- III 暗褐色土 (10YR3/4) 非常にしまり、粘性を有しない。ビニール等含む。
- ※ II、III層は現代の整地層。
- IV 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。炭化物、焼土をわずかに含む。ローリングを受けた土器小片をわずかに含む。
- V 褐色土 (10YR4/6) しまりがあり、強い粘性を有す。ローム層。
- S-1 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。微量の焼土、炭化物を含む。ロームを小ブロック状に含む。古代の瓦を含む。
- S-2 黒褐色土 (7.5YR3/3) S-3覆土に近似。遺物は確認できなかった。
- S-3 黒褐色土 (7.5YR2/2) ややしまり、やや粘性を有す。炭化物を微量含む。古代の瓦を含む。

第75図 立願寺廃寺トレンチ実測図



0 10cm  
(S=1/4)

第76図 立願寺廃寺出土遺物実測図①



0 10cm  
(S=1/3)

第77図 立願寺廃寺出土遺物実測図②

## 7 横島城跡

所在地：横島町横島2528-1から横島町大園494

調査原因：道路改良工事

対象面積：16,100m<sup>2</sup>

調査期間：平成19年6月27日～7月19日

担当者：中村安宏

当地は、横島丘陵（外平山）の北東斜面に位置し、南東頂部付近は中世の横島城があったとされている。天正16（1588）年の加藤清正入国以来、石塘を中心とした河川改修や干拓が行なわれるが、それまでは、この外平山は海に浮かぶ孤島であり、貝塚などの遺跡が知られ、過去に中世の土師器が丘陵斜面から出土したりしている。

現在、中世城跡の地形的な名残りも明確ではなく、中心がどこであったのかも不明であるが、展望台がある一帯は、御坊ヶ塚ともいわれ、数基の五輪塔が残存している場所がある。中世の頃は、伊倉の湊に出入りする船などの海上交通の目標となっていた場所とも考えられる。

また、調査地の東側には、加藤清正の石塘築堤工事の際に、成功祈禱の経文を埋納したとされる経塚があり、現在、公園として整備されている。

調査では、路線内の8箇所にてトレンチを設定した。なお、確認調査前に踏査を実施したが城の縄張りは確認することができなかった。

1トレンチは丘陵南東頂部付近に設定し、耕作土の下は人頭大の礫を全体的に含む明褐色土であり、城に伴う遺構は検出できなかった。2トレンチは丘陵中腹に設定した。①、②層は、表土及びミカン畑に伴う耕作土であり、②c層から磁器の小片が出土した。③層は黒褐色土～極暗褐色土、④層は褐色土、⑤層は暗褐色土、⑥層は褐色土であり、③～⑥

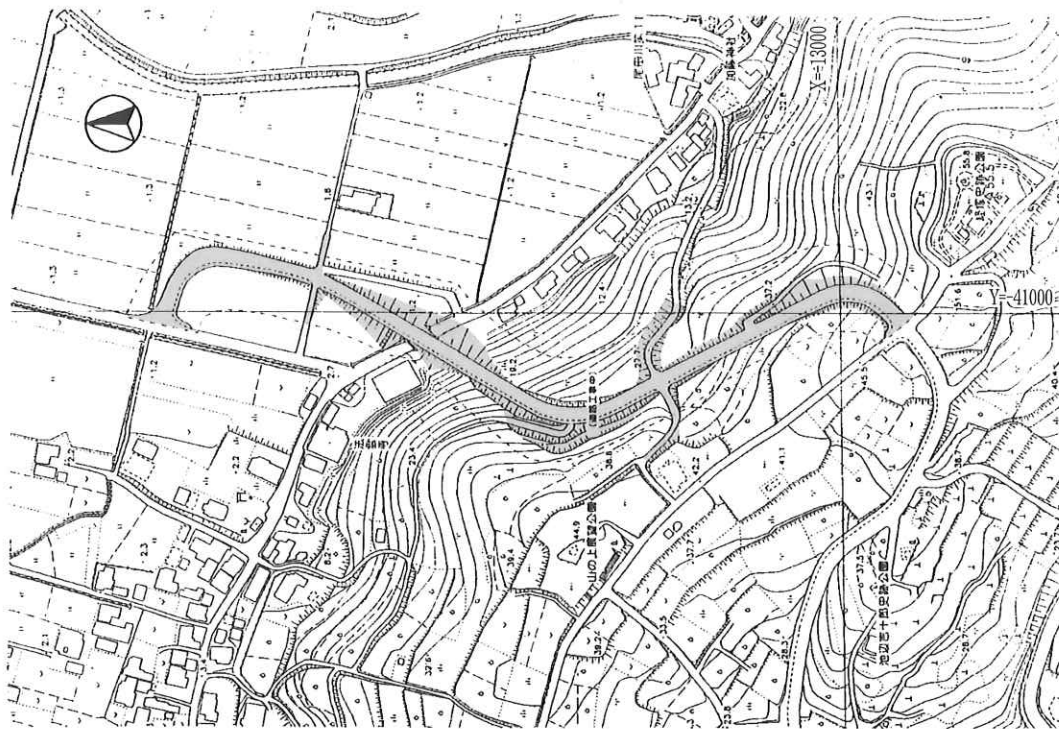
層においては、遺構及び遺物は検出できなかった。⑦層は人頭大の礫を全体的に含む明褐色土であった。3トレンチは、2トレンチの上段の畑に設定した。①層及び②層は、褐色土～暗褐色土であり、②a層から磁器の小片が出土した。③層は暗褐色土であり磁器の小片が出土した。④、⑤層は褐色土であり、⑤層は人頭大の礫を全体的に含む。4トレンチは3トレンチの南に設定した。①層の表土及び耕作土の下は、②層の褐色土及び③層の人頭大の礫を全体的に含む褐色土であり、遺構及び遺物は検出できなかった。5トレンチは、事業予定地の中間地点の新九郎坂と呼ばれる坂道の南側に設定した。①、②層は、腐植土および耕作土である。③層は暗褐色土、④、⑤層は褐色土であり遺構、遺物は検出できなかった。⑥層は褐色土で人頭大の礫を全体的に含む層である。6トレンチは5トレンチの北側に設定した。①層は暗褐色土、②、③層は褐色土であり、遺構及び遺物は検出できなかった。③層は人頭大の礫を全体的に含む層である。7・8トレンチは新九郎坂の北側の竹林に設定した。①層は耕作土で、①a層から磁器の小片が出土した。②層は褐色土で人頭大の礫を全体的に含む層である。

以上のように、耕作土内から磁器の小片が出土したが、横島城跡に伴う遺構を確認することはできなかった。

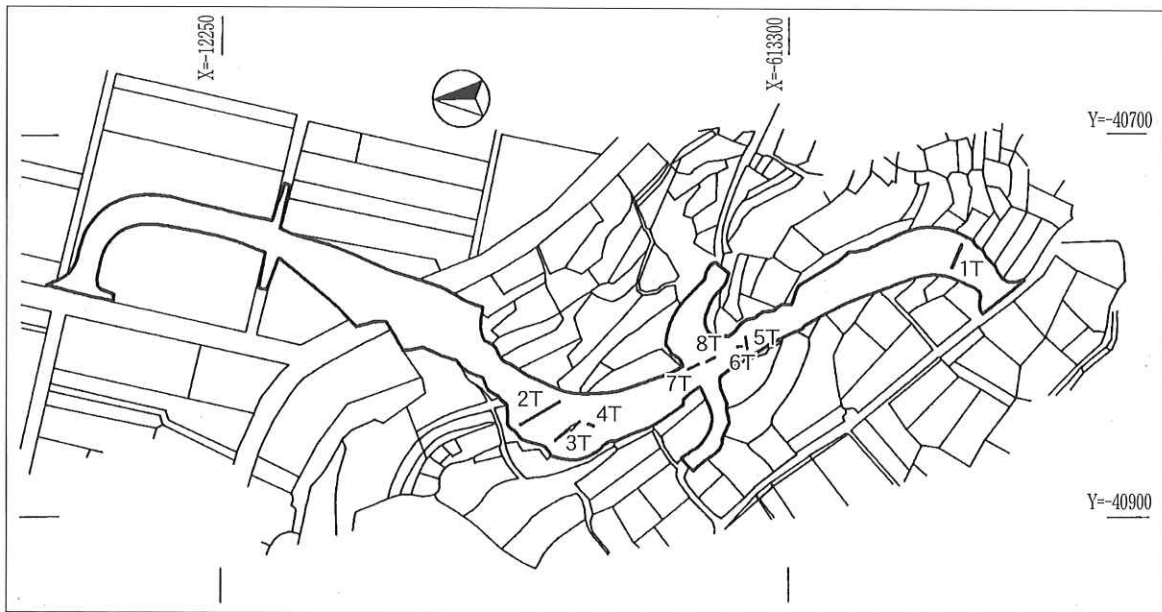
調査後の措置は慎重工事である。



II 平成19年度の調査

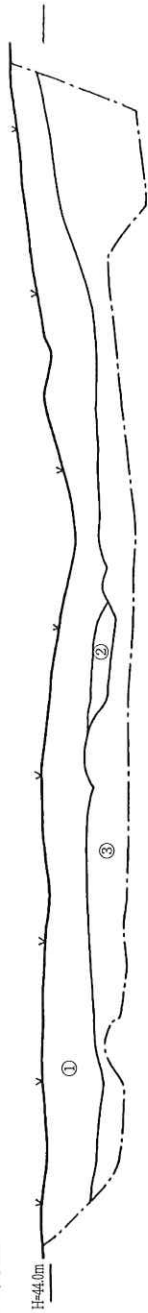


第78図 横島城跡調査地位置図 S=1/5,000



第79図 横島城跡トレンチ配置図 S=1/4,000

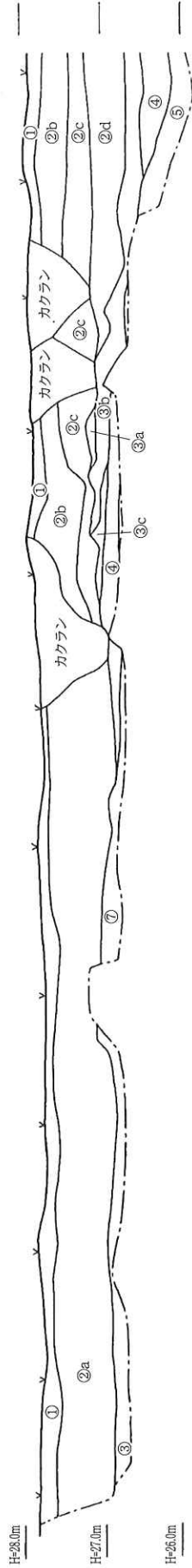
1T南壁



1T

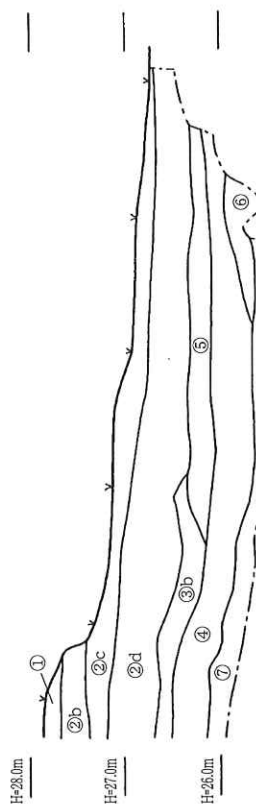
- ① 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがなく、粘性を有しない。③層土をブロック状に含む。
- ② 褐色土 (7.5YR3/3) ややしまり、粘性を有しない。0.1~1cm大の③層土を含む。
- ③ 明褐色土 (7.5YR5/6) 拳大~八頭大の礫を含む。

2T東壁

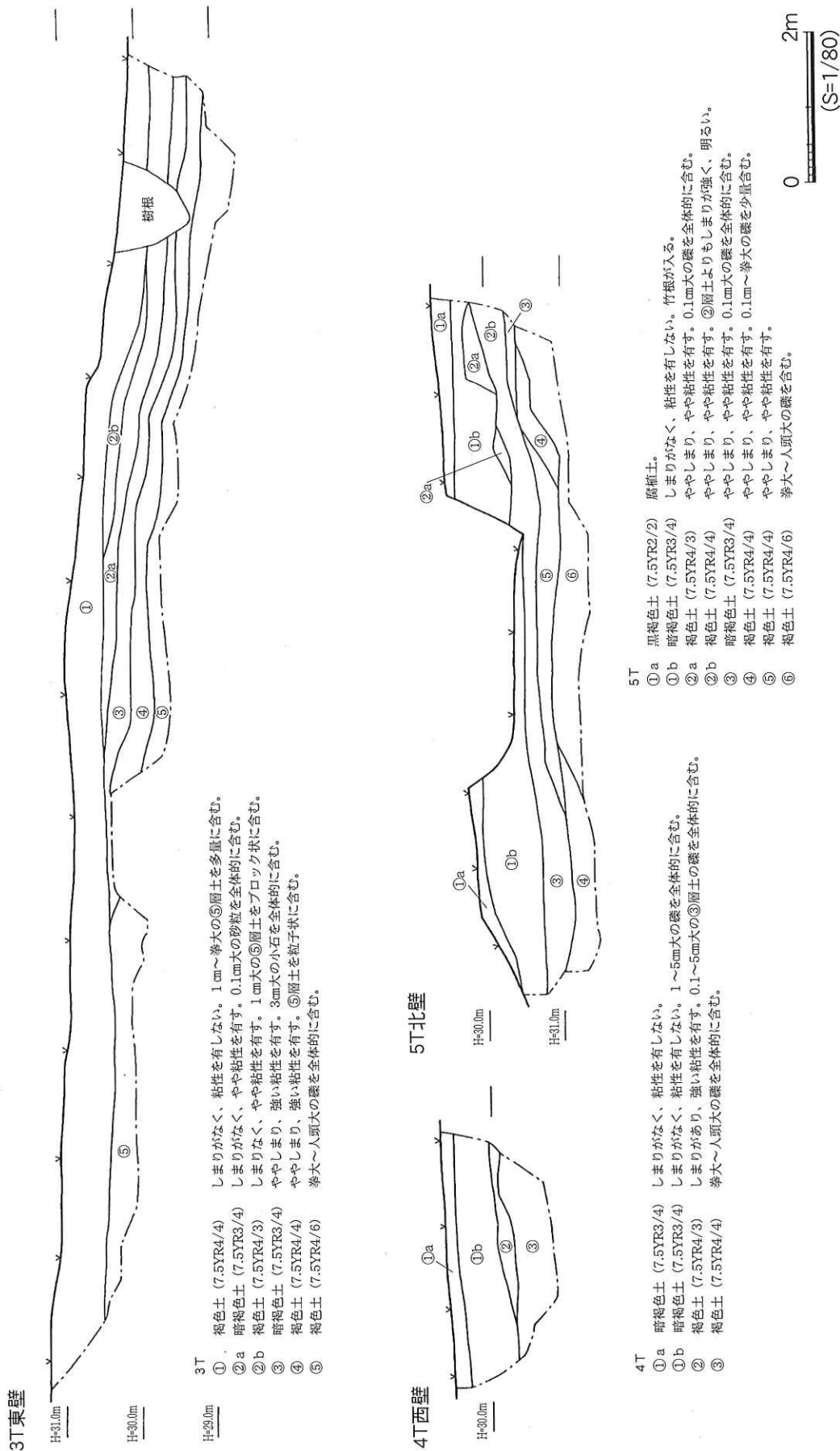


2T

- ① 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがなく、粘性を有しない。
- ②a 褐色土 (7.5YR4/4) しまりがなく、やや粘性を有す。1cm~拳大の⑦層土をブロック状に含む。
- ②b 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがなく、やや粘性を有す。
- ②c 褐色土 (7.5YR4/6) しまりがなく、やや粘性を有す。
- ②d 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがなく、粘性を有す (磁器片混入)。
- ③a 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりがなく、しまりが強く、黒くない。0.1~1cm大の⑦層土を含む。
- ③b 暗褐色土 (7.5YR2/3) ③cよりしまりがなく、黒い。0.1cm~拳大の礫を含む。
- ③c 黒褐色土 (7.5YR3/2) 褐色土が全体的に混入している。
- ④ 褐色土 (7.5YR4/3) 強くしまり、やや粘性を有す。0.1~5cm大の⑦層土を含む。
- ⑤ 暗褐色土 (7.5YR3/3) 強くしまり、やや粘性を有す。0.1cm大の⑦層土を含む。
- ⑥ 褐色土 (7.5YR4/3) しまりがあり、強い粘性を有す。
- ⑦ 明褐色土 (7.5YR5/6) 拳大~八頭大の礫を全体的に含む。

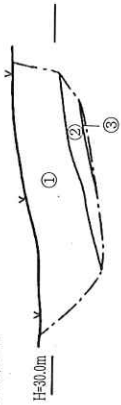


第80図 横島城跡土層断面図①



第81図 横島城跡土層断面図②

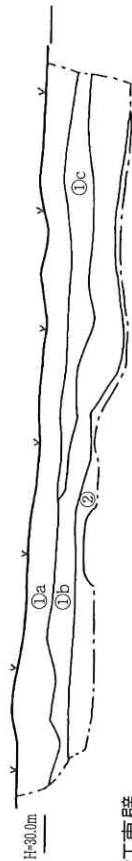
6T東壁



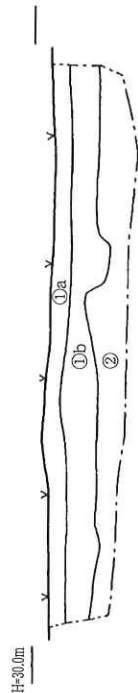
6T

- ① 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがなく、粘性を有しない。
- ② 褐色土 (7.5YR4/4) しまりがあり、粘性を有する。0.1~5mm大の③層土の礫を少量含む。
- ③ 褐色土 (7.5YR4/6) 拳大~人頭大の礫を全体的に含む。

7T東壁



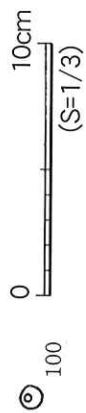
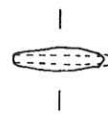
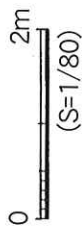
8T東壁



7・8T

- ①a 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがなく、粘性を有しない。竹根が全体に入る。磁器片混入。
- ①b 褐色土 (7.5YR4/6) しまりがなく、やや粘性を有す。1cm~拳大の礫を全体に含む。
- ①c 褐色土 (7.5YR4/6) しまりがなく、やや粘性を有す。①b層土よりも粘性が強い。
- ② 褐色土 (7.5YR4/6) 拳大~人頭大の礫を全体に含む。

第82図 横島城跡土層断面図③



第83図 横島城跡出土遺物実測図



写真55 横島城跡調査地近景 (北西から)



写真57 横島城跡4T全景 (南西から)

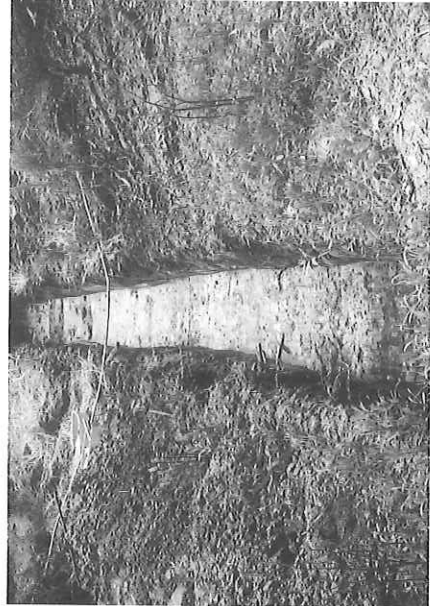


写真56 横島城跡1T全景 (西から)

### 8 中土櫓ノ尾遺跡

所在地：岱明町中土櫓ノ尾205

調査原因：調査依頼

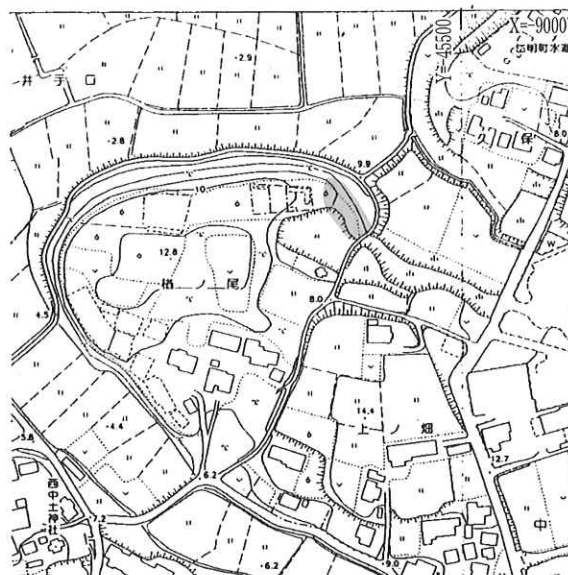
対象面積：756m<sup>2</sup>

調査期間：平成19年7月5日

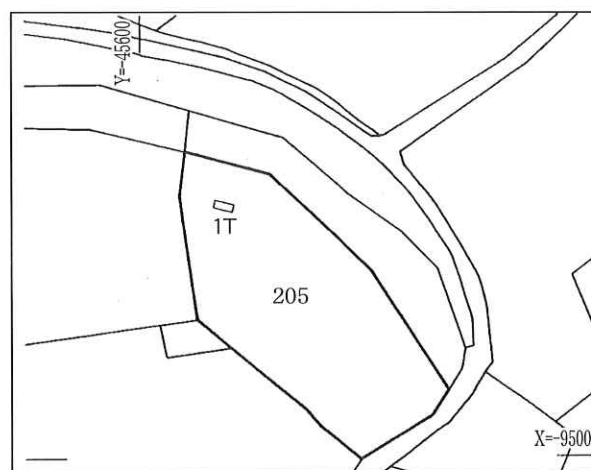
担当者：荒木隆宏

当該地は、旧岱明町中央部の低位段丘上に位置する、標高10mほどの地点である。周辺は果樹園および水田として利用されており、当該地はすでに平坦に造成され、敷地南西部の一部は畑地として、それ以外は果樹園として利用されている。建設予定箇所は近年切り下げられ敷地南東側と同じレベルまで平坦に造成されている。そのため西側隣地に比べ2mほど低くなっておりその境界崖面は土層が露出している。西側隣地の地表面には少量の弥生土器散布を認めることができたが、当該地には認められなかった。

今回、建設予定箇所に2.5×0.6~1.0mのトレンチを掘削して埋蔵文化財の状況を確認し、併せて敷地西側崖面での土層観察を行った。その結果、現地表面から20cmが現耕作土(I層)、その下位に20~30cmの整地層とみられる土層(II層)があり、その下は細粒質黄色土壌(III層)であった。I、II層からは摩滅した土器細片が出土したが、III層からは遺物出土は確認できなかった。当該地のうち少なくとも北西側は過去の土地利用の過程ですでに無遺物層まで削平を受けているとみられる。



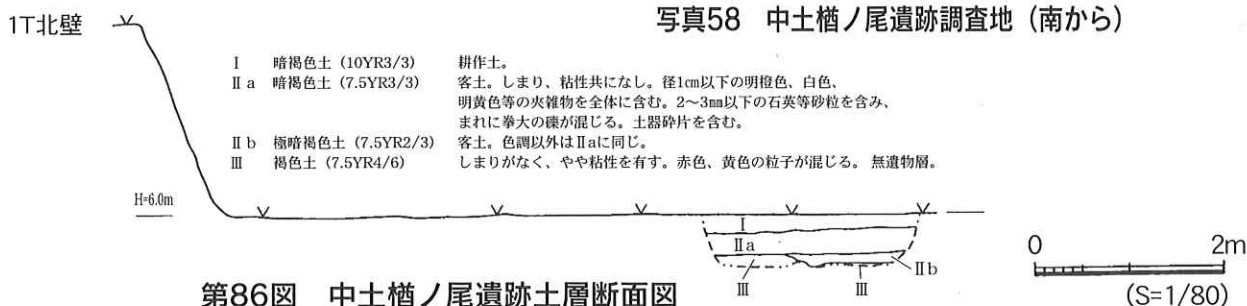
第84図 中土櫓ノ尾遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第85図 中土櫓ノ尾遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真58 中土櫓ノ尾遺跡調査地 (南から)



### 9 簀布遺跡 A 地点

所在地：岱明町庄山字松浦223-1

調査原因：調査依頼

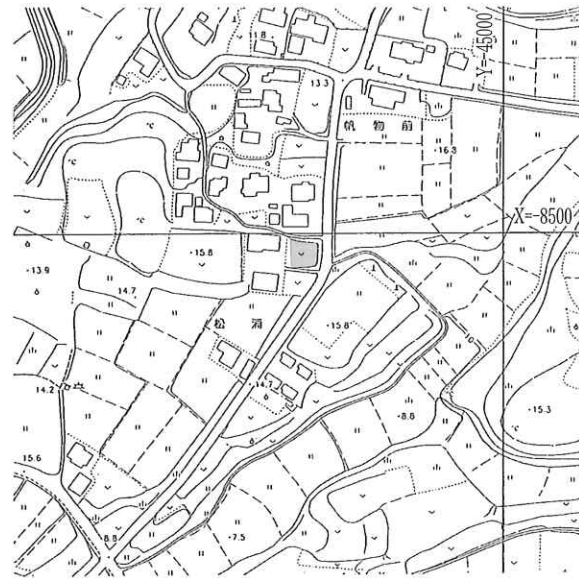
対象面積：464m<sup>2</sup>

調査期間：平成19年10月1日

担当者：大倉千寿

調査地は、玉名台地の南西端に位置する、標高15.7m程の地点であり、その南東では複数の旧河道が合流している。調査時の状況は畑である。

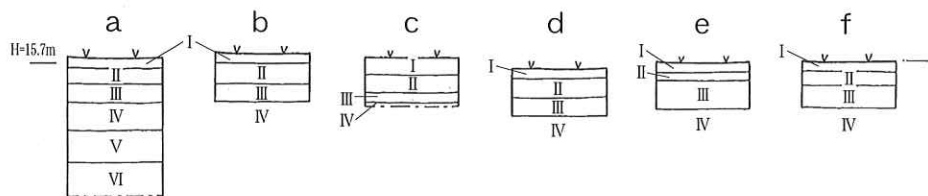
調査依頼に基づき、調査地に2本のトレンチを設定し、I～VI層を確認した。I・II層は表土及び旧耕作土であり、プラスチック片なども混入していた。III層は黒褐色を呈し、土師皿等の小片を含み、中世の遺物包含層と考えられる。IV～VI層は礫を含む褐色土で、無遺物層と判断した。その他、明確な遺構は確認できなかった。



第87図 簀布遺跡A地点調査地位置図 S=1/5,000



第88図 簀布遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



- |                     |   |
|---------------------|---|
| I にくい黄橙色 (10YR6/4)  | しまり、粘性共になし。旧耕作土。表土  |
| II 暗褐色土 (7.5YR3/3)  | 強くしまり、粘性を有しない。灰白色の0.5～1cm大の礫、土器、陶磁器細片、プラスチックを含む。炭化物を含む。   |
| III 黒褐色土 (7.5YR2/2) | 強くしまり、わずかに粘性を有す。土器細片を含む。灰白色の小礫を含む。炭化物を含む。遺物包含層か。  |
| IV 褐色土 (7.5YR4/4)   | しまりがあり (III層よりは弱い)、強い粘性を有す。細かな砂粒と小礫をわずかに含む。   |
| V 褐色 (7.5YR4/4)     | IV層よりも、しまりがやや弱く、やや強い粘性を有す。細かな砂粒と、小礫をIV層よりもやや多く含む。   |
| VI 褐色土 (7.5YR4/4)   | しまりがやや弱く、粘性を有す (V層と同程度)。色調はV層よりも若干赤味が強い。褐色(7.5YR7/6)や黒褐色(7.5YR2/2)の砂質土を全体に細かな砂粒、0.5～2cm大の礫を多量に含む。 |

第89図 簀布遺跡 A 地点土層断面図





## 10 伊倉古宮原遺跡

所在地：宮原字宮川476-8

調査原因：専用住宅

対象面積：463.69㎡

調査期間：平成19年10月25日

担当者：古閑敬士

調査地は菊池川左岸、伊倉丘陵性台地上標高約33mの地点に位置する。それぞれ東側の隣地で平成13年度に、南西の隣地では平成16年度に確認調査を行っており、弥生時代の遺構・遺物が確認されている<sup>(1)</sup>。

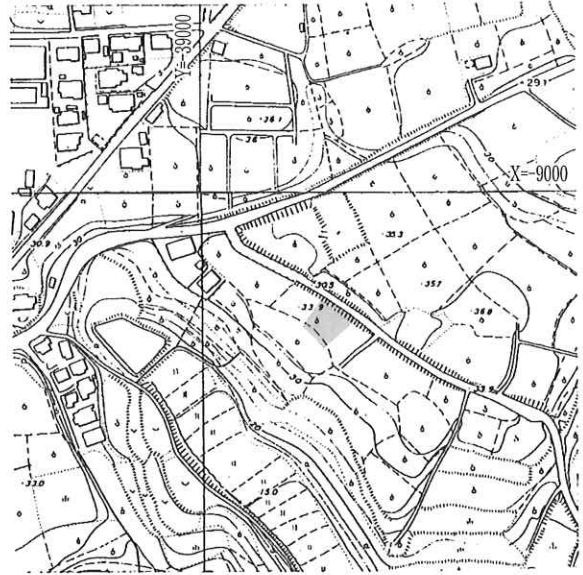
確認調査の為当該地を訪れたところ、北東側の市道に面する擁壁はほぼ完成し、市道からの進入口でも掘削は終了、ブロック塀の積み上げ作業の途中であった。そのため、建物の基礎掘削と合併浄化槽予定部分について3本のトレンチを設定し、確認調査を実施した。工事途中の進入口については露出していた東壁面を清掃して断面実測図を作成した。

調査の結果、浄化槽予定地と進入口北側など市道に近い箇所で遺物包含層と見られるI層を確認した。今回掘り下げた範囲では遺構等は確認できなかった。遺物についても、I層からわずかに土器小片が出土したのみである。また、工事による掘削排土の観察を行ったが、土器等が散布しているような状況は見られなかった。

これらから、当該地については遺物包含層や遺構の残りはきわめて悪いと考えられる。

調査後の措置は慎重工事である。

註(1) 藪父雅史「17 伊倉古宮原遺跡」『玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ』玉名市文化財調査報告第13集 玉名市教育委員会2004  
古閑敬士「10 伊倉古宮原遺跡」『玉名市内遺跡調査報告書Ⅲ』玉名市文化財調査報告第15集 玉名市教育委員会2006



第90図 伊倉古宮原遺跡調査地位置図 S=1/5,000

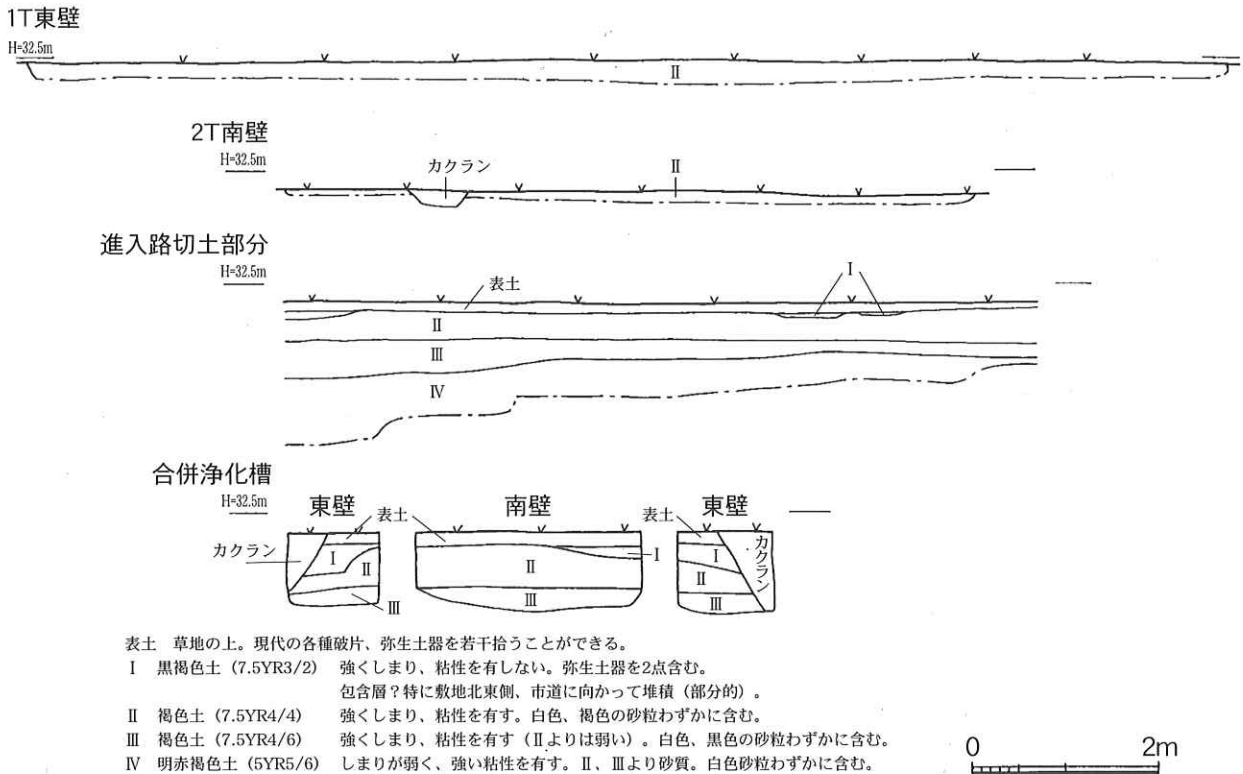


第91図 伊倉古宮原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真59 伊倉古宮原遺跡調査前工事状況

II 平成19年度の調査



第92図 伊倉古宮原遺跡土層断面図



写真60 伊倉古宮原遺跡1T全景(南から)

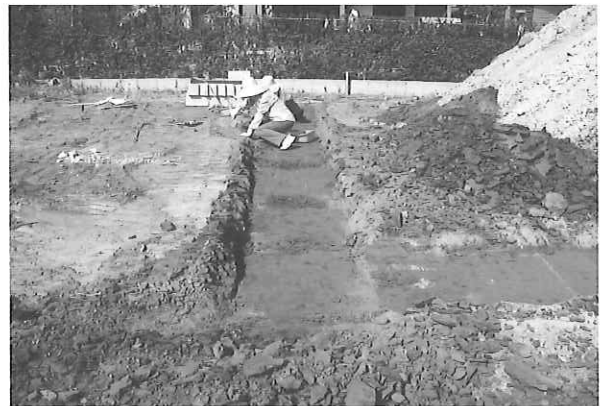


写真61 伊倉古宮原遺跡作業状況



写真62 伊倉古宮原遺跡進入路付近土層堆積状況(北から)



写真63 伊倉古宮原遺跡浄化槽予定地土層堆積状況

### 11 簀布遺跡B地点

所在地：袋明町庄山字松浦188-2から字帆物前556-1

調査原因：道路建設

対象面積：1239.5m<sup>2</sup>

調査期間：平成19年11月5日～11月7日

担当者：末永 崇

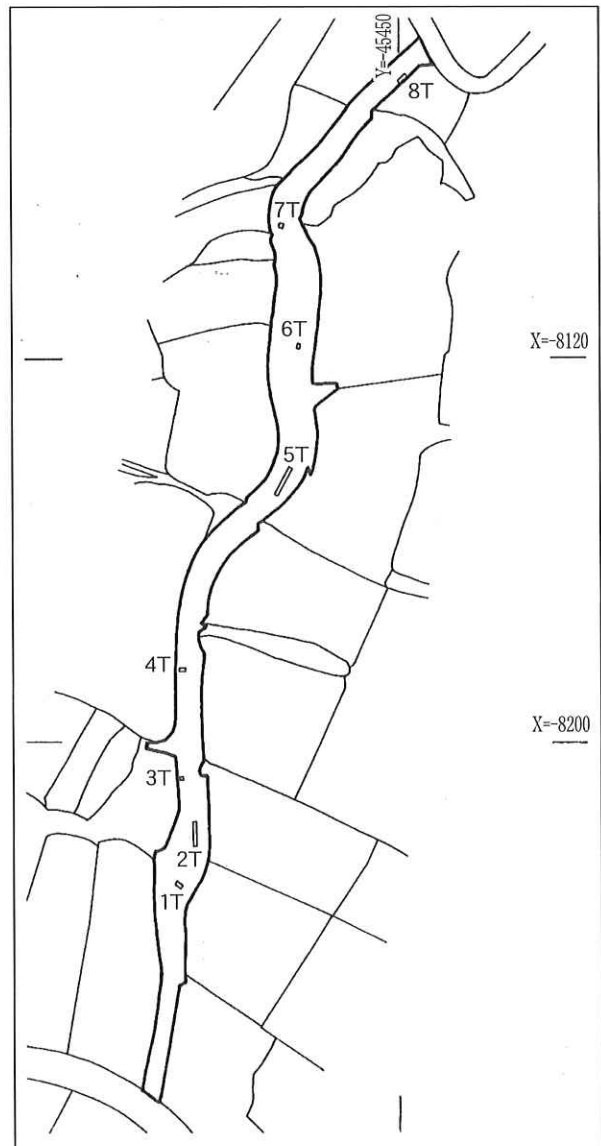
調査地は、友田川右岸の低丘陵上に位置する、標高9～15mの地点である。周辺の丘陵は、東西に流れる友田川の支流によって浸食され、小規模な谷が形成されており、丘陵は細長く舌状になる。谷を挟んだ西側の丘陵には、上村城跡と陣館跡が所在する。

調査では、事業予定地内に8ヶ所トレンチを設定し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。その結果、2トレンチで黒褐色土を呈し、中世の土器片を含む層（V層）を検出した。その下（VI・VII層）は暗褐色から褐色を呈するローム層であり、遺構、遺物は確認されなかった。V層の土器は青磁片1点と土師器片1点である。1トレンチでも、中世とみられる土器細片を1点検出した。3～7トレンチでは、表土の下は主に暗褐色を呈する砂質土が確認され、地形は削られていると考えられる。8トレンチ周辺は、もともと谷部分であり、地権者の話では埋めて水田にしたとのことだった。

調査後の措置は慎重工事である。



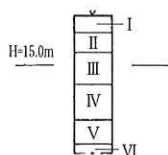
第93図 簀布遺跡B地点調査地位置図 S=1/5,000



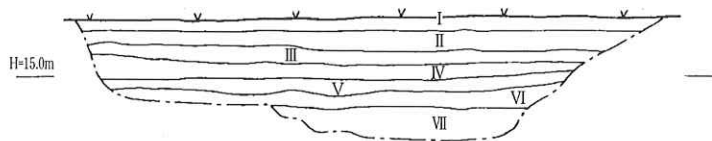
第94図 簀布遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/2,000

## II 平成19年度の調査

1T



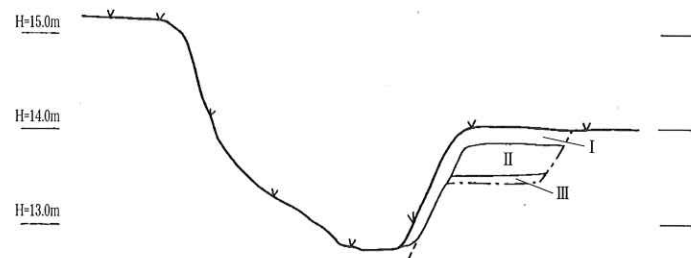
2T東壁



- 1T
- I 耕作土
  - II 褐色土 (10YR4/4) 強くしまり、あまり粘性を有しない。砂、酸化鉄、マンガン含む。水田床土に相当。
  - III 褐色土 (10YR4/4) しまりがあり、あまり粘性を有しない。砂、少量の酸化鉄、マンガンを含む。
  - IV 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまりがあり、やや粘性を有す。砂含む。中世の土師器片含む。
  - V 暗青灰色土 (5B3/1) あまりしまらず、粘性を有す。砂少量含む。
  - VI 黄褐色土 (10YR5/8) ややしまりがあり、粘性を有しない。砂質土。酸化鉄含む。

- 2T
- I 耕作土
  - II 褐色土 (7.5YR4/3) 強くしまり、あまり粘性を有しない。砂、酸化鉄、マンガン含む。水田床土に相当。
  - III 褐色土 (7.5YR4/3) しまりがあり、あまり粘性を有しない。砂含む。
  - IV 褐色土 (7.5YR4/3) しまりがあり、やや粘性を有しない。砂少量含む。
  - V 黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりがあり、粘性を有す。青磁、土師器片含む。
  - VI 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがあり、粘性を有す。部分的に黒褐色土含む。ローム層。
  - VII 褐色土 (7.5YR4/4) しまりがあり、粘性を有す。混入物なく、きれいな堆積。ローム層。
- \* II～IV層は近似し、下位ほど粘性が増し、しまりがなくなり、ゆるくなる。

4T南壁

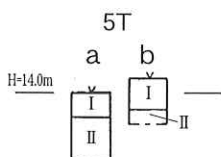


3T

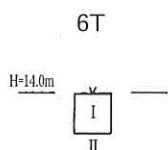


- 3T
- I 耕作土
  - II 暗赤褐色土 (5YR3/4) しまりがあり、粘性を有す。2TのVII層に近似し、やや赤味がかかる。遺物なし。

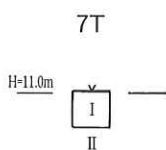
- 4T
- I 表土
  - II 暗褐色土 (10YR3/4) 強くしまり、粘性を有しない。砂、礫含む。
  - III 黄褐色土 (10YR5/8) 強くしまり、粘性を有しない。砂質土。砂、礫含む。遺物なし。



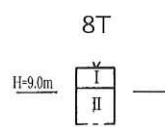
- 5T
- I 耕作土 にぶい黄褐色粘性土をブロック状に含む。
  - II 黄褐色土(10YR5/8) ややしまり、粘性を有しない。にぶい黄褐色粘性土を部分的に含む。砂質土。下位ほど砂粒の大きさが揃う。遺物なし。



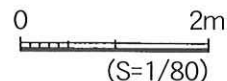
- 6T
- I 竹林の腐葉土。
  - II 暗褐色土 (7.5YR3/4) 強くしまり、粘性を有しない。砂質土。礫含む。遺物なし。



- 7T
- I 竹林の腐葉土。土器片1点出土。
  - II 褐色土 (7.5YR4/6) 強くしまり、粘性を有しない。砂質土。礫片含む。



- 8T
- I 表土。
  - II 暗褐色土 (7.5YR3/4) ややしまり、粘性を有しない。砂質土。にぶい褐色粘性土をブロック状に含む。湧水あり。遺物なし。



第95図 簀布遺跡B地点土層断面図

## 12 年の神遺跡

所在地：岱明町野口字早馬2755-1～2824-3

調査原因：道路拡幅工事

対象面積：3934.8㎡

調査期間：平成19年11月16日～12月17日

担当者：田中康雄

調査地は、玉名市の西部に位置する。市北部の小代山地（主峰筒ヶ岳 標高501m）を源流とする友田川の左岸に面した低位丘陵上の標高11～17m程の地点である。

今回の調査では、道路拡幅部分に27ヶ所のトレンチを設定し、重機及び人力により埋蔵文化財の状況を確認した。27ヶ所のトレンチの大部分で、昭和43年に行われた開田事業に伴う盛土が約1m以上にわたって確認され、一部では多量の土器片（主に弥生時代中期）を含む箇所もあった。おそらく開田の際に遺物包含層及び遺構面を削平し、その土を盛土に利用したものと考えられる。また、部分的に開田に伴う配水管が所在したため、一部のトレンチでは、遺物包含層や遺構面まで掘削が及ばなかった。遺物包含層及び遺構面を確認したトレンチの内、トレンチNo.12・15・16・17・18・22の6箇所ですべり等の遺構を確認した。また遺構は確認されなかったが、トレンチNo.2・6・13・14・19・20・21で遺構面に相当する層を確認した。

調査の結果、部分的に埋蔵文化財が確認されたが、施工内容と照らし合わせた結果、施工が埋蔵文化財に影響を与える範囲が狭小であることから、調査後の措置は工事立会となった。

尚、耕作中の敷地や未買収地については未調査のため、今後調査が可能になった時点で再度確認調査を実施する予定である。



写真64 年の神遺跡調査地近景（東から）



写真65 年の神遺跡2T土層堆積状況（東壁）



写真66 年の神遺跡13丁土層堆積状況



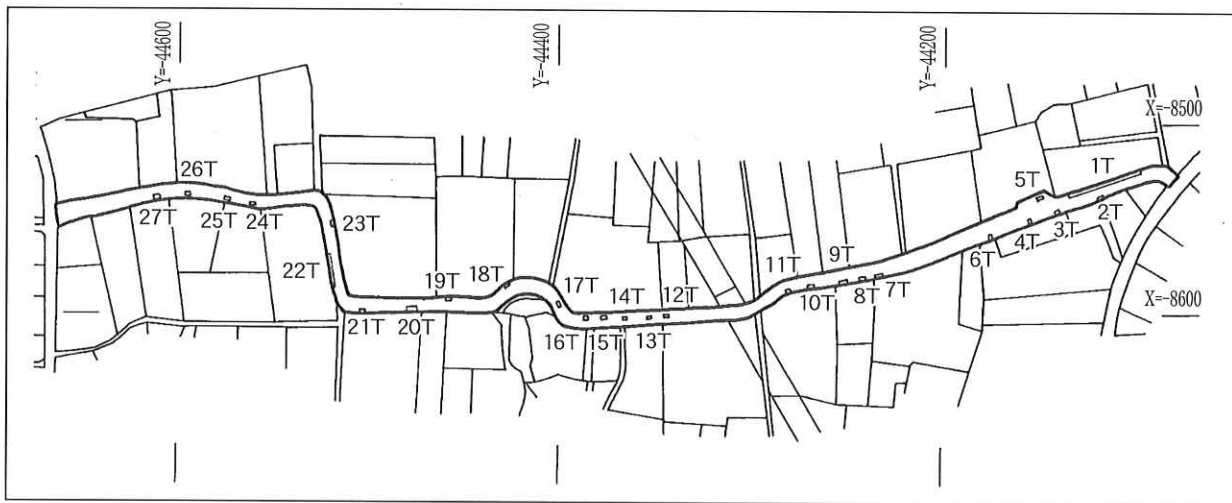
写真67 22T遺構検出状況（北から）



II 平成19年度の調査



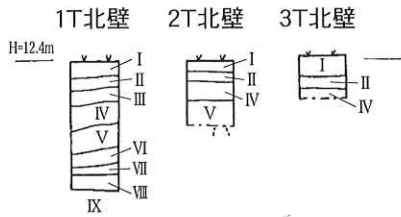
第96図 年の神遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第97図 年の神遺跡トレンチ配置図 S=1/4,000



## II 平成19年度の調査



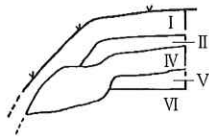
1T~3T

- I 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりなく、粘性を有しない。細、耕作土。
- II 暗褐色土 (7.5YR3/4)・明褐色土 (7.5YR5/6) しまりがあり、多少粘性を有す。畑の床土と思われる。1cm前後の小石を含む。
- III 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。1cm前後の小石を含む。
- IV 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりがあり、多少粘性を有す。1cm前後の小石を含む。
- V 黒褐色土 (10YR2/3) 多少しまり、粘性を有す。1cm前後の小石及び、拳大の礫を含む。
- VI 暗褐色土 (10YR3/3) あまりしまりがなく、強い粘性を有す。1~2cm大の小石を多く含む。
- VII 暗褐色土 (7.5YR3/3) 多少しまりがあり、粘性を有す。1cm前後の小石を含む。
- VIII 暗褐色土 (7.5YR3/4) 多少しまりがあり、粘性を有す。1cm前後の小石を含む。
- IX 褐色土 (7.5YR4/4) あまりしまりがなく、粘性を有す。0.1~2cm前後の小石を多量に含む。地山と思われる。

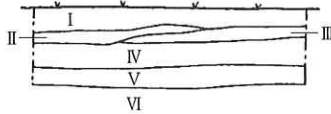
\* I~VIII層は開田に伴う客土と思われる。

2T東壁

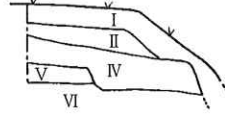
H=15.0m



南壁



西壁



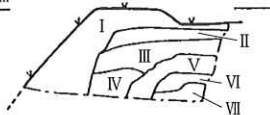
2T

- I 褐色土 (10YR4/4) 表土及び竹根等による攪乱土層。しまりがあり、粘性を有しない。攪乱部は全くしまりがなく、粒子が細かい。
- II 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがあり、粘性を有しない。粒子が細かい。
- III 褐色土 (10YR4/4) かたくしまり、粘性を有しない。土中に1~2mm大の粒子を含む。粒子が細かい。
- IV 暗褐色土 (10YR3/4) 非常にかたくしまり、粘性を有しない。土中に1~2mm大の砂粒を多量に含む。粒子が細かい。
- V 黒褐色土 (10YR2/2) しまりがあり、粘性を有す。遺物包含層に相当する層と思われる。
- VI 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがあり、粘性を有す。遺構検出面に相当すると思われる。

\* I~IV層は、開田に伴う客土と思われる。

3T東壁

H=15.0m



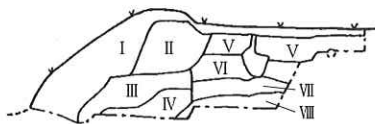
3T

- I 褐色土 (10YR4/4) 耕作土及び竹根等による攪乱。しまりがなく、粘性を有しない。粒子が細かい。
- II 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがあり、粘性を有しない。粒子が細かい。1~2mm大の砂粒、明褐色粒(7.5YR5/8)を多少含む。
- III 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有しない。粒子が細かい。1~2mm大の砂粒、明褐色粒(7.5YR5/8)を含む。
- IV 黒褐色土 (10YR2/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。粒子が細かい。1~2mm大の砂粒、明褐色粒(7.5YR5/8)をブロック状に含む。
- V 黒褐色土 (10YR2/3) しまりがあり、粘性を有す。粒子が細かい。赤褐色土(5YR4/6)、1~2mm大の砂粒を含む。黒褐色土(10YR2/2)、褐色砂質土(10YR4/6)をブロック状に含む。
- VI 黒褐色土 (10YR2/3) しまりがあり、粘性を有す。粒子が細かい。1~2mm大の砂粒、赤褐色土(5YR4/6)を含む。V層よりやや粘性が強く、色調もやや暗い。
- VII 褐色土 (10YR4/6) しまりがあり、強い粘性を有す。真砂土と現地堆積土の混合土ではないかと考えられる。

\* I~VII層まですべて開田に伴う客土と思われる。

4T東壁

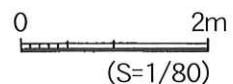
H=15.0m



4T

- I 褐色土 (10YR4/4) 耕作土及び竹根等による攪乱。しまりがなく、粘性を有しない。粒子が細かい。
- II 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがあり、粘性を有しない。粒子が細かい。1~2mm大の砂粒を含む。
- III 黒褐色土 (10YR2/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。粒子が細かい。1~2mm大の砂粒及び明褐色粒(7.5YR5/8)を含む。
- IV 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがあり、粘性を有す。明褐色土(7.5YR5/6)を多く含む。粒子が細かい。
- V 暗褐色土 (10YR3/4) かたくしまり、粘性を有しない。粒子が細かい。1~2mmの砂粒及び明褐色粒(7.5YR5/8)を多く含む。
- VI 暗褐色土 (7.5YR3/3) 多少しまりがあり、粘性を有す。粒子が細かい。褐色土(7.5YR4/4)を多く含む。
- VII 黒褐色土 (10YR2/3) 多少しまりがあり、粘性を有す。粒子が細かい。褐色土粒(7.5YR4/4)を多少含む。
- VIII 黒褐色土 (10YR2/3) 多少しまりがあり、粘性を有す。粒子が細かい。褐色土粒(7.5YR4/4)を多少含む。VIIより粘性が強く、色調がやや暗い。

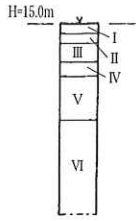
\* I~VIII層まですべて開田に伴う客土と思われる。



第98図 年の神遺跡土層断面図①

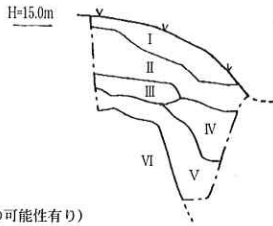
II 平成19年度の調査

5T北壁



- 5T  
 I 耕作土(水田)  
 II 水田床土  
 III 開田に伴う客土  
 IV 開田に伴う客土  
 V 開田に伴う客土  
 VI 粘性土(旧耕作土の可能性有り)

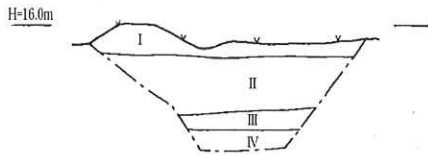
6T東壁



6T

- I 黒褐色土 (10YR2/3) 表土。しまりがなく、粘性を有す。  
 II 暗褐色土 (10YR3/4) 多少しまりがあり、粘性を有す。  
 III 暗褐色土 (10YR3/4) 多少しまりがあり、粘性を有しない。  
 II層より色調がやや暗い。  
 IV 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。  
 V 黒褐色土 (10YR2/3) しまりがあり、多少粘性を有す。  
 褐色土(7.5YR4/6)をブロック状に含む。  
 VI 褐色土 (7.5YR4/6) しまりがあり、強い粘性を有す。地山。

7T南壁



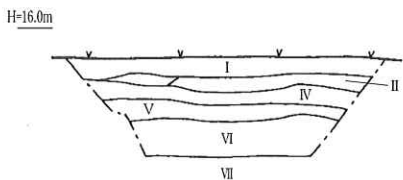
8T南壁



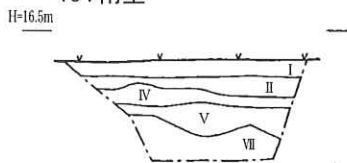
7-8T

- I 黒褐色土 (10YR2/3) 畑地、耕作土。しまりがなく、わずかに粘性を有す。  
 II 暗褐色土 (10YR3/3) 非常にかたくしまり、わずかに粘性を有す。  
 1~2mm大の砂粒、土器細片を多量に含む。  
 暗褐色土(10YR3/4)をブロック状に含む。  
 III 黒褐色土 (10YR2/3) かたくしまり、わずかに粘性を有す。1~2mm大の砂粒、  
 土器細片を多少含む。暗褐色土(10YR3/4)をブロック状に含む。  
 IV 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。1~2mm大の砂粒、  
 土器細片を多少含む。

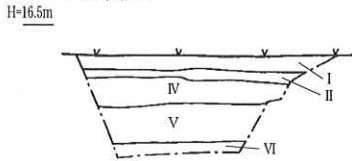
9T南壁



10T南壁



11T南壁



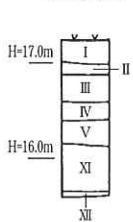
9~11T

- I 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3) ややしまりがあり、粘性を有す。水田耕作土。  
 II 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがあり、粘性を有す。水田床土。  
 2cm大までの砂粒、小礫及び土器細片を含む。  
 III 黒褐色土 (10YR2/3) ややしまりがあり、粘性を有す。水田耕作土。  
 粘性を有する。炭化物、2cm大までの砂粒を含む。水田床土。土器細片を含む。  
 IV 黒褐色土 (10YR2/2) しまりがあり、粘性を有す。1~2mm大の砂粒、  
 土器細片を含む。  
 V 黒褐色土 (10YR2/2) ややしまりがあり、強い粘性を有す。2cm大の小石を含む。土器片を含む。  
 VI 黒褐色土 (10YR2/3) あまりしまりがなく、強い粘性を有す。2cm大程度の小石を含む。土器片を含む。  
 VII 暗褐色土 (10YR3/3) あまりしまりがなく、強い粘性を有す。1~2cm大の小石を多少含む。  
 近現代の磁器片を含む。

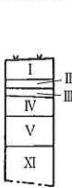
\* I~VII層まですべて開田に伴う客土と思われる。

\* I~VII層まですべて開田に伴う客土と思われる。

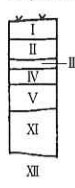
12T南壁



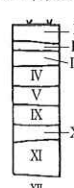
13T南壁



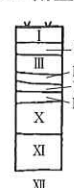
14T南壁



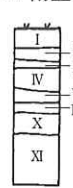
15T南壁



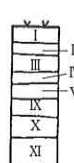
16T南壁



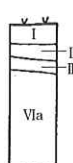
17T南壁



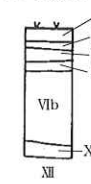
18T南壁



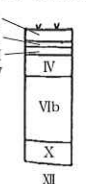
19T南壁



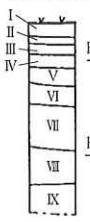
20T南壁



21T南壁



23T南壁



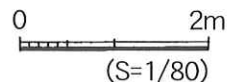
12~21T

- I 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがなく、粘性を有しない。旧耕作土と思われる。  
 II 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがあり、粘性を有しない。1~2mm大の砂粒、土器細片を多少含む。  
 III 暗褐色土 (10YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。1~2mm大の砂粒、土器細片を含む。  
 IV 黒褐色土 (10YR2/3) しまりがあり、粘性を有す。1~2mm大の砂粒、土器細片を含む。砂粒、土器細片を含む。  
 V 黒褐色土 (10YR2/2) しまりがあり、粘性を有す。1~2mm大の砂粒、土器細片を含む。  
 VI-a オリーブ黒色土 (5GY2/1) しまりがなく、非常に強い粘性を有す。1~2mm程度の砂粒、3cm程度の小礫を含む。  
 VI-b にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 土質はVI-aと同じ。  
 VII 黒褐色土 (10YR2/3) しまりがなく、強い粘性を有す。葉、木屑、藁屑等の腐蝕土と思われる。  
 開田前の地表面と思われる。  
 VIII にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、粘性を有す。土器片をわずかに含む。  
 IX 黒褐色土 (10YR2/2) しまりがあり、粘性を有す。土器片を含む。遺物包含層。  
 X 黒褐色土 (10YR2/3) しまりがあり、粘性を有す。遺物包含層。  
 XI 極暗褐色土 (7.5YR2/3) しまりがあり、強い粘性を有す。遺物包含層。粒子細かい、弥生中期？  
 XII 褐色土 (7.5YR4/4) しまりがあり、強い粘性を有す。遺物包含層。  
 \* I~IV-b層は、開田に伴う客土と思われる。

23T

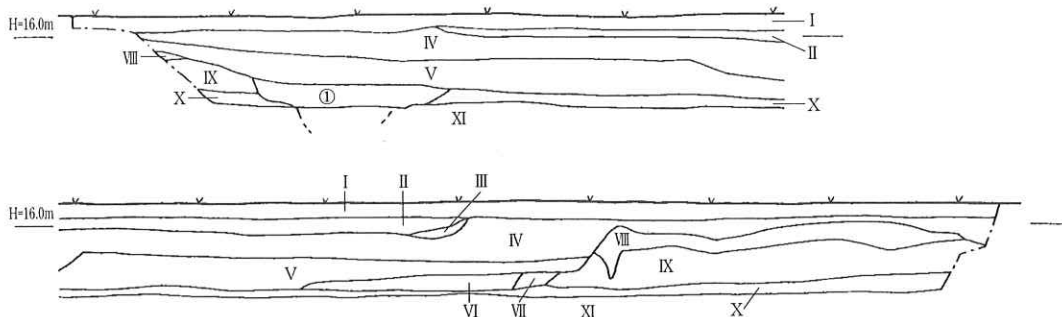
- I 水田耕作土  
 II 水田床土  
 III 開田に伴う客土  
 IV 開田に伴う客土  
 V 開田に伴う客土  
 VI 開田に伴う客土  
 VII 開田に伴う客土  
 VIII 開田に伴う客土  
 IX 開田に伴う客土

第99図 年の神遺跡土層断面図②



## II 平成19年度の調査

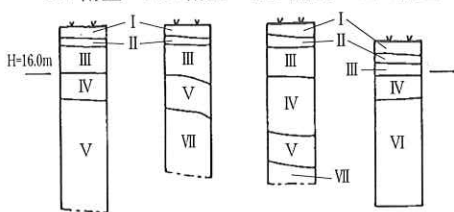
### 22T東壁



22T

- I 水田耕作土
- II 開田に伴う客土
- III 開田に伴う客土
- IV 開田に伴う客土
- V 開田に伴う客土
- VI 開田に伴う客土
- VII 開田に伴う客土
- VIII 黒褐色土 (10YR2/2) しまりがあり、粘性を有す。土器片を含む。遺物包含層。
- IX 黒褐色土 (10YR2/3) しまりがあり、粘性を有す。土器片を含む。遺物包含層。
- X 極暗褐色土 (7.5YR2/3) しまりがあり、強い粘性を有す。遺物包含層。粒子細かい。弥生中期? 遺物包含層。
- XI 褐色土 (7.5YR4/4) しまりがあり、強い粘性を有す。
- ① 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがあり、強い粘性を有す。非常に粒子が細かい。

### 24T南壁 25T南壁 26T南壁 27T南壁



24~27T

- I 水田耕作土。
  - II 水田床土。
  - III 暗褐色土 (10YR3/3) ややしまりがあり、わずかに粘性を有す。
  - IV 黒褐色土 (2.5Y3/2) しまりがなく、粘性を有す。
  - V オリーブ黒色土 (5GY2/1) しまりがなく、非常に強い粘性を有す。1~2mm程度の砂粒、3cm程度の小礫を含む。
  - VI 暗褐色土 (10YR3/4) しまりがなく、非常に強い粘性を有す。
  - VII オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) しまりがなく、非常に強い粘性を有す。1~2mm大の砂粒を含む。
- \* I~VII層まですべて開田に伴う客土と思われる。

第100図 年の神遺跡土層断面図③

0 2m  
(S=1/80)

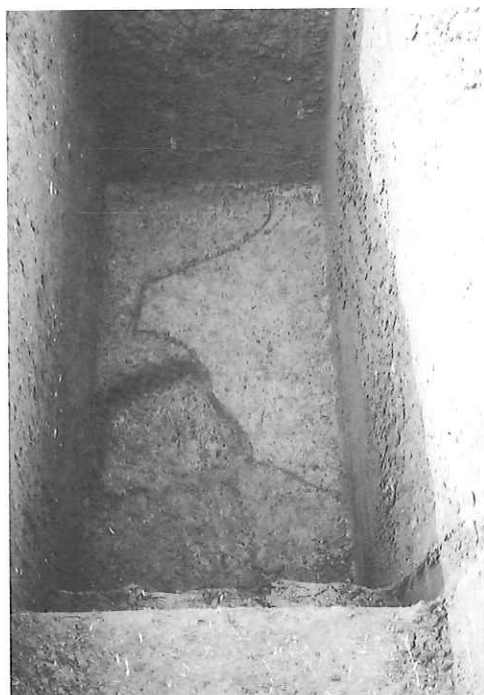
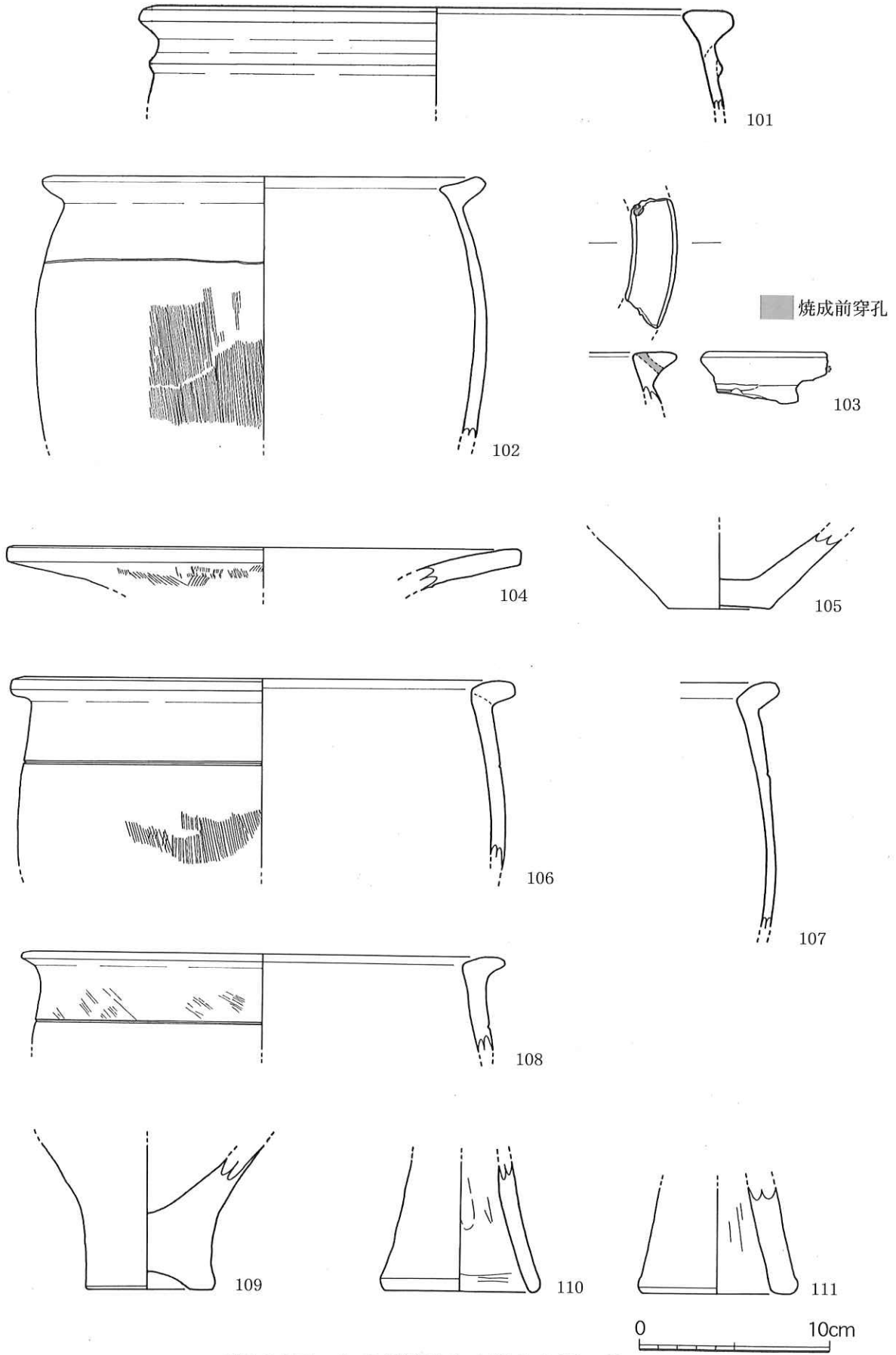


写真68 年の神遺跡17T遺構検出状況(東から)



写真69 年の神遺跡22T遺構検出状況(北から)

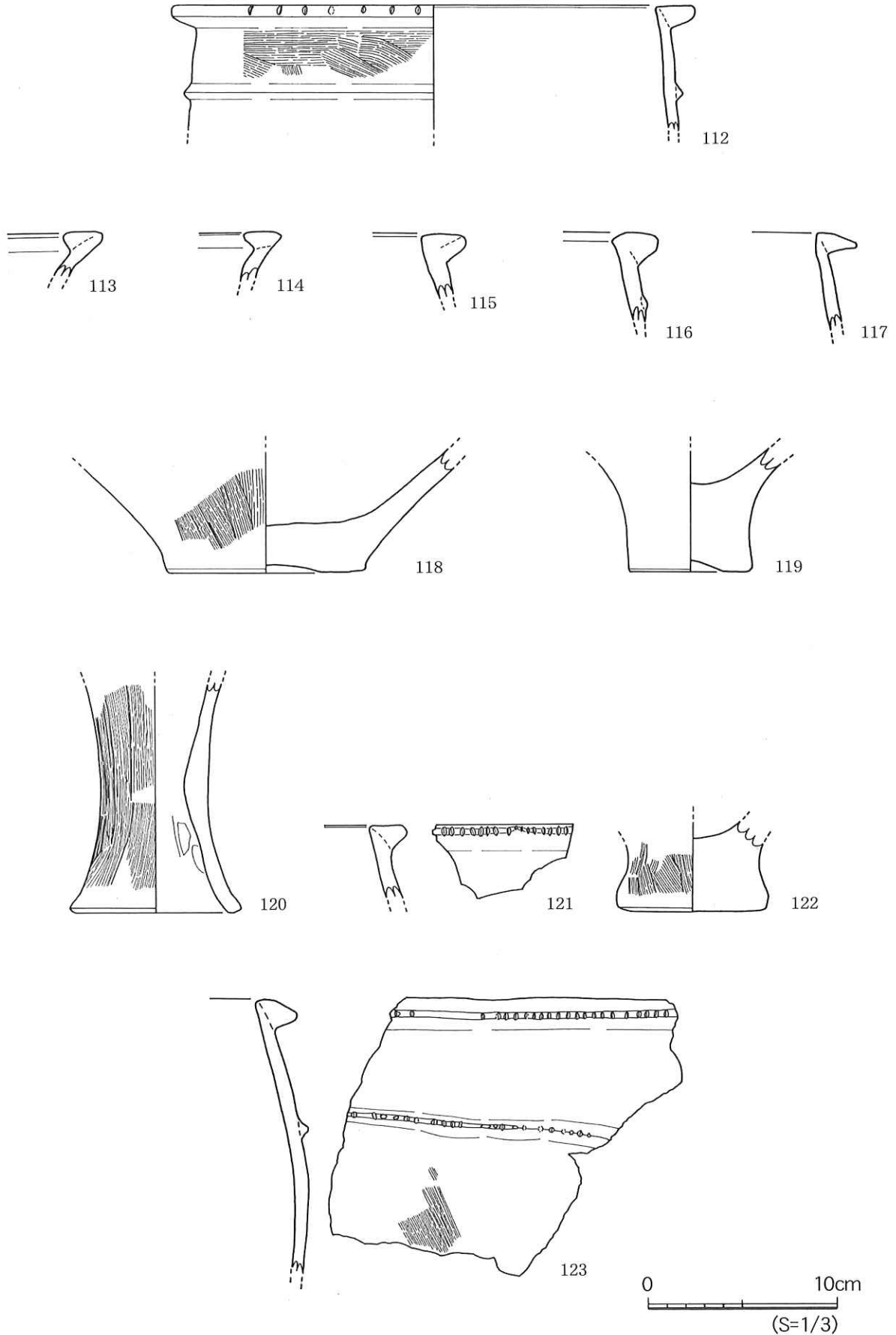
II 平成19年度の調査



第101図 年の神遺跡出土遺物実測図①

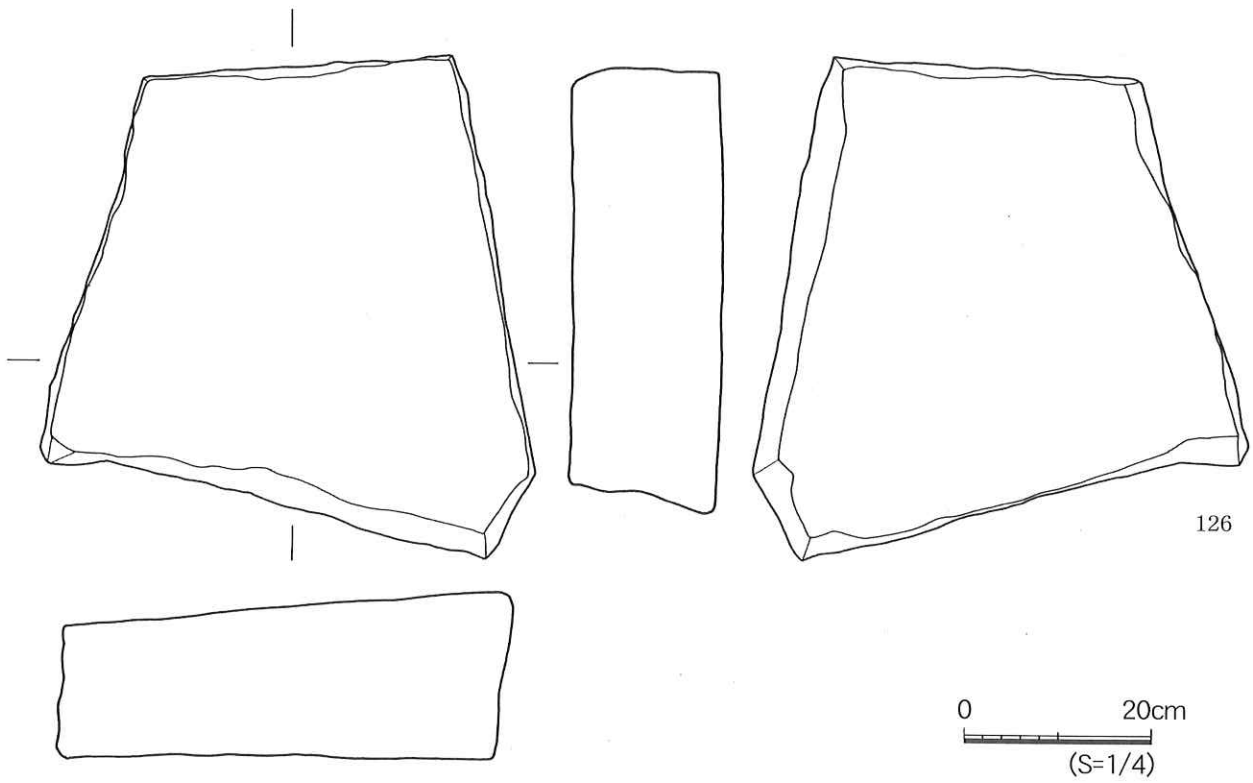
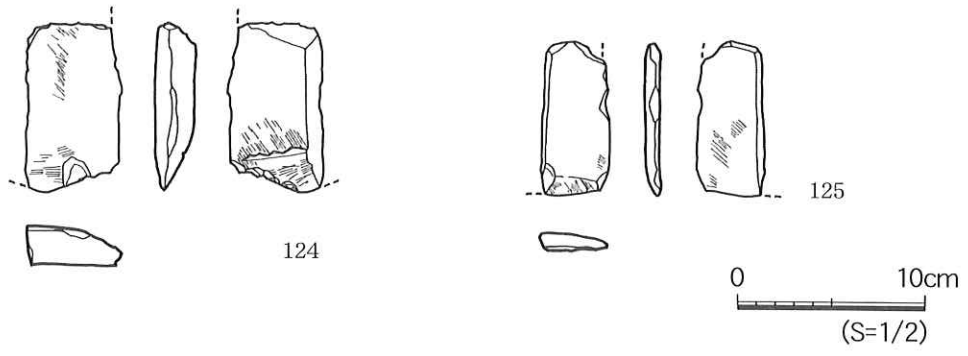
(S=1/3)

II 平成19年度の調査



第102図 年の神遺跡出土遺物実測図②

II 平成19年度の調査



第103図 年の神遺跡出土遺物実測図③



### 13 下立願寺遺跡

所在地：立願寺字六地藏829-4, 829-1

調査原因：共同住宅建設

対象面積：660.73m<sup>2</sup>

調査期間：平成19年11月27日

担当者：古閑敬士

当該地は、菊池川右岸の玉名台地に位置する標高30m程の地点である。

共同住宅の建設箇所について重機及び人力で埋蔵文化財の状況を確認した。

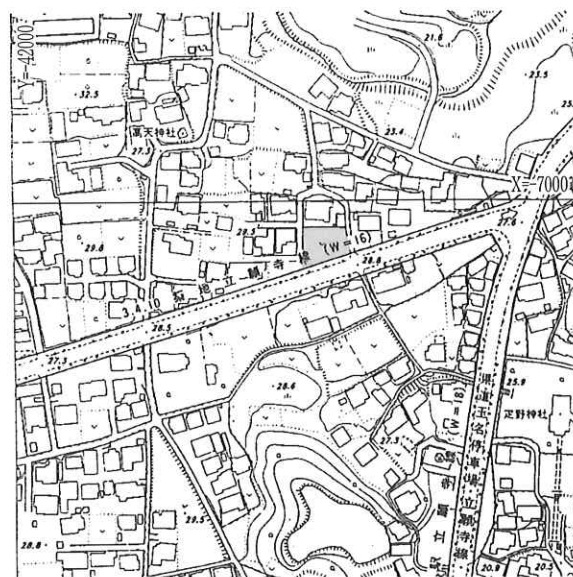
現表土下にⅠ層（旧表土）、耕作土とみられるⅡ層があり、Ⅲ層は土器細片がわずかに入る暗褐色の遺物包含層であった。以下、Ⅳ～Ⅵ層はローム土層であった。なお、押型文土器片1点がⅠまたはⅡ層から出土している。

進入路については、切土予定部分の表土を重機で除去した。Ⅵ層まで削平を受けているが、遺構を確認した。中央に焼土の集中があり、炉跡と考えられる。深さは5cm程度で、周囲もわずかに赤片していた。時期等は不明である。

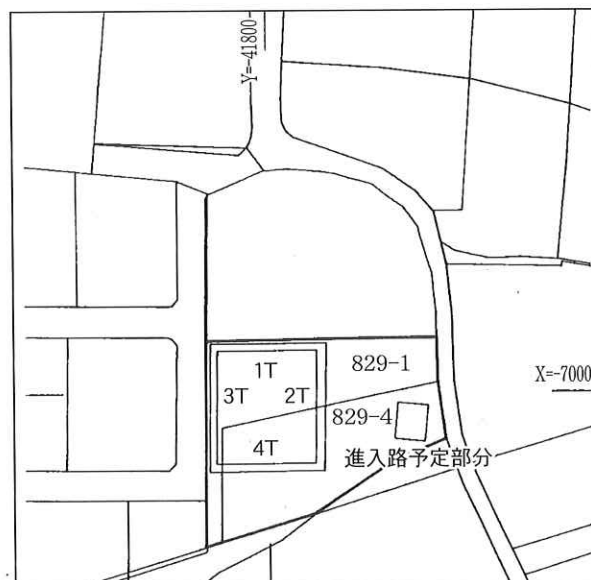
建物の予定地では建物基礎部分にトレンチを巡らせ、1～4の番号を付した。遺構はⅣ層上面でピット2基を検出している。

今回の確認調査で掘削や切土が発生する部分はトレンチで確認し、検出した遺構についても掘り下げを行ったため、工事による埋蔵文化財への影響は少ないと考えられる。

調査後の措置は慎重工事である。



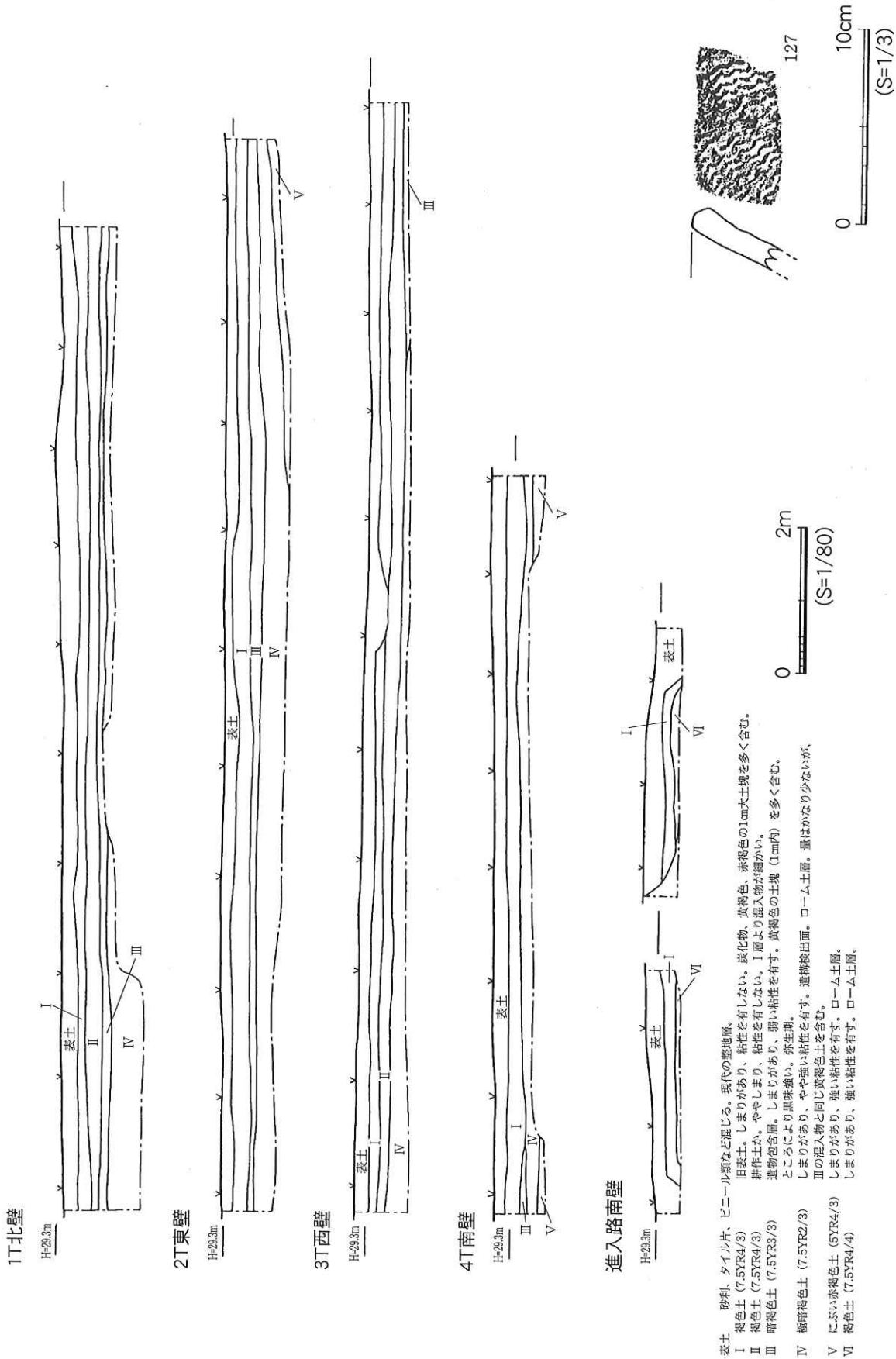
第104図 下立願寺遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第105図 下立願寺遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真70 下立願寺遺跡進入路部分遺構検出状況（西から）



表土 砂利、タイル片、ビニール類など混じる。現代の整地層。  
 I 褐色土 (7.5YR4/3) 旧表土。しまりがあり、粘性を有しない。炭化物、黄褐色、赤褐色の1cm大土塊を多く含む。  
 II 褐色土 (7.5YR4/3) 耕作土か。ややしまり、粘性を有しない。I層より進入物が細かい。  
 III 暗褐色土 (7.5YR3/3) 遺物包含層。しまりがあり、弱い粘性を有す。黄褐色の土塊 (1cm内) を多く含む。  
 IV 極暗褐色土 (7.5YR2/3) ところにより肌味強い。弥生期。  
 V しまりがあり、やや強い粘性を有す。遊耕後出面。ローム土層。量はかなり少ないが、IIIの混入物と同じ黄褐色土を含む。  
 VI にぶい赤褐色土 (5YR4/3) しまりがあり、強い粘性を有す。ローム土層。  
 褐色土 (7.5YR4/4) しまりがあり、強い粘性を有す。ローム土層。

第106図 下立願寺遺跡土層断面図

第107図 下立願寺遺跡出土遺物実測図

### 14 大塚・惣萩遺跡

所在地：立願寺字大塚1084-1

調査原因：調査依頼

対象面積：278m<sup>2</sup>

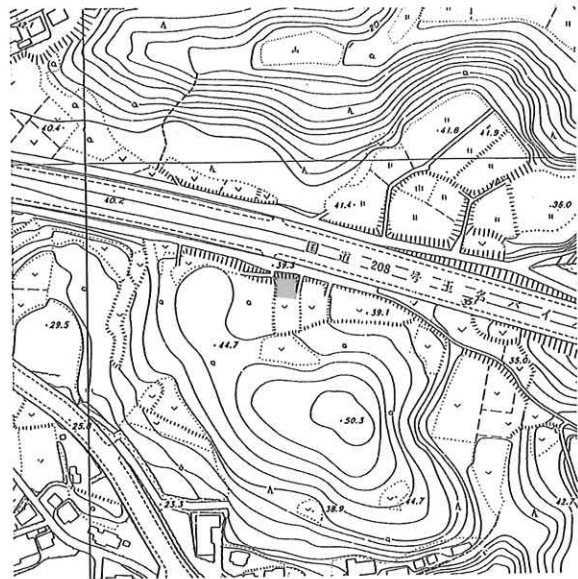
調査期間：平成19年12月4日

担当者：末永 崇

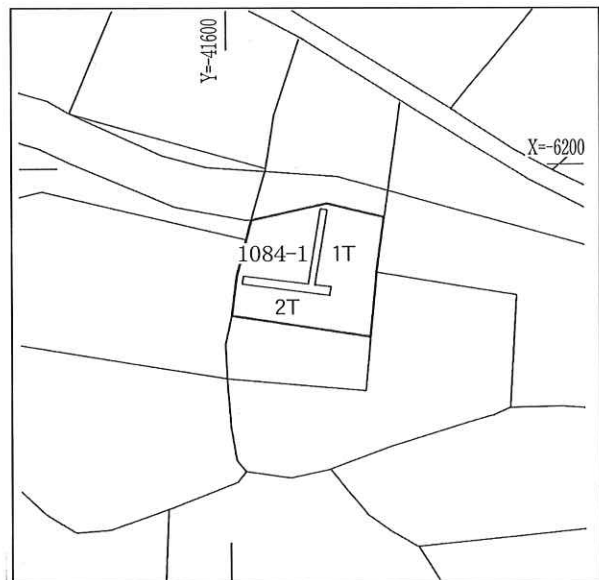
当該地は、小代山から南に広がる低丘陵上に位置する、標高41mほどの地点である。本来は東側へ向けての傾斜地であったとみられるが、現在は畑として段々に造成されている。西側の敷地は、平成17年度に携帯電話鉄塔建設に伴い確認調査を実施しており、埋蔵文化財は確認されていない<sup>(1)</sup>。

今回の調査では、敷地内2ヶ所にトレンチをL字形に設定し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。層位はI、II層が耕作に伴う攪乱層であり、III層から土器片を少量検出した。IV、V層は暗褐色から暗赤褐色を呈するローム層であり、IV層上面でピットを検出した。また、IV層とV層の間で主に黒色を呈する層を検出した。西側から東側へ降って堆積しており、遺物は検出されず、層の成因などは不明である。敷地内全体が畑作などの造成で削られおり、埋蔵文化財の残存率は低いと考えられる。

註(1) 末永 崇「11 立願寺大塚古墳」『玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ』玉名市文化財調査報告第17集 玉名市教育委員会2008



第108図 大塚・惣萩遺跡調査地位置図 S=1/5,000

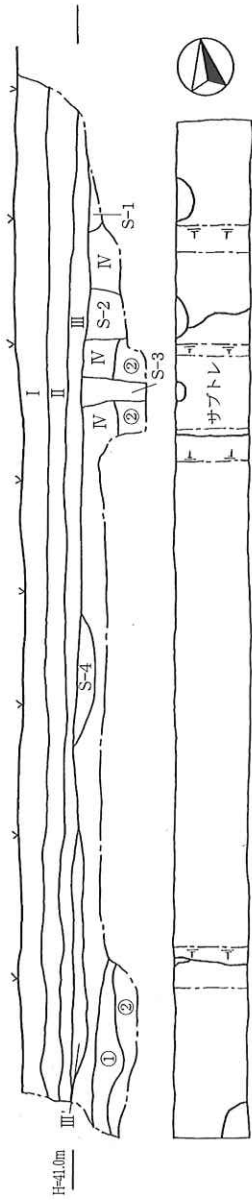


第109図 大塚・惣萩遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

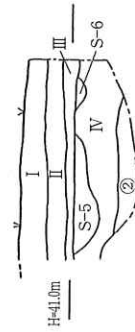


写真71 大塚・惣萩遺跡調査状況(南西から)

1T西壁

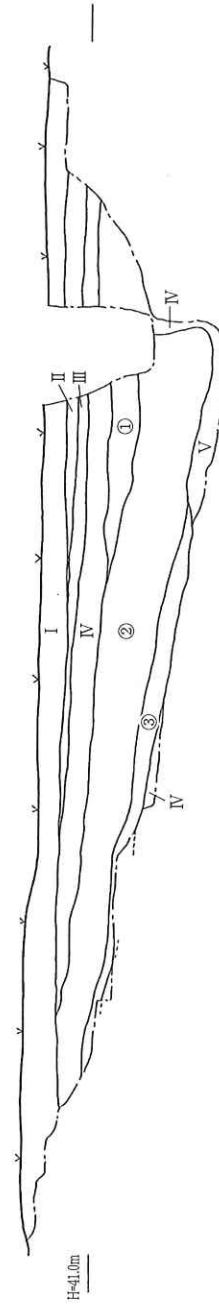


東壁



- I 耕作土。
- II 暗褐色土 (7.5YR3/4) ややしまりがあり、粘性を有しない。I層がややしまったような土質。
- III 黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりがあり、やや粘性を有す。土器片含む。炭化物を少量含む。
- IV 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがあり、粘性を有す。ローム層。
- V 暗赤褐色土 (5YR3/4) しまりがあり、粘性を有す。ローム層。
- ① 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがあり、粘性を有す。黒褐色土を部分的に含む。
- ② 黒色土 (7.5YR2/1) しまりがあり、やや粘性を有す。暗褐色土を部分的に含む。
- ③ 暗褐色土 (7.5YR3/4) ややしまりがあり、やや粘性を有す。IV層に近似する。

2T北壁



第110図 大塚・惣萩遺跡トレンチ実測図



第111図 大塚・惣萩遺跡出土遺物実測図

## 15 玉名郡家跡

所在地：立願寺字石丸1304-1

調査原因：調査依頼

対象面積：423m<sup>2</sup>

調査期間：平成20年2月12日～2月13日

担当者：大倉千寿

調査地は、小代山の南裾部の丘陵状に位置する標高33m程の地点である。

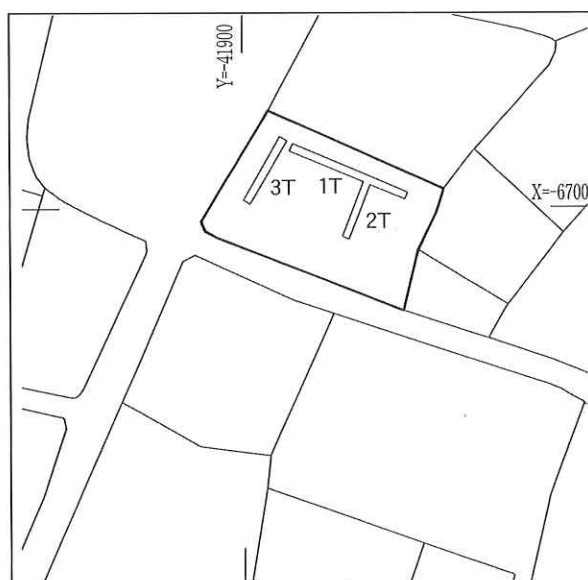
一帯は古代において日置氏により玉名郡衙が置かれ、東側には郡寺である立願寺廃寺が所在する。郡家は、これらの中心となった政庁の跡と推定されている。

この北西側は、谷となっており、東側の立願寺廃寺との間には、現在、上立願寺公園となっている湧水地がある。この北側に、石天神としてお堂に祀られているのは、花崗岩で作られた礎石であり、以前に周辺から出土したものと考えられる。このように現在、3ヶ所において、一帯の民家などに郡衙に関連した建物跡の礎石と思われるものが残存し祀られている。このようなことから、礎石を伴う建物跡が存在していたものと想定されるが、これまでの発掘調査において、礎石が据えられた状態では検出されていない。

今回、調査依頼に基づき、調査地に3本のトレンチを設定し、重機及び人力による掘削を行った結果、I～V層を確認した。I～III層は表土及び造成時の整地層であり、現代の陶磁器片、ガラス片等を含む。IV・V層は明赤褐色を呈する無遺物層であった。これらのことから、過去の造成の際に無遺物層まで掘削されていることが考えられ、遺構や遺物の確認はされなかった。このため、埋蔵文化財はすでに消滅していると考えられる。



第112図 玉名郡家跡調査地位置図 S=1/5,000

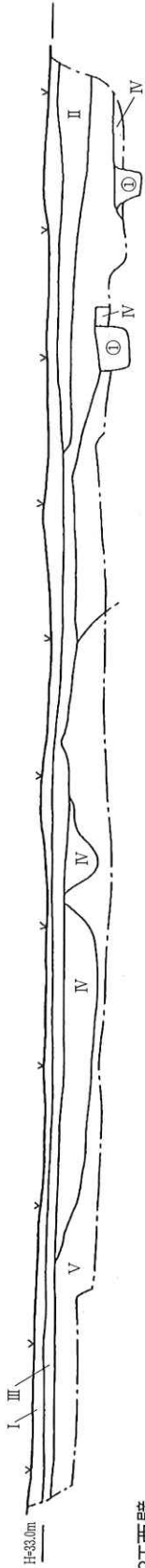


第113図 玉名郡家跡トレンチ配置図 S=1/1,000

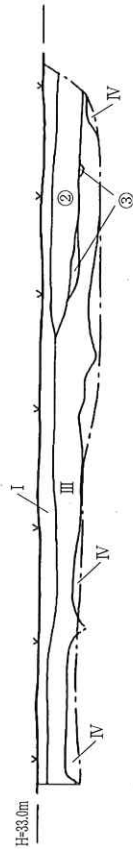


写真72 玉名郡家跡調査地近景（西から）

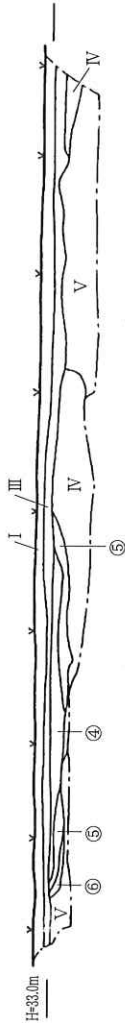
1T北壁



2T西壁



3T西壁



- I 暗褐色土 (7.5YR3/4) 表土。しまりが弱く、粘性を有しない。
- II にぶい黄褐色土 (10YR5/3) しまりがあり、粘性を有す。明赤褐色土(5YR5/6)をブロック状に含む。現代の陶磁器、ガラス、瓦片を含む。造成時の盛土層。ややしまりがあり、わずかに粘性を有す。炭化物を含む。陶磁器、ガラス片を含む。整地層。
- III 褐色土 (7.5YR4/4) しまりが弱く、わずかに粘性を有す。無遺物層と判断。
- IV 明赤褐色土 (5YR5/8) IV層よりやや粘性が強い。しまりは同じくらい。無遺物層。
- V 明赤褐色土 (5YR5/6) III層に酷似。遺物の混入はない。
- ① 褐色土 (7.5YR4/4) II層に酷似。遺物の混入はない。
- ② にぶい黄褐色土 (10YR5/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。
- ③ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりがあり、わずかに粘性を有す。
- ④ にぶい赤褐色土 (5YR4/4) 明赤褐色土をブロック状にまばらに含む。
- ⑤ にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまりがなく、粘性を有しない。粒の粗い山砂。
- ⑥ 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがあり、わずかに粘性を有す。微量の炭化物を含む。

第114図 玉名郡家跡土層断面図

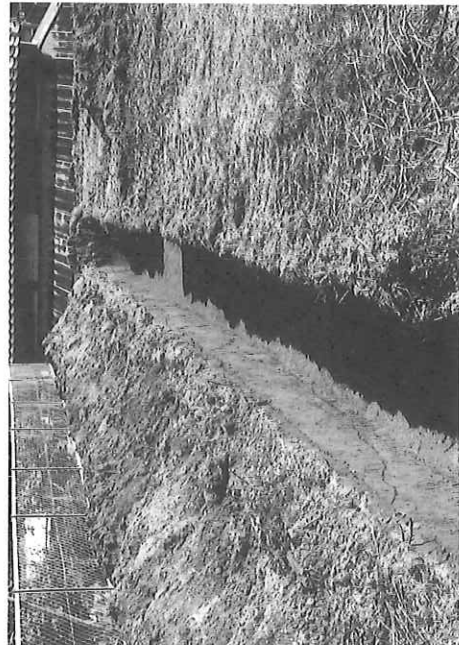


写真73 玉名郡家跡1T全景 (西から)



写真74 玉名郡家跡3T全景 (北から)



### 16 高岡原遺跡B地点

所在地：山田字高岡原2006-2、2010-3、  
2013-1、2013-2

調査原因：調査依頼

対象面積：2,048m<sup>2</sup>

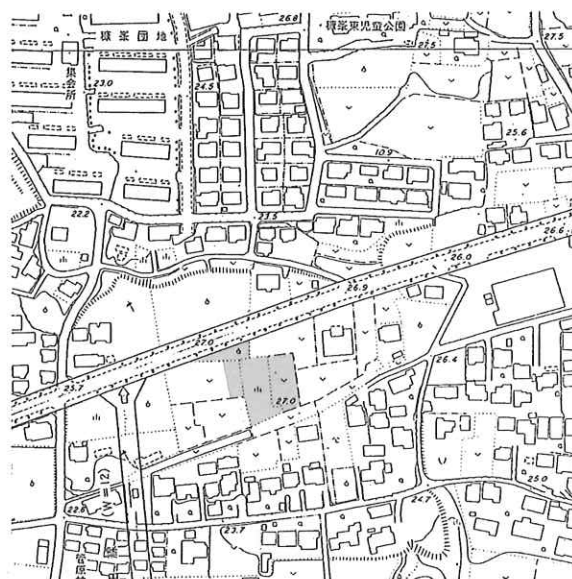
調査期間：平成20年2月27日～2月29日

担当者：大倉千寿

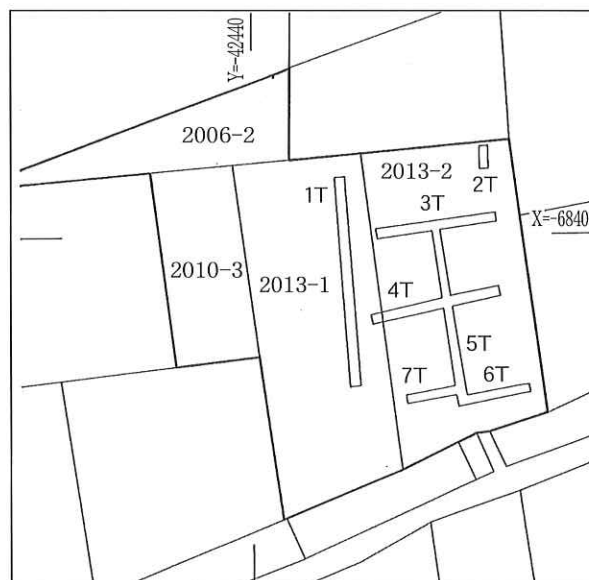
調査地は、境川の東側丘陵上に位置し、標高27m程の地点である。調査時の状況は、畑地及び宅地である。近年、数カ所の確認調査が行われ、平成11年の都市計画道路を挟んだ北側の調査時には、古代～中世の遺物が出土し、溝状遺構、土坑等が検出され、同年の、西側隣接地の調査では、弥生時代の竪穴住居跡や土坑等が検出されている。また、A地点の調査時にも竪穴住居跡、土坑等が検出されている。

調査依頼に基づき、調査地内に7本のトレンチを設定し、重機及び人力による掘削を行い、I～IV層を確認した。I層は耕作土もしくは砕石・山砂による盛土層である。II層は暗褐色を呈し、近・現代の陶磁器片、プラスチック片を含む。III層は黒褐色を呈し、須恵器、土器片を含む、古代の遺物包含層と思われるが、すでにIV層まで過去の造成の際に掘削が行われており、部分的にしか残っていない。IV層は褐色のローム層である。遺構は1・3・5・6・7トレンチでピット、5トレンチで土坑、6トレンチで溝状遺構をいずれもIV層上面で検出した。

後日、店舗建設に伴い、文化財保護法の届出があり、施工の際に埋蔵文化財への影響が生じる部分については再度確認調査を行うことになった。調査の詳細については、平成21年度に刊行予定の玉名市内遺跡調査報告書VIに掲載予定である。



第115図 高岡原遺跡B地点調査地位置図 S=1/5,000



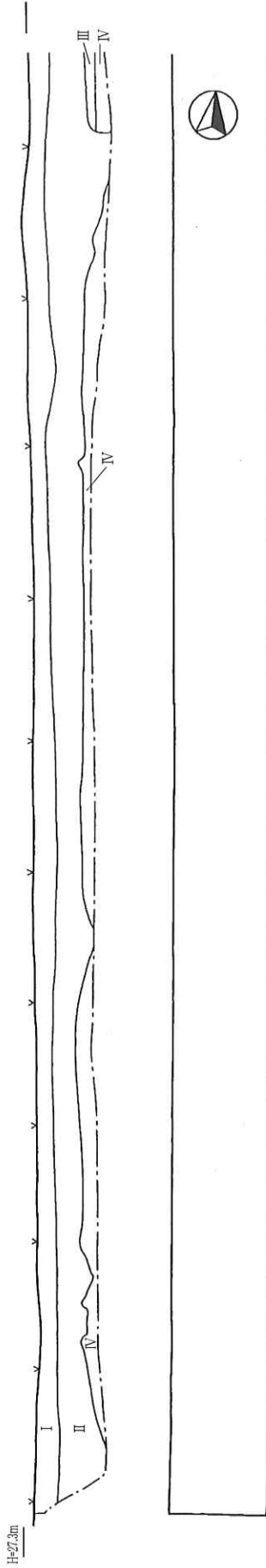
第116図 高岡原遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真75 高岡原遺跡B地点調査地近景（北から）

II 平成19年度の調査

1T西壁

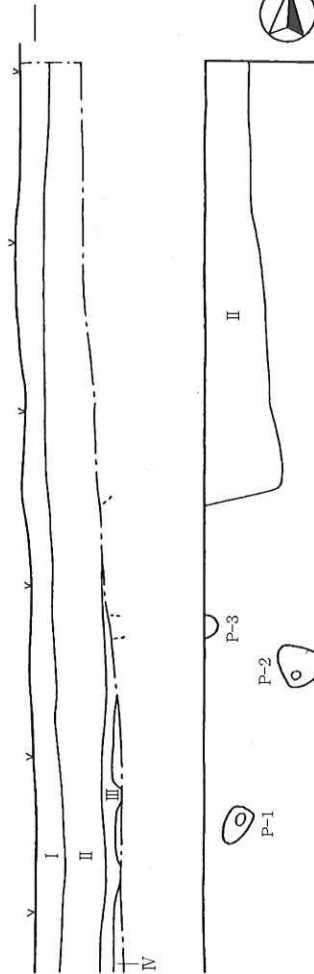


1T

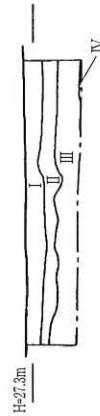
- I 褐色砂 (10YR4/4)
- II 暗褐色土 (10YR3/4)
- III 黒褐色土 (7.5YR3/2)
- IV 褐色土 (7.5YR4/4)
- P-1, 2, 3 覆土 黒褐色土 (7.5YR3/2)

表土、碎石及び山砂。  
上位は強くしまり、下位にいくほど弱くなる。粘性を有しない。  
部分的に褐色土、黒褐色土のブロック、炭化物を含む。  
近、現代の陶磁器片を含む。  
しまりがあり、粘性を有す。土器小片を含む。遺物包含層か。  
しまりがあり、強い粘性を有す。ローム層。  
しまりがあり、粘性を有す。P-1は土器小片を含む。

H=0.3m

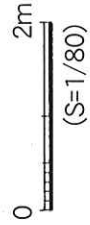


2T西壁



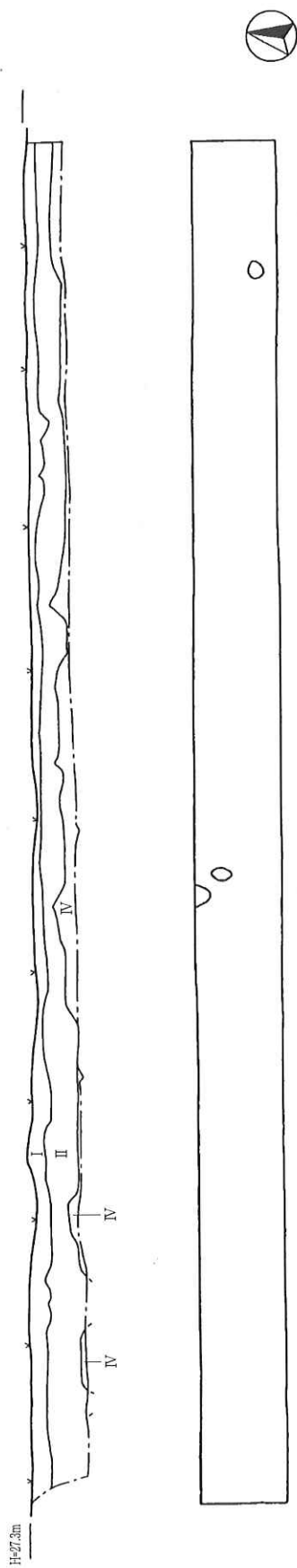
2T

- I 暗褐色土 (7.5YR3/3) 表土、しまりがあり、粘性を有しない。
- II 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有しない。近、現代の陶磁器片、プラスチックを含む。整地層。
- III 黒褐色土 (7.5YR3/2) 強くしまり、やや粘性を有す。須置器、土器片を含む。遺物包含層か。
- IV 褐色土 (7.5YR4/4) しまりがあり、強い粘性を有す。ローム層。

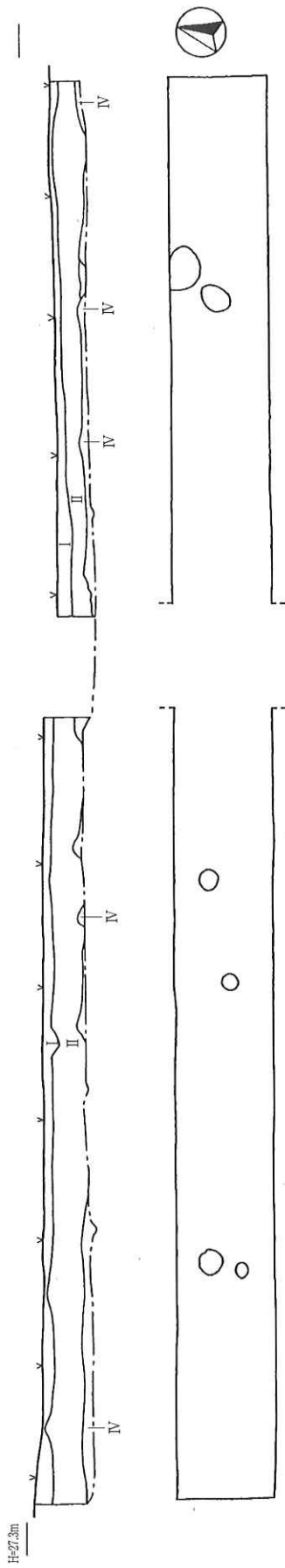


第117図 高岡原遺跡B地点トレンチ実測図①

3T北壁

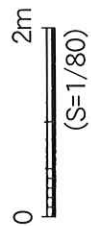


4T北壁



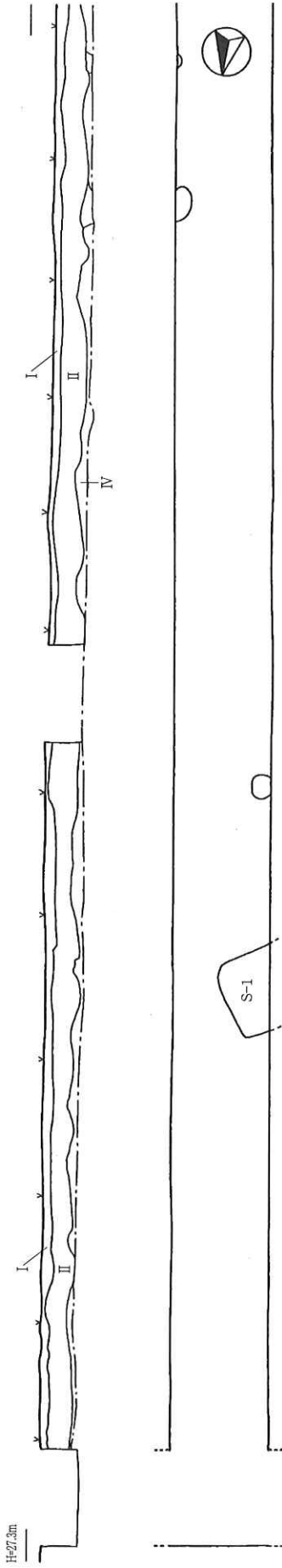
3~7T

- I 暗褐色土 (7.5YR3/3) 表土。しまりなく、粘性を有しない。
- II 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有しない。近、現代の陶磁器片、プラスチック等を含む。
- IV 褐色土 (7.5YR4/4) しまりがあり、強い粘性を有す。
- S-1 覆土 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりがあり、粘性を有す。3cm程度の褐色土をブロック状に含む。炭化物を粒子状に含む。弥生土器小片を含む。
- S-2 覆土 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。焼土粒、炭化物をわずかに含む。土器小片を含む。
- P-4-5 覆土 黒褐色土 (7.5YR3/2) しまりがあり、粘性を有す。土器小片を含む。

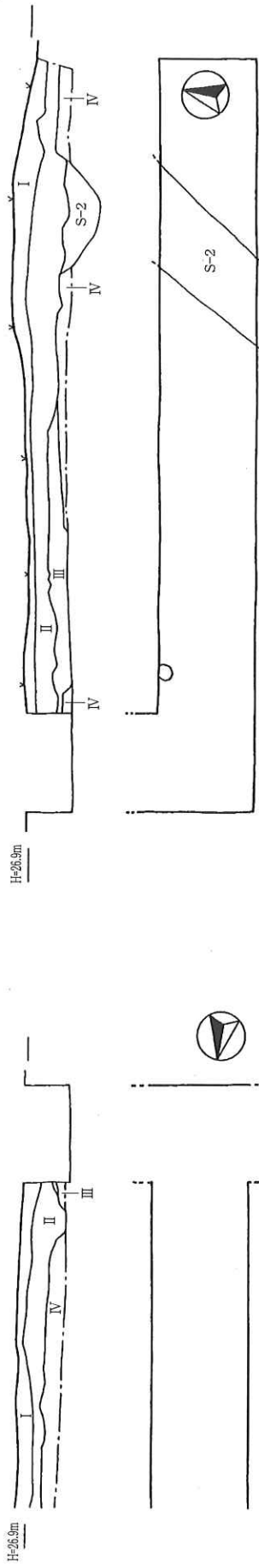


第118図 高岡原遺跡B地点トレンチ実測図②

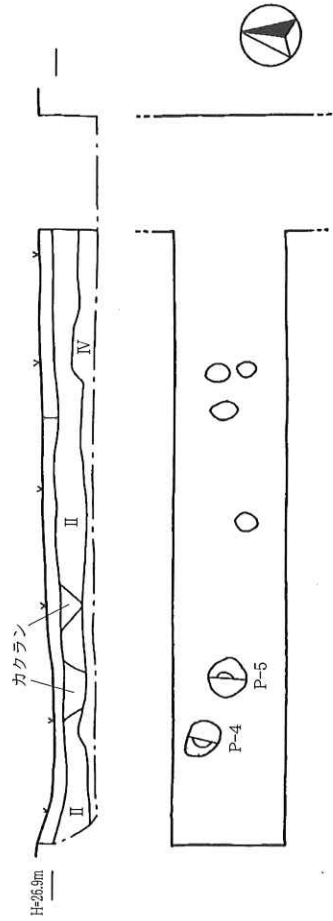
5T東壁



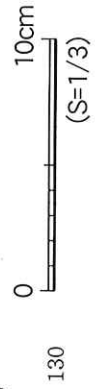
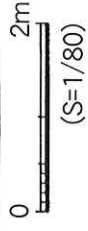
6T北壁



7T北壁



第119図 高岡原遺跡B地点トレンチ実測図③



第120図 高岡原遺跡B地点出土遺物実測図

### 17 玉名平野条里跡

所在地：岩崎字紺町267ほか44筆

調査原因：新市庁舎建設

対象面積：20,199m<sup>2</sup>

調査期間：平成20年3月4日～3月31日

担当者：兵谷有利・大倉千寿

玉名市では、玉名合同庁舎東横に新市庁舎建設を計画した。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、玉名平野条里跡の範囲内であった。

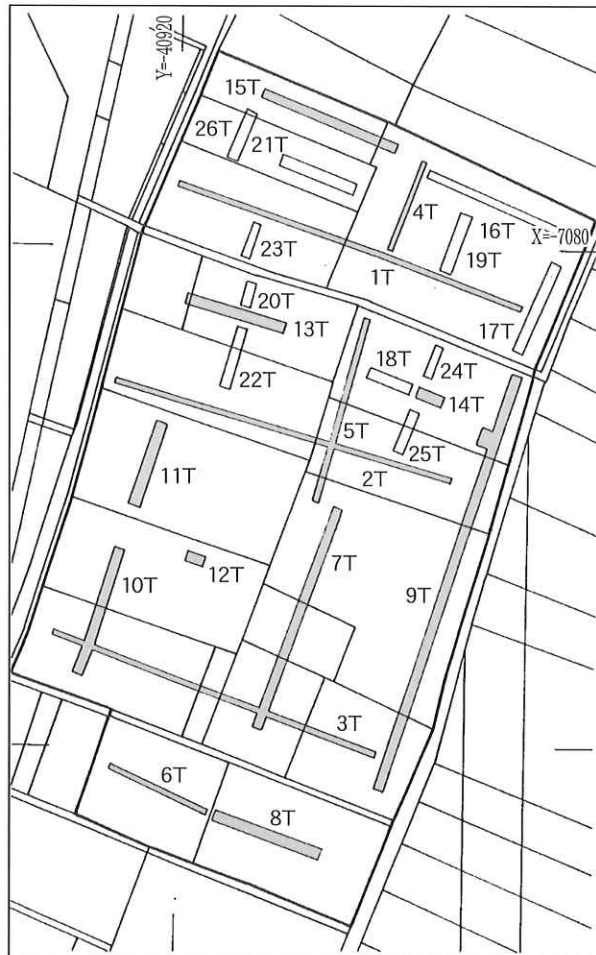
今回の調査は、他の発掘調査や地権者の承諾、耕作物の収穫時期等の都合により、年度内の調査終了が困難であったことから、2カ年度に渡って行うこととなった。調査区内に設定した26本のトレンチのうち15本を平成19年度内に掘削し、埋蔵文化財の状況を確認した。

調査の結果、現代の水田面から深さ70～90cmにかけて旧水田面や畦状を呈する盛り上がりを確認でき、中世の遺物が少量出土することから、中世以降の水田跡と考えられる。深さ110～130cmにかけては、遺物の出土数は非常に少ないが、中世以前の畦状を呈する盛り上がりを確認され、一部では杭列遺構が確認された。杭列遺構は13トレンチ西端と15トレンチ東端の粘土層と湧水の多い砂層の境目から検出された。

詳細な調査結果については、平成21年度に刊行予定の玉名市内遺跡調査報告書VIに掲載予定である。



第121図 玉名平野条里跡調査地位置図 S=1/5,000



第122図 玉名平野条里跡トレンチ配置図 S=1/1,000

平成19年度調査部分

II 平成19年度の調査

第3表 平成19年度市内遺跡出土遺物観察表

押印番号	番号	遺跡名	出土地点	種類	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(外面)	調整(内面)	胎土	焼成	色調(外面)	色調(内面)	備考	
第54図	1	上小田宮の前遺跡	3 T (781-1)	縄文土器	口縁部	—	—	(4.4)	次第文・磨消縄文	ミガキ	0.5~1mm大の白色砂粒、雲母を含む。	良	褐灰色(7.5YR4/1)	褐灰色(7.5YR4/1)		
	2	上小田宮の前遺跡	2 T (784-1) 2~5排土	縄文土器	底部	—	(3.8)	(1.7)	ナデ	ナデ	1mm以上の白色、黒色砂粒を含む。	良	にぶい褐色(5YR7/4)	灰黄褐色(10YR6/2)		
	3	上小田宮の前遺跡	5 T (781-1) 排土	須恵器	底部	—	(9.0)	(2.2)	回転ナデ、回転ハラクズリ	不定方向ナデ	微細な白色、黒色砂粒を極少量含む。	良	灰白色(10YR7/1)	灰白色(2.5Y7/1)		
	4	上小田宮の前遺跡	2 T (781-1)	土師器	口縁部	(12.5)	(10.2)	2.85	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	微細な白色赤色、赤雲母の細粒を含む。	良	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR7/6)	外縁部凹凸あり	
	5	上小田宮の前遺跡	2 T (781-1)	土師器	口縁部	13.3	9.3	3.3	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	微細な1.5mm大の赤色砂粒、雲母を含む。	良	黄灰色(2.5Y6/1)	灰白色(2.5Y7/1)		
	6	上小田宮の前遺跡	2 T (781-1) 排土	瓦質土器	口縁部	—	—	(4.1)	ナデ、ハケ目	ナデ	微細な白色の白色砂粒をわずかに含む。	良	黄灰色(5Y7/2)	(胎)灰色(5Y5/1)		
	7	上小田宮の前遺跡	2 T (781-1)	磁器	口縁部	—	—	(1.35)	施釉	施釉	0.5mm以下の白色砂粒をわずかに含む。	良	灰白色(N8)	灰白色(N8)		
	8	上小田宮の前遺跡	1 T (781-1) 排土	磁器	底部	—	(3.6)	(3.1)	施釉	施釉	精緻	—	良	灰白色(N8)	灰白色(N8)	
	9	上小田宮の前遺跡	2 T (781-1) 排土	磁器	底部	—	7.8	(5.2)	施釉	施釉	精緻	—	良	(胎)灰白(7.5Y7/1)	(胎土)灰色(2.5Y7/1)	石材:滑石
	10	上小田宮の前遺跡	5 T (781-1)	石製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石材:滑石
第55図	11	上小田宮の前遺跡	1 T (784-1)	石製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	12	上小田宮の前遺跡	1 T (758)	須恵器	蓋	(5.2)	—	(1.6)	回転ナデ	不定方向ナデ	微細な砂粒を含む。	良	褐灰色(7.5YR5/1)	灰白色(10YR7/1)		
	13	上小田宮の前遺跡	1 T (758) 排土	須恵器	環	—	—	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ	微細な白色、黒色砂粒を含む。	良	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)		
	14	上小田宮の前遺跡	2 T (762) 排土	須恵器	環	—	—	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ	2mm大の黒色砂粒をわずかに含む。	良	灰白色(N5)	灰白色(N5)		
	15	上小田宮の前遺跡	2 T (779) 排土	須恵器	壺	—	—	(4.2)	回転ナデ	回転ナデ	微細な白色、黒色砂を極少量含む。	良	黄灰色(2.5Y6/1)	褐灰色(10YR6/1)		
	16	上小田宮の前遺跡	1 T (762)	磁器	碗	—	—	(3.95)	施釉	施釉	微細な黒色砂粒を含む。	良	(胎)明緑灰色(7.5GY8/1)	(胎)灰色(N8)		
	17	上小田宮の前遺跡	1 T (758) 排土	土師器	瓶	把手	—	—	—	ハラケズリ	ハラケズリ	白色、黒色の微砂粒を多く含む。	良	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR7/3)	
	18	上小田宮の前遺跡	1 T (758)	石製品	滑石製石鏝	把手	—	—	(7.55)	—	—	—	—	—	—	
	19	上小田宮の前遺跡	2 T (762)	陶器	不明	口縁部	39.6	—	(4.0)	施釉	施釉	白色微砂粒をごくわずかに含む。	良	(胎)オリーブ黒色(10Y4/2)	(胎土)にぶい赤褐色(5YR5/4)	
	20	上小田宮の前遺跡	2 T (762) 割層内(青粘土層)	須恵器	碗	口縁部	(13.6)	7.8	5.5	回転ナデ、回転ハラクズリ	回転ナデ、不定方向ナデ	微細な白色砂粒を少量含む。	良	灰オリーブ色(5Y6/2)	黄灰色(2.5Y6/1)	
21	上小田宮の前遺跡	2 T (770) 排土	須恵器	環	—	—	(8.9)	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ	微細な白色、黒色砂粒を含む。	良	褐灰色(10YR6/1)	灰黄褐色(10YR6/2)		
22	上小田宮の前遺跡	2 T (779) 排土	須恵器	環	—	—	(7.4)	(1.5)	回転ナデ	不定方向ナデ	微細な黒色砂粒を含む。	良	灰黄褐色(10YR6/2)	褐灰色(10YR6/1)		
23	上小田宮の前遺跡	2 T (762) 排土	磁器	碗	口縁部	(16.8)	—	(3.6)	—	—	精緻	良	灰白色(2.5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)		
24	上小田宮の前遺跡	3 T (779) 排土	磁器	碗	口縁部	—	(4.7)	(1.85)	施釉	施釉	精緻	良	(胎)灰オリーブ色(7.5Y5/3)	(胎)灰オリーブ色(7.5Y4/2)		
25	上小田宮の前遺跡	2 T (767-1) 排土	土師器	皿	底部	(7.8)	(7.0)	(1.1)	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	微量の白色粒、雲母を含む。	良	褐色(7.5YR6/8)	褐色(7.5YR6/8)		
26	上小田宮の前	4 T (905-2)	土師器	壺	口縁部	(18.0)	—	(5.45)	横方向ナデ、ハラケズリ	横方向ナデ、ハラケズリ	0.5~1mm大の白色砂粒を含む。	良	明褐色(7.5YR5/6)	褐色(7.5YR6/6)		
27	上小田宮の前遺跡	4 T (906-1) Ⅱ層、耕作土	土師器	壺	口縁部	—	—	(4.7)	横方向ナデ	横方向ナデ	1~2mm以下の白色、黒色微細な砂を含む。	普通	にぶい褐色(7.5YR7/4)	にぶい褐色(7.5YR7/3)		
28	上小田宮の前遺跡	6 T (906-1) 表探	須恵器	壺	底部	—	(12.2)	(1.9)	回転ナデ	不明	微細な黒色砂粒を含む。	良	灰白色(2.5Y7/1)	灰白色(2.5Y8/1)		
29	上小田宮の前遺跡	4 T (906-1) Ⅱ層、耕作土	須恵器	環	底部	—	(9.2)	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ	微細な白色砂粒を少量含む。	良	褐灰色(10YR6/1)	にぶい褐色(7.5YR7/3)		
30	上小田宮の前遺跡	10 T (906-1) Ⅱ・Ⅲ層排土	須恵器	環	底部	—	(7.8)	(1.65)	回転ナデ	不定方向ナデ	微細な白色砂粒を含む。	良	灰白色(N5)	灰白色(N5)		
31	上小田宮の前遺跡	2 T (906-1) 表探	須恵器	壺	口縁部	—	—	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ	—	良	灰白色(N7)	灰白色(N6)		
32	上小田宮の前遺跡	6 T (906-1)	須恵器	壺	口縁部	(20.2)	—	(5.6)	回転ナデ、格子目タタキ	回転ナデ、同心目タタキ	微量の白色砂粒を含む。	良	灰白色(N7)	黄灰色(2.5Y5/1)		
33	上小田宮の前遺跡	3 T (906-1) 表探	青磁	碗	口縁部	—	—	(2.7)	施釉	施釉	精緻	良	灰白色(N7)	明褐色(10GY7/1)		
34	上小田宮の前遺跡	10 T (905-1)	陶器	壺か?	口縁部	—	—	(3.7)	回転ナデ	回転ナデ	白色微砂粒をごくわずかに含む。	良	灰褐色(5YR4/2)	灰褐色(7.5YR6/2)		
35	上小田宮の前遺跡	4 T (676-1)	須恵器	碗	口縁部	—	—	(1.65)	回転ナデ	回転ナデ	1~1.5mm大の白色砂粒をまばらに含む。	良	灰白色(N6)	灰白色(N5)		
36	上小田宮の前遺跡	2 T (677) Ⅰ層	磁器	口縁部	口縁部	—	3.9	4.8	施釉	施釉	—	良	灰白色(10Y8/1)	灰白色(2.5Y8/1)		
37	上小田宮の前遺跡	5 T (676-1)	土師器	壺	口縁部	(15.4)	—	(10.75)	横方向ナデ、ハケ目	横方向ナデ、ハケ目	1~2mm大の白色、黒色砂粒を含む、微細な砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR6/6)	灰黄褐色(10YR6/2)		
38	上小田古屋敷遺跡	1 T (740)	瓦質土器	火舎	口縁部	(15.35)	—	(8.8)	ナデ	ナデ、ハケ目	微細な白色、黒色砂粒を含む。	良	灰白色(N4)	灰白色(N4)	靴跡あり	
39	上小田古屋敷遺跡	1 T (742) 排土	瓦器	碗	底部	—	(5.4)	(2.4)	回転ナデ	不明	微細な白色砂粒を含む。	良	灰白色(2.5Y8/1)	灰白色(2.5Y8/1)		
40	上小田古屋敷遺跡	1 T (742) 排土	青磁	碗	口縁部	—	—	(3.2)	施釉	施釉	精緻	良	(胎)オリーブ黄色(5Y6/3)	(胎)灰黄色(2.5Y7/2)	靴跡あり	
41	上小田古屋敷遺跡	1 T (744-1)	瓦質土器?	埴輪	底部	—	—	(7.7)	ナデ	ナデ	0.1~0.5mm程度の白色粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい褐色(7.5YR6/4)		
42	上小田古屋敷遺跡	1 T (740) 排土	磁器	碗	口縁部	(11.5)	(4.4)	6.3	施釉	施釉	精緻	良	(胎)灰オリーブ色(5Y6/2)	(胎)灰白色(10YR8/2)		
43	上小田古屋敷遺跡	1 T (744) 排土	磁器	碗	口縁部	—	(4.4)	(4.3)	施釉	施釉	精緻	良	(胎)淡黄色(2.5Y7/3)	(胎)灰白色(10YR8/2)		
44	上小田古屋敷遺跡	1 T (740)	陶器	壺	底部	—	—	(10.16)	ナデ	ナデ	微細な3mm大の砂粒を含む。	良	灰褐色(5YR4/2)	灰褐色(7.5YR5/2)		
45	上小田古屋敷遺跡	2 T (746-1)	土師器	環	口縁部	(10.3)	(7.6)	(3.0)	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	0.5mm程度の黒色砂粒を含む。	良	にぶい褐色(7.5YR7/4)	淡黄褐色(7.5YR8/4)		



II 平成19年度の調査

種別 番号	遺跡名	出土地点	種類	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(外面)	調整(内面)	胎土	焼成	色調(外面)	色調(内面)	備考	
第56図	46	上小田古屋敷遺跡	縄文土器	口縁部	—	—	(7.8)	沈線文、ナデ	ナデ	微細～2mm大の砂粒を多く含む。	良	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR7/4)		
	47	上小田古屋敷遺跡	土師器	口縁～底部	8.3	8.2	1.5	糸切り	不明	0.5～1mm大の白色、赤色砂粒を含む。	良	灰白色(10YR8/1)	灰白色(10YR8/1)		
	48	上小田古屋敷遺跡	土師器	完形	7.4	6.4	1.25	回転ナデ、糸切り	不定方向ナデ	微細～0.5mm大の赤色砂粒を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR8/4)	浅黄褐色(7.5YR8/4)		
	49	上小田古屋敷遺跡	土師器	完形	8.0	8.4	1.05	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	1mm以下の白色、赤色微砂粒を含む。	良	にぶい橙褐色(5YR7/4)	にぶい橙褐色(7.5YR7/4)		
	50	上小田古屋敷遺跡	土師器	底部	—	(9.2)	(2.05)	回転ナデ、糸切り	ナデ	微細な白色、1mm大の赤色砂粒を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR8/4)	浅黄褐色(7.5YR8/4)		
	51	上小田古屋敷遺跡	土師器	口縁部～底部	(12.2)	(9.2)	3.4	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	微細な白色砂粒を含む。	良	にぶい橙褐色(7.5YR7/3)	にぶい橙褐色(7.5YR7/4)		
	52	上小田古屋敷遺跡	土師器	口縁部～底部	(8.4)	(7.6)	1.3	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	微細～0.5mm大の赤色砂粒、雲母を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR8/4)	浅黄褐色(7.5YR8/4)		
	53	上小田古屋敷遺跡	土師器	口縁部～底部	(12.4)	(8.6)	3.1	ナデ	ナデ	微細～1mm大の赤色砂粒、雲母を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR8/6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)		
	54	上小田古屋敷遺跡	土師器	完形	(12.3)	(10.0)	3.0	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	微細～1mm大の赤色砂粒を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR8/6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)		
	55	上小田古屋敷遺跡	土師器	口縁部～底部	(13.9)	(11.4)	2.9	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	微細～1mm大の赤色砂粒、雲母を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR8/4)	浅黄褐色(7.5YR8/4)		
	56	上小田古屋敷遺跡	土師器	ほぼ完形	12.1	9.6	3.1	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	微細～2mm大の白色、赤色砂粒、雲母を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR8/3)	浅黄褐色(7.5YR8/3)		
	57	上小田古屋敷遺跡	土師器	口縁部～底部	13.2	7.8	3.4	回転ナデ、糸切り?	回転ナデ	微細の砂粒、0.5～1mm程の赤色砂粒を含む。	良	橙褐色(5YR6/6)	橙褐色(7.5YR6/6)		
	58	上小田古屋敷遺跡	土師器	口縁部～底部	(12.2)	—	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ	微細～0.5mm大の赤色砂粒を含む。	良	橙褐色(7.5YR7/6)	橙褐色(7.5YR7/6)		
	59	上小田古屋敷遺跡	土師器	口縁部～底部	11.8	—	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ	微細な白色砂粒、雲母を含む。	良	橙褐色(7.5YR6/6)	橙褐色(7.5YR6/6)		
	60	上小田古屋敷遺跡	瓦器	体部～底部	—	(6.1)	(3.2)	ナデ	ナデ	微細な白色砂粒を含む。	良	赭灰色(10YR6/1)	灰色(N5/)		
	61	上小田古屋敷遺跡	石製品	滑石製石硯	体部～底部	—	(5.2)	—	—	—	—	—	—	—	
	62	上小田古屋敷遺跡	土師器	底部	—	(9.6)	(1.55)	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	不明	微細～1mm大の白色、赤色砂粒を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR8/4)	浅黄褐色(7.5YR8/4)		
	63	上小田古屋敷遺跡	磁器	碗?	口縁部	—	(2.2)	施釉	施釉	精緻	良	(胎)灰白色(2.5Y7/1)	(胎)灰白色(2.5Y7/1)		
	64	上小田古屋敷遺跡	青磁	碗	口縁部	—	(3.3)	施釉	施釉	精緻	良	(胎)緑灰色(10GY6/1)	(胎)灰白色(5Y7/1)		
	65	上小田古屋敷遺跡	青磁	碗	底部	—	(6.0)	施釉、ヘラ切り	施釉	精緻	良	(胎)滑オリ～灰白色(2.5G7/1)	(胎)灰白色(N8/)		
66	上小田古屋敷遺跡	土師器	底部	—	(8.8)	2.2	ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微細な赤色砂粒、雲母を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)			
67	上小田古屋敷遺跡	土師器	底部	—	(4.2)	(2.0)	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	1mm程度の赤色砂粒、微細な黒色、 全雲母の砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR6/4)	橙褐色(7.5YR7/6)			
68	上小田古屋敷遺跡	土師器	口縁部～底部	(12.4)	(8.0)	2.8	不明	回転ナデ	1mm程度～微細までの赤色砂粒を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR6/6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)			
69	上小田古屋敷遺跡	青磁	碗	底部	—	(7.0)	施釉	施釉	精緻	良	(胎)オリ～灰白色(10Y6/2)	(胎)灰白色(10Y7/2)			
70	上小田古屋敷遺跡	石器	有溝石錘	—	長さ10.5	幅8.2	厚さ7.6	—	—	—	—	—	断面を撮影 したものを 添付する		
71	上小田古屋敷遺跡	石器	底石	口縁部～体部	長さ11.4	幅10.7	厚さ7.3	—	—	—	—	—	—	石材安山岩	
第57図	72	上小田古屋敷遺跡	縄文土器	深鉢	—	—	(17.85)	沈線文、ナデ	ナデ	1mm大の白色砂粒、雲母を多く含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/2)	浅黄褐色(10YR8/3)		
	73	上小田古屋敷遺跡	磁器	底部	—	16.8	(2.3)	施釉	施釉	精緻	良	青灰色(5B5G5/1)	灰色(7.5Y6/1)		
	74	上小田古屋敷遺跡	須恵器	高坏	口縁部	—	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	微細な黒色砂粒を含む。	良	灰色(7.5Y5/1)	灰色(N5Y)		
	75	上小田古屋敷遺跡	縄文土器	深鉢	底部	—	(7.1)	(2.6)	不明	ナデ	1mm以下の白色、黒色の細砂粒をやや含む。	良	橙褐色(5YR6/6)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	
	76	上小田古屋敷遺跡	青磁	碗	底部	(11.8)	(7.6)	(2.1)	施釉	施釉	精緻	良	(胎)灰白色(5Y7/2)	(胎)灰白色(2.5G7/1)	
	77	上小田古屋敷遺跡	磁器	碗	底部	—	(5.8)	(1.5)	施釉	施釉	微細な黒色砂粒を多く含む。	良	(胎)灰白色(10YR8/)	(胎)灰白色(2.5G7/1)	
	78	上小田古屋敷遺跡	縄文土器	深鉢	底部	—	(8.2)	(2.4)	不明	不明	2mm程度の白色砂粒、微細な黒色砂粒を含む。	良	橙褐色(5YR7/8)	灰白色(7.5YR8/1)	
	79	上小田古屋敷遺跡	須恵器	坏	底部	—	(8.4)	(1.8)	回転ナデ	不明	1mm以下の黒色砂粒、微細な白色砂粒を含む。	良	灰白色(2.5Y7/1)	灰白色(2.5Y7/1)	
	80	南大門遺跡	弥生土器	壺	口縁部	(5.0)	—	(36.4)	不明	不明	5mm以下の白色砂粒を含む。	良	橙褐色(7.5YR6/6)	橙褐色(7.5YR6/6)	
	81	南大門遺跡	弥生土器	器台	口縁部～胴部	(11.6)	—	(10.5)	不明	ハケメ、工具痕あり	微細～4mm大の白色砂粒を含む。	良	橙褐色(5YR6/6)	橙褐色(7.5YR7/8)	
	82	南大門遺跡	弥生土器	高坏	脚部	—	—	(9.35)	不明	不明	微細～2.5mm大の白色砂粒を含む。	良	橙褐色(7.5YR7/6)	橙褐色(7.5YR6/6)	
	83	南大門遺跡	弥生土器	弥生土器	把手	—	—	(4.7)	ハケメ	ハケメ	微細な砂粒を含む。	良	浅黄褐色(10YR8/4)	浅黄褐色(10YR8/4)	
	84	南大門遺跡	弥生土器	脚付壺	脚部	—	—	(3.95)	不明	横方向ナデ	微細～2mm大の白色砂粒、 1～5mm大の黒色砂粒を含む。	良	にぶい橙褐色(7.5YR6/4)	明赤褐色(2.5YR6/6)	
	85	南大門遺跡	弥生土器	脚付壺	脚部	—	(11.5)	(5.7)	不明	不明	微細～2mm大の白色砂粒を含む。	良	橙褐色(7.5YR7/6)	橙褐色(5YR7/8)	
	86	南大門遺跡	弥生土器	脚付壺	底部	—	—	(6.8)	ハケメ	ハケメ	微細～5mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい橙褐色(7.5YR6/4)	にぶい橙褐色(7.5YR6/4)	
	87	南大門遺跡	弥生土器	壺	底部	—	(7.5)	(6.9)	ハケメ	ナデ	微細～3mm大の砂粒を含む。	良	橙褐色(5YR6/6)	橙褐色(7.5YR7/6)	
	88	南大門遺跡	土師器	坏	口縁部～底部	(13.4)	(8.7)	(3.25)	糸切り	ナデか?	微細～2mm大の砂粒を含む。 微細～0.5mm大の雲母をまばらに含む。	良	橙褐色(7.5YR7/6)	橙褐色(7.5YR7/6)	
	89	南大門遺跡	土師器	坏	口縁部～底部	—	—	(2.65)	糸切り	不明	微細な白色、黒色砂粒を含む。	良	橙褐色(7.5YR6/6)	橙褐色(7.5YR6/6)	
	90	南大門遺跡	瓦	軒丸瓦	瓦当部	—	—	(2.2)	—	ナデ	4mm以下の白色砂粒を含む。	良	—	灰色(N5/)	

II 平成19年度の調査

種別 番号	遺跡名	出土地点	種類	部位	口径(㎜)	底径(㎜)	器高(㎝)	調整(外面)	調整(内面)	胎土	焼成	色調(外面)	色調(内面)	備考
第62回	91 南大門遺跡	1T 1~3層	瓦	—	長さ(136)	幅(115)	厚さ(22~25)	凹面:へら調整,ナデか	凸面:ナデか	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	凹面:黒色(10YR2/1)	凸面:黒色(10YR2/1)	
	92 南大門遺跡	1T 1~3層	瓦	—	長さ(94)	幅(122)	厚さ1.7	凹面:ナデ	凸面:ナデ	微細な砂粒を多量に含む,1~4mm大の砂粒を含む。	良	凹面:にぶい黄褐色(10YR6/4)	凸面:黄褐色(10YR6/6)	
	93 南大門遺跡	1T 1~3層	瓦	—	長さ(143)	幅(107)	厚さ1.7	凹面:へら調整,ナデか	凸面:ナデか	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	凹面:黒色(10YR2/1)	凸面:黒褐色(2.5Y3/1)	
	94 南大門遺跡	1T 排土	瓦	—	長さ(163)	幅(152)	厚さ(1.6)	凹面:へら調整,ナデか	凸面:ナデか	微細~5mm大の白色砂粒を、やや多く、黒色砂粒をわずかに含む。	普通	褐色(5YR6/6)	—	滑り面にて、黒色砂粒を多量に含む
第66回	95 山下前畑遺跡	4T Ⅷ層一拵	土師器	ほぼ完形	長さ(81)	幅(89)	厚さ(1.7)	回転ナデ,糸切り	不定方向ナデ	微細な雲母,砂粒を含む。	良	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	
	96 立願寺庚寺	2T S-3層土	瓦	狭端部~広端部	長さ36.9	幅(23.25)	厚さ2.6	凹面:布目庄瓦	凸面:縄目タタキ	微細~3mm大の黒褐色,砂粒を含む。	良	凹面:灰黄色(2.5Y7/2)	凸面:灰黄色(2.5Y5/1)	
	97 立願寺庚寺	2T 排土	瓦	広端部	長さ(31.8)	幅(28.2)	厚さ(2~25)	凹面:布目庄瓦	凸面:縄目タタキ	2~4mm大の白色砂粒,微細な黒色砂粒を含む。	良	凹面:灰白色(10YR7/1)	凸面:褐灰色(10YR6/1)	
	98 立願寺庚寺	2T 排土	瓦	広端部	長さ(23.2)	幅(10.5)	厚さ2.0	凹面:布目庄瓦	凸面:縄目タタキ	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	凹面:灰白色(10YR7/1)	凸面:にぶい黄褐色(10YR7/2)	
第70回	99 立願寺庚寺	2T 排土	瓦	側縁部	長さ(10.7)	幅(10.0)	厚さ(2.1)	凸面:ナデ	凹面:布目庄瓦	5mm以下の白色砂粒をわずかに含む、細かい白色,黒色砂粒を含む。	良	灰色(7.5Y4/1)	灰色(7.5Y4/1)	
	100 横島城跡	3T 耕作土内	土製品	—	長さ(3.55)	幅0.9	孔の直径0.3	—	—	微細な砂粒を含む。	良	にぶい赤褐色(2.5YR5/3)	—	
	101 年の神遺跡	12T 一拵	弥生土器	口縁部	(30.9)	—	(5.1)	横方向ナデ	横方向ナデ	微細な砂粒を多く含む,0.5~2mm大の砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	
	102 年の神遺跡	13T X I層排土	弥生土器	口縁部~胴部	23.2	—	(13.8)	横方向ナデ,ハケメ	ナデ	微細な白色,黒色砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	
第101回	103 年の神遺跡	13T X I層排土	甕	口縁部	—	—	(2.5)	横方向ナデ	横方向ナデ	微細~5mm大の白色砂粒を含む。	良	褐色(2.5YR6/8)	褐色(2.5YR7/8)	
	104 年の神遺跡	14T X I層一拵	壺	口縁部	(26.9)	—	(2.15)	ハケメ,ナデ	ナデ	微細~2mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR6/4)	
	105 年の神遺跡	13T X I層一拵	甕	底部	—	(5.2)	(4.0)	ナデ	ナデ	微細~2mm大の砂粒を含む。	良	淡黄褐色(10YR8/3)	にぶい褐色(7.5YR6/4)	
	106 年の神遺跡	14T X I層一拵	甕	口縁部	(26.2)	—	(9.85)	ナデ,ハケメ	ナデ	微細~3mm大の砂粒を含む,2mm大の雲母を少量含む。	良	にぶい褐色(7.5YR7/4)	にぶい褐色(7.5YR7/4)	
第102回	107 年の神遺跡	14T X I層一拵	甕	口縁部	(25.4)	—	(12.85)	横方向ナデ	横方向ナデ	0.5~2mm大の砂粒を含む。	良	にぶい褐色(7.5YR8/2)	灰白色(7.5YR8/2)	
	108 年の神遺跡	14T X I層一拵	甕	口縁部	—	—	(5.0)	ハケメ,横方向ナデ	横方向ナデ	4mm以下の白色砂粒を含む。	良	灰白色(7.5YR8/6)	灰色(5Y4/1)	
	109 年の神遺跡	14T X I層一拵	甕	底部	—	6.3	(7.6)	不明	ナデ	2mm以下の白,黒色砂粒を含む。	良	褐色(2.5YR6/6)	褐色(5YR7/6)	
	110 年の神遺跡	14T X I層一拵	器台	底部	(5.2)	(7.6)	(6.7)	ナデ	工具痕,ハケメ後ナデ	2mm以下の白色,黒色砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR7/6)	淡黄褐色(7.5YR8/6)	
第107回	111 年の神遺跡	14T X I層一拵	器台	底部	—	(8.4)	(5.5)	不明	工具痕,横方向ナデ	微細~3mmまでの白色砂粒を多く含む。	良	淡黄褐色(10YR8/4)	淡黄褐色(10YR7/3)	
	112 年の神遺跡	17T X I層一拵	器台	口縁部~胴部	(27.6)	—	(6.6)	横方向ナデ,ハケメ	横方向ナデ,ナデ	細かい白色砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	口縁部が少し
	113 年の神遺跡	17T X I層一拵	高坏	口縁部	—	—	(2.2)	横方向ナデ	横方向ナデ	3mm以下の白色砂粒を含む。	良	灰黄褐色(10YR5/3)	灰黄褐色(10YR4/2)	
	114 年の神遺跡	17T X I層一拵	高坏	口縁部	—	—	(2.6)	横方向ナデ	横方向ナデ	微細な白色砂粒を含む。	良	相灰色(7.5YR5/1)	褐色(7.5YR7/6)	
第108回	115 年の神遺跡	17T X I層一拵	甕	口縁部	—	—	(3.3)	横方向ナデ	横方向ナデ	微細な白色砂粒,雲母を含む。	良	灰黄褐色(10YR5/2)	灰黄褐色(10YR5/2)	
	116 年の神遺跡	17T X I層一拵	甕	口縁部	—	—	(4.7)	横方向ナデ	横方向ナデ	白色砂粒,微細な雲母を含む。	良	灰黄褐色(10YR5/2)	にぶい褐色(7.5YR7/4)	
	117 年の神遺跡	18T X I層一拵	甕	口縁部	—	—	(5.2)	横方向ナデ	ナデ	2mm以下の白色砂粒を含む。	良	にぶい褐色(7.5YR7/4)	にぶい褐色(7.5YR7/4)	
	118 年の神遺跡	17T X I層一拵	甕	底部	—	10.5	(6.4)	ハケメ	ナデ	微細~3mm大の白色砂粒をまばらに雲母を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR5/3)	淡黄褐色(7.5YR8/6)	
第109回	119 年の神遺跡	17T X I層一拵	甕	底部	—	6.5	(6.3)	ナデ,横方向ナデ	不明	3mm以下の白色砂粒を含み,雲母を微細に含む。	良	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	
	120 年の神遺跡	17T X I層一拵	器台	脚部	—	(9.0)	ハケメ	横方向ナデ,ナデ	横方向ナデ,ナデ	微細~1mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/4)	淡黄褐色(10YR8/4)	
	121 年の神遺跡	20T 一拵	甕	口縁部	—	—	(3.9)	横方向ナデ	横方向ナデ	微細な砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/3)	淡黄褐色(10YR6/3)	
	122 年の神遺跡	22T VII・IX・X層一拵	甕	底部	—	7.95	(4.7)	ハケメ	不明	微細~4mm大の白色砂粒,2mm大の黒色砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR7/6)	淡黄褐色(10YR8/3)	
第111回	123 年の神遺跡	22T VII・IX・X層一拵	甕	口縁部~胴部	—	—	(24.7)	横方向ナデ,ハケメ	ナデ	微細~2mm大の白色,黒色砂粒を含む。	良	淡黄褐色(10YR8/4)	淡黄褐色(10YR8/4)	赤彩あり 直径1.90g (重さ)1.90g
	124 年の神遺跡	17T X I層一拵	石器	磨製石斧	長さ(44)	幅(24.5)	厚さ(1.05)	—	—	—	—	—	(重さ)16.0g	
	125 年の神遺跡	18T X層一拵	石器	磨製石斧	長さ(40.5)	幅(18)	厚さ(0.45)	—	—	—	—	—	石斧,尖山形 (重さ)1.688g	
	126 年の神遺跡	22T Ⅷ層一拵	石器	台石	長さ26.7	幅26.3	厚さ6.5~8.9	—	—	—	—	—	—	
第119回	127 下立願寺遺跡	4T I~II層	縄文土器	口縁部	—	—	(4.6)	山形文	ナデ	微細な砂粒を多く含む,黒色砂粒を含む。	良	にぶい褐色(10YR7/4)	褐色(7.5Y7/6)	
	128 大塚・惣萩遺跡	1T S-3	須恵器	高台付坏	—	(10.0)	(2.0)	回転ナデ,底部へら切り	不定方向ナデ	微細な砂粒をわずかに含む。	良	灰黄褐色(10YR6/2)	にぶい黄褐色(10YR7/3)	
	129 大塚・惣萩遺跡	1T 排土	須恵器	高坏	—	—	(2.2)	回転ナデ	不定方向ナデ	微細~1mm大の黒色砂粒を含む。	良	にぶい黄色(2.5YR6/3)	にぶい褐色(7.5YR6/3)	
第119回	130 高岡原遺跡B地点	3T III層	須恵器	口縁部	—	—	(5.2)	タタキ,回転ナデ	回転ナデ	微細な白色砂粒を含む。	良	灰色(5Y6/1)	灰色(N4)	

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

#### 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

所在地：山田字高岡原2050-1

調査原因：店舗建設

対象面積：600m<sup>2</sup>

調査期間：17年4月26日～7月4日

担当者：齋父雅史

#### (1) 調査に至る経緯

当地での店舗建設に伴い、平成16年11月9日付けで埋蔵文化財の届出がなされ、平成16年11月24日から26日にかけて確認調査を実施した。その結果、住居跡等の埋蔵文化財が確認されたため、施主及び関係者と協議を行い、敷地1,007m<sup>2</sup>のうち、埋蔵文化財に影響が発生する600m<sup>2</sup>について発掘調査を実施した。

確認調査の結果は、玉名市文化財調査報告第15集『玉名市内遺跡調査報告書Ⅲ』（2006）に「高岡原遺跡B地点」として報告している。土層は基本的に、Ⅰ・Ⅱ層が表土、耕作土であり、Ⅲ層が遺物包含層、Ⅳ層上面が弥生時代の遺構検出面であった。

#### (2) 調査体制

発掘調査（平成17年度）

調査期間 平成17年4月26日～7月4日

調査担当 技師 齋父雅史

発掘作業員 古賀武子 佐藤建郎

品川界代 田代京子

田代千代子 西川綾子

竹内伴英 西田宣道

平野輝代 福島年春

松山ツナ子

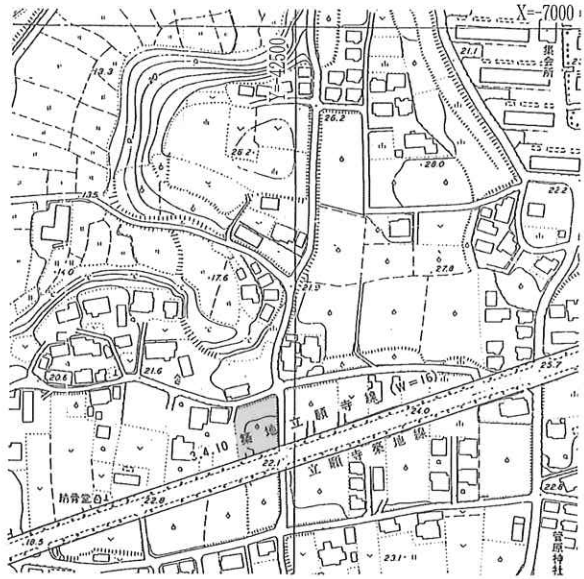
整理作業（平成17年度）

整理・報告書担当 齋父雅史

整理作業員 古賀武子 五野富美子

坂崎郷子 権藤 功

早川イツエ 平野輝代



第123図 高岡原遺跡位置図 S=1/5,000



第124図 高岡原遺跡調査区位置図 S=1/1,000



写真76 高岡原遺跡調査区全景（調査前）

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

#### (3) 遺跡の位置及び歴史的環境

高岡原遺跡は、小代山南麓の西側にやや舌形状に突出した低丘陵上に位置しており、標高は20～25m程である。地形は南西側にかけて緩やかに傾斜していく。遺跡の西側には境川が流れ、有明海へ注いでいるが、当時の海岸線は、遺跡の南側約1km付近まで達していたと考えられる。

周辺の遺跡を時代ごとに概観すると、まず旧石器時代の遺跡は、小代山麓などに5ヶ所ほどが周知されているのみで、そのほとんどが表採資料によるものであったが、近年の発掘調査によって当遺跡の北東側に位置する糠峯遺跡でサヌカイト製の尖頭器が1点出土している。しかし、明確な生活跡の痕跡などは発見されていない。

縄文時代は、東側に隣接して高岡原J遺跡があり、平成14年度の発掘調査では、縄文時代と思われる土坑の他、石斧、磨石、円盤形石器などが出土している。また、付近から、縄文時代晩期の甕が埋設された状態で確認されていることなどからも、一帯では縄文時代から遺構と遺物が認められる。

弥生時代になると、現在のところ周辺で前期の遺跡は確認できないが、中期になると糠峯遺跡や松尾遺跡、築地の東南大門遺跡などで甕棺墓群が多く出現してくる。それら墳墓に伴う居住区域の遺跡も存在するものと考えられるが不明な点が多い。近年、南出遺跡から黒髪式土器を含む中期の住居跡が確認され、平成18年度の調査では、古閑遺跡において中期の住居跡と思われる遺構から多量の弥生土器が出土している。その中には脚部の高い高坏や、丹塗土器が数点含まれ、土製勾玉も出土していることなどから祭祀的な遺構の可能性もある。この古閑遺跡は、高岡原遺跡とは境川を挟んだ対岸に位置している。また、

中期の代表的な遺跡としては、やや南西側であるが年の神遺跡がある。甕棺群と共に支石墓が数基確認され、うち1基からゴホウラ貝製の腕輪が7点出土している。

弥生時代後期になると玉名の台地上においては数カ所で住居跡が多数確認されているため大小含めて集落が多く形成されていたものと考えられる。その中でも高岡原遺跡は大規模な集落であると考えられ、平成4年の築地立願寺線に伴う調査<sup>(1)(2)</sup>では、住居跡が24基確認され、そのうちの2基から小型仿製鏡、及び鏡の紐部が出土している。

また南西側の境川対岸上には、大原遺跡があり、大規模な箱式石棺墓群が形成されると共に、大型木棺墓が確認されるなど重要な遺跡が存在する。

付近の東南大門遺跡からも弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての大型木棺墓とそれを囲むような大型溝が検出され、葺石状の集石があるなど特殊であり、墳丘墓の可能性などが指摘されている。

古墳時代としては、付近に高岡古墳があるが、現在は安山岩の板石がいくつか残るのみで、その構造などは不明であり、古墳であったかも疑問が残る。また、糠峯遺跡の中に、箱式石棺を主体とする古墳があったとされ、団地造成の際に石棺のみが移転されている。他に古墳は、北東側に立願寺大塚古墳、小塚古墳などが存在する。

その後、古代になると、地方官衙として玉名郡衙が整備され、郡家や郡倉を中心とした日置氏による地方政治が確立していく。

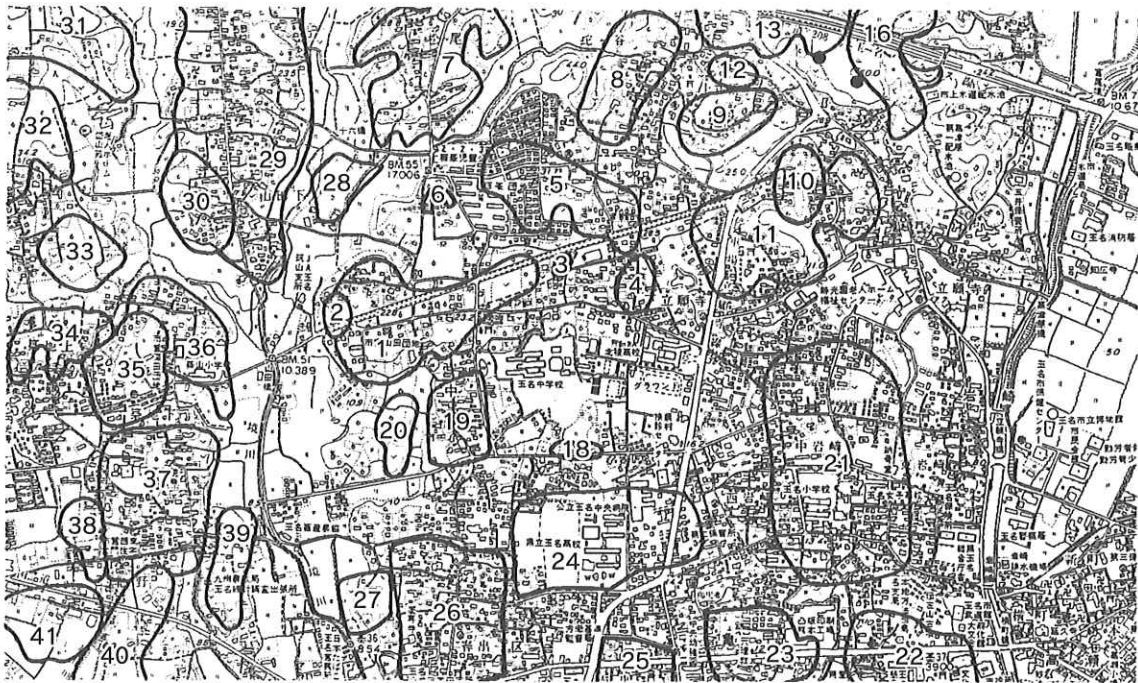
中でも、郡寺である立願寺廃寺から出土した鬼瓦は、大宰府政庁跡のものと同類型であり強い影響力があったものと想定される。高岡原遺跡の東側に郡衙道及び郡家が位置しており、付近の糠峯遺跡から当遺跡に至っては、



Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



写真77 高岡原遺跡遠景（西側より）



- |           |             |                             |
|-----------|-------------|-----------------------------|
| 1 高岡原遺跡   | 15 小塚古墳     | 29 山田神社門前遺跡                 |
| 2 高岡城跡    | 16 大塚・惣萩遺跡  | 30 五郎丸遺跡                    |
| 3 高岡原J遺跡  | 17 冷水横穴群    | 31 西田遺跡                     |
| 4 花水遺跡    | 18 城下遺跡     | 32 四十九遺跡                    |
| 5 糠峯遺跡    | 19 馬場遺跡     | 33 築地那木野遺跡                  |
| 6 高頭遺跡    | 20 ホカンヤカタ遺跡 | 34 八段遺跡                     |
| 7 山田松尾平遺跡 | 21 岩崎原遺跡    | 35 築地東遺跡                    |
| 8 玉名郡家跡   | 22 繁根木遺跡群   | 36 古閑遺跡                     |
| 9 立願寺廃寺   | 23 亀甲遺跡     | 37 南大門遺跡・蓮華遺跡<br>浄光寺蓮華院境内遺跡 |
| 10 玉名郡倉跡  | 24 玉名高校校庭遺跡 | 38 平町遺跡                     |
| 11 下立願寺遺跡 | 25 南出遺跡     | 39 東南大門遺跡                   |
| 12 松尾原遺跡  | 26 田島遺跡     | 40 大原遺跡                     |
| 13 松尾遺跡   | 27 春出遺跡     | 41 築地市場遺跡                   |
| 14 大塚古墳   | 28 山田中島遺跡   |                             |

第125図 高岡原遺跡周辺遺跡分布図



### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

古代の遺構などが確認されることから関連した施設があったと考えられる。これについては後で述べることにする。

中世になると遺跡の西側に大野一族が城主とされる高岡城が築かれる。伝承では、天徳二年、紀清賢が築いたとも云われている。現在その痕跡は分かりにくいですが、道路として利用されている窪地は、掘切状遺構の名残りである可能性もある。付近には通称「乙姫さんの墓」、「紀氏貴婦人の墓」と伝えられる石造物が点在し、以前に馬頭骨や鉄滓が出土したとされ、鍛冶場などがあったと考えられている。

また、平成4年の調査において、土坑墓から、瓦器碗や青磁碗が副葬された状態で出土している。

北西側には、山田日吉神社を中心とした山田神社門前遺跡が広がっている。「白山十二坊」と呼ばれる十二箇所の修験道場跡と各坊で崇拜されてきた石造物などが残存しており、特殊な町並みが形成されている。

南側には、ホカヤカタ、馬場遺跡といった中世の居館と想定される遺跡が所在する。馬場遺跡には、土塁状の盛土がみられ、石塔などが残存している。

このように周辺は縄文時代から中世にかけて多くの遺跡に囲まれている。特に弥生時代中期～後期にかけての集落及び墳墓は境川を挟んだ両岸の丘陵上に多く存在している。

#### (4) 調査の経緯及び方法

調査では、施行範囲のうち確認調査の成果に基づいて埋蔵文化財に影響が発生する全体の南側（600㎡）に調査区を設定した。

敷地の北側を調査の対象外にしたのは、現代の攪乱を受けており遺跡は消滅していたことによる。

表土剥ぎは、以前のぶどう畑等に伴う耕作土（Ⅰ・Ⅱ層）、包含層上面までを重機で掘削し、それ以下は人力で作業を行った。検出した遺構はそれぞれ番号を付けて、ベルトを残しながら掘り下げた。遺物も各遺構、層ごとに番号を付けて取り上げた。実測は遺構配置図を1/60で、それ以外を1/10及び1/20スケールで行い、撮影は35mmカラーリバーサル及びモノクロフィルム、また完掘状況には中判による撮影を行った。

#### (5) 遺構と遺物

##### ① 弥生時代の遺構と遺物

##### 遺構

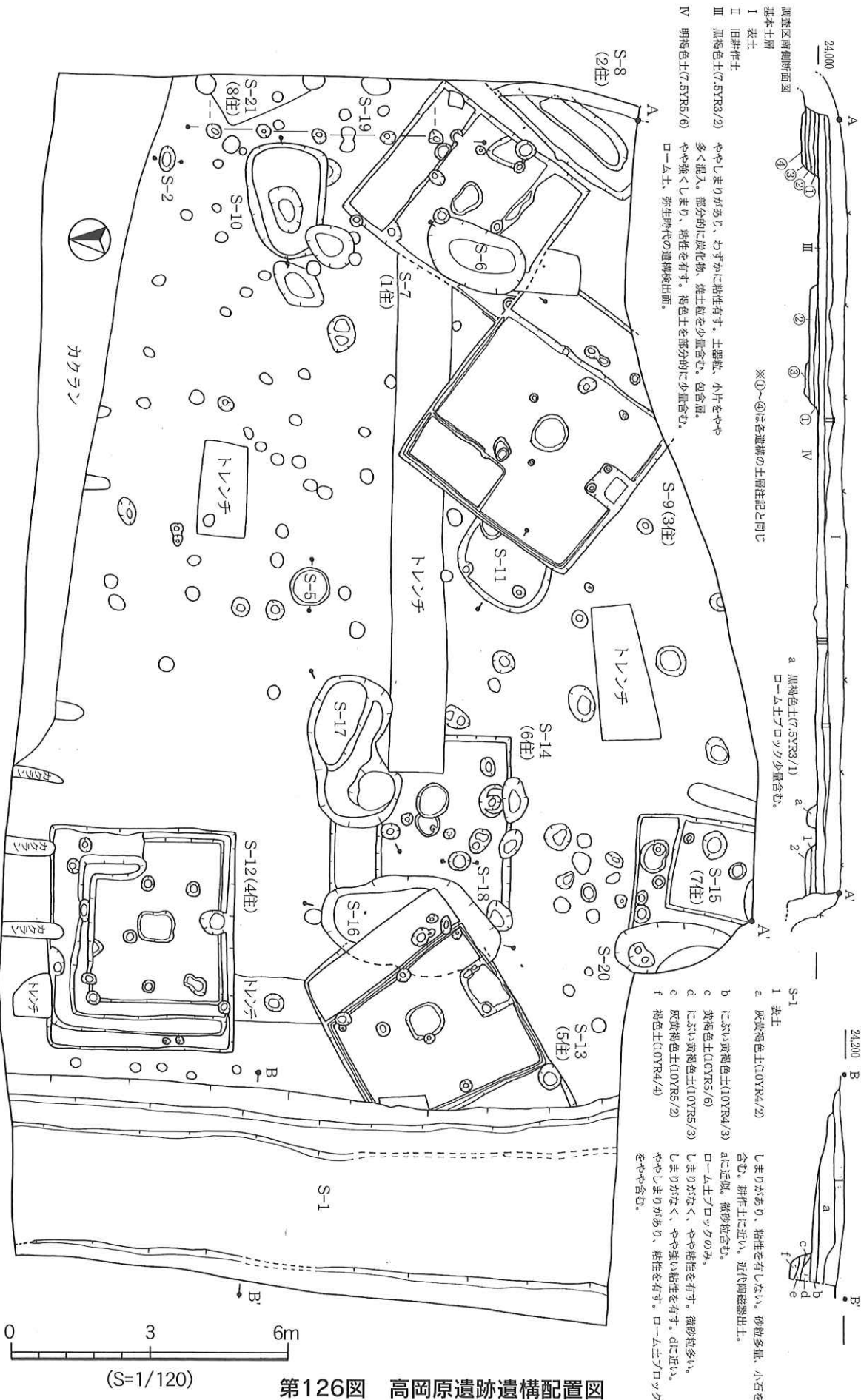
##### ・ S-7（1号住居跡）

調査区の東端で検出した。南西側は一部3号住居跡に切られているが、長軸4.0m、短軸3.5mの長方形を呈した住居跡である。南西側はさらに土坑（S-6）に切られており、他に古代と思われるピットに切られた部分がある。床面の中央に、やや不整形な炉があり、それを挟むように2本の柱穴と思われるピットがある。北側と南側の両端にベッド状遺構がある。東側に出入口の部分と想定される落ち込みがり、梯子段のようなものが設置されていた可能性がある。遺物は脚付甕の脚部、高坏2点が出土したほか、ピット内より甕が出土した。また、自然石2点が南側の壁際から寄り添って出土したが、その意味などは不明である。

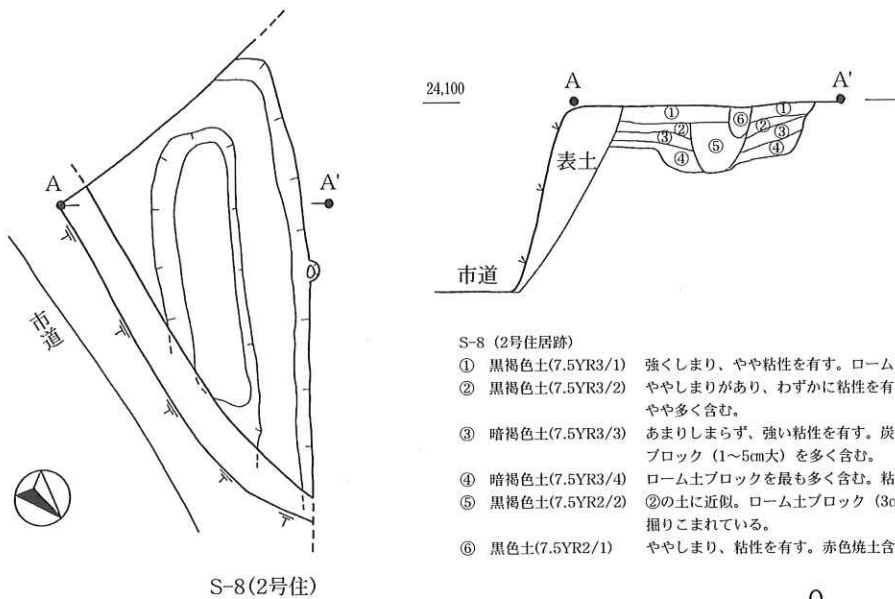
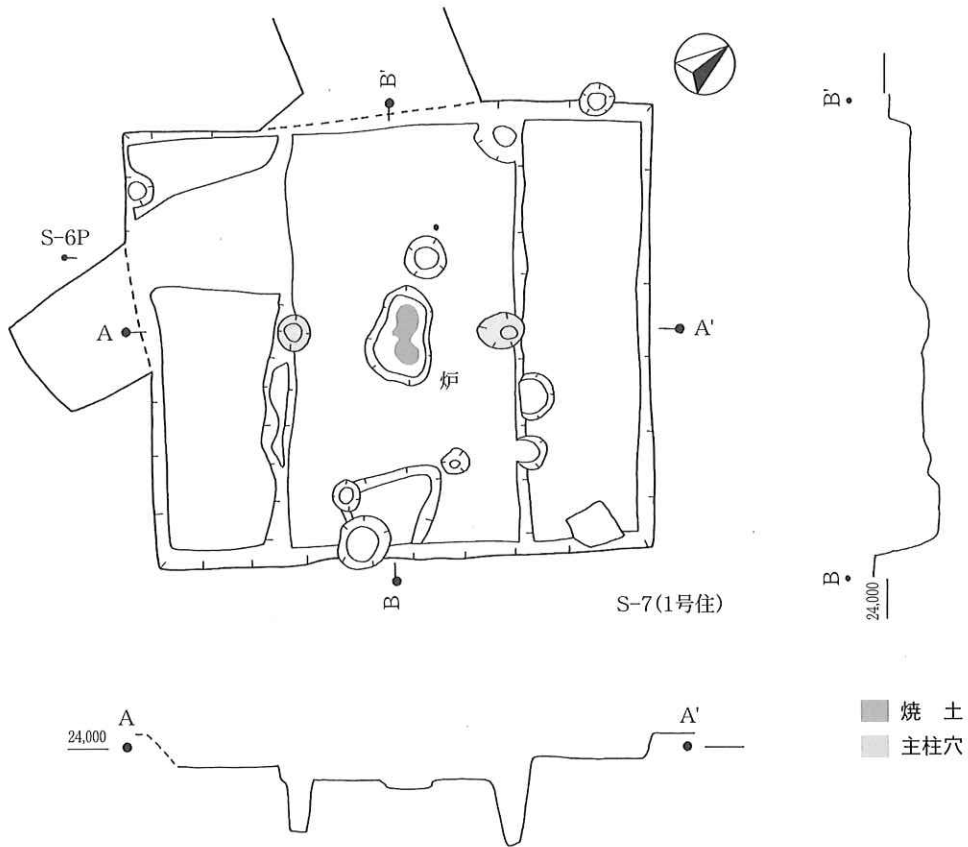
##### ・ S-8（2号住居跡）

調査区の南東側で検出した。東側は道路となっており削平を受けているため全体の形状が不明であり、住居跡とは断定しがたいところがある。ベッド状の高まりに落ち込みがあり不自然であるが、その他の住居跡からも、

### III 高岡原遺跡 (平成17年度の調査)



III 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



- S-8 (2号住居跡)
- ① 黒褐色土(7.5YR3/1) 強くしまり、やや粘性を有す。ローム土ブロック (1cm大) 少量混入。
  - ② 黒褐色土(7.5YR3/2) ややしまりがあり、わずかに粘性を有す。ローム土ブロックを①よりやや多く含む。
  - ③ 暗褐色土(7.5YR3/3) あまりしまらず、強い粘性を有す。炭化物わずかに含む。ローム土ブロック (1~5cm大) を多く含む。
  - ④ 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム土ブロックを最も多く含む。粘性最も強い。
  - ⑤ 黒褐色土(7.5YR2/2) ②の土に近似。ローム土ブロック (3cm大) 多く含む。南北に溝状に掘りこまれている。
  - ⑥ 黒色土(7.5YR2/1) ややしまり、粘性を有す。赤色焼土含む。

0 2m  
(S=1/60)

第127図 高岡原遺跡住居跡実測図 (S-7、S-8)

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

ベッド状遺構の部分に溝状の落ち込みがあるものがある。溝の深さは約0.2mである。

遺物は、壺の口縁部と底部が出土したのみであった。

#### ・ S-9（3号住居跡）

調査区の南東側で検出した。南側は擁壁工事によって削平を受けた部分があるが全体が把握できる住居跡である。長軸が5.2m、短軸が4.6mの長方形を呈する。東西両端にベッド状遺構があるが、西側は北半分で切れている。壁面下には、幅の狭い溝が掘られている部分がある。中央に円形の炉があり、これを挟むように支柱穴と思われるピットがあり、住居跡は2本柱であったと考えられる。南側には出入口部と想定される落ち込みがあり、内部より安山岩系の自然石が2点出土した。また北側底部の2つの小ピットは梯子を設置した可能性もある。

この住居跡からは多量の焼土と炭化物が床面上に広がっており、火災を受けた痕跡がみられ、一部において炭化した木材が検出された。遺物は、西側の壁際を中心に、弥生土器片が集中して出土した。その器種は、脚付甕、壺、高坏、鉢、ジョッキ型土器などであった。

#### ・ S-12（4号住居跡）

調査区の北西側で検出し、唯一全体を調査できた住居跡である。長軸4.7m、短軸3.9m、深さは検出面より約0.2mの長方形を呈している。コの字型をしたベッド状遺構があるが南東側は切れている。また、このベッド状遺構に併行した溝が掘られており土層断面の観察では、床面からベッド状遺構の高さまで埋没した段階から掘られているものと判断された。ベッド状遺構に併行していることから意図的なものと考えられるが、その目的は不

明である。また床面の中央には隅丸の正方形に近い炉があり、その両側に支柱穴と考えられるピットが2基ある。その他の小ピットは、上層からの切り合いと思われる。

遺物は、脚付甕、複合口縁壺の破片などが出土した。

#### ・ S-13（5号住居跡）

調査区の西側で検出した。東側は6号住居跡に切られ、西側は中世以降の溝状遺構（S-1）に切られている。長軸5.6m、短軸4.0mの長方形を呈し、中央にやや不整形な炉があり、その両側に二本の柱穴がある。東西の両壁際にベッド状遺構があるが、東側がやや狭い。また、南側に長方形をした土坑状の落ち込みがあり、3号住居跡と同じように北側底面に2つの小ピットがあることなどから、出入口として梯子段のようなものが設置されていた痕跡の可能性もある。

壁下とベッド状遺構の下端に沿って幅約10cmの周溝が巡っている。この点も3号住居跡と類似している。

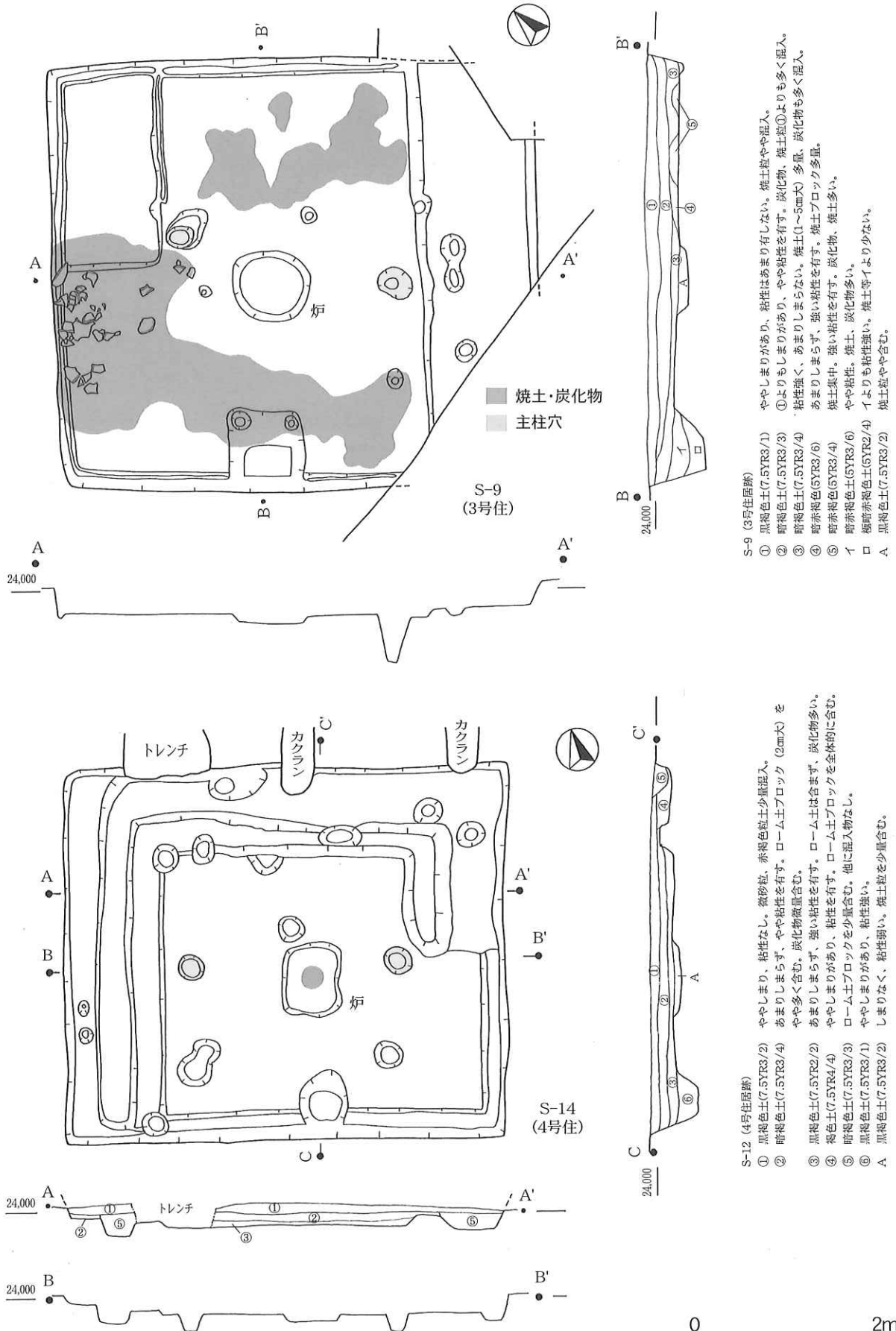
床面からは多量の土器片が廃棄されたような状態で出土した。その器種は、甕、脚付甕、壺、鉢、脚付鉢、高坏などで一括性の高い資料であると考えられる。中でも脚付甕は最も多く、約30個体を数える。

また、住居跡内から唯一鉄器が2点出土している。いずれも南側の出入口部付近の床面上から出土しており、残存率が悪く腐化していないが種別も不明である。

#### ・ S-14（6号住居跡）

調査区のほぼ中央で検出された。全体の形状は切り合いが多く明確でないが、西側は5号住居を切り、その後S-16によって切られ、北側はS-17、S-4によって切られているも

Ⅲ 高岡原遺跡 (平成17年度の調査)



S-9 (3号住居跡)

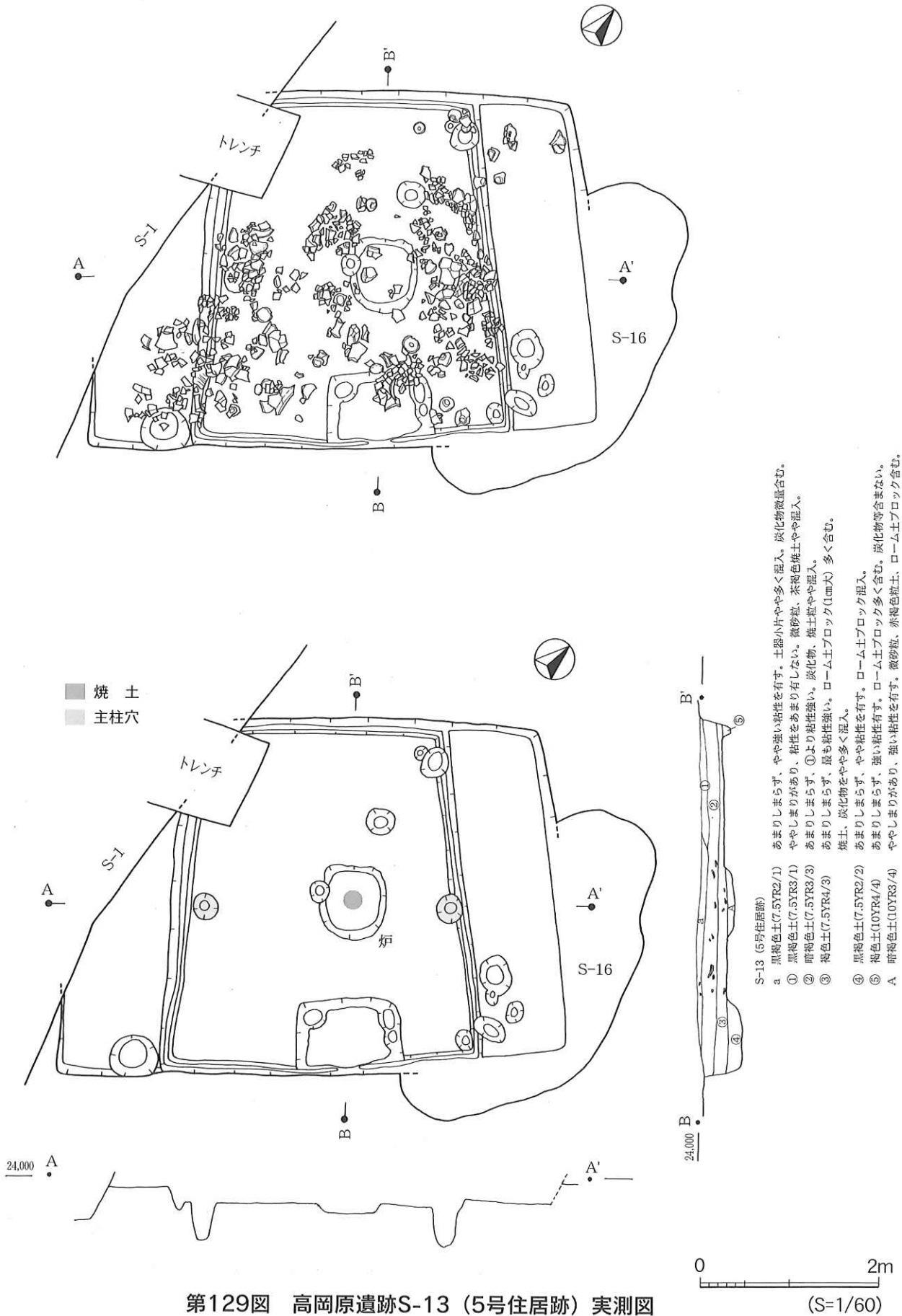
- ① 黒褐色土(7.5YR3/1) ややしまりがあり、粘性はあまり有りしない。焼土粒やや湿入。
- ② 暗褐色土(7.5YR3/3) ①よりもしまりまじりがあり、やや粘性を有す。炭化物、焼土粒(①よりも多く混入、粘性強く、あまりしまじりまじらない。焼土(1~5mm大)多量、炭化物も多量混入。
- ③ 暗褐色土(7.5YR3/4) あまりしまじりまじり、強い粘性を有す。焼土ブロック多量。
- ④ 暗赤褐色(5YR3/6) 焼土集中、強い粘性を有す。炭化物、焼土多い。
- ⑤ 暗赤褐色(5YR3/4) やや粘性、やや粘性強い。焼土、炭化物多い。
- イ 暗赤褐色土(5YR3/6) やや粘性強い。焼土、炭化物多い。
- ロ 暗赤褐色土(5YR3/2/4) イよりも粘性強い。焼土等イより少ない。
- A 黒褐色土(7.5YR3/2) 焼土粒やや含む。

S-12 (4号住居跡)

- ① 黒褐色土(7.5YR3/2) ややしまり、粘性なし。微砂粒、赤褐色粒土少量混入。
- ② 暗褐色土(7.5YR3/4) あまりしまじり、やや粘性を有す。ローム土ブロック(20mm大)をやや多く含む。炭化物微量含む。
- ③ 黒褐色土(7.5YR2/2) あまりしまじり、強い粘性を有す。ローム土は含まず、炭化物多い。
- ④ 褐色土(7.5YR4/4) ややしまりがあり、粘性を有す。ローム土ブロックを全体的に含む。
- ⑤ 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム土ブロックを少量含む。他に混入物なし。
- ⑥ 黒褐色土(7.5YR3/1) ややしまりがあり、粘性強い。
- A 黒褐色土(7.5YR3/2) しまじりなく、粘性弱い。焼土粒を少量含む。

第128図 高岡原遺跡住居跡実測図 (S-9、S-14)

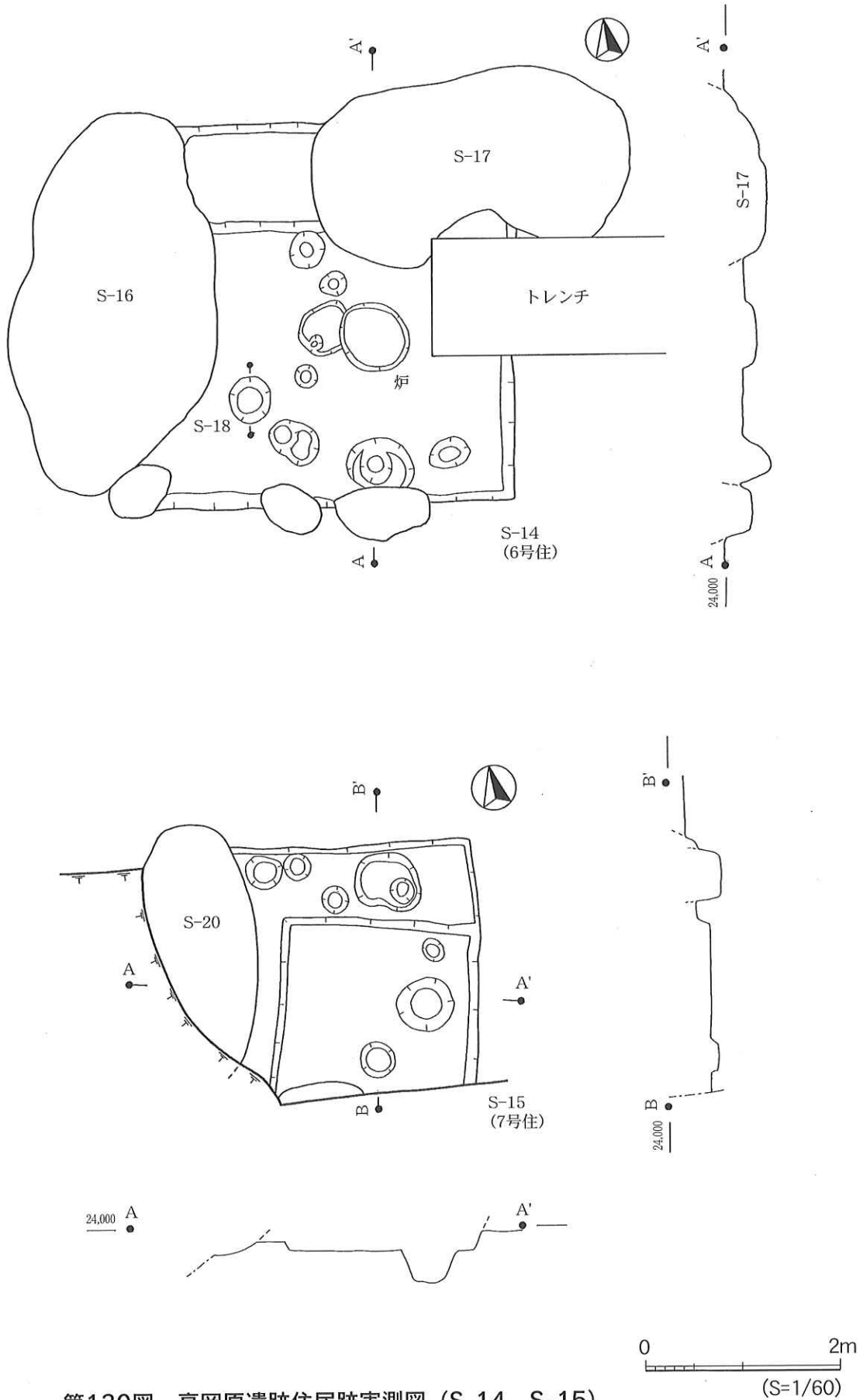
III 高岡原遺跡 (平成17年度の調査)



第129図 高岡原遺跡S-13 (5号住居跡) 実測図



Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第130図 高岡原遺跡住居跡実測図 (S-14、S-15)

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

のと思われる。復元すると南北が3.9m、東西が約4mの正方形に近い住居跡と想定される。ベッド状遺構は北側のみで確認でき、炉は円形で中央よりやや東側にある。支柱穴も明確でないが、北側と南側の二本柱になるものと思われる。

遺物は、弥生土器小片が出土し、ピット内から脚台付甕の下半部が出土した。

#### ・ S-15（7号住居跡）

調査区の南端で検出した。両側は土坑に切られ調査区外の部分もあるため、全体の形状は不明であるが、ベッド状遺構がみられることから住居跡としたが小型になる。炉と思われる浅い落ち込みはあるが、明確に柱穴と判断されるピットは確認できなかった。遺物は、弥生土器の小片のみであり、ほとんど出土しなかった。

#### ・ S-21（8号住居跡）

調査区の東端で検出したがプラントして確認できたのは北西角のみで、あとは東側の市道によって大幅に削平されており、全体は不明である。住居跡かどうかは断定はできない。

また、耕作による攪乱と、調査区の端であり、市道寄りであったため、ほとんど調査はできなかった。

#### ・ S-6（土坑状遺構）

調査区東側の1号住居跡を切った状態で検出された。長軸が約2.2m、短軸が1.3m、深さは検出面から約0.4mを計る。当初1号住居跡の覆土を掘り下げている際に土器片が集中して出土したため清掃し再度、遺構検出を行ったところ楕円形のプランを確認したため別遺構とした。土器は上層から廃棄されたような状況で破片が多く出土し、約10～20cm大

の礫石も含まれていた。

#### ・ S-10（土坑）

一部他の土坑に切られているが、長軸2.4m、短軸1.5～1.8mとやや東側が広がる。深さは検出面より中央部分がさらに落ち込み最も深いところで0.4mある。遺物は弥生土器片が少量出土したが、用途は不明である。

#### ・ S-11（土坑）

東側は3号住居に切られており、全体の形状は不明であるが、円形もしくはやや楕円形になるものと想定される。南北は2.1m、深さは検出面から約0.2mである。遺物は弥生土器片が少量出土した。

#### ・ S-16（土坑）

5, 6号住居跡を切った状態で検出された。南北方向に長く、長軸3.9m、短軸約2m、深さは検出面から約0.3mである。弥生土器が出土したが、5号住居跡を切っているため、5号住居跡に伴った遺物が流れ込んでいる可能性もある。

#### ・ S-17（土坑）

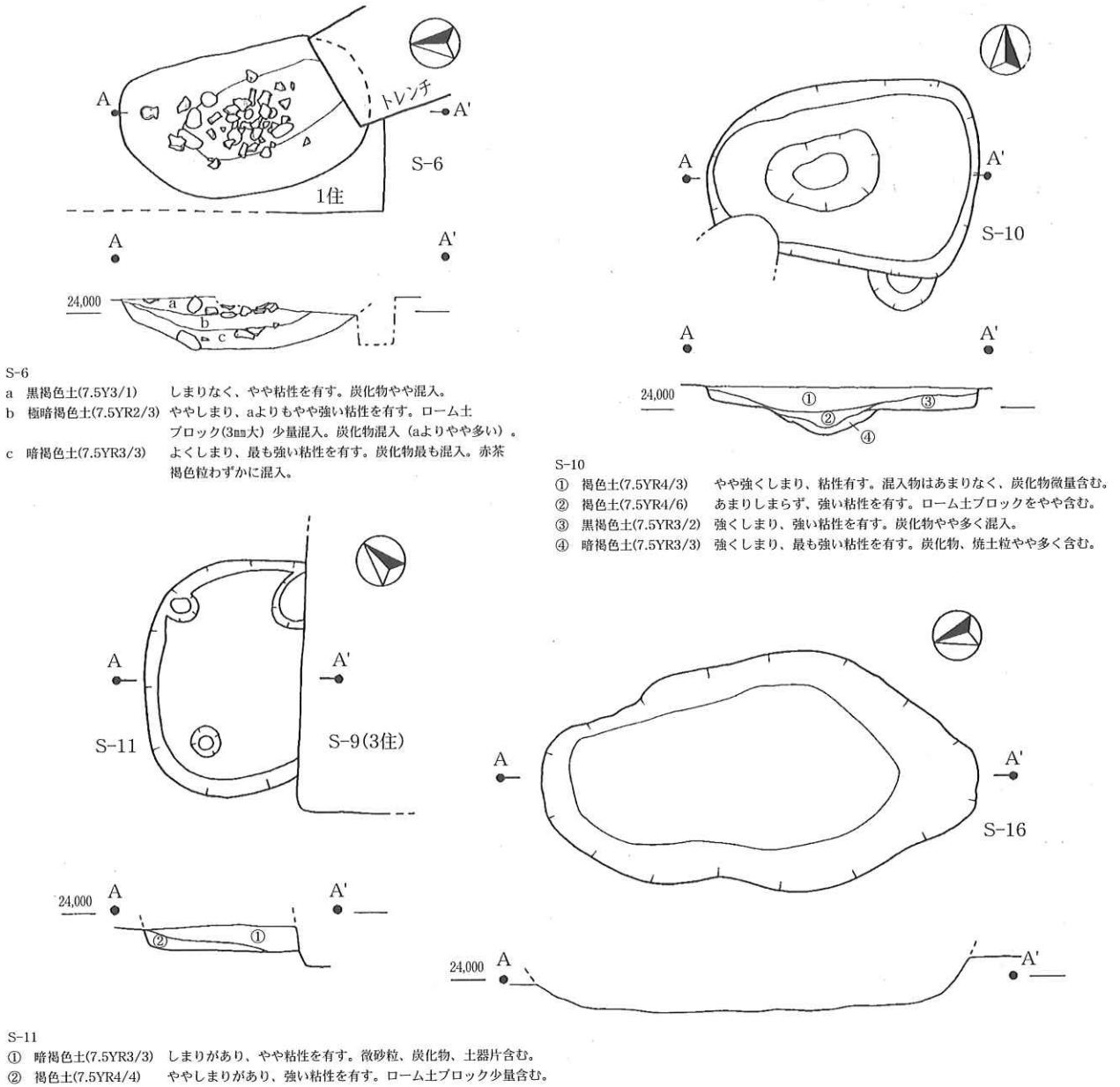
調査区のほぼ中央、6号住居を切る状態で検出した。長軸3.3m、短軸1.3m～1.8mで東から西側にかけて段状に落ち込んでいき最深部で0.45mを計る。遺物は弥生土器小片が出土した。

遺物

#### ・ S-7（1号住居跡）－第132図1～4

1は甕で、ピット内から出土した。「く」の字型の口縁部でやや外反しながら立ち上がる。2は脚付甕の底部から脚部にかけての破片で、内外面とも剥離がみられる。3と4は

Ⅲ 高岡原遺跡 (平成17年度の調査)



第131図 高岡原遺跡弥生時代遺構実測図

0 2m  
(S=1/60)

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

高坏であるが、胎土、焼成などからも同一個体ではないと判断される。

・S-8（2号住居跡）－第132図5・6

5は壺の口縁部で、6は壺か甕の底部になるものと思われ、平底になる。

・S-9（3号住居跡）

－第132・133図7～20

7はジョッキ型土器の把手部分で、8～12は甕であり、9は頸部の屈曲が弱く、胴部もあまり張らないものと思われる。10は頸部にやや凹みがみられる。11は脚部と考えられ、器種は脚付甕の可能性が高い。白川・緑川流域にみられる脚部が高いタイプになるものと思われる。12は脚付甕で、内外面ともにハケ目調整されている。13・14は鉢である。15は高坏で脚部が低い。16～18は壺で口縁部はいずれもラッパ状に外反しながら開く。19・20は平底の壺の底部と考えられる。

・S-12（4号住居跡）－第133図21～124

21は甕で口縁部はやや内湾気味になる。22はいわゆる肥後型複合口縁壺で、在地系のもと考えられ、玉名市では東南大門遺跡などに類例がある。23・24は脚付甕の脚部である。

・S-13（5号住居跡）

－第134～139図25～91

25～59は脚付甕である。27は、外面にタタキ目が残る。30は口縁端部に凹みがみられる。31と33は胴部が張らず、33には外面にタタキ目があり、その後ハケ調整されている。38は小型のタイプである。全体的に調整痕は器面荒れや磨耗により不明のものが多かったが、外面は縦か横、斜め方向にハケ調

整されている。内面はハケ調整の後にナデ調整を施されたものがある。

60～68は壺である。62・63は口縁部が頸部からほぼ垂直に近い立ち上がり、端部がやや外反気味になる。外面は縦方向のハケ目調整が施されている。64は広口の壺で胴部も浅いものと思われる。65は甕になるかもしれないが頸部に一条の刻目突帯を有する。66にも頸部に一条の突帯が施されている。67と68は壺か甕の底部で、67は平底であるが、やや上げ底気味であり、68は丸底である。

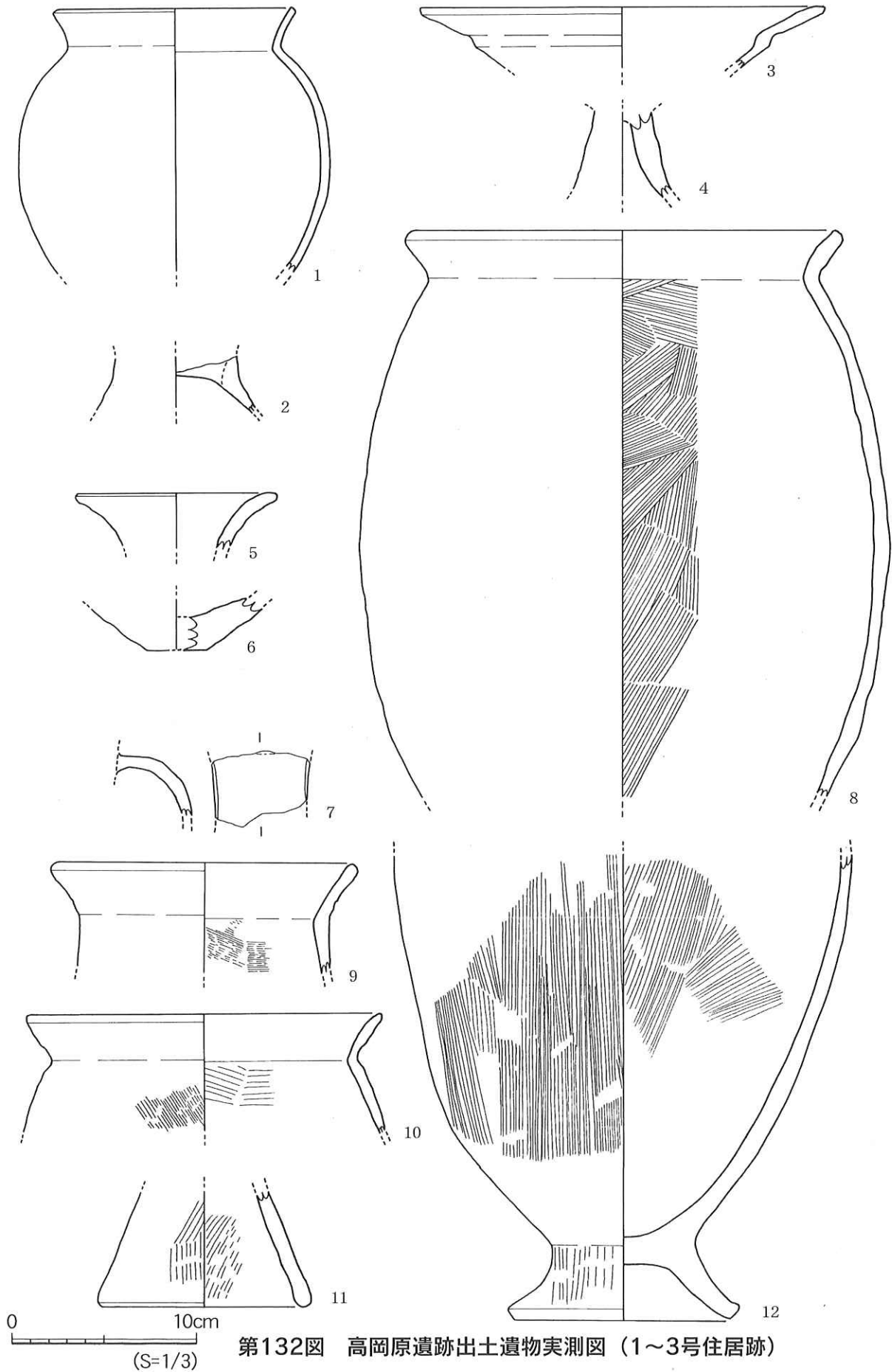
69～76は鉢である。69・70は「く」の字状に外反する口縁部であるが、70は口縁部の立ち上がりが短く、端部は薄く尖り気味になる。71は口縁部が頸部からほぼ直線的に立ち上がる。72と73は、口縁部が大きく開き、下半部の形態は不明であるが脚付になるかもしれない。77～80は脚付の鉢である。このうち78と79は脚裾部に2つの焼成前穿孔が施され、79は全体に2孔が3箇所配置されている。また、調整として内面に工具痕がみられる。

81～91は高坏である。82は高坏というよりは坏部が浅い脚付の鉢になるかもしれない。高坏のほとんどが口縁部と坏部との間に明瞭な屈曲か段を有し、口縁は外反気味に開いて、坏部も浅いものである。86は坏部と脚部の接点が製作過程を含めて観察できる。90と91は、脚裾部に穿孔がある。

・S-14（6号住居跡）－第140図92

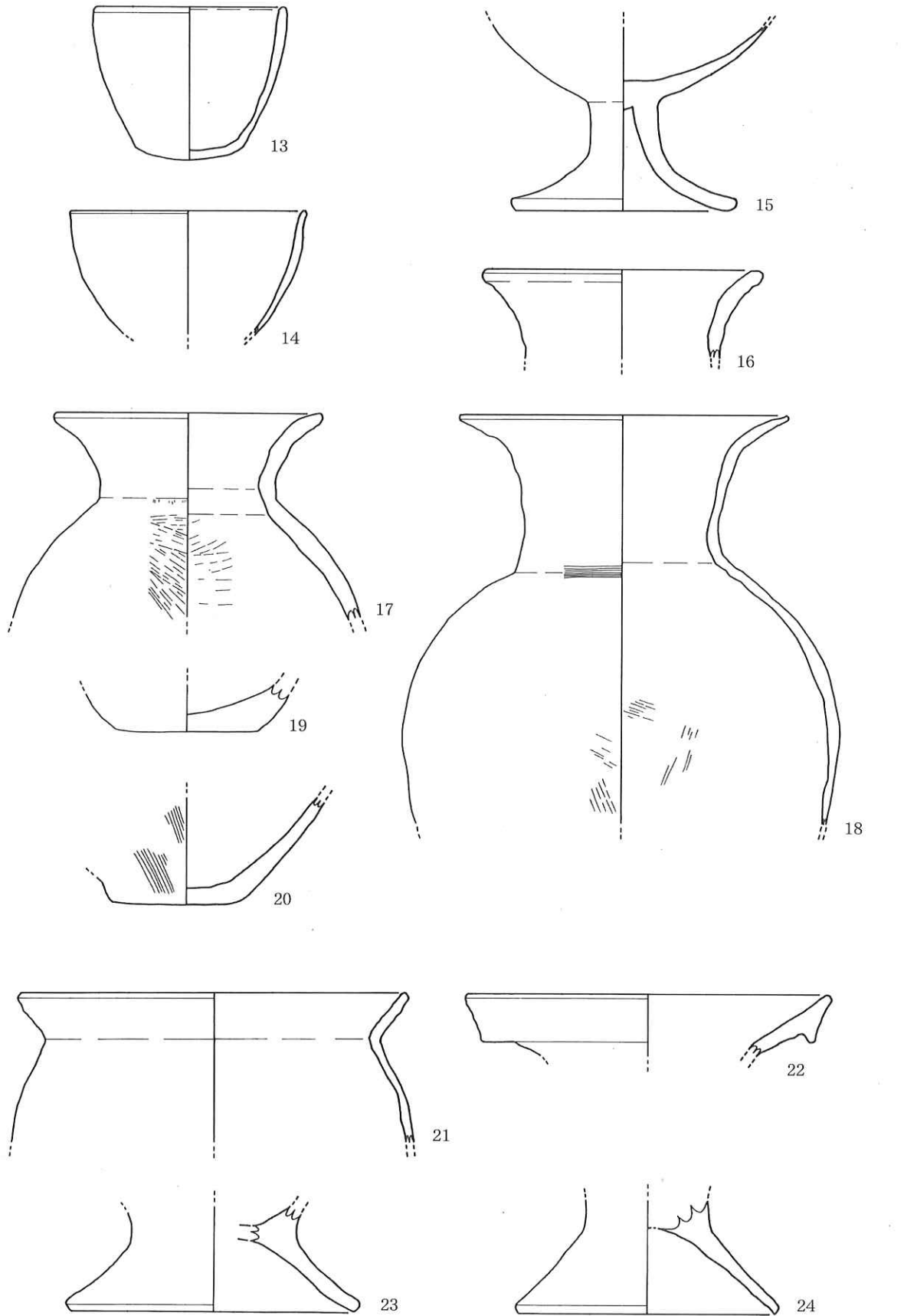
92は脚付の鉢と思われるが、上部の鉢か坏の接合部分が欠損した後に、割れ口を磨耗させて蓋として二次的な再利用を行ったような痕跡が認められる。79と同じように3箇所に焼成前穿孔がある。

Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第132図 高岡原遺跡出土遺物実測図（1～3号住居跡）

III 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

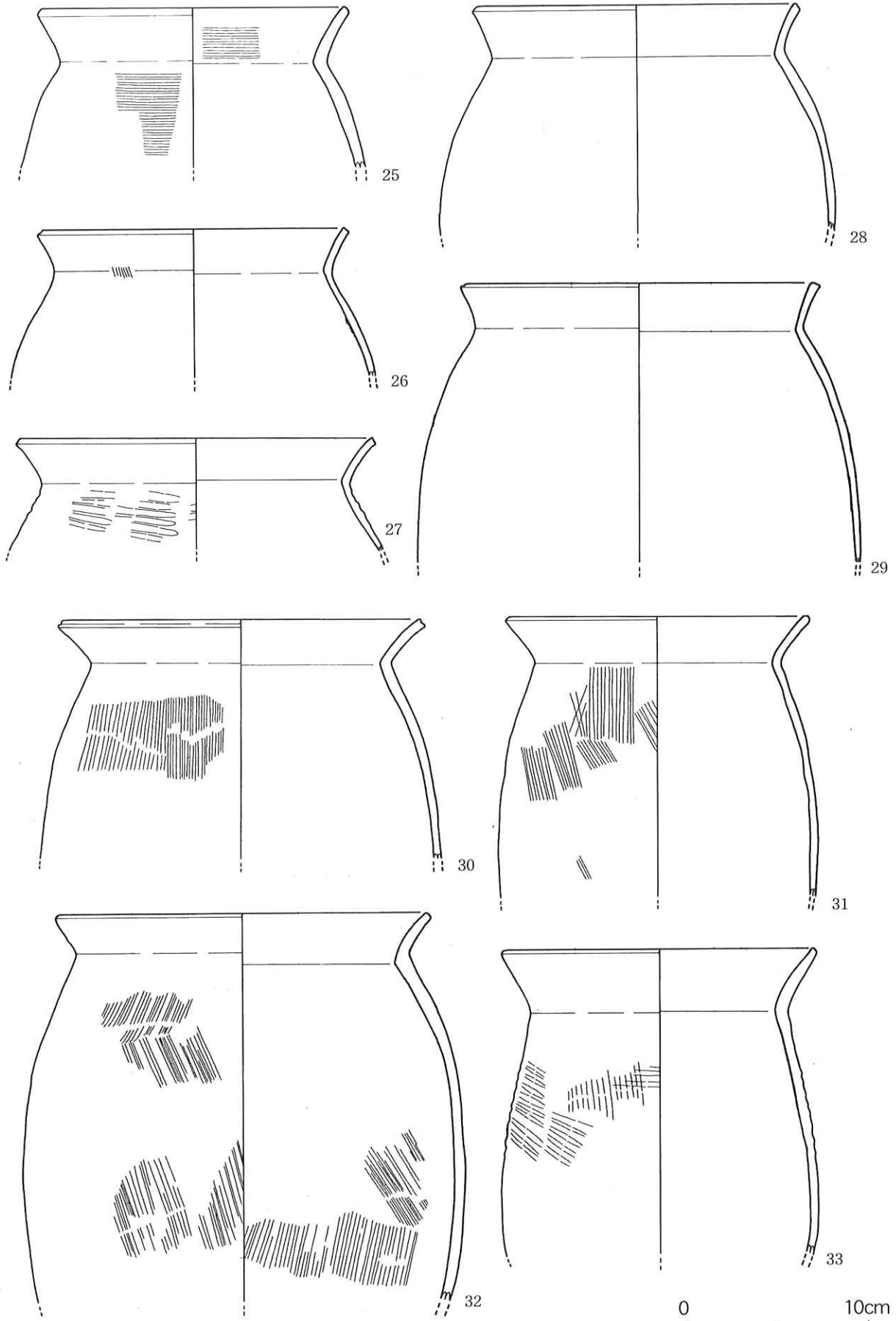


第133図 高岡原遺跡出土遺物実測図（3・4号住居跡）

(S=1/3)

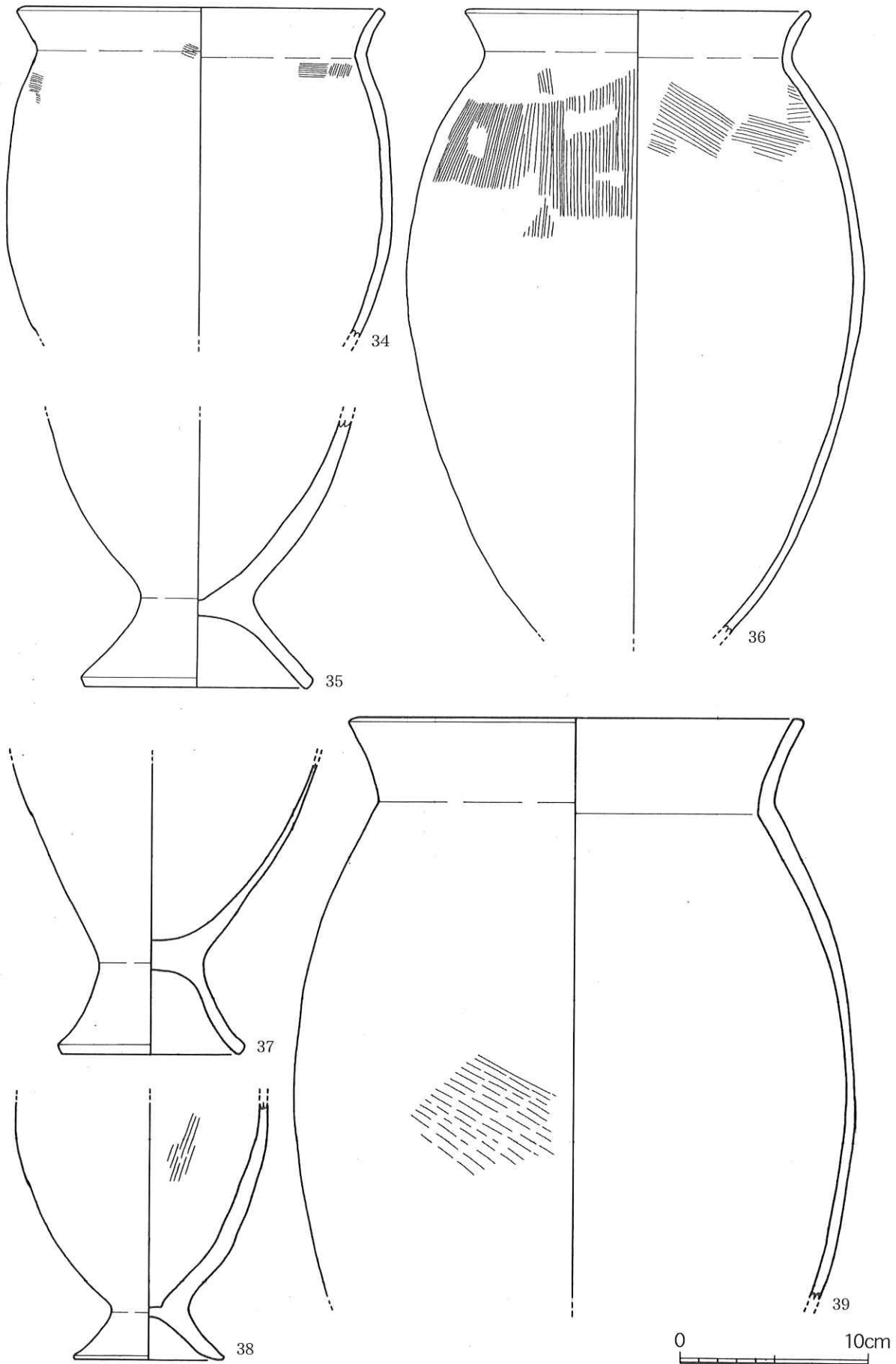


Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第134図 高岡原遺跡出土遺物実測図（5号住居跡①）

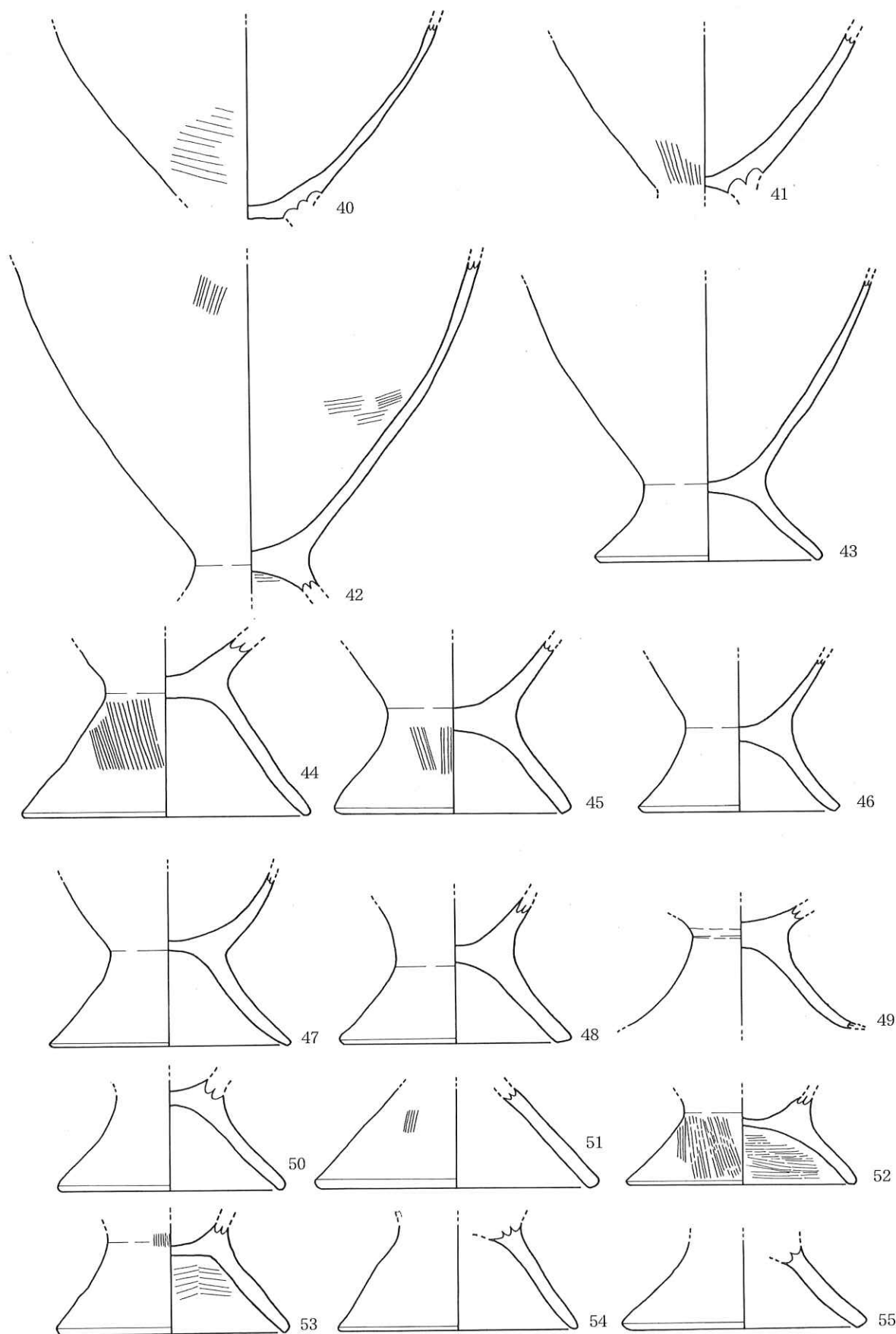
Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第135図 高岡原遺跡出土遺物実測図（5号住居跡②）

(S=1/3)

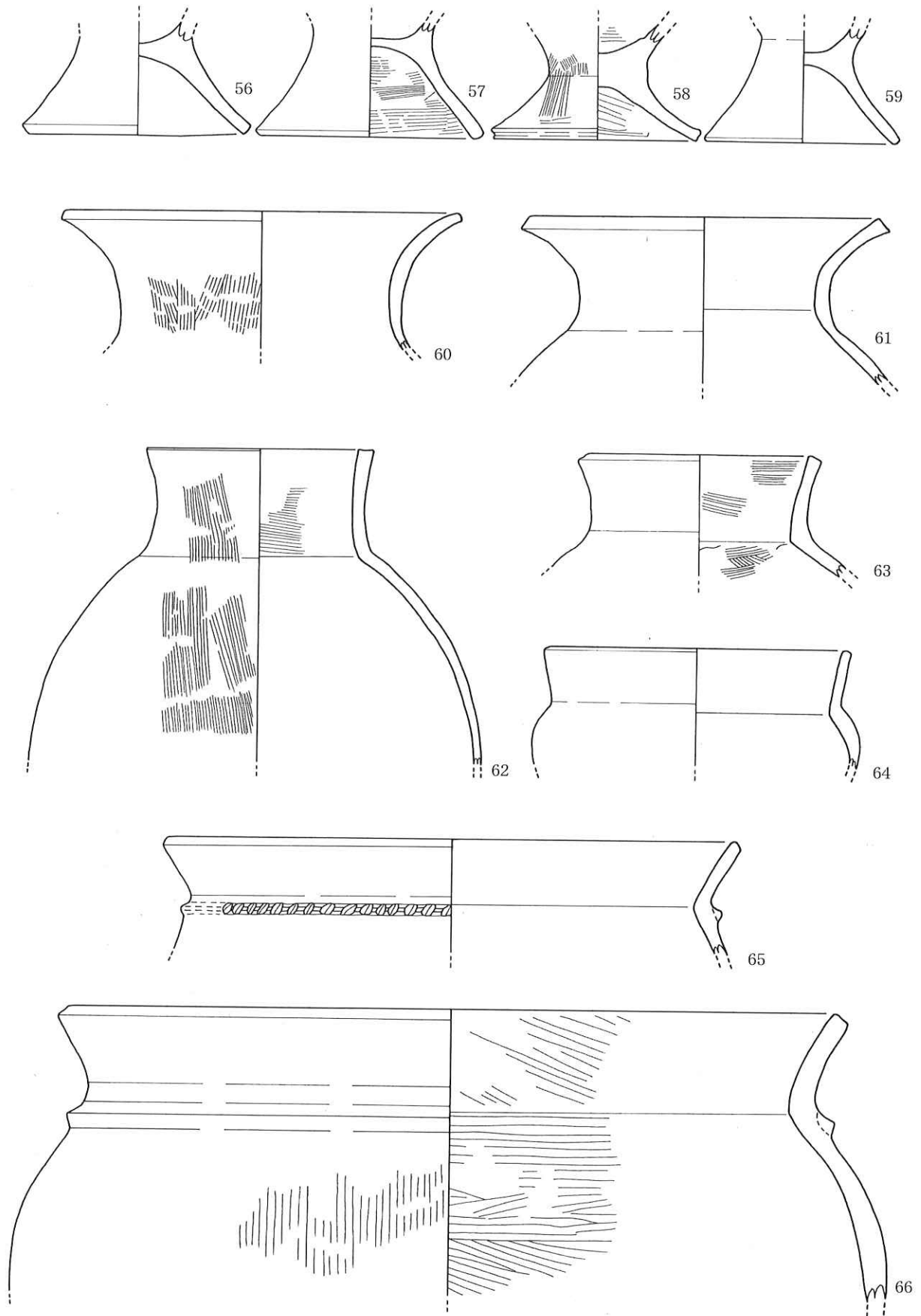
III 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第136図 高岡原遺跡出土遺物実測図（5号住居跡③）

0 10cm  
(S=1/3)

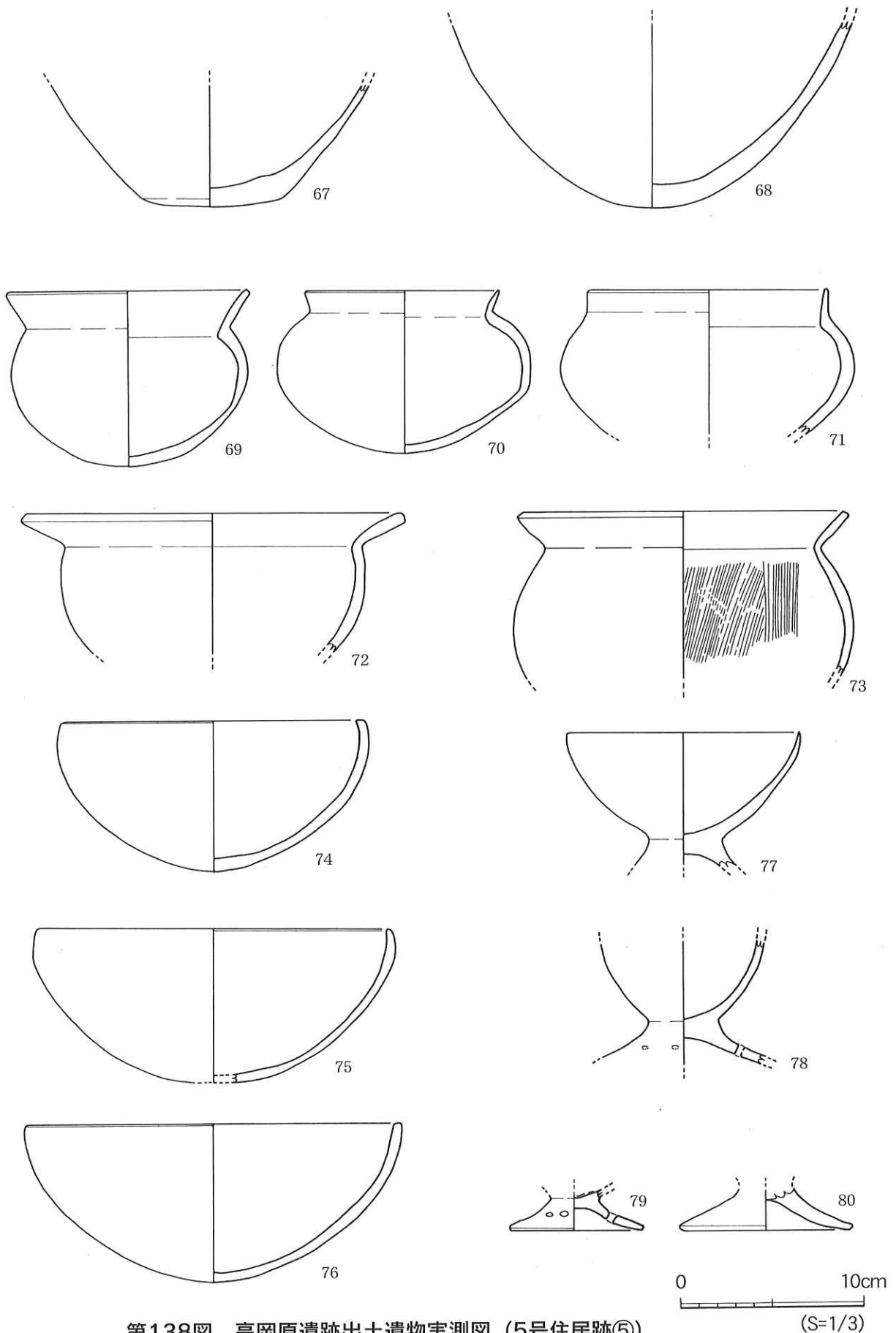
Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第137図 高岡原遺跡出土遺物実測図（5号住居跡④）

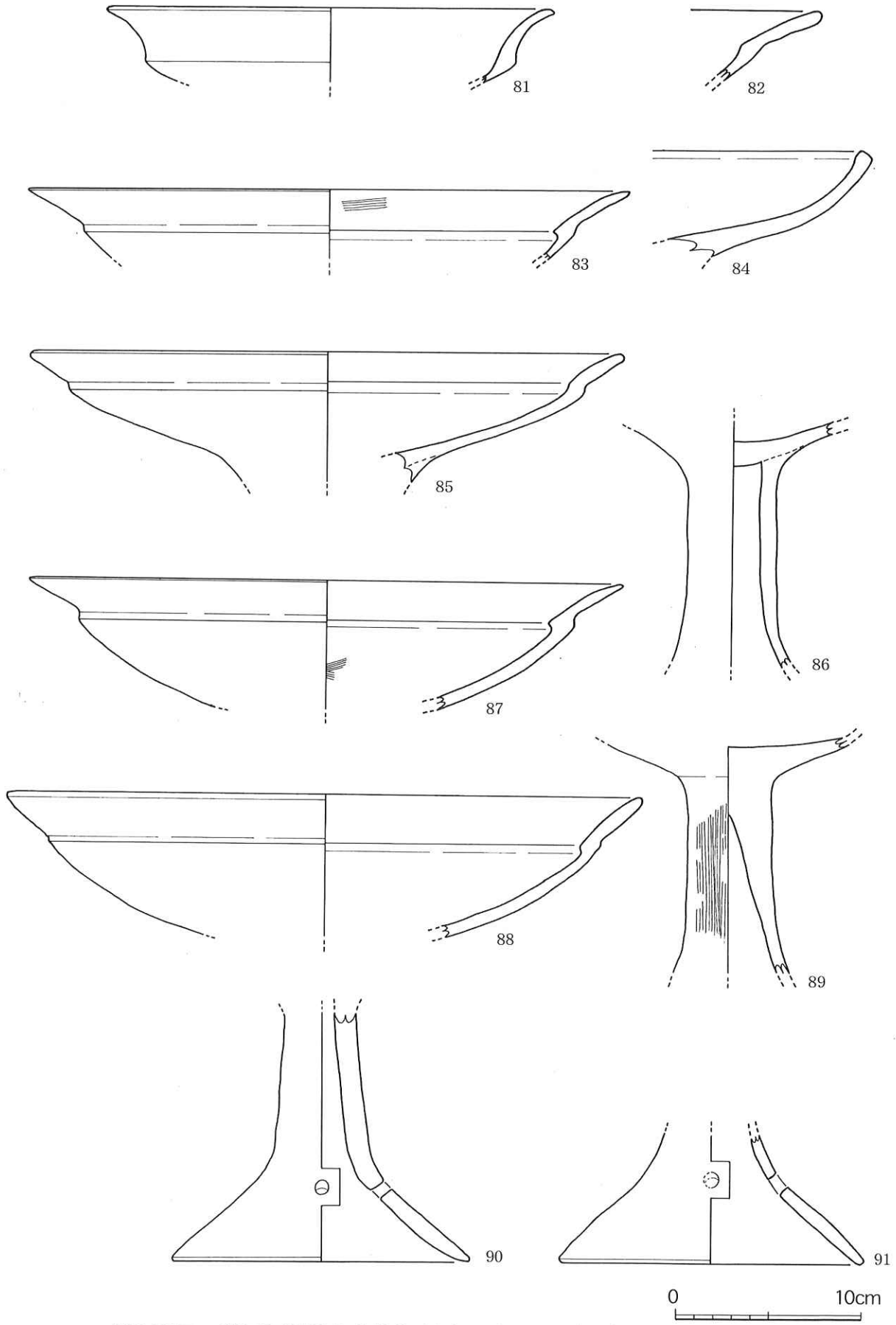
0 10cm  
(S=1/3)

Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第138図 高岡原遺跡出土遺物実測図（5号住居跡⑤）

Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

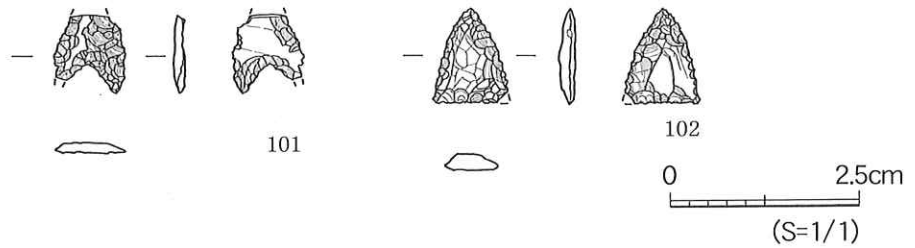
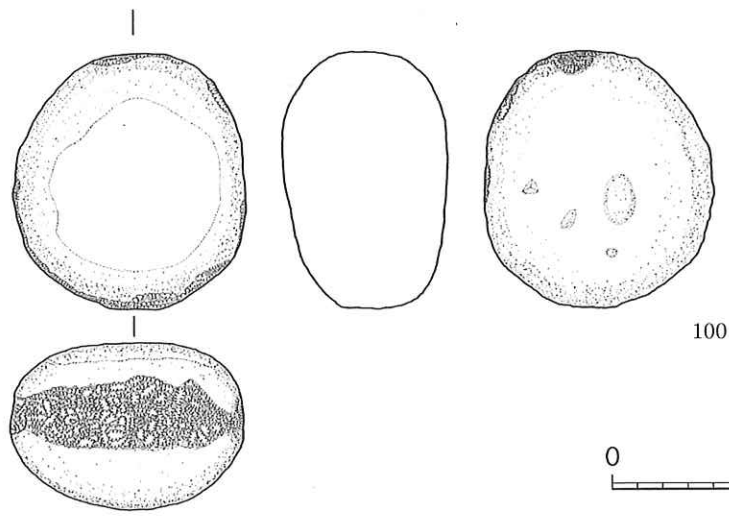
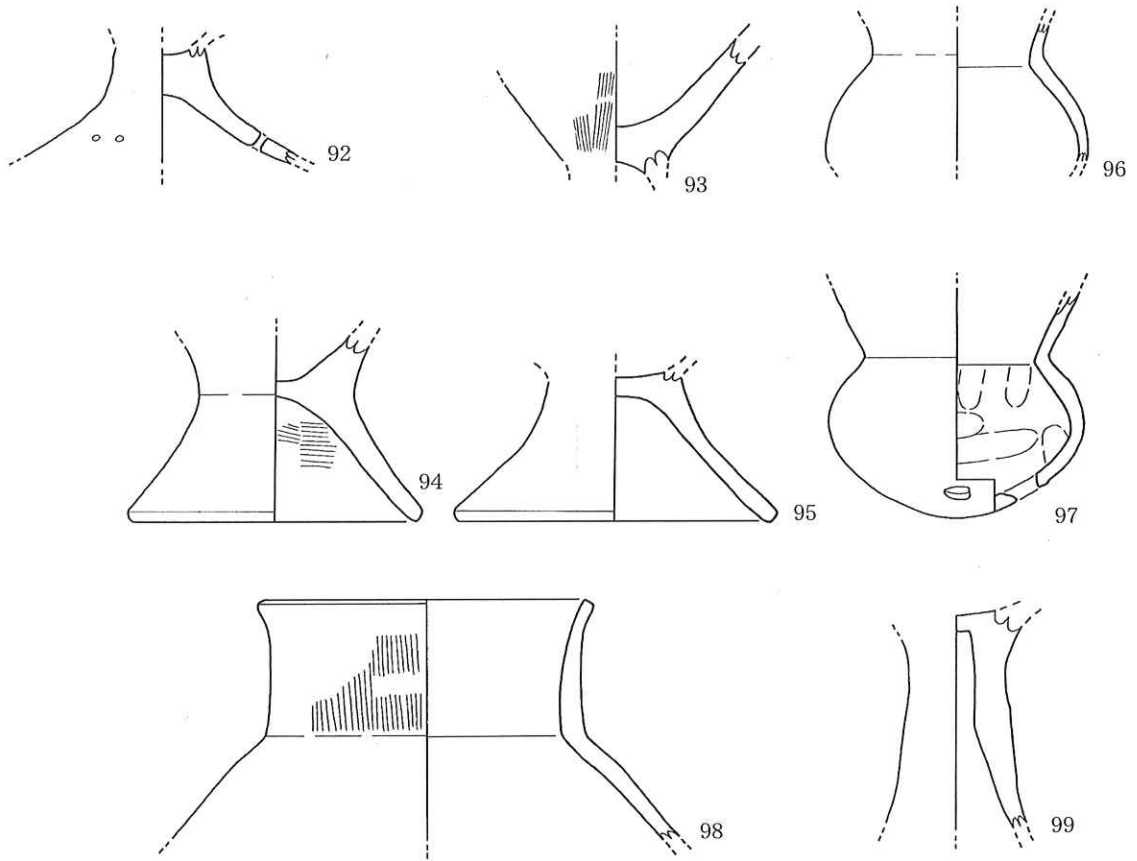


第139図 高岡原遺跡出土遺物実測図（5号住居跡⑥）

(S=1/3)



Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第140図 高岡原遺跡出土遺物実測図（6号住居跡、S-6他）

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

#### ・ S-6 ー第140図93～101

93～95は脚付甕である。95はその脚部と思われるが、92と同じように上部の欠損部を磨耗させて蓋として再利用を行った痕跡が認められる。

96と97は、小型丸底壺で、97は内面に指頭圧痕が残り、底部に近い位置には焼成後の意図的な穿孔がある。98は壺で、口縁部は頸部からほぼ垂直に近い立ち上がりで、端部がわずかに外反気味になる。99は高杯の脚部である。100は、遺構に伴わない包含層からの出土で、縄文時代の磨石と思われる。石材は安山岩で使用痕が認められる。101、102は石鏃で、S-6の上層から2点とも出土した。石材は黒曜石である。

#### ②古代の遺構と遺物

##### ・ S-2（土坑）

調査区の北東側で検出した。長軸0.9m、短軸0.7m、深さは検出面から0.5mの楕円形を呈している。覆土中より、古代の須恵器で杯蓋と壺の口縁部が出土した。この遺構の南東側で、古代の掘立柱と想定される柱穴群が確認されており、地鎮などこれらと関連した遺構群の一部と思われる。

##### ・ S-19（柱穴列）

調査区の東端で南北方向に等間隔で並ぶ5基のピットを検出した。直径約0.3mの円形をし、深さは0.2～0.3mを残す。遺構検出時に掘立柱を前提として掘り下げを行っていないため、一連の遺構として土層観察を行っていないが、一部確認したなかで柱痕は認められなかった。掘立柱とするならば、この並びに対応するべき東側のピット列は確認できなかった。道路により削平を受けている可能性もある。また、この並びのみでは柵列である

ことも否定できないが、東側隣接地、また周辺の調査例からも古代の玉名郡衙に関連した遺構の存在が想定される。

##### ・ S-5（土坑）

調査区のほぼ中央で検出した。0.9mの円形を呈し、深さは検出面から約0.45mの土坑である。内部よりほぼ完形の土師器杯が1点出土し、この土器の外器面には赤色顔料が塗られた痕跡が認められた。

##### ・ S-18（ピット）

S-14(6号住居跡)が埋没した後に、古代になって掘り込まれた遺構である。長軸0.5m、短軸0.4m、検出面からの深さは0.5mであった。中から須恵器が出土した。

#### ③中世以降の遺構と遺物

##### ・ S-1（溝状遺構）

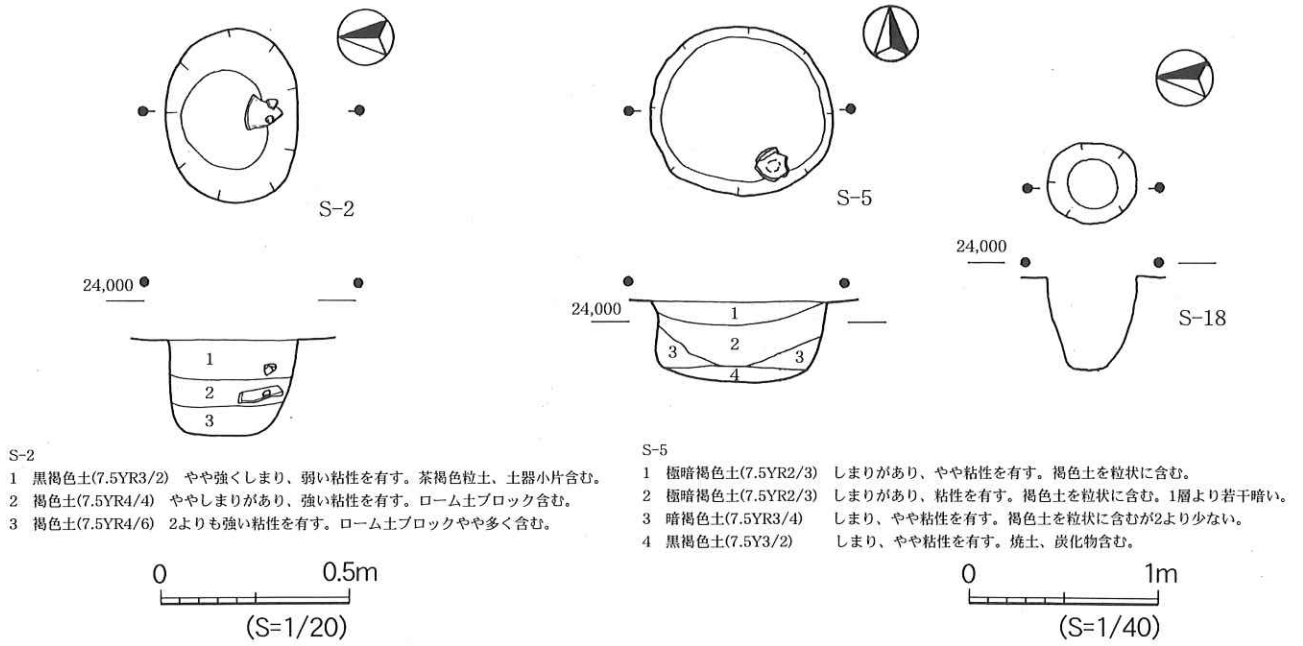
調査区の西端で検出した南北方向に延びる溝状の遺構である(第126図参照)。西側の立ちあがりには調査区外のため確認できず、全体の幅は不明である。溝は西側へかけて階段状に落ちていく傾向にあり、底部はさらに落ち込んでいく可能性がある。上層までは近代までの遺物を含むが、下層には近世以降の遺物は伴わない。遺跡の西側一帯は、中世の高岡城跡とされており、この城館に伴う外堀などの名残と考えられる。その後、埋まった後は近世～近代にかけて畑などに改変され現在に至っているものと思われる。

中世の遺物を伴った遺構はこの他にもピットが数基検出されている。

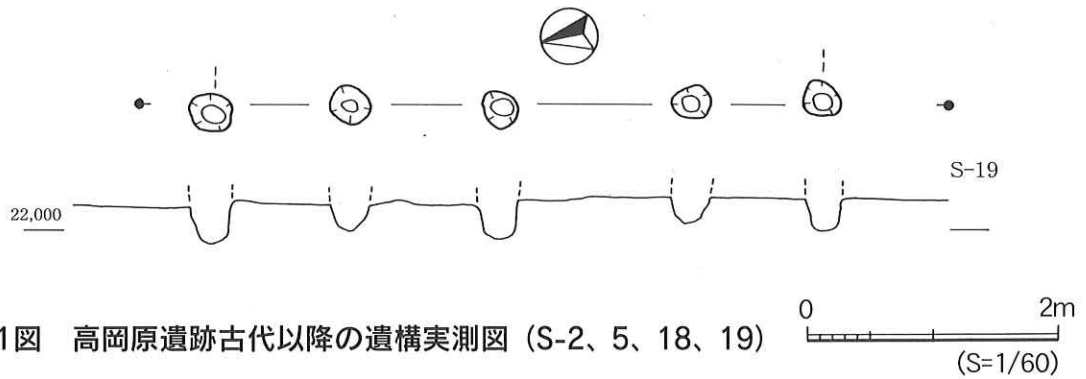
#### (6) 他調査区の出土遺物（勾玉）

これから紹介する遺物は、同じ平成17年度に東側隣接地で行った確認調査時に出土し

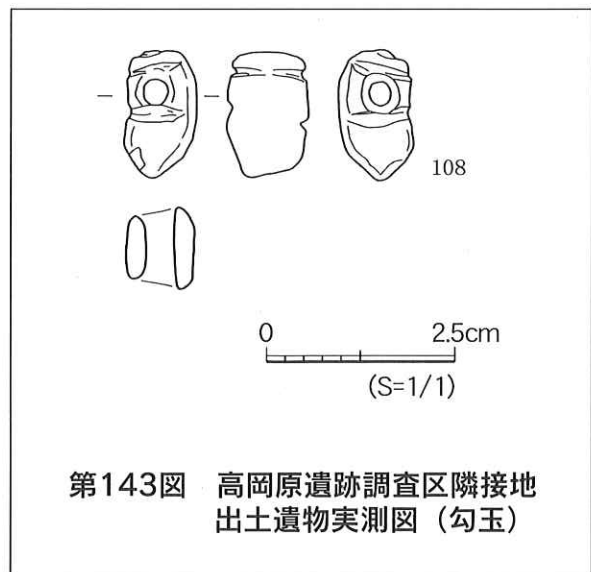
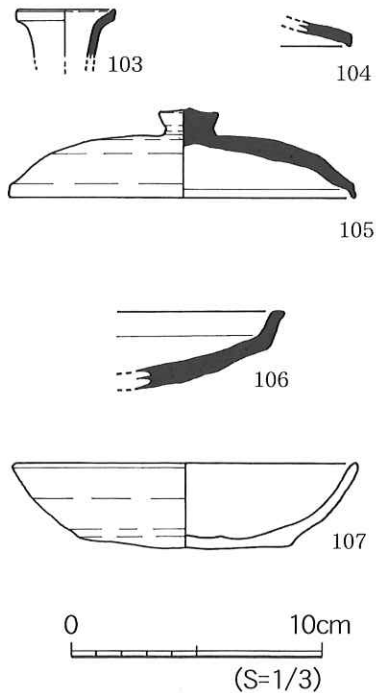
III 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第141図 高岡原遺跡古代以降の遺構実測図 (S-2、5、18、19)



第142図 高岡原遺跡出土遺物実測図 (S-2、5、18)



### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

たもので、今回合わせて報告するものである。

調査地は前頁の地図に色分けした部分であり、その調査内容の詳細については『玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ』を参考にさせていただきたい<sup>(22)</sup>。

遺物は、調査区壁際のピット状遺構から出土したものと考えられるが、断面清掃時に削った土の中から発見されたため、出土地点が確実に押さえられていないのは無念である。

形状は、長さ1.7cm、幅、厚さ共に1cmと小型の異形勾玉であり、溝状の刻みが2本ある。材質は黒色をした滑石で、重さは3gである。

勾玉は縄文時代の牙玉に由来し、穴に紐を通して巻き付けたことから、溝状の刻みが残ったものとされ、このような勾玉は縄文系勾玉とも呼ばれている<sup>(3)</sup>。この類例は、福岡県の吉武高木遺跡、佐賀県の宇木汲田遺跡などにみられる。しかし、これらは、ヒスイ製であり宇木汲田遺跡のものは長崎ヒスイと考えられている<sup>(4)</sup>。

またこれらは、弥生時代中期の甕棺墓などからの副葬品がほとんどである。弥生時代に縄文系勾玉が出土する例は、前期が多く後期になるほど減少していき、通常の定型勾玉やヒスイ製、ガラス製勾玉のランクが上がってくるとされている<sup>(3)</sup>。このように後期の集落から出土するのは珍しい例と思われ、東側に隣接する高岡原J遺跡からもたらされた可能性も考えられるが、装飾品として、模倣的に地元で製作されたのかも知れない。いずれにしても今後、類例等を調査し検討したい。

#### (7) まとめ

##### 1. 今回の調査について

今回の調査で弥生時代後期の住居跡が8基確認された。そのうちの1基、5号住居跡からは大量の土器が出土し、鉄器が2点確認さ

れたほか、3号住居は火災を受けていたことがわかった。

また、全体が把握できる住居跡のほとんどが、長方形でベッド状遺構を有し、中央に炉とその両側に二本柱の主柱穴をもつというプランであり、南側に出入口を設けている可能性が強いということがわかった。

また、今回、土器が床面から出土し、器種が揃って一括性の高い資料が得られた住居跡は、3号住居と5号住居であるが、この2基は住居跡の構造上でも共通する点が多いことがわかった。

①両側にベッド状遺構を有する。

②炉、柱穴の配置が同じ。

③炉は円形に近い。

④南側に長方形の落ち込みがあり、その北側の両角底面に小ピットがある。

⑤壁際に周溝がめぐる。

今回の調査区には限られるが、以上の5項目が一致するのは、3号と5号住居跡の2基のみであった。この2基は、出土した土器の形態や、いずれも以前の土坑などを切っていることなどからも弥生時代後期のほぼ同時期の住居跡と考えられるが、「ハ」の字状にやや向かい合うように建っていたことがわかる。

3号住居は、唯一火災を受けていたが、火災を受けたと考えられる住居跡は平成11年度の調査でも1基確認されており、その点も含めて集落全体で見直す必要があると思われる。

今回、住居内の床に明確な硬化面や貼床などは確認できなかった。

炉の形状は円形、楕円形、隅丸方形など様々で、他の調査区で正方形に近い炉が確認されている。

なお、正方形に近い炉の内部から壺形のミニチュア土器が1点出土したのみの住居跡な

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

どが確認されており<sup>(6)</sup>、祭祀的な遺構なのか今後の例をふまえて検討したい。

ベッド状遺構も定型化しているようで、これまでの調査区例をみても、ほとんどの住居跡に認められる。しかし、通常は、両側やコの字形、L字形をしていることが多いが平成4年の市道に伴う調査においても指摘されているように、24基の住居跡のうち、コの字形が変形したり、別の土を加えて拡張したりと不整形なベッド状遺構が多かったことが明らかになっている。その中で、比較的規格性があり両側にベッド状遺構が明確にあったのは、小型仿製鏡が出土した住居跡のみのものである<sup>(2)</sup>。

今回の調査でも、4号住居跡はL字状に近いベッド状遺構であったが、これに沿うように溝が掘られており、その意図が不明である。そもそもいわゆる「ベッド状遺構」の用途そのものが解明されているわけではないが、住居造成時において段状に整形する段階から、用途に合わせて何らかの意図があったものと考えられる。よって、これが不整形である場合は、住居廃絶時<sup>(6)</sup>なども合わせての今後の検討が課題である。

#### 2. 高岡原遺跡の集落的考察

高岡原遺跡は、周辺の開発が多いこともあって玉名市にとって最も調査例が多い遺跡である。これまでの調査で住居跡内から小型仿製鏡や鏡の紐部が出土し、他に鑄造鉄斧、ヤリガンナなど鉄器が出土している点などからも有力な首長が存在し、いわゆるムラを形成していたものと考えられる。

ここでこれまでの調査結果をまとめ遺跡全体を概観し、菊池川流域の周辺遺跡の近年の調査例と合わせ、当遺跡の集落としての様相を考えてみたい。

#### (1) 集落と鉄器・青銅器

玉名地方における周辺の弥生時代後期の集落遺跡をあげると、下前原遺跡、大原遺跡、糠峯遺跡、築地東遺跡、築地市場遺跡、蓮華遺跡、岩崎城跡などがある。岩崎城跡は、中世の城館であるが、調査の際に弥生時代後期の住居跡が9基確認され<sup>(7)</sup>、西側に所在する弥生時代の岩崎原遺跡がさらに東側にも広がっているものと考えられる。

下前原遺跡は、昭和32年の発掘調査において、県内で初めて完全な竪穴住居跡の発掘に成功したといわれ、いわゆる「ベッド状遺構」という用語が全国的に紹介された遺跡である<sup>(8)</sup>。また、鉄器、鉄滓などが出土し鍛冶工房と考えられている遺構が確認されたことから、鍛冶を行っていた可能性が早くから指摘された遺跡である。

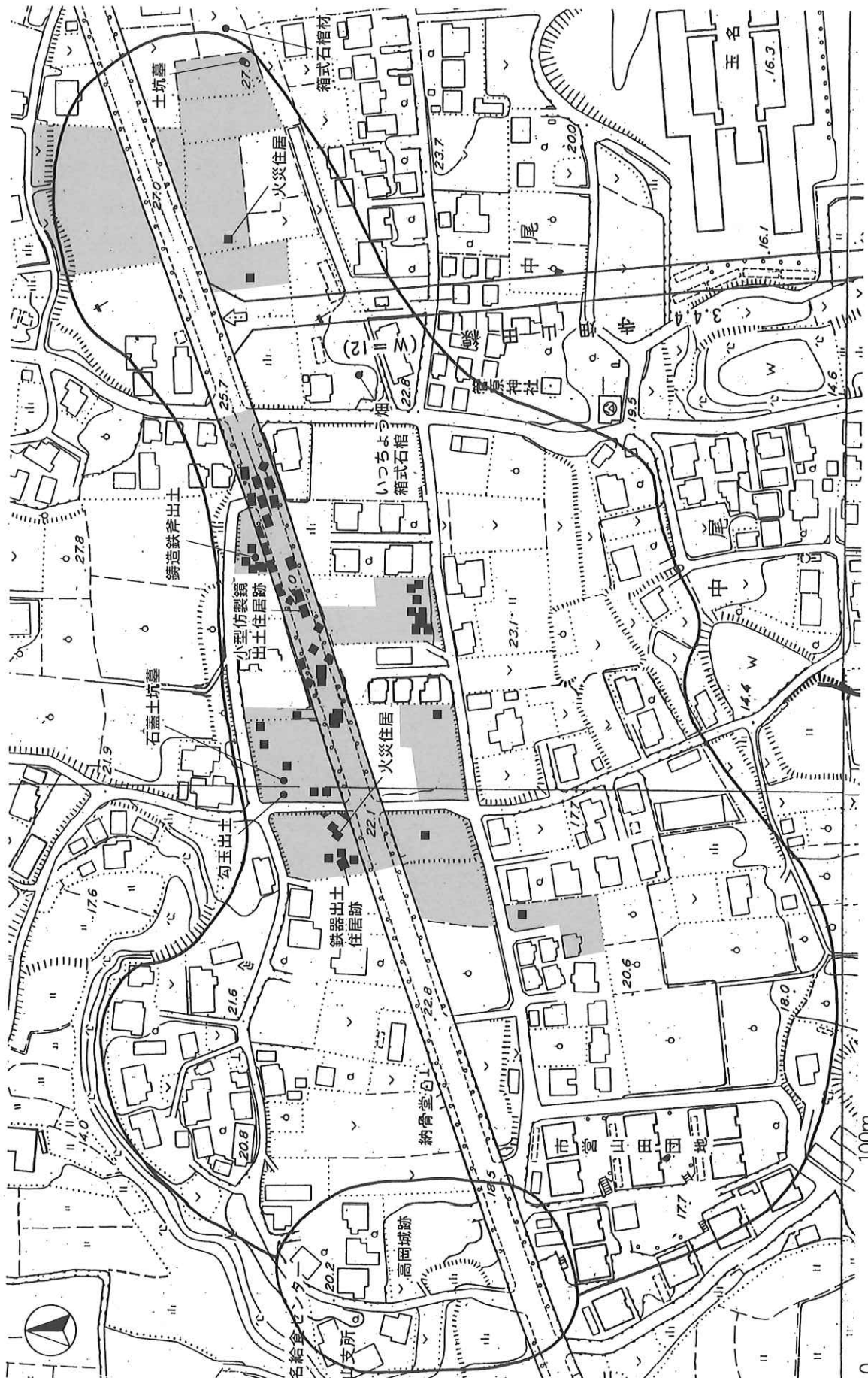
周辺で住居跡から鉄器が出土している例は、この下前原遺跡の住居跡内から手鎌2点が出土している他に、蓮華遺跡の1基からも手鎌2点、鉄鏃1点が出土している<sup>(9)</sup>。

また岩崎城跡（岩崎原遺跡）の住居跡1基から鉄鏃1点が出土している。近年、やや東北の菊池川上流側に位置する前田遺跡から朝鮮半島製の板状鉄斧が出土しており、鉄滓も検出されていることなどから、鉄器の製造工房があった可能性が指摘されている<sup>(10)</sup>。その対岸にある和水町の諏訪原遺跡でも鍛冶施設が確認されている<sup>(11)</sup>。

これら下前原遺跡や諏訪原遺跡の間に位置するのが高岡原遺跡であり今回、最も土器が出土した5号住居跡内から2点の鉄器（鉄鏃か？）が出土しており、平成17年度の別調査区では、鑄造鉄斧、ヤリガンナ、砥石などが出土している。他に焼土や炭化物を多量に含み、火熱を受けて硬化した土坑状の遺構が確認された。道路による削平を受けているた



III 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



第144図 高岡原遺跡周辺調査区と遺構の分布（■は住居跡を示す）

※調査区はすべて全面の発掘ではなく、確認調査地も含む。





め、全体像が不明であり、鉄滓などは未確認であるが、鍛冶遺構の可能性も考えられる<sup>(23)</sup>。

同時代の周辺遺跡を菊池川流域でみると、「諏訪原遺跡」の他、山鹿市の「方保田東原遺跡」、「蒲生・上の原遺跡」菊池市の「うてな遺跡」、「小野崎遺跡」などが代表され、いずれも鏡などの青銅器、鉄器が多く出土している<sup>(13)</sup>。

高岡原遺跡は、これまでに住居跡2基からそれぞれ小型仿製鏡と鏡の紐部が出土している。仿製鏡は劣化が著しく文様などは不明であるが、径8.5cmで、住居跡の床面上に鏡面を上に向けた状態で出土している<sup>(2)</sup>。

青銅器が出土している遺跡は、上記以外では南関町の下坂下遺跡と玉名市の年の神遺跡から銅矛の出土例があり、築地の東南大門遺跡、月田の前田遺跡からは銅鏃が出土している。また南関町の大場箱式石棺内（弥生時代後期）から破鏡が1点出土している<sup>(12)</sup>。近年、玉東町の稲佐津留遺跡からは住居跡内から後漢鏡の破鏡と巴形銅器が出土するなど、従来考えられてきた青銅器の南限が広がりを見せ、八代平野（上日置女夫木遺跡）まで小銅鐸が出土することが明らかになってきた。熊本平野の八ノ坪遺跡では、青銅器の製造をおこなっていたことがわかり、これまで北部九州が中心であった生産域の見直しが必要になってきている<sup>(24)</sup>。

高岡原遺跡出土の仿製鏡の生産地と流入ルートなどは不明であるが、各地の仿製鏡は北部九州産のいわゆる「Ⅱ型」が多く<sup>(25)</sup>、弥生時代後期まで、玄海灘沿岸と有明海沿岸との交易はあったと考えられている。しかし、北部九州の小型仿製鏡は墓から副葬品として出土するのがほとんどであり、北部九州から遠くなるほど、集落内から出土する傾向にあるとされている。佐賀県の吉野ヶ里遺跡では、

首長居住域を区画した溝の中から出土例がある。

菊池川流域で住居跡から小型仿製鏡が出土している例は他に、方保田東原遺跡や小野崎遺跡があり、中でも方保田東原遺跡と菊池市のうてな遺跡からは同型の仿製鏡（内行花文鏡）が出土しているため、拠点集落としての交易があったものと考えられる<sup>(14)</sup>。

このように北部九州とは異なり、集落内や住居跡から小型鏡が出土する傾向について武末純一氏は、「鏡などは有力集団によって占有され、家・ムラのマツリが行われた。それは単なる文化圏の違いではなく、鏡もマツリの道具として扱った畿内・瀬戸内の習俗が波及した可能性」を指摘されている<sup>(15)</sup>。

紐部のみは玉名市の柳町遺跡（古墳時代初頭）から出土例があり、また、破鏡という点では、南関町の大場箱式石棺の他に、諏訪原遺跡の住居跡、玉東町の稲佐津留遺跡などの例がある。破鏡は県内では多い方ではなく、その傾向も佐賀県域、有明海沿岸部の様相と似ているとされている<sup>(15)</sup>。

#### （2）脚付甕（野部田式土器）について

次に、遺物として土器をみていくことにする。今回、住居跡出土の土器は、脚付甕が最も多かった。5号住居跡から出土した脚付甕の個体数は、脚部のみ換算しただけでも30個体はある（実測図掲載以外も含む）。接合資料が少ないため不明であるが、口縁部と脚部が完全に別個体とすれば、30個体以上になる。日常的にこれだけの脚付甕が必要だったのか疑問があるが、廃棄された状態であることから、他の住居跡から意図的に持ち込まれた可能性も否定できない。

この脚付甕は、熊本県内に多く分布するいわゆる「野部田式」と呼ばれている土器で、

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

編年は弥生時代後期後半に位置づけられている。野部田遺跡は玉名市天水町に所在する弥生時代後期の集落跡と考えられ、昭和26年の調査で溝が確認されており、環濠になるのか方形周溝墓の一部だったのかなど再検討が必要と思われるが、ここから出土した脚付甕を標識として「野部田式」と命名された<sup>(16)</sup>。その後、出土資料が増加し県下全域にわたって類似した土器が分布していることがわかり、さらに宮崎県や鹿児島県にも影響を受けたと思われる土器が認められる。しかし、県内でも流域ごとに形態の様相がやや異なることが注目される。例えば、白川・緑川流域においては、甕の脚部が長く伸びる（長脚化）という特徴があり、植木町では、菊池川流域と白川・緑川流域の両方の特徴を併せ持つとされ、球磨川流域においては、同時期に免田式土器が精製されて脚付甕は脚部が低く、口縁部と脚部のしまりが弱い粗雑なものになる<sup>(17)</sup>。

このように県内でも流域ごとに様相が異なることをふまえて、石橋新次氏は、野部田式の壺としてセットとなる朝顔状口縁壺が菊池川流域を中心に分布することから、野部田式土器は地域的に限定していくことを指摘し<sup>(18)</sup>、その後、木崎康弘氏は「野部田式は菊池川流域に限っての後期後半に属する土器型式である」という見解を示されている<sup>(12)</sup>。

菊池川中流域における編年では、この脚付甕は、胴部最大径の位置が上位から中位に変化し、その後、終末期になると脚がなくなり丸底へと変化して、長胴化するものと捉えられている。今回、最も脚付甕が出土した5号住居跡の資料をみても、最大胴部の位置は中位にあるものばかりであり、丸底になる甕と明確に判断できるものは確認できなかった。

これは、岩崎城跡（岩崎原遺跡）における住居跡例と同じ傾向であり、ほぼ同時期の住

居跡、及び集落であると考えられる。これらは土器型式から高木正文氏による編年では「津袋Ⅱ期」に相当するものであり、また方保田東原遺跡において併行するのは「Ⅱ－b期」にあたる<sup>(19)</sup>。他に玉名市内では、蓮華遺跡の住居跡、東南大門遺跡の木棺墓を囲む大型溝出土の脚付甕が同時期にあたるようである。古いタイプの脚付甕が少ないことが菊池川下流域の特徴なのか今後の検討が必要である。

なお、今回、4号住居跡より、いわゆる肥後型複合口縁壺が1点出土している。このタイプは白川流域に盛行したもので、弥生終末期～庄内式期に併行するものといわれている。玉名市では他に東南大門遺跡に類例がみられ<sup>(20)</sup>、白川流域との交易があったことが想定されるが、これを最後にしてその後の庄内式・布留式系など古式土師器に継続した土器の出土が認められないことから、弥生時代終末期になれば、何らかの理由による集落の終焉が考えられる。

#### (3) 集落と墓・墓域

次に、集落における墳墓や墓域を考えてみることにする。高岡原遺跡の範囲内には「高岡いっちょう畑箱式石棺」という石棺材が現在も地中から露出した所があり、平成14年度の高岡原J遺跡の発掘調査においても、箱式石棺材と考えられる安山岩の板石が廃棄された状態で出土している。なお、この石材の一部には赤色顔料が塗られていた。平成17年度の調査では、一基の石蓋土坑墓が出土し、人骨や出土遺物はなかったが、弥生時代後期と考えられる。以上のようなことから、周辺には墓域と明確に分けられる区域は定かでないが、集落の一端に土坑墓、石蓋土坑墓、箱式石棺墓などが作られているものと思われる。

現在のところ、上記の墓は遺跡範囲の北端、

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

南東端に分布しており、集落の端に沿って墓域がある可能性が考えられる。

#### （4）その後の高岡原遺跡

高岡原遺跡からは、古墳時代の住居跡などは現在、確認されておらず土師器・須恵器も古代以降の遺物がみられるのみである。

このようなことから、弥生時代後期以降集落は継続されず、空白の時代があり、古代になって、立願寺を中心に玉名郡衙が造営されるに至り、遺跡内にも郡衙に関連したと考えられる遺構や遺物が出土するものと考えられる。これまでに高岡原遺跡から須恵器の風字硯や瓦などが確認されている。玉名郡衙には、大湊と北の磐座とを一直線に結ぶ南北方向の道路状遺構があり、それに沿った地割りや施設配置がなされたものと考えられるが、今回調査区でも、南北方向に等間隔で並ぶピット列が確認され、掘立柱建物跡の可能性もあるものと考えている。

なお、この高岡原遺跡のほぼ中心を東西方向に横切る古道があるが、これは明治時代前期の玉名郡村図の立願寺村絵図にある「山田村道」とみられる。古代道路の専門である木下良氏は、現地踏査などの結果、幅が6～7mで直線的に続くことから、古代の駅路か伝路であった可能性を示されている<sup>(21)</sup>。

これは、東の玉名郡倉と西の蓮華遺跡を結ぶ道路で南北の郡衙道と交差していた可能性も考えられる。これまでの調査で、この道路状遺構の落ち込みや路肩面など一部は確認できているが、実際の幅や路面などは不明である。平成12年度の調査では、路面で波板状の下部構造が検出され、古代の須恵器が出土しているが、一部での検出であるため、今後の調査結果を含めての検討が必要である。

その後、高岡原遺跡は、中世になって西側

に高岡城が築かれるまで生活の痕跡は確認されていない。築地立願寺線の調査時でも、西側になるほど中世の遺構・遺物が多くなる傾向がみられる。溝状遺構や青磁碗などが副葬された土坑墓、柱穴群などが検出されている<sup>(2)</sup>。

#### （5）おわりに

この高岡原遺跡は玉名市においては最も調査例が多い遺跡ではあるが、遺跡の全体像はいまだ解明できず、集落を囲む溝などは確認されていないが環濠集落である可能性は否定できない。この調査区付近は、高岡原遺跡の中でも最も住居跡が集中している区域と考えられ、切り合いが多い。平成17年度に行った別の調査区では、面積は60m<sup>2</sup>と狭かったが、その中で8基の住居跡が重複し合っていた<sup>(5)</sup>。西側になると、住居跡が少なくなり、縄文時代晩期の遺構、遺物が出土する高岡原J遺跡が所在する。農耕が普及するにあたって、東側の境川付近の低湿地帯に水田が営まれていたと想定され、弥生集落は水田等に近い舌状丘陵の東端へと広がっていったものと考えられる。

土器の形態からは、岩崎原遺跡と同時期で、後期後半に属するが、その後、庄内系などの遺物がみられないことから、古墳時代に入る前に遺跡の終焉があった可能性がある。境川を挟んだ対岸の丘陵上に所在する築地東遺跡からは、後期から古墳時代初頭にかけての土器が認められ、南側の大原遺跡や東南大門遺跡といった弥生中期以降、大きな集落や墳墓が形成されているように、境川東側とは異なる遺跡の継続性がうかがえる。これらには、何らかの社会的背景が影響しているのかも知れない。いずれにしても、高岡原遺跡は規模や遺構の密度、遺物量からして、有明海沿岸の玉名地方を代表する弥生時代後期の集落で、

### Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

菊池川下流域に位置することから、方保田東原遺跡など中流域の拠点集落に有明海からの文化流入を伝えていた集落であったことが想定される。

最後に本稿をまとめるにあたり、山鹿市教育委員会の中村幸史郎氏から御教示いただきました。厚くお礼申し上げます。

注(1) 牧野吉秀『高岡原遺跡試掘調査報告書』  
玉名市1991

(2) 荒木純治「玉名市高岡原遺跡」

『歴史玉名』第11号玉名歴史研究会

(3) 木下尚子「弥生人のアクセサリ」『奴国』

第19回国民文化祭シンポジウム資料より2004

(4) 唐津市文化振興財団編

「末盧館開館一周年記念特別展—宇木汲田遺跡出土品」唐津市末盧館1991

金関恕編『弥生時代の集落』大阪府立弥生文化博物館  
学生社2003

(5) 兵谷有利『玉名市内遺跡報告書Ⅲ』玉名市文化財調査  
報告書第15集 玉名市教育委員会2006

(6) 宮内克己「竪穴住居の廃絶」『九州考古学』

第79号 九州考古学会2004

(7) 末永 崇『岩崎城跡』玉名市文化財調査報告書第12集  
玉名市教育委員会2002

(8) 田辺哲夫「ベッドを有する弥生末期の方型竪穴住居址  
群—肥後下前原遺跡—」

第19回 日本考古学協会発表要旨1964

(9) 末永 崇『今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡』

玉名市文化財調査報告書第10集

玉名市教育委員会2002

(10) 岡本真也『前田遺跡』熊本県文化財調査報告書第225集  
熊本県教育委員会2005

(11) 田辺哲夫「玉名の歴史—縄文（二）・弥生時代」

『歴史玉名第3号』玉名歴史研究会1990

(12) 木崎康弘『蒲生・上の原遺跡』熊本県文化財調査報告  
書第158集 熊本県教育委員会1996

(13) 高木正文「熊本県うてな遺跡」

『季刊考古学/邪馬台国時代の国々』別冊9

西谷正編 雄山閣1999

(14) 中村幸史郎「弥生—古墳の集落跡—熊本県方保田東原  
遺跡」『季刊考古学』第6号 雄山閣1984

(15) 武末純一「Ⅲ 集落と鏡」『弥生古鏡を掘る』  
北九州市立考古博物館1991

(16) 田辺哲夫「野部田遺跡」『熊本の上代遺跡』  
熊本日日新聞社1980

(17) 中村幸史郎『火の国みだれる—方保田東原遺跡とその  
時代』山鹿市立博物館2001

(18) 石橋新次「中九州における古式土師器」『古文化談叢』  
第12集 九州古文化研究会1983

(19) 中村幸史郎『方保田東原遺跡』山鹿市立博物館調査報  
告書第7集 山鹿市教育委員会1987

(20) 田中康雄『東南大門遺跡』玉名市文化財調査報告書第8集  
玉名市教育委員会2001

(21) 木下 良「肥後の古代交通路」『火の国の原像』  
熊本地名研究会1995

(22) 田中康雄『玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ』玉名市文化財  
調査報告書第17集2008

(23) 村上恭通「弥生時代における鍛冶遺構の研究」  
『考古学研究』考古学研究会1994

(24) 武末純一「北部九州の弥生時代生産遺跡」

『日韓集落の研究』

日韓集落研究会2008

(25) 高倉洋彰「弥生時代小型仿製鏡について」

『弥生時代社会の研究』寧楽社1981

熊本県教育委員会編

『くまもとのあゆみ～菊池川編～』

熊本県文化財保護協会2003

隈 昭志「熊本県下の青銅器について」

『肥後考古』第6号 肥後考古学会1987

澤田宗順『たたかいと祈りと—古代青銅器の流れと広がり—』

八代市立博物館未来の森ミュージアム1993

武末純一「墓の青銅器、マツリの青銅器」

『古文化談叢第22集』九州古文化研究会1990



Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



写真78 高岡原遺跡1号住居跡完掘状況



写真79 高岡原遺跡2号住居跡完掘状況

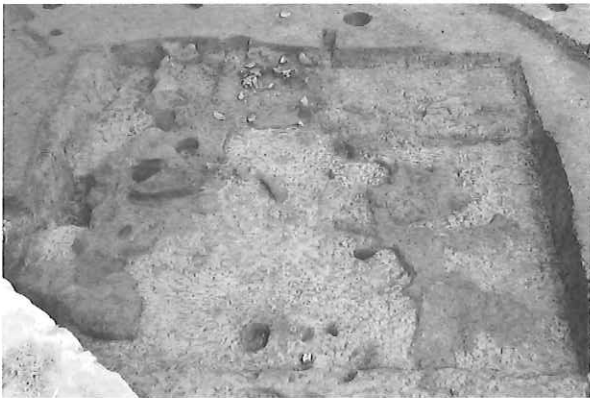


写真80 高岡原遺跡3号住居跡遺物・  
焼土検出状況



写真81 高岡原遺跡4号住居跡完掘状況



写真82 高岡原遺跡5号住居跡遺物出土状況



写真83 高岡原遺跡5号住居跡遺物出土状況

Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）



写真84 高岡原遺跡5号住居跡遺物出土状況  
近景



写真85 高岡原遺跡5号住居跡遺物出土状況  
近景

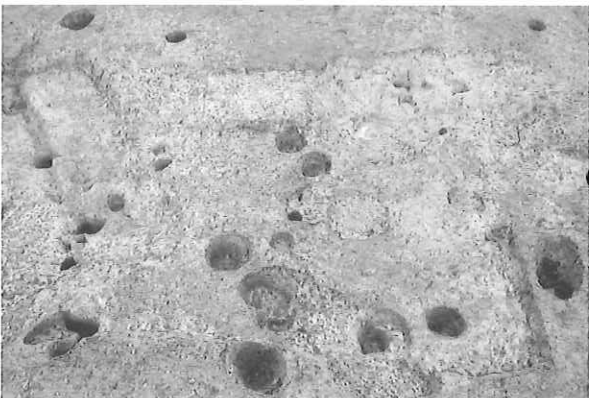


写真86 高岡原遺跡6号住居跡完掘状況



写真87 高岡原遺跡7号住居跡完掘状況



写真88 高岡原遺跡S-6土層堆積状況



写真89 高岡原遺跡S-6遺物出土状況



Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

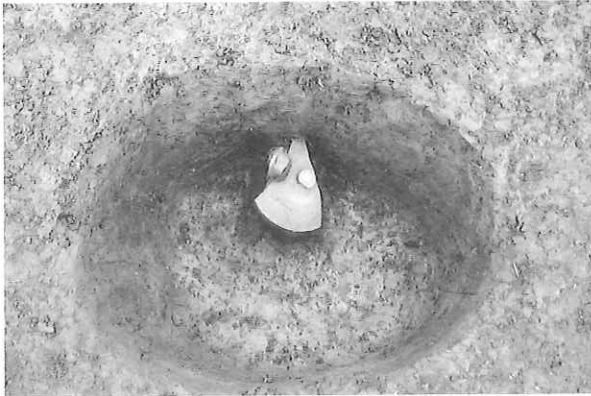


写真90 高岡原遺跡S-2遺物出土状況



写真91 高岡原遺跡S-5遺物出土状況

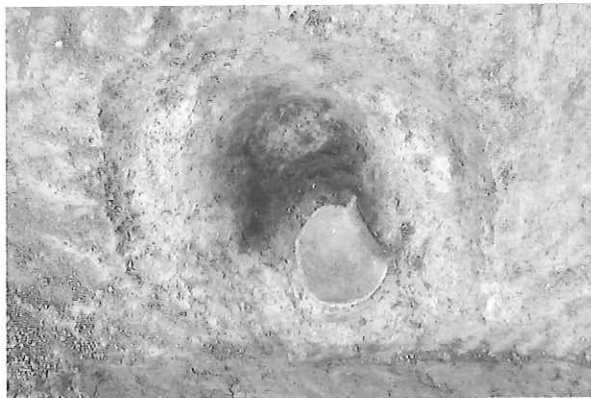


写真92 高岡原遺跡6号住居跡ピット内  
遺物出土状況



写真93 高岡原遺跡S-1完掘状況



写真94 高岡原遺跡調査区完掘状況  
（南西より）



写真95 高岡原遺跡調査区完掘状況  
（東より）

III 高岡原遺跡 (平成17年度の調査)

第4表 平成17年度高岡原遺跡出土遺物観察表

種目番号	番号	出土地点	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(外面)	調整(内面)	胎土	焼成	色調(外面)	色調(内面)	備考
第132図	1	S-7(1号住)ピット内	弥生土器	甕	口縁部~胴部	(13.0)	—	(14.1)	不明	不明	微細~1mm大の白色砂粒を多く含む、2~4mm大の白色砂粒を含む。	良	赤褐色(5YR4/6)	赤褐色(2.5YR4/6)	黒斑あり
	2	S-7(1号住)上層	弥生土器	脚付甕	底部	—	不明	(2.9)	不明	不明	白色砂粒、石英を含む。	不良	褐色(7.5YR6/8)	褐色(7.5YR6/6)	
	3	S-7(1号住)①、②層	弥生土器	高坏	口縁~坏部	(21.6)	—	(3.3)	不明	不明	白色砂粒、石英、雲母を含む。	不良	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	外中位~胴部にかけて外壁
	4	S-7(1号住)	弥生土器	高坏?	脚(高坏?)	—	—	(4.5)	ナデ?	ナデ?	白色砂粒、石英、雲母を含む、茶褐色粒を含む。	普通	黄褐色(10YR8/6)	黄褐色(10YR8/6)	
	5	S-8(2号住)バルト内	弥生土器	壺	口縁部	(10.6)	—	(3.0)	ナデ	ナデ	白色砂粒、石英を含む。	普通	褐色(7.5YR6/6)	黄灰色(2.5Y4/1)	
	6	S-8(2号住)	弥生土器	甕か壺	底部	—	—	(2.7)	ナデ	ナデ	白色砂粒、石英を含む。	普通	褐色(7.5YR6/6)	褐色(2.5YR6/8)	
	7	S-9(3号住)	弥生土器	ジョット型埴輪	把手部(上部)	(保存部) 上部接合部 最大径:5.2 最大厚:1.0	—	—	ナデ	ナデ	白色砂粒、石英を含む。	良	淡黄色(2.5YR8/4)	淡黄色(2.5YR8/3)	
	8	S-9(3号住)中央	弥生土器	甕	口縁~胴部下位	(22.4)	—	(30.2)	ナデ、ハケメ後ナデ	横方向ナデ、ハケメ	白色砂粒、石英、雲母細片を含む。	普通	明記褐色(10YR6/6)、褐色(7.5YR6/6)	明記褐色(10YR6/6)、褐色(7.5YR6/6)	
	9	S-9(3号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部上位	(16.4)	—	(5.9)	ナデ	ハケメ、ハケメ後ナデ、横方向ナデ	白色砂粒、石英、雲母細片を含む。	普通	明黄褐色(10YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)、褐色(7.5YR7/6)	
	10	S-9(3号住)一括	弥生土器	甕	口縁部~胴部上位	(19.0)	—	(6.4)	ハケメ、ナデ、ヨコナデ	ナデ、ハケメ	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	普通	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/8)	
第133図	11	S-9(3号住)上層	弥生土器	脚付甕?	脚部	—	(11.4)	(6.2)	ハケメ、ハケメ後ナデ	ハケメ	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	普通	にぶい黄褐色(10YR7/4)、褐色(5YR6/6)	褐色(5YR7/6)	
	12	S-9(3号住)	弥生土器	甕	胴部~脚部	(24.4)	11.6	(24.8)	ハケメ	ハケメ	微細な白色砂粒を含む。	良	明赤褐色(5YR5/6)	褐色(7.5YR6/6)	
	13	S-9(3号住)北壁際	弥生土器	鉢	胴部	(9.8)	(5.4)	7.8	ナデ	指ナデ、ナデ	白色砂粒、石英を含む。	良	褐色(5YR6/8)	褐色(2.5YR6/8)	
	14	S-9(3号住)北側	弥生土器	鉢	口縁~胴部下位	(12.1)	—	(6.3)	ナデ	ナデ	白色砂粒、石英を含む。	良	褐色(5YR6/8)	褐色(5YR6/8)	
	15	S-9(3号住)	弥生土器	高坏	坏部~脚部	—	(11.7)	(9.95)	不明	不明	微細~4mm大の石英を多く含む、微細~2mm大の砂粒を含む。	普通	にぶい黄褐色(10YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)	
	16	S-9(3号住)上層一括	弥生土器	壺	口縁部	(14.1)	—	(4.5)	ナデ	ナデ	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	普通	黄褐色(10YR8/6)	褐色(7.5YR6/6)	
	17	S-9(3号住)上層	弥生土器	壺	口縁部~胴部中位	(13.9)	(9.2)	(10.5)	横方向ナデ、ナデ、ハケメ後ナデ	ナデ、ハケメ、ハケメ後ナデ	白色砂粒、石英を含む(粒がやや大きい)、雲母片をわずかに含む。	普通	黄褐色(10YR7/3~6/4)、褐色(10YR6/1)	褐色(7.5YR6/6)	
	18	S-9(3号住)	弥生土器	壺	口縁~胴部中位	(17.0)	—	(21.0)	ハケメ後ナデ、ハケメ、ナデ、横方向ナデ	ナデ、ハケメ後ナデ	白色砂粒、石英、雲母片を含む。	普通	褐色(7.5YR6/6)、褐色(10YR4/1)	褐色(7.5YR6/6)	
	19	S-9(3号住)	弥生土器	甕か壺	底部	—	(7.4)	(2.4)	ナデ	ナデ	白色砂粒、石英、雲母細片を含む。	普通	明黄褐色(10YR7/6)	黄褐色(10YR8/6)	
	20	S-9(3号住)西側	弥生土器	甕か壺	底部	—	6.7	(5.5)	ハケメ	ハケメ	白色砂粒、石英を含む。	普通	明黄褐色(10YR6/6)	にぶい黄褐色(10YR4/2)	
第134図	21	S-12(4号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部上位	(19.8)	—	(7.7)	ナデ、ハケメ後ナデ	横方向ナデ、ハケメ後ナデ	白色砂粒、石英、雲母細片を含む。	良	明褐色(7.5YR5/6)、青灰色(10BG1/1/1)	褐色(7.5YR6/6)	
	22	S-12(4号住)	弥生土器	高坏(高坏?)	口縁部	(18.8)	—	(3.1)	横方向ナデ、ナデ	横方向ナデ、ナデ	白色砂粒、石英、雲母細片を含む、多少含む。	良	明褐色(7.5YR5/6)	褐色(5YR6/6)	
	23	S-12(4号住)最下層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	(14.6)	(5.3)	ナデ	ハケメ後ナデ、ナデ	石英、白色砂粒を含む。	普通	黄褐色(7.5YR8/8)	褐色(7.5YR7/6)	
	24	S-12(4号住)最下層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	(13.2)	(5.9)	不明	不明	石英、白色砂粒を多く含む、雲母片をわずかに含む。	不良	黒褐色(2.5Y3/2)	黒褐色(2.5Y3/2)	
	25	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部	(16.8)	—	(8.55)	ハケメ	ハケメ	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	明黄褐色(10YR7/6)	にぶい黄色(2.5Y6/3)	
	26	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部	(16.8)	—	(7.9)	横方向ナデ、ハケメ	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	赤褐色(5YR4/8)	赤褐色(5YR4/8)	
	27	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部	(19.5)	—	(5.85)	タタキ	不明	微細~2mm大の砂粒を多く含む、微細~4mm大の石英を含む。	良	褐色(7.5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	
	28	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部	(17.6)	—	(12.2)	不明	不明	0.5~3mm大の砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	
	29	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部	19.4	—	(15.0)	不明	不明	微細~5mm大の白色砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR6/6)	褐色(5YR6/8)	
	30	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部	(19.8)	—	(12.8)	横方向ナデ、ハケメ	不明	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR4/3)	褐色(7.5YR6/6)	
第135図	31	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部中位	(16.4)	—	(15.1)	ハケメ	不明	5mm以下の白色砂粒を多量に含む。	良	褐色(7.5YR6/6)	にぶい褐色(7.5YR5/4)	
	32	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部	(20.2)	—	(20.8)	ハケメ	ハケメ	微細な白色砂粒を多く含む、0.5~3mm大の砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(7.5YR7/4)	
	33	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁~胴部	(16.6)	—	(15.8)	タタキ	不明	微細~3mm大の石英、砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)	
	34	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部	(19.4)	—	(17.3)	ハケメ	ハケメ	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	明褐色(7.5YR5/6)	褐色(5YR6/6)	
	35	S-13(5号住)	弥生土器	脚付甕	脚部~脚部	—	12.2	(14.1)	不明	不明	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	明赤褐色(2.5YR5/6)	明赤褐色(7.5YR5/6)	
	36	S-13(5号住)	弥生土器	甕	口縁部~胴部	(18.2)	—	(32.7)	横方向ナデ、ハケメ、ナデ	ハケメ	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR4/3)	褐色(10YR6/6)	

( )内は保存数値

Ⅲ 高岡原遺跡（平成17年度の調査）

押出番号	番号	出土地点	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(外面)	調整(内面)	胎土	焼成	色調(外面)	色調(内面)	備考	
第135図	37	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	胴部~底部	—	(9.9)	(15.2)	不明	不明	微細~3mm大の石英、砂粒を含む。	良	橙色(2.5YR6/6)	明黄褐色(10YR7/6)		
	38	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	胴部~脚部	—	8.0	(13.6)	不明	ハケメ、不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR8/3)	浅黄褐色(10YR8/4)		
	39	S-13(5号住)3層	弥生土器	甕	口縁部~胴部	(24.0)	—	(30.5)	ハケメ	不明	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	橙色(7.5YR7/6)	橙色(7.5YR6/6)	黒斑あり	
	40	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	胴部	—	—	(9.9)	ハケメ	不明	微細~5mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい褐色(7.5YR5/3)	灰褐色(7.5YR5/2)		
第136図	41	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	胴部下位	—	—	(8.2)	ハケメ	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR6/3)		
	42	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	胴部~底部	—	—	(17.2)	ハケメ、横方向ナデ	ハケメ	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	橙色(7.5YR6/6)	橙色(5YR6/8)	黒斑あり	
	43	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	胴部~脚部	—	11.9	(14.4)	不明	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	橙色(7.5YR6/6)	明黄褐色(10YR6/6)		
	44	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	(15.0)	(9.2)	ハケメ	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	橙色(7.5YR6/6)	明褐色(7.5YR5/6)		
	45	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	(12.4)	(8.95)	ハケメ	不明	微細~2mm大の白色砂粒を含む。	良	明褐色(7.5YR5/6)	明褐色(7.5YR5/6)		
	46	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	底部~脚部	—	(10.6)	(7.9)	不明	横方向ナデ	横方向ナデ	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	赤褐色(5YR4/6)	褐色(7.5YR4/3)	
	47	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	底部~脚部	—	(12.7)	(9.1)	不明	不明	不明	微細~5mm大の白色砂粒を含む。	良	黄褐色(10YR8/8)	明黄褐色(10YR7/6)	
	48	S-13(5号住)3層	弥生土器	甕	脚部	(7.8)	11.4	(7.5)	不明	不明	不明	3mm以下の白色砂粒を多く含む。	良	にぶい黄褐色(10YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR6/4)	
	49	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	—	(6.3)	不明	不明	不明	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	工具痕あり
	50	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	(12.0)	(5.8)	不明	不明	不明	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR7/6)	褐色(7.5YR7/6)	
	51	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕?	脚部	—	(14.8)	(5.2)	ハケメ	不明	不明	微細~2mm大の白色砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	
	第137図	52	1T-覆土-S02	弥生土器	脚付甕	脚部	—	11.6	(4.5)	ハケメ	ハケメ	白色砂粒、壘母を含む。	良	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	工具痕あり
53		S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	(12.2)	(5.8)	ハケメ	ハケメ	微細~4mmまでの白色砂粒を含む。	良	褐色(7.5YR7/6)	褐色(7.5YR7/6)		
54		S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	(12.4)	(5.5)	不明	不明	微細~3mm大の石英、白色砂粒を含む。	良	明黄褐色(10YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)		
55		S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	12.8	(4.6)	不明	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい褐色(7.5YR5/3)	浅黄褐色(7.5YR8/6)		
56		S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	12.0	(6.0)	不明	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	明褐色(7.5YR5/6)	褐色(7.5YR4/6)		
57		S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	(12.0)	(6.0)	不明	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	明褐色(7.5YR5/6)	褐色(7.5YR4/6)		
58		S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	—	11.0	(6.0)	ハケメ	ハケメ	微細~3mm大の石英、砂粒を含む。	良	褐色(5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)		
59		S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付甕	脚部	(4.6)	10.1	(5.4)	不明	不明	1mm~3mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR6/4)		
60		S-13(5号住)3層	弥生土器	壘	口縁部	(21.2)	—	(7.2)	不明	不明	5mm以下の白色砂粒を多く含む。 壘母を微量含む。	良	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)		
61		S-13(5号住)3層	弥生土器	壘	口縁部~胴部	(18.4)	—	—	不明	不明	1~2mm大の白色砂粒を多く含む。	良	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)		
第138図		62	S-13(5号住)3層	弥生土器	壘	口縁部~胴部	(12.0)	—	—	ハケメ	ハケメ、ナデ	1~3mm大の白色砂粒を多く含む。	良	赤褐色(2.5YR4/8)	赤褐色(2.5YR4/6)	
		63	S-13(5号住)3層	弥生土器	壘	口縁部	(12.9)	—	(6.3)	不明	ハケメ	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	褐色(5YR6/8)	褐色(5YR6/6)	
	64	S-13(5号住)3層	弥生土器	壘	口縁部~胴部	(16.2)	—	(6.2)	不明	不明	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	黄褐色(10YR8/6)	浅黄褐色(10YR8/4)	黒斑あり	
	65	S-13(5号住)3層	弥生土器	壘	口縁部	(30.2)	—	(5.9)	不明	不明	3mm以下の白色砂粒を微量に含む。	良	明黄褐色(10YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	突帯	
	66	S-13(5号住)3層	弥生土器	壘	口縁部~胴部上位	(41.6)	—	—	不明	不明	白色砂粒を少量含む。	良	褐色(7.5YR6/8)	明黄褐色(10YR7/6)		
	67	S-13(5号住)3層	弥生土器	壘か壘	底部	(15.2)	7.6	(6.6)	不明	不明	5mm以下の白色砂粒を多量に含む。	良	黄褐色(10YR4/4)	にぶい褐色(7.5YR5/4)		
	68	S-13(5号住)3層	弥生土器	壘か壘	胴部~底部	—	—	(9.9)	不明	不明	微細~3mmまでの赤色、白色砂粒を含む。	良	黄褐色(10YR8/6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)		
	69	S-13(5号住)3層	弥生土器	鉢	口縁部~底部	(13.2)	—	(9.4)	不明	不明	微細~4mm大の石英、砂粒を多く含む。	普通	浅黄褐色(10YR8/4)	黄褐色(10YR8/6)		
	70	S-13(5号住)3層	弥生土器	鉢	口縁部~底部	(10.4)	—	(8.7)	不明	横方向ナデ	横方向ナデ	微細~1mm大の黒色、白色砂粒を含む。	良	黄褐色(10YR8/6)	褐灰色(10YR4/1)	黒斑あり H16 磁器調整跡 S2
	71	S-13(5号住)3層	弥生土器	鉢	口縁部~胴部	(13.1)	—	—	不明	不明	微細な白色砂粒を少量含む。	良	黄褐色(10YR8/6)	明黄褐色(10YR7/6)		
	72	S-13(5号住)3層	弥生土器	鉢	口縁部~底部	(20.8)	—	(7.5)	不明	不明	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	黄褐色(10YR8/6)	浅黄褐色(7.5YR8/6)		

( )内は残存数値

III 高岡原遺跡 (平成17年度の調査)

挿図番号	番号	出土地点	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(外面)	調整(内面)	胎土	焼成	色調(外面)	色調(内面)	備考
第138図	73	S-13(5号住)3層	弥生土器	鉢	口縁部~胴部上位	19.8	17.0	(8.9)	横方向ナデ	ハケメ	白色砂粒、雲母を含む。	良	明褐色(7.5YR6/6)	明赤褐色(5YR6/6)	
	74	S-13(5号住)3層	弥生土器	鉢	口縁部~底部	(16.4)	—	(8.2)	不明	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	黄褐色(7.5YR8/8)	黄褐色(7.5YR8/8)	
	75	S-13(5号住)3層	弥生土器	鉢	口縁部~胴部下位	(19.2)	—	(8.2)	不明	不明	微細~4mm大の石英、白色砂粒を含む。	良	明黄褐色(10YR7/6)	浅黄色(2.5Y7/4)	
	76	S-13(5号住)3層	弥生土器	鉢	口縁部~底部	(20.4)	—	(8.6)	不明	不明	微細~5mm大の白色砂粒を含む。	良	黄褐色(10YR8/6)	黄褐色(10YR8/6)	
	77	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付鉢	口縁部~底部	12.6	—	(7.1)	不明	ハケメ	微細~3mm大の赤色砂粒を含む。	良	明黄褐色(10YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
	78	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付壺	胴部~脚部	—	—	(6.7)	不明	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR6/8)	
	79	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付鉢	脚部	—	—	(2.1)	不明	工具痕	白色砂粒を微量に含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR6/4)	3ヶ所破損前 穿孔あり
	80	S-13(5号住)3層	弥生土器	脚付鉢	脚部	—	(9.3)	(2.2)	不明	不明	0.5~1.5mm大の白色砂粒を含む。	良	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
	81	S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏	口縁部	(24.0)	—	(4.0)	不明	不明	微細~2mm大の白色砂粒を含む。	良	浅黄褐色(10YR8/4)	灰褐色(7.5YR6/2)	
	82	S-13(5号住)最上層	弥生土器	高坏	口縁部	—	—	(3.8)	不明	不明	6mm以下の白色砂粒を多量に含む。	良	橙(7.5YR6/6)	にぶい赤褐色(5YR5/4)	
	83	S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏	口縁部	(32.4)	—	(3.7)	不明	ハケメ、ナデ	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	黄褐色(7.5YR7/8)	橙(7.5YR7/6)	
	84	S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏?	口縁部~体部	—	—	(5.6)	不明	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
	第139図	85	S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏	口縁部~坏部	(32.0)	—	(7.0)	不明	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	明赤褐色(5YR5/6)	橙(7.5YR6/6)
86		S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏	脚部	—	—	(13.2)	不明	不明	微細~2mm大の白色砂粒を含む。	良	黄褐色(10YR8/6)	明黄褐色(10YR8/6)	
87		S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏	坏部	(32.0)	—	(6.9)	ナデ	ハケメ	微細な白色砂粒を多く、0.5~2mm大の白色砂粒をばらばらに含む。	良	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	
88		S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏	口縁部~坏部	(34.2)	—	(7.6)	不明	不明	微細1mmの黒色砂粒、微細~2mmの白色砂粒を含む。	良	明黄褐色(10YR7/6)	浅黄褐色(10YR8/4)	
89		S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏	脚部	13.0	(6.3)	(12.7)	ハケメ	不明	4mm以下の白色砂粒を多く含む。	良	明褐色(7.5YR5/6)	橙(7.5YR6/6)	
90		S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏	脚部	—	(16.0)	(13.3)	不明	不明	微細~4mm大の白色砂粒を含む。	良	橙(5YR6/6)	にぶい黄褐色(10YR5/4)	
91		S-13(5号住)3層	弥生土器	高坏	脚部	—	(16.4)	(6.9)	不明	不明	微細~2mm大の白色砂粒を含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/4)	浅黄褐色(10YR8/4)	
92		S-14(6号住)西区一括	弥生土器	脚付鉢	脚部	3.4	—	1.6	不明	不明	5mm以下の白色砂粒を多量に含む。	良	明黄褐色(10YR7/6)	黄褐色(10YR8/6)	3ヶ所破損前 穿孔あり
93		S-6上層	弥生土器	脚付壺	底部	—	—	(4.9)	ハケメ	不明	微細~3mm大の白色砂粒を含む。	良	明黄褐色(10YR7/6)	灰黄褐色(10YR5/2)	
94		S-6上層	弥生土器	脚付壺	脚部	—	(11.6)	(7.3)	不明	ハケメ	微細~2mm大の赤色、白色砂粒を含む。	良	明黄褐色(7.5YR8/6)	明黄褐色(10YR7/6)	
95		S-6b層	弥生土器	脚付壺	脚部	—	(12.8)	(5.9)	不明	不明	微細~2mm大の赤色、白色砂粒を含む。 微細な砂粒を含む0.5~2mm大の砂粒をばらばらに含む。	良	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
96		S-6b下層	弥生土器	壺	口縁部~胴部	(7.0)	—	(5.4)	不明	不明	5mm以下の白色砂粒を含む。	良	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR6/6)	
97		S-6上層	弥生土器	小型丸底壺	胴部~底部	—	—	(8.9)	不明	指頭圧痕	0.5~3mm大の白色砂粒を含む。	良	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	体部下位に 穿孔あり
98	S-6	弥生土器	壺	口縁部~胴部	(13.2)	—	(9.55)	ハケメ	不明	微細~3mm大の赤、白色砂粒を含む。	良	黄褐色(7.5YR7/8)	橙(7.5YR7/6)	黒斑あり	
99	S-6西半分	弥生土器	高坏	脚部	—	—	(7.9)	不明	不明	微細~3mm大の石英、砂粒を多く含む。	良	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)		
100	S-6西半分以上層	石器	石鏃	—	長さ(1.8)	幅1.85	厚さ0.3	—	—	—	—	—	—	—	—
101	S-6西半分以上層	石器	石鏃	—	長さ2.55	幅1.9	厚さ0.45	—	—	—	—	—	—	—	—
102	東区中央ベルト 栗岡サブトレ	石器	磨石	—	長さ10.05	幅9.15	厚さ6.6	—	—	—	—	—	—	—	安山岩
103	S-2 1層	須恵器	壺	口縁部	(3.9)	—	(1.85)	回転ナデ	不明	微細な白色砂粒をわずかに含む。	良	にぶい黄褐色(10YR7/3)	にぶい黄褐色(10YR6/4)		
104	S-2	須恵器	壺	口縁部	(2.1)	—	(9.5)	不明	不明	白色砂粒を含む。	良	灰色(N6/)	灰色(N6/)		
105	S-2 2層	須恵器	坏壺	つまみ~口縁部	(13.8)	—	3.5	回転ナデ、 回転ヘラケズリ	不明	不定方向ナデ、回転ナデ	良	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR6/4)		
106	S-18	須恵器	高坏	口縁部	—	—	(3.0)	回転ヘラケズリ	回転ナデ	白色砂粒を微量に含む。	良	灰色(5Y6/1)	灰白色(5Y6/1)		
107	S-5上層	土師器	坏	ほぼ完形	13.8	3.45	3.4	不明	不明	微細~1mm大の白色砂粒を含む。	良	浅黄褐色(7.5YR8/6)	浅黄褐色(7.5YR8/4)		
108	山田2047-1 2T P-13の隣IV層か?	石製品	勾玉	—	長さ1.7	幅1.0	厚さ1.0	—	—	—	—	—	—	—	( )内は保存数値



報告書抄録

ふりがな	たまなししいせきちょうさほうこくしよ							
書名	玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ							
副書名	平成19年度の調査							
巻次								
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	藪父雅史 大倉千寿 兵谷有利 田中康雄 末永崇 中村安宏 荒木隆宏 古閑敬士							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒869-0292 熊本県玉名市岱明町野口2129							
発行年月日	平成21年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみおだみやのまえいせき 上小田宮の前遺跡	たまなしかみおだ 玉名市上小田	43206	050	32° 56' 59"	130° 35' 36"	平成19年 2月 8日 ) 平成20年 3月31日		個人住宅・ 共同住宅・ 道路・店 舗・工場等 各種開発
かみおだふるやしきいせき 上小田古屋敷遺跡	たまなしかみおだ 玉名市上小田	43206	126	32° 56' 57"	130° 35' 39"			
なんだいまんいせき 南大門遺跡	たまなしついで 玉名市築地	43206	160	32° 55' 39"	130° 32' 17"			
やましたまえはたいせき 山下前畑遺跡	たまなしいめいまちやました 玉名市岱明町山下	43361	102	32° 54' 45"	130° 31' 16"			
かわまきこうじょうがくれんしせつけんせつてい 河崎工場関連施設建設予定地	たまなしかわさき 玉名市河崎	43206	-	32° 55' 54"	130° 34' 45"			
たかおかばるいせきAちてん 高岡原遺跡A地点	たまなしやまだ 玉名市山田	43206	174	32° 56' 02"	130° 32' 52"			
りゅうがんじはいじ 立願寺廃寺	たまなしりゅうがんじ 玉名市立願寺	43206	094	32° 56' 17"	130° 33' 14"			
よこしまじょうあと 横島城跡	たまなしよこしままちよこしま 玉名市横島町横島	43362	009	32° 52' 49"	130° 33' 48"			
なかどならのおいせき 中土橋ノ尾遺跡	たまなしいめいまちなかど 玉名市岱明町中土	43361	087	32° 54' 59"	130° 30' 44"			
はたふいせきAちてん 簀布遺跡A地点	たまなしいめいまちしょうやま 玉名市岱明町庄山	43361	029	32° 55' 21"	130° 31' 02"			
いくらふるみやほらいせき 伊倉古宮原遺跡	たまなしみやほら 玉名市宮原	43206	336	32° 54' 14"	130° 35' 02"			
はたふいせきBちてん 簀布遺跡B地点	たまなしいめいまちしょうやま 玉名市岱明町庄山	43361	029	32° 55' 22"	130° 30' 58"			
としのかみいせき 年の神遺跡	たまなしいめいまちのぐち 玉名市岱明町野口	43361	039	32° 55' 05"	130° 31' 43"			
しもりゅうがんじいせき 下立願寺遺跡	たまなしりゅうがんじ 玉名市立願寺	43206	098	32° 56' 09"	130° 33' 11"			
おおつが・そうはきいせき 大塚・惣萩遺跡	たまなしりゅうがんじ 玉名市立願寺	43206	100	32° 56' 23"	130° 33' 27"			
たまなぐうけあと 玉名郡家跡	たまなしりゅうがんじ 玉名市立願寺	43206	091	32° 56' 20"	130° 33' 07"			
たかおかばるいせきBちてん 高岡原遺跡B地点	たまなしやまだ 玉名市山田	43206	174	32° 56' 02"	130° 32' 55"			
たまなへいやじょうりあと 玉名平野条里跡	たまなしいわさき 玉名市岩崎	43206	483	32° 55' 53"	130° 33' 54"			
たかおかばるいせき 高岡原遺跡	たまなしやまだ 玉名市山田	43206	174	32° 56' 01"	130° 32' 42"	平成17年4月26日 ~7月 4日	600㎡	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
上小田宮の前遺跡・ 古屋敷遺跡 南大門遺跡 年の神遺跡 高岡原遺跡	包蔵地  寺院跡 包蔵地 集落	古代、中世  中世 弥生時代中期 弥生時代後期		ピット、土坑、溝状遺構、 道路状遺構  ピット 住居跡、土坑、ピット		縄文土器、弥生土器、須恵器、 土師器、陶磁器、石製品 弥生土器、瓦、土師器 弥生土器、石器 弥生土器、須恵器		

玉名市文化財調査報告 第18集

# 玉名市内遺跡調査報告書Ⅴ

平成19年度の調査

---

平成21年3月30日印刷

平成21年3月31日発行

編集発行 玉名市教育委員会

〒862-0292 玉名市岱明町野口2129

印刷 岱明印刷

〒869-0222 玉名市岱明町野口2281-2

TEL 0968-57-0141